

2019年度

経営学研究科

社会科学研究所経営学専攻

授業概要・履修案内

首都大学東京大学院経営学研究科
首都大学東京大学院社会科学研究所

目 次

I	経営学研究科経営学専攻	3
1	博士前期課程	5
	(1) 経営学プログラム (MBA)	8
	(2) 経済学プログラム (MEc)	12
	(3) ファイナンスプログラム (MF)	15
2	博士後期課程	18
II	社会科学研究科経営学専攻	21
1	博士前期課程 (高度専門職業人養成プログラム) (MBA)	23
2	博士前期課程 (高度金融専門人材養成プログラム) (MF)	27
3	博士前期課程 (研究者養成プログラム) 及び博士後期課程	30
III	授業概要	35
1	博士前期課程	35
2	博士後期課程	191
IV	各キャンパス授業時間割について	251
V	交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて	252
VI	学生生活の手引き	254
VII	首都大学東京学位規則 (抜粋)	255
VIII	丸の内サテライトキャンパス平面図	260

I 経営学研究科経営学専攻

経営学プログラムの科目群

科目群	授業科目名
A群	経営学 経営組織 ヒューマン・リソース・マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 経営戦略演習 テクノロジー・マネジメント マーケティング・マネジメント マーケティング・サイエンス マネジメント・サイエンスⅠ 統計学基礎 経営分析 管理会計 財務会計
必修	経営学特別演習 研究指導
B群 (一般)	組織行動 マネジメント・サイエンスⅡ 経営数理 ビジネスイノベーション演習 企業経済学 コーポレートファイナンス概論 財務戦略論 証券投資 経営戦略とリアル・オプション コーポレートガバナンス 事業リスクマネジメント 経営学特別講義 経営学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 ゲーム理論 日本経済論 日本経済史 アジア経済史 経済思想史
B群 (経営学 B2)	経営学特別研究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習

科目群	授業科目名
C群	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 経済数学 ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 経済史演習 金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 公共経済学 ミクロ計量経済学 時系列解析 西洋経済史 社会経済史 経済学特別講義 資産運用論 ポートフォリオ理論 実証ファイナンス 債券投資とALM オプション理論 期間構造モデル クレジットデリバティブ 上級オプション理論 金融リスク管理概論 マーケットリスク管理 信用リスク管理 プログラミング基礎 金融数値解法 シミュレーション 確率解析 上級確率解析 金融における最適化 金融データサイエンス 金融時系列解析 金融経済学 コーポレートファイナンス アルゴリズム取引 ファイナンス特別講義 金融工学特別講義 ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習 金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習

経済学プログラムの科目群

科目群	授業科目名
A群	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 経済数学 ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 経済史演習 統計学基礎
必修	経済学特別演習 研究指導
B群 (一般)	金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 ゲーム理論 公共経済学 日本経済論 ミクロ計量経済学 時系列解析 日本経済史 西洋経済史 アジア経済史 社会経済史 経済思想史 経済学特別講義 企業経済学
B群 (経済学 B2)	ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習
C群	経営学 経営組織 ヒューマン・リソース・マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 経営戦略演習 テクノロジー・マネジメント マーケティング・マネジメント マーケティング・サイエンス マネジメント・サイエンスI

科目群	授業科目名
C群	経営分析 管理会計 財務会計 組織行動 マネジメント・サイエンスII 経営数理 ビジネスイノベーション演習 コーポレートファイナンス概論 証券投資 経営学特別講義 経営学演習 コーポレートガバナンス 経営戦略とリアル・オプション 事業リスクマネジメント 財務戦略論 資産運用論 ポートフォリオ理論 実証ファイナンス 債券投資とALM オプション理論 期間構造モデル クレジットデリバティブ 上級オプション理論 金融リスク管理概論 マーケットリスク管理 信用リスク管理 プログラミング基礎 金融数値解法 シミュレーション 確率解析 上級確率解析 金融における最適化 金融データサイエンス 金融時系列解析 金融経済学 コーポレートファイナンス アルゴリズム取引 ファイナンス特別講義 金融工学特別講義 経営学特別研究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習 金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習

ファイナンスプログラムの科目群

科目群	授業科目名
A群	資産運用論 ポートフォリオ理論 実証ファイナンス 債券投資とALM オプション理論 期間構造モデル クレジットデリバティブ 上級オプション理論 金融リスク管理概論 マーケットリスク管理 信用リスク管理 プログラミング基礎 金融数値解法 シミュレーション 事業リスクマネジメント 財務戦略論 企業価値論 コーポレートファイナンス概論
必修	ファイナンス演習 ファイナンス考究 研究指導
B群 (経済学 B2)	確率解析 上級確率解析 金融における最適化 金融データサイエンス 金融時系列解析 金融経済学 コーポレートファイナンス アルゴリズム取引 コーポレートガバナンス 経営戦略とリアル・オプション ファイナンス特別講義 金融工学特別講義 経営数理 経営戦略演習 経済数学
B群(ファイ ナンスB2)	金融工学特別研究・特別演習 金融リスク特別研究・特別演習
C群	経営学 経営組織 ヒューマン・リソース・マネジメント 意思決定 ベンチャービジネス 経営戦略 テクノロジー・マネジメント マーケティング・マネジメント マーケティング・サイエンス マネジメント・サイエンス I 管理会計 財務会計 組織行動 マネジメント・サイエンス II ビジネスイノベーション演習 証券投資 経営学特別講義 経営学演習

科目群	授業科目名
C群	ミクロ経済学 マクロ経済学 計量経済学 ミクロ経済学演習 マクロ経済学演習 ミクロ経済学概論 マクロ経済学概論 経済史概論 経済史演習 統計学基礎 金融論 国際金融論 ミクロ経済学特論 マクロ経済学特論 ゲーム理論 公共経済学 日本経済論 ミクロ計量経済学 時系列解析 日本経済史 西洋経済史 アジア経済史 社会経済史 経済思想史 経済学特別講義 企業経済学 経営学特別研究 組織理論特別研究・特別演習 ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 意思決定特別研究・特別演習 ベンチャービジネス特別研究・特別演習 経営戦略特別研究・特別演習 テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 マーケティング特別研究・特別演習 マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 統計学特別研究・特別演習 経営科学特別研究・特別演習 企業金融論特別研究・特別演習 会計学特別研究・特別演習 財務会計特別研究・特別演習 管理会計特別研究・特別演習 ミクロ経済学特別研究・特別演習 マクロ経済学特別研究・特別演習 計量経済学特別研究・特別演習 金融論特別研究・特別演習 金融経済学特別研究・特別演習 日本経済論特別研究・特別演習 ゲーム理論特別研究・特別演習 数理統計学特別研究・特別演習 公共経済学特別研究・特別演習 国際金融論特別研究・特別演習 都市環境経済学特別研究・特別演習 財政学特別研究・特別演習 日本経済史特別研究・特別演習 経済思想史特別研究・特別演習 西洋経済史特別研究・特別演習 アジア経済史特別研究・特別演習

2019年度丸の内サテライトキャンパス (MBA, MEc, MF) 学年暦

MBA

	日	月	火	水	木	金	土	行事等	
4月	31	1	2	3	4	5	6	4月4日 入学式(全学)	
	7	8	9	10	11	12	13	4月6日 入学ガイダンス	
	14	15	16	17	18	19	20	4月8日 前期授業開始	
	21	22	23	24	25	26	27	4月中旬～下旬(別途通知) 前期履修申請	
	28	29	30						
5月				1	2	3	4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 前期Ⅰ／前期Ⅱの日程について (a) 2限連続授業が切り替わる日 月曜日：6/10 火曜日：6/4 水曜日：6/5 木曜日：6/6 金曜日：6/7 土曜日：6/8 ※上記の日は、5限(土曜日の場合1, 3限)が前期Ⅰの授業の最終回であり、6限(土曜日の場合は2, 5限)が前期Ⅱの授業の第1回となる (b) 週2回授業(前期Ⅱ)の開始日及び終了日 ・開始日：6/8(土)、終了日：7/27(土) (c) 1単位授業が切り替わる日 ・前期Ⅰ終了日：6/7(金)、前期Ⅱ開始日：6/14(金) </div>	
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30	31				
6月							1		
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
23	24	25	26	27	28	29			
	30								
7月		1	2	3	4	5	6		7月13日 [MBA, MEc] 修士論文・課題研究* 中間審査申請締切
	7	8	9	10	11	12	13	7月31日 <9月修了生>修士論文・課題研究* 提出締切	
	14	15	16	17	18	19	20	7月30日～8月2日、8月6日～9日 補講日	
	21	22	23	24	25	26	27	8月3日 [MBA, MEc] 修士論文・課題研究* 中間審査	
28	29	30	31						
8月					①	②	③	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 後期Ⅰの授業終了日 土曜日：11/30 ※上記の日の1, 3限が後期Ⅰの授業の最終回である </div>	
	4	5	⑥	⑦	⑧	⑨	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19	20	21	22	23	24		
25	26	27	28	29	30	31			
9月	1	2	3	4	5	6	7		9月7日 前期一般入試
	8	9	10	11	12	13	14		9月8日 前期一般入試予備日
	15	16	17	18	19	20	21		9月20日 [MF] 修士論文 中間審査申請締切
	22	23	24	25	26	27	28		9月27日 [MF] 修士論文 中間審査
29	30								9月28日 <9月修了生>学位記授与式
10月			1	2	3	4	5		10月1日 後期授業開始
	6	7	8	9	10	11	12		10月上～中旬(別途通知) 後期履修申請
	13	14	15	16	17	18	19		
	20	21	22	23	24	25	26		
27	28	29	30	31					
11月	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		
12月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21		
	22	23	24	25	26	27	28	12月25日～12月27日 補講日	
29	30	31					12月29日～1月5日 冬季休業		
1月				1	2	3	4	1月6日 後期授業再開	
	5	6	7	8	9	10	11	1月10日 修士論文・課題研究* 提出締切、中間審査(未合格者) 申請締切	
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25	1月28日～31日、2月4日～8日 補講日	
26	27	28	29	30	31				
2月							1	2月1日 修士論文・課題研究* 審査、<9月修了生> 中間審査	
	2	3	④	⑤	⑥	⑦	⑧	2月8日 後期一般・公共経営* 入試	
	9	10	11	12	13	14	15	2月11日から 春季休業	
	16	17	18	19	20	21	22	2月15日 後期一般・公共経営* 入試予備日	
23	24	25	26	27	28	29			
3月	1	2	3	4	5	6	7		
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20	21	3月21日 卒業式(全学)	
	22	23	24	25	26	27	28	3月28日 学位記授与式	
29	30	31							

* プログラム名の表記のない項目は全プログラム共通です。
 * 課題研究と公共経営入試はいずれもMBAのみが該当します。
 ※ 通常授業日と補講日は白のセル、その他は色付きのセルです。補講日には丸印がついています。
 補講日には別の曜日の授業の補講が入ることもあります。
 ※ 数字が白抜きの日は休日です。丸の内サテライトキャンパスには入構できません。
 ※ 変更がある場合は掲示等でお知らせします。必ず所定の掲示版を確認してください。

経営学プログラム（MBA）専任教員一覧

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	浅野 敬志	3階 314	042 (677) 2329
教授	桑田 耕太郎	4階 415	042 (677) 2328
教授	芝田 隆志	2階 231	042 (677) 2310
教授	高尾 義明	2階 224	042 (677) 2314
教授	竹田 陽子	2階 225	042 (677) 1829
教授	長瀬 勝彦	4階 404	042 (677) 1152
教授	野口 昌良	4階 418	042 (677) 2308
教授	細海 昌一郎	2階 233	042 (677) 2311
教授	水越 康介	2階 235	042 (677) 2313
教授	室田 一雄	4階 402	042 (677) 2322
教授	山下 英明	4階 413	042 (677) 2326
准教授	高橋 勅徳	3階 306	042 (677) 2324
准教授	中山 厚穂	4階 416	042 (677) 2316
准教授	西村 孝史	3階 305	042 (677) 2331
准教授	松尾 隆	2階 236	042 (677) 1136
准教授	森 治憲	4階 412	042 (677) 2325
准教授	森口 聡子	3階 312	042 (677) 2321

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

経営学専攻（経営学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程経営学プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、1年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1 修士論文を提出して学位を取得するもの

- ① A群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注）を履修し、修士論文を提出

2 課題研究論文を提出して学位を取得するもの

- ① A群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注）を履修し、課題研究論文を提出

注. 研究指導は半期 2 単位の計 4 単位（4 単位を超えて履修することはできない）

※ 経営学特別演習（注：経営学演習ではない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。

※ 研究指導は1年次生は履修できない。

※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3 専攻に準ずる科目

- 指導教員が教育上有益と認めるときは、10単位を上限として他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し経営学専攻の履修単位数に充当することができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認を必要とする。

4 科目区分について

必ず、「Ⅲ. 授業科目一覧」の入学年度の授業科目を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

経営学プログラム (MBA) 授業科目一覧

MBA

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A 群 科 目	37	経営学	P0003	2	桑 田 耕太郎
	38	経営組織	P0015	2	高尾 義明
	39	ヒューマン・リソース・マネジメント	P0044	2	西村 孝史
	40	意思決定	P0033	2	長瀬 勝彦
	41	ベンチャービジネス	P0056	2	高橋 勅徳
	42	経営戦略	P0037	2	竹田 陽子
	43	経営戦略演習	P0009	2	鈴木 木政士*
	44	テクノロジー・マネジメント	P0017	2	松尾 隆
	45	マーケティング・マネジメント	P0006	2	水越 康介
	46	マーケティング・サイエンス	P0004	2	中山 厚穂
	47	マネジメント・サイエンス I	P0018	2	森口 聡子
	48	統計学基礎	P0031	2	森 治憲
	49	経営分析	P0012	2	浅野 敬志
	50	管理会計	P0045	2	細海 昌一郎
	B 群 科 目	51	財務会計	P0049	2
52		組織行動	P0019	2	高尾 義明
53		マネジメント・サイエンス II	P0034	2	山下 英明
54		経営数理	P0023	2	室田 一雄
55		ビジネスイノベーション演習	P0039	2	高橋 勅徳
56		企業経済学	P0026	2	芝田 隆志
57		コーポレートファイナンス概論	P0005	2	岡 英義*
68		財務戦略論	P0008	2	島 義夫*
58		証券投資	P0025	2	坂 卷 敏史*
59		事業リスクマネジメント	P0739	2	吉松 加雄
61		コーポレートガバナンス	P0738	2	北川 哲雄
62		経営戦略とリアルオプション	P0002	2	中岡 英隆*
63		経営学特別講義 (戦略経営 I)	P0054	2	坂本 雅明*
64		経営学特別講義 (戦略経営 II)	P0055	2	坂本 雅明*
65		経営学特別講義 (企業倫理)	P0032	2	岡本 享二*
66		経営学特別講義 (CSR)	P0035	2	岡本 享二*
67		経営学特別講義 (知的財産法)	P0036	2	溝田 宗司*
69		経営学演習 (ロジカル・ライティング I)	P0024	2	照屋 華子*
70		経営学演習 (ロジカル・ライティング II)	P0027	2	照屋 華子*
71		経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	P0050	2	竹田・中山
72		経営学演習 (グループ研究 I)	P0061	2	高尾 義明
73		経営学演習 (生産戦略)	P0053	2	松尾 隆子
74		経営学演習 (イノベーション戦略)	P0066	2	竹田 陽子
75		ミクロ経済学概論	P0206	2	渡辺 隆裕
76		マクロ経済学概論	P0207	2	荒戸 寛樹
77		経済史概論	P0208	2	竹内 祐介
78		ゲーム理論	P0211	2	渡辺 隆裕
79		日本経済論	P0213	2	村田 啓子
80		日本経済史	P0215	2	小林 延人
81		アジア経済史	P0217	2	竹内 祐介
82		経済思想史	P0219	2	高見 典和
83, 84		経営学特別研究・組織理論特別演習 (*)	P0500, P0503	2	桑 田 耕太郎
85, 86		組織理論特別研究・特別演習 (*)	P0501, P0502	2	高尾 義明
87, 88		ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究・特別演習 (*)	P0504, P0505	2	西村 孝史
89		意思決定特別研究・特別演習 (*)	P0506, P0507	2	長瀬 勝彦
90, 91		ベンチャービジネス特別研究・特別演習 (*)	P0508, P0507	2	高橋 勅徳
92, 93		経営戦略特別研究・特別演習 (*)	P0510, P0511	2	竹田 陽子
94		テクノロジー・マネジメント特別研究・特別演習 (*)	P0514, P0515	2	松尾 隆
95		マーケティング特別研究・特別演習 (*)	P0516, P0517	2	水越 康介
96, 97		マーケティング・サイエンス特別研究・特別演習 (*)	P0518, P0519	2	中山 厚穂
98		統計学特別研究・特別演習 (*)	P0520, P0521	2	森 治憲
99, 100		経営科学特別研究・特別演習 (*)	P0524, P0525	2	室田 一雄
101, 102		経営科学特別研究・特別演習 (*)	P0522, P0523	2	山下 英明
103, 104		経営科学特別研究・特別演習 (*)	P0526, P0527	2	森口 聡子
105, 106		会計学特別研究・特別演習 (*)	P0530, P0531	2	野口 昌良
107, 108	財務会計特別研究・特別演習 (*)	P0532, P0533	2	浅野 敬志	
109, 110	管理会計特別研究・特別演習 (*)	P0534, P0535	2	細海 昌一郎	
111	企業金融論 特別研究・特別演習 (*)	P0528, P0529	2	芝田 隆志	
必 修	112	経営学特別演習 (注・会計学)	P0014	2	浅野・野口・細海
	113	経営学特別演習 (注・マネジメントサイエンス)	P0021	2	芝田・室田・森口・山下
	114	経営学特別演習 (注・ミクロ組織論)	P0022	2	高尾・長瀬・西村
	115	経営学特別演習 (注・マクロ組織論)	P0040	2	桑田・高橋
	116	経営学特別演習 (注・マーケティング)	P0046	2	中山・水越・森
	117	経営学特別演習 (注・経営戦略)	P0047	2	竹田・松尾
C群科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目 (主に経済学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり)			

- ※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目ただし経営学特別演習は原則としてひとつを選択
- ※ (*)はB2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
- ※ 今年度の開講科目のみ掲載
- ※ 経営学プログラムの学生は経営学プログラムのA群から12単位以上、経営学特別演習2単位以上、研究指導4単位を修得しなければならない。
- ※ *は非常勤講師

経済学プログラム (MEc) 専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏 名	研究室	研究室電話 (直通)
教 授	飯 星 博 邦	2 階 226	042 (677) 1137
教 授	飯 村 卓 也	2 階 232	042 (677) 1138
教 授	岩 間 俊 彦	3 階 315	042 (677) 2317
教 授	田 中 敬 一	3 階 313	042 (677) 2318
教 授	村 田 啓 子	4 階 414	042 (677) 2327
教 授	脇 田 成	4 階 405	042 (677) 2307
教 授	渡 辺 隆 裕	4 階 411	042 (677) 1139
准教授	荒 戸 寛 樹	4 階 403	042 (677) 2309
准教授	小 方 浩 明	3 階 318	042 (677) 2320
准教授	小 林 延 人	3 階 317	042 (677) 2319
准教授	高 見 典 和	4 階 419	042 (677) 2332
准教授	竹 内 祐 介	3 階 316	042 (677) 1151
准教授	松 岡 多利思	2 階 234	042 (677) 2312
准教授	森 本 脩 平	4 階 417	042 (677) 2330

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス 3 号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

2 兼任教員

職	氏 名	研究室	研究室電話 (直通)
教 授	朝 日 ちさと	1 階 107	042 (677) 3144
准教授	金 子 憲	1 階 102	042 (677) 3130

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス 2 号館

経営学専攻（経済学プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期課程（経済学プログラム）を修了するためには、以下に定める所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① 30単位以上を修得しなければならない。
- ② 経済学プログラムが定めるA群科目から8単位以上、経済学特別演習2単位以上（上限4単位）、研究指導4単位以上（上限6単位）を修得しなければならない。これらは上記の30単位に充当することができる。
- ③ 上記の30単位に他の研究科の授業科目および学部の授業科目を合計で10単位まで充当することができる。ただし、これらを履修するためには、指導教授が教育上有益と認めたとうえで、当該科目の担当教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要である。

※経済学特別演習及び研究指導に関する上限単位数を越えて履修した場合には、その超過単位数は修了要件には充当しない。

経済学プログラム (MEc) 授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A 群 科 目	118	ミクロ経済学	P0200	2	森本 脩平
	119	マクロ経済学	P0201	2	松岡 多利思
	120	計量経済学	P0202	2	小方 浩明
	121	経済数学	P0203	2	田中 敬一
	122	ミクロ経済学演習	P0204	2	森本 脩平
	123	マクロ経済学演習	P0205	2	松岡 多利思
	75	ミクロ経済学概論	P0206	2	渡辺 隆裕
	76	マクロ経済学概論	P0207	2	荒戸 寛樹
	77	経済史概論	P0208	2	高見・竹内
	124	経済史演習	P0209	2	岩間・小林
	48	統計学基礎	P0031	2	森 治憲
B 群 科 目	125	国際金融論	P0224	2	荒戸 寛樹
	126	ミクロ経済学特論	P0225	2	飯村 卓也
	127	マクロ経済学特論	P0210	2	脇田 成
	78	ゲーム理論	P0211	2	渡辺 隆裕
	79	日本経済論	P0213	2	村田 啓子
	128	ミクロ計量経済学	P0226	2	飯星 博邦
	80	日本経済史	P0215	2	小林 延人
	129	西洋経済史	P0216	2	岩間 俊彦
	81	アジア経済史	P0217	2	竹内 祐介
	130	社会経済史	P0218	2	岩間 俊彦
	82	経済思想史	P0219	2	高見 典和
	56	企業経済学	P0026	2	芝田 隆志
	131, 132	ミクロ経済学特別研究・特別演習 (*)	P0536, P0537	2	飯村 卓也
	133, 134	マクロ経済学特別研究・特別演習 (*)	P0538, P0539	2	脇田 成
	135, 136	計量経済学特別研究・特別演習 (*)	P0540, P0541	2	飯星 博邦
	137	金融経済学特別研究・特別演習 (*)	P0544, P0545	2	田中 敬一
	138	日本経済論特別研究・特別演習 (*)	P0546, P0547	2	村田 啓子
	139, 140	ゲーム理論特別研究・特別演習 (*)	P0548, P0549	2	渡辺 隆裕
	141	数理統計学特別研究・特別演習 (*)	P0550, P0551	2	小方 浩明
	142	公共経済学特別研究・特別演習 (*)	P0552, P0553	2	森本 脩平
	143, 144	国際金融論特別研究・特別演習 (*)	P0554, P0555	2	荒戸 寛樹
145, 146	都市環境経済学特別研究・特別演習 (*)	P0556, P0557	2	朝日 ちさと	
147	財政学特別研究・特別演習 (*)	P0558, P0559	2	金子 憲	
148, 149	日本経済史特別研究・特別演習 (*)	P0560, P0561	2	小林 延人	
150	経済思想史特別研究・特別演習 (*)	P0562, P0563	2	高見 典和	
151, 152	西洋経済史特別研究・特別演習 (*)	P0564, P0565	2	岩間 俊彦	
153, 154	アジア経済史特別研究・特別演習 (*)	P0566, P0567	2	竹内 祐介	
155	金融論特別研究・特別演習 (*)	P0542, P0543	2	松岡 多利思	
必 修	156	経済学特別演習 (マクロ経済学)	P0220	2	村田・脇田・荒戸・松岡
	157	経済学特別演習 (ミクロ経済学)	P0221	2	飯村・渡辺・森本
	158	経済学特別演習 (計量経済学)	P0222	2	飯星・田中・小方
	159	経済学特別演習 (経済史)	P0223	2	岩間・小林・高見・竹内
		研究指導		2	各教員
C群 科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目 (主に経営学プログラム及びファイナンスプログラム提供科目、但し除外科目あり)			

※ 経済学特別演習及び研究指導は必修科目ただし経済学特別演習は原則としてひとつを選択

※ (*)はB 2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講

※ 経済学プログラムの学生は、経済学プログラムのA群科目から12単位以上、経済学特別演習2単位以上(上限4単位)を修得しなければならない。ただし経済学特別演習及び研究指導に関する上限単位数を超えて履修した場合には、その超過単位数は修了要件に充当しない。

ファイナンスプログラム（MF）専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	浅野敬志	南 3階314	042 (677) 2329
教授	足立高德	研究室03	03 (6268) 0542
教授	内山朋規	南 2階237	042 (677) 2315
教授	室町幸雄	南 2階223	042 (677) 2306
准教授	竹原浩太	研究室02	03 (6268) 0532
准教授	八木恭子	研究室01	03 (6268) 0529



2 特任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	加藤康之	—	—
教授	北川哲雄	—	—
教授	原千秋	—	—
教授	林高樹	—	—
教授	吉羽要直	—	—
教授	吉松加雄	—	—
准教授	小池祐太	—	—

経営学専攻（ファイナンスプログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（ファイナンスプログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① A群科目から12単位以上取得
- ② ファイナンス演習 2 単位、ファイナンス考究 2 単位及び研究指導 4 単位（注1）をすべて取得
- ③ 合計30単位以上を取得
- ④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注1. 研究指導は、半期 2 単位の計 4 単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は 2 年次生のみ履修することができます。

1 専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と経営学研究科教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては、掲示板等で案内します。指導教員（一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2 科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

ファイナンスプログラム (MF) 授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
A 群 科 目	160	資産運用論	P0701	2	加藤 康之
	161	ポートフォリオ理論	P0702	2	内山 朋規
	162	実証ファイナンス	P0703	2	内山 朋規
	163	債券投資とALM	P0704	2	市川 達夫*
	164	オプション理論	P0705	2	竹原 浩太
	165	期間構造モデル	P0706	2	室町 幸雄
	166	クレジットデリバティブ	P0707	2	竹原 浩太
	167	上級オプション理論	P0708	2	竹原 浩太
	168	金融リスク管理概論	P0709	2	吉羽 要直
	169	マーケットリスク管理	P0710	2	吉羽 要直
	170	信用リスク管理	P0711	2	室町 幸雄
	57	コーポレートファイナンス概論	P0005	2	中岡 英隆*
	171	企業価値論	P0736	2	浅野 敬志
	68	財務戦略論	P0008	2	島 義夫*
	59	事業リスクマネジメント	P0739	2	吉松 加雄
	172	プログラミング基礎	P0712	2	小池 祐太
	173	金融数値解法	P0713	2	小池 祐太
174	シミュレーション	P0714	2	藤原 哉*	
B 群 科 目	175	確率解析	P0715	2	足立 高德
	176	上級確率解析	P0716	2	足立 高德
	121	経済数学	P0203	2	田中 敬一
	177	金融における最適化	P0717	2	室田 一雄
	54	経営数理	P0023	2	室田 一雄
	178	金融データサイエンス	P0718	2	林 高樹
	179	金融時系列解析	P0719	2	林 高樹
	180	アルゴリズム取引	P0737	2	足立 高德
	181	金融経済学	P0720	2	原 千秋
	60	コーポレートファイナンス	P0721	2	芝田 隆志
	62	経営戦略とリアルオプション	P0002	2	中岡 英隆
	43	経営戦略演習	P0009	2	鈴木 政士*
	61	コーポレートガバナンス	P0738	2	北川 哲雄
	182	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P0722	2	原 千秋
	183	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P0725	2	内山・室町・竹原
	184	金融工学特別研究・特別演習(*)	P0568, P0569	2	内山 朋規
	185	金融リスク特別研究・特別演習(*)	P0570, P0571	2	室町 幸雄
186, 187	金融リスク特別研究・特別演習	P0570, P0574	2	足立 高德	
必 修	188	ファイナンス演習	P0729	2	各教員
	189	ファイナンス考究	P0731	2	各教員
		研究指導		2	各教員
C群 科目	A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目(主に経営学プログラム及び経済学プログラム提供科目、但し除外科目あり)				

※ 今年度の開講科目のみ掲載

※ (*) B2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講

※ ファイナンスプログラムの学生は、ファイナンスプログラムのA群科目から12単位以上、ファイナンス演習2単位、ファイナンス考究2単位、研究指導4単位を修得しなければならない。

※ *は非常勤講師

2 博士後期課程

博士後期課程 2019年度学年暦

入 学 式		4月4日(木)
前	授業開始	4月8日(月)
	定期健康診断	4月下旬(予定)
	博士学位申請受付(課程博士論文提出)	5月10日(金)
期	*対大阪府立大学定期戦(エール交換含む)	7月5日(金)～7月7日(日)
	*夏季休業	8月10日(土)～9月27日(金)
	博士後期課程9月修了者学位授与	後日連絡
後	授業開始	10月1日(火)
	博士学位申請受付(課程博士論文提出)	10月31日(木)
	*大学祭(準備・片付を含む)	11月2日(土)～11月5日(火)
期	*冬季授業	12月29日(日)～1月5日(火)
	授業再開	1月6日(月)
	*大学入試センター試験設営	1月17日(金)
期	*大学入試センター試験	1月18日(土)～1月19日(日)
	授業終了	2月10日(月)
	*春季休業	2月12日(水)～3月31日(火)
学位授与式		3月28日

注記 *対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講(南大沢キャンパス)
 *大学祭期間中は休講(南大沢キャンパス)
 *大学入試センター試験の前日および当日は休講(南大沢キャンパス)

博士後期課程修了要件

修了には以下の要件をすべて満たさなければならない。

- (a) 3年間の在学期間を満たすこと
- (b) 博士後期課程の授業科目について20単位以上修得すること
- (c) 「博士候補者(Candidate)」の資格を得ること
- (d) 学位論文を提出し、最終試験に合格すること

※「博士候補者(Candidate)」の資格等については、詳しくは新入生向け冊子を参照のこと。

博士後期課程教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野 敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
足立 高德	数理ファイナンス
飯星 博邦	計量経済学
飯村 卓也	ミクロ経済学
岩間 俊彦	西洋経済史
内山 朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田 隆志	ファイナンス工学
高尾 義明	経営学
竹田 陽子	経営戦略論
田中 敬一	数理ファイナンス
長瀬 勝彦	意思決定論
野口 昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
水越 康介	マーケティングマネジメント
村田 啓子	日本経済論
室田 一雄	経営科学
室町 幸雄	金融リスク管理
山下 英明	経営科学
脇田 成	理論経済学
渡辺 隆裕	ゲーム理論
荒戸 寛樹	マクロ経済学
小方 浩明	統計学
金子 憲	財政学
小林 延人	日本経済史
高橋 勅徳	ベンチャービジネス論
高見 典和	経営学説史
竹内 祐介	アジア経済史
竹原 浩太	金融工学
中山 厚穂	マーケティング・サイエンス
西村 孝史	経営学
松尾 隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
森 治憲	統計学
森口 聡子	経営科学
森本 脩平	公共経済学

博士後期課程授業科目一覧

頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
193	経営学特殊研究	P0401	2	桑田耕太郎
194	経営学特殊演習	P0402	2	桑田耕太郎
195	組織理論特殊研究	P0403	2	高尾義明
	組織理論特殊演習	P0404	2	高尾義明
196	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊研究	P0405	2	西村孝史
197	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊演習	P0406	2	西村孝史
198	意思決定特殊研究	P0407	2	長瀬勝彦
	意思決定特殊演習	P0408	2	長瀬勝彦
199	ベンチャービジネス特殊研究	P0409	2	高橋勅徳
200	ベンチャービジネス特殊演習	P0410	2	高橋勅徳
201	経営戦略特殊研究	P0411	2	高橋勅徳
	経営戦略特殊演習	P0412	2	高橋勅徳
202	テクノロジー・マネジメント特殊研究	P0415	2	松尾隆
	テクノロジー・マネジメント特殊演習	P0416	2	松尾隆
203	マーケティング特殊研究	P0417	2	水越康介
	マーケティング特殊演習	P0418	2	水越康介
204	マーケティング・サイエンス特殊研究	P0419	2	中山厚穂
205	マーケティング・サイエンス特殊演習	P0420	2	中山厚穂
206	統計学特殊研究	P0421	2	森治憲
	統計学特殊演習	P0422	2	森治憲
207	経営科学特殊研究	P0423	2	山下英明
208	経営科学特殊演習	P0424	2	山下英明
209	経営科学特殊研究	P0425	2	室田一雄
210	経営科学特殊演習	P0426	2	室田一雄
211	経営科学特殊研究	P0427	2	森口聡子
212	経営科学特殊演習	P0428	2	森口聡子
213	会計学特殊研究	P0431	2	野口昌良
214	会計学特殊演習	P0432	2	野口昌良
215	財務会計特殊研究	P0433	2	浅野敬志
216	財務会計特殊演習	P0434	2	浅野敬志
217	管理会計特殊研究	P0435	2	細海昌一郎
218	管理会計特殊演習	P0436	2	細海昌一郎
219	ミクロ経済学特殊研究	P0437	2	飯村卓也
	ミクロ経済学特殊演習	P0438	2	飯村卓也
220	マクロ経済学特殊研究	P0439	2	脇田成
221	マクロ経済学特殊演習	P0440	2	脇田成
222	計量経済学特殊研究	P0441	2	飯星博邦
223	計量経済学特殊演習	P0442	2	飯星博邦
224	金融経済学特殊研究	P0445	2	田中敬一
	金融経済学特殊演習	P0446	2	田中敬一
225	日本経済論特殊研究	P0447	2	村田啓子
	日本経済論特殊演習	P0448	2	村田啓子
226	ゲーム理論特殊研究	P0449	2	渡辺隆裕
227	ゲーム理論特殊演習	P0450	2	渡辺隆裕
228	数理統計学特殊研究	P0451	2	小方浩明
	数理統計学特殊演習	P0452	2	小方浩明
229	公共経済学特殊研究	P0453	2	森本脩平
	公共経済学特殊演習	P0454	2	森本脩平
230	国際金融論特殊研究	P0455	2	荒戸寛樹
231	国際金融論特殊演習	P0456	2	荒戸寛樹
232	都市環境経済学特殊研究	P0457	2	朝日ちさと
	都市環境経済学特殊演習	P0458	2	朝日ちさと
233	財政学特殊研究	P0459	2	金子憲
	財政学特殊演習	P0460	2	金子憲
234	日本経済史特殊研究	P0461	2	小林延人
235	日本経済史特殊演習	P0462	2	小林延人
236	経済思想史特殊研究	P0463	2	高見典和
	経済思想史特殊演習	P0464	2	高見典和
237	西洋経済史特殊研究	P0465	2	岩間俊彦
238	西洋経済史特殊演習	P0466	2	岩間俊彦
239	アジア経済史特殊研究	P0467	2	竹内祐介
240	アジア経済史特殊演習	P0468	2	竹内祐介
241	金融工学特殊研究	P0469	2	内山朋規
	金融工学特殊演習	P0470	2	内山朋規
242	金融リスク特殊研究	P0471	2	室町幸雄
243	金融リスク特殊演習	P0472	2	室町幸雄
244	オプション理論特殊研究	P0473	2	竹原浩太
	オプション理論特殊演習	P0474	2	竹原浩太
245	金融論特殊研究	P0443	2	松岡多利思
246	金融論特殊演習	P0444	2	松岡多利思
247	企業金融論特殊研究	P0429	2	芝田隆志
	企業金融論特殊演習	P0430	2	芝田隆志
248	金融リスク特殊研究	P0478	2	足立高穂
	金融リスク特殊演習	P0479	2	足立高穂

※ 今年度の開講科目のみ掲載

Ⅱ 社会科学研究科経営学専攻

高度専門職業人養成プログラム専任教員一覧

職	氏 名	研究室	研究室電話（直通）
教 授	浅 野 敬 志	3 階 314	042 (677) 2329
教 授	桑 田 耕太郎	4 階 415	042 (677) 2328
教 授	芝 田 隆 志	2 階 231	042 (677) 2310
教 授	高 尾 義 明	2 階 224	042 (677) 2314
教 授	竹 田 陽 子	2 階 225	042 (677) 1829
教 授	長 瀬 勝 彦	4 階 404	042 (677) 1152
教 授	野 口 昌 良	4 階 418	042 (677) 2308
教 授	細 海 昌一郎	2 階 233	042 (677) 2311
教 授	水 越 康 介	2 階 235	042 (677) 2313
教 授	室 田 一 雄	4 階 402	042 (677) 2322
教 授	山 下 英 明	4 階 413	042 (677) 2326
准教授	高 橋 勅 徳	3 階 306	042 (677) 2324
准教授	中 山 厚 穂	4 階 416	042 (677) 2316
准教授	西 村 孝 史	3 階 305	042 (677) 2331
准教授	松 尾 隆	2 階 236	042 (677) 1136
准教授	森 治 憲	4 階 412	042 (677) 2325
准教授	森 口 聡 子	3 階 312	042 (677) 2321

※1 研究室はいずれも南大沢キャンパス3号館

※2 今年度の授業を担当する教員のみ掲載

経営学専攻（高度専門職業人養成プログラム）の修了要件

経営学専攻博士前期（修士）課程高度専門職業人養成プログラムを修了するためには、所定の単位を取得したうえで修士論文又は特定の課題についての研究成果（以下「課題研究論文」という）を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

学位取得の条件は以下の通りです。修士論文提出者と課題研究論文提出者とでは必要取得単位数が異なるので注意して下さい。

なお、修士論文と課題研究論文の選択は、1年次末に決定される指導教員による指導の過程において行います。

1 修士論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計30単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注1）を履修し、修士論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を 8 単位まで含めることができる。

2 課題研究論文を提出して学位を取得するもの

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上、合計36単位以上を取得
- ② 経営学特別演習 2 単位以上及び研究指導 4 単位（注1）を履修し、課題研究論文を提出
- ③ 第Ⅲ群科目（注2）を 8 単位まで含めることができる。

注1. 研究指導は半期 2 単位の計 4 単位
平成28年度入学生から研究指導は 4 単位を履修上限とする。

2. 第Ⅲ群科目とは、以下の科目をさす。

- ・マクロ経済学
- ・高度金融専門人材養成プログラム開講科目(但しファイナンス特別講義(コーポレートファイナンス)、ファイナンス演習、ファイナンス考究、研究指導は除く)
- ・研究者養成プログラム(南大沢キャンパス)開講科目(但し研究指導は除く)
- ・経営学研究科経済学プログラム開講科目(但し経済学特別演習、研究指導は除く)

※ 経営学特別演習（注：経営学演習でない）及び研究指導は必修科目であり、修了に必要な単位数（合計30単位または36単位）に含まれる。

※ 研究指導は1年次生は履修できない。

※ 一度単位を取得した科目については、再度履修することはできない（研究指導を除く）。

3 専攻に準ずる科目

- 専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目であり、10単位を上限として経営学専攻の単位に加えることができる。
- 専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究所教授会の承認を必要とする。

4 科目区分について

必ず、「Ⅲ. 授業概要」の入学年度の授業科目を参照し、履修に関し不明な点がある場合は、事務担当に相談すること。

高度専門職業人養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
第Ⅰ群 科目	37	経営学特論	P003	2	桑田 耕太郎
	42	経営戦略特論	P037	2	竹田 陽子
	43	経営戦略特別演習	P009	2	鈴木 政士*
	38	経営組織特論	P015	2	高尾 義明
	40	意思決定特論	P033	2	長瀬 勝彦
	44	テクノロジー・マネジメント特論	P017	2	松尾 隆
	60	コーポレート・ファイナンス特論	P005	2	中岡 英隆*
	53	マネジメント・サイエンス特論Ⅰ	P018	2	森口 聡子
	44	マーケティング・マネジメント特論	P006	2	水越 康介
	46	マーケティング・サイエンス特論	P004	2	中山 厚穂
	56	企業経済学基礎特論	P026	2	芝田 隆志
	49	経営分析特論	P012	2	浅野 敬志
	50	管理会計特論	P045	2	細海 昌一郎
	51	財務会計特論	P049	2	野口 昌良
	58	証券投資特論	P025	2	坂巻 敏史*
第Ⅱ群 科目	48	経営データ分析特論	P031	2	森 治憲
	52	組織行動特論	P019	2	高尾 義明
	39	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	P044	2	西村 孝史
	73	生産戦略特論	P053	2	松尾 隆
	41	ベンチャービジネス特論	P056	2	高橋 勅徳
	55	ビジネスイノベーション特別演習	P039	2	高橋 勅徳
	53	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	P034	2	山下 英明
	61	コーポレートガバナンス	P738	2	北川 哲雄
	54	経営数理特論	P023	2	室田 一雄
	59	事業リスクマネジメント	P739	2	吉松 加雄
	69	ロジカル・ライティングⅠ	P024	2	照屋 華子*
	70	ロジカル・ライティングⅡ	P027	2	照屋 華子*
	72	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P061	2	高尾 義明
	68	経営学演習（財務戦略）	P008	2	島 義夫*
	71	経営学演習（公共経営アクションリサーチ）	P050	2	竹田・中山
	67	経営学演習（知的財産法）	P036	2	溝田 宗司
	62	経営学演習（経営戦略とリアルオプション）	P002	2	中岡 英隆*
	65	経営学演習（企業倫理）	P032	2	岡本 享二*
	66	経営学演習（CSR特論）	P035	2	岡本 享二*
	63	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	P054	2	坂本 雅明*
64	経営学演習（戦略経営Ⅱ）	P055	2	坂本 雅明*	
74	経営学演習（イノベーション戦略）	P066	2	竹田 陽子	
112～117	経営学特別演習		2	各教員	
	研究指導		2	各教員	
第Ⅲ群 科目		研究者養成プログラム（南大沢キャンパス）、高度金融専門人材養成プログラム及び経済学プログラム開講科目、但し除外科目あり			

※ 経営学特別演習及び研究指導は必修科目

※ 今年度の開講科目のみ掲載

※ *は非常勤講師

高度金融専門人材養成プログラム専任教員等一覧

1 専任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	浅野敬志	南 3階314	042 (677) 2329
教授	足立高德	研究室03	03 (6268) 0542
教授	内山朋規	南 2階237	042 (677) 2315
教授	室町幸雄	南 2階223	042 (677) 2306
准教授	竹原浩太	研究室02	03 (6268) 0532
准教授	八木恭子	研究室01	03 (6268) 0529

2 特任教員

職	氏名	研究室	研究室電話（直通）
教授	加藤康之	—	—
教授	北川哲雄	—	—
教授	原千秋	—	—
教授	林高樹	—	—
教授	吉羽要直	—	—
教授	吉松加雄	—	—
准教授	小池祐太	—	—

経営学専攻（高度金融専門人材養成プログラム）修了要件

経営学専攻博士前期課程（高度金融専門人材養成プログラム）を修了するためには、次のとおり所定の単位を取得したうえで修士論文を提出し、最終試験に合格しなければなりません。

- ① 第Ⅰ群科目から12単位以上取得
- ② ファイナンス演習2単位、ファイナンス考究2単位及び研究指導4単位（注1）をすべて取得
- ③ 合計30単位以上を取得（注2）
- ④ ①～③を満たした上で、修士論文を提出し、最終試験に合格すること

注1. 研究指導は、半期2単位の計4単位を取得する必要があります。また研究指導及びファイナンス考究は2年次生のみ履修することができます。

注2. 第Ⅲ群科目を8単位まで含めることができます。第Ⅲ群科目は、「高度専門職業人養成プログラム」「研究者養成プログラム」開講科目のうち、経営学特別演習と研究指導を除いたものです。

1 専攻に準ずる科目

専攻に準ずる科目とは他の専攻の科目を履修することで、10単位までを経営学専攻の単位に加えることができます。

専攻に準ずる科目の履修については、履修前にその科目を担当する教員の許可と社会科学研究所教授会の承認が必要となります。

履修登録にあたっては、掲示板等で案内します。指導教員（一年次生はプログラムディレクター）に相談の上、別途定められた期間内に、事務室に所定の申請書を提出して下さい。

2 科目区分について

科目区分については**入学年度の授業科目**を参照し、履修に関し疑問がある場合は、事務担当に相談して下さい。

高度金融専門人材養成プログラム用授業科目一覧

区分	頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
第Ⅰ群科目	160	資産運用論	P701	2	加藤 康之
	161	ポートフォリオ理論	P702	2	内山 朋規
	162	実証ファイナンス	P703	2	内山 朋規
	163	債券投資とALM	P704	2	市川 達夫*
	164	オプション理論	P705	2	竹原 浩太
	165	期間構造モデル	P706	2	室町 幸雄
	166	クレジットデリバティブ	P707	2	竹原 浩太
	167	上級オプション理論	P708	2	竹原 浩太
	168	金融リスク管理概論	P709	2	吉羽 要直
	169	マーケットリスク管理	P710	2	吉羽 要直
	170	信用リスク管理	P711	2	室町 幸雄
	57	コーポレートファイナンス特論	P005	2	中岡 英隆*
	171	経営分析特論	P012	2	浅野 敬志
	59	事業リスクマネジメント	P739	2	吉松 加雄
	172	プログラミング基礎	P712	2	小池 祐太
	173	金融数値解法	P713	2	小池 祐太
	174	シミュレーション	P714	2	藤原 哉*
第Ⅱ群科目	175	確率解析	P715	2	足立 高德
	176	上級確率解析	P716	2	足立 高德
	121	経済数学	P680	2	田中 敬一
	177	金融における最適化	P717	2	室田 一雄
	54	経営数理	P023	2	室田 一雄
	178	金融データサイエンス	P718	2	林 高樹
	179	金融時系列解析	P719	2	林 高樹
	180	アルゴリズム取引	P737	2	足立 高德
	181	金融経済学	P720	2	原 千秋
	60	ファイナンス特別講義 (コーポレートファイナンス)	P721	2	芝田 隆志
	43	経営戦略演習	P009	2	鈴木 政士*
	61	コーポレートガバナンス	P738	2	北川 哲雄
	182	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P722	2	原 千秋
	183	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P725	2	内山・室町・竹原
	184	金融工学特別講義・特別講義(*)	P548, P549	2	内山 朋規
185	金融リスク特別講義・特別講義(*)	P511, P512	2	室町 幸雄	
必修	188	ファイナンス考究	P731	2	各教員
	189	ファイナンス演習	P729	2	各教員
		研究指導		2	各教員
第Ⅲ群科目		A群科目・B群科目ならびに必修科目以外の科目（主に経営学プログラム及び経済学プログラム提供科目、但し除外科目あり）			

- ※ ファイナンス演習、ファイナンス考究及び研究指導は必須科目
- ※ 今年度の開講科目のみ掲載
- ※ (*) B2科目、主に南大沢キャンパスで昼間に開講
- ※ ファイナンスプログラムの学生は、ファイナンスプログラムのA群科目から12単位以上、ファイナンス演習2単位ファイナンス考究2単位、研究指導4単位を修得しなければならない。

**社会科学研究科経営学専攻
博士前期課程（研究者養成プログラム）及び
博士後期課程2019年度学年暦**

入 学 式		4月4日（木）	
前 期	授業開始	4月8日（月）	
	定期健康診断	4月下旬（予定）	
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	5月10日（金）	
	* 対大阪府立大学定期戦（エール交換含む）	7月5日（金）～7月7日（日）	
	修士学位申請受付（9月修了者論文提出日）	7月31日（火）	
	* 夏季休業	8月10日（土）～9月27日（金）	
	博士前期及び後期課程9月修了者学位授与	後日連絡	
後 期	授業開始	10月1日（火）	
	博士学位申請受付（課程博士論文提出）	10月31日（木）	
	* 大学祭（準備・片付を含む）	11月2日（土）～11月5日（火）	
		* 冬季休業	12月29日（日）～1月5日（日）
	授業再開	1月6日（月）	
	修士学位申請受付（3月修了者論文提出日）	1月10日（金）	
	* 大学入試センター試験設営	1月17日（金）	
* 大学入試センター試験	1月18日（土）～1月19日（日）		
授業終了	2月10日（月）		
	* 春季休業	2月12日（水）～3月31日（火）	
学位授与式		3月28日	

注記 * 対大阪府立大学定期戦エール交換日および当日は休講（南大沢キャンパス）
* 大学祭期間中は休講（南大沢キャンパス）
* 大学入試センター試験の前日および当日は休講（南大沢キャンパス）

研究者養成プログラム教員及び研究分野一覧

◇経営学専攻

浅野 敬志	財務会計論
朝日ちさと	政策評価研究
飯星 博邦	計量経済学
飯村 卓也	ミクロ経済学
岩間 俊彦	西洋経済史
内山 朋規	ファイナンス
桑田耕太郎	経営学
芝田 隆志	ファイナンス工学
高尾 義明	経営学
竹田 陽子	経営戦略論
田中 敬一	数理ファイナンス
長瀬 勝彦	意思決定論
野口 昌良	財務会計論
細海昌一郎	管理会計論
松田千恵子	経営・財務戦略、資本市場論
水越 康介	マーケティングマネジメント
村田 啓子	日本経済論
室田 一雄	経営科学
室町 幸雄	金融リスク管理
山下 英明	経営科学
脇田 成	理論経済学
渡辺 隆裕	ゲーム理論
荒戸 寛樹	マクロ経済学
小方 浩明	統計学
金子 憲	財政学
小林 延人	日本経済史
高橋 勅徳	ベンチャービジネス論
高見 典和	経営学説史
竹内 祐介	アジア経済史
竹原 浩太	金融工学
中山 厚穂	マーケティング・サイエンス
西村 孝史	経営学
松尾 隆	経営戦略論
松岡多利思	理論経済学
森 治憲	統計学
森口 聡子	経営科学
森本 脩平	公共経済学

博士後期課程授業科目一覽

頁	授業科目名	授業番号	単位	担当教員
193	経営学特殊講義	P623	2	桑田耕太郎
194	経営学特殊講義	P624	2	桑田耕太郎
195	組織理論特殊研究	P596	2	高尾 義明
	組織理論特殊研究	P597	2	高尾 義明
196	組織理論特殊研究	P594	2	西村 孝史
197	組織理論特殊研究	P595	2	西村 孝史
188	組織理論特殊研究	P574	2	長瀬 勝彦
	組織理論特殊研究	P575	2	長瀬 勝彦
199	経営学特殊講義	P627	2	高橋 勅徳
200	経営学特殊講義	P628	2	高橋 勅徳
201	経営戦略特殊研究	P673	2	竹田 陽子
	経営戦略特殊研究	P674	2	竹田 陽子
202	経営戦略特殊研究	P639	2	松尾 隆
	組織理論特殊研究	P640	2	松尾 隆
203	組織理論特殊研究	P600	2	水越 康介
	組織理論特殊研究	P601	2	水越 康介
204	マーケティング・サイエンス特殊研究	P582	2	中山 厚徳
205	マーケティング・サイエンス特殊演習	P583	2	中山 厚徳
206	統計学特殊研究	P570	2	森 治憲
	統計学特殊研究	P571	2	森 治憲
207	経営科学特殊研究	P590	2	山下 英明
208	経営科学特殊研究	P591	2	山下 英明
209	経営科学特殊研究	P659	2	室田 一雄
210	経営科学特殊研究	P660	2	室田 一雄
211	経営科学特殊研究	P617	2	森口 聡子
212	経営科学特殊研究	P618	2	森口 聡子
213	会計学特殊研究	P653	2	野口 昌良
214	会計学特殊研究	P654	2	野口 昌良
215	財務会計特殊研究	P609	2	浅野 敬志
216	財務会計特殊研究	P610	2	浅野 敬志
217	管理会計特殊研究	P641	2	細海昌一郎
218	管理会計特殊研究	P642	2	細海昌一郎
219	ミクロ経済学特殊研究	P605	2	飯村 卓也
	ミクロ経済学特殊研究	P606	2	飯村 卓也
220	マクロ経済学特殊研究	P611	2	脇田 成
221	マクロ経済学特殊研究	P612	2	脇田 成
222	計量経済学特殊研究	P441	2	飯星 博邦
223	計量経済学特殊研究	P442	2	飯星 博邦
224	金融経済学特殊研究	P598	2	田中 敬一
	金融経済学特殊研究	P599	2	田中 敬一
225	経済学特殊研究（日本経済論）	P569	2	村田 啓子
	経済学特殊研究（日本経済論）	P570	2	村田 啓子
226	ゲーム理論特殊研究	P578	2	渡辺 隆裕
227	ゲーム理論特殊研究	P579	2	渡辺 隆裕
228	統計学特殊研究	P566	2	小方 浩明
	統計学特殊研究	P567	2	小方 浩明
229	公共経済特殊研究	P667	2	森本 脩平
	公共経済特殊研究	P668	2	森本 脩平
230	国際金融特殊研究	P592	2	荒戸 寛樹
231	国際金融特殊研究	P593	2	荒戸 寛樹
232	経済学特殊研究（環境経済学特論）	P604	2	朝日ちさと
	経済学特殊研究（環境経済学特論）	P638	2	朝日ちさと
233	経済学特殊研究（財政学-公共政策分析）	P572	2	金子 憲
	経済学特殊研究（財政学-公共政策分析）	P573	2	金子 憲
234	日本経済史特殊研究	P607	2	小林 延人
235	日本経済史特殊研究	P608	2	小林 延人
236	経済学説史特殊研究	P663	2	高見 典和
	経済学説史特殊研究	P664	2	高見 典和
237	西洋経済史特殊研究	P619	2	岩間 俊彦
238	欧州経済史特殊演習	P620	2	岩間 俊彦
239	アジア経済史特殊研究	P647	2	竹内 祐介
240	アジア経済史特殊研究	P648	2	竹内 祐介
241	金融工学特殊研究	P613	2	内山 朋規
	金融工学特殊研究	P614	2	内山 朋規
242	金融リスク特殊研究	P440	2	室町 幸雄
243	金融リスク特殊研究	P441	2	室町 幸雄
245	金融特殊研究	P643	2	松岡多利思
246	金融特殊演習	P644	2	松岡多利思
247	企業金融論特殊研究	P455	2	芝田 隆志
	企業金融論特殊演習	P456	2	芝田 隆志

※ 今年度の開講科目のみ掲載

首都大学東京大学院学則（抜粋）及び履修について

1 目的

首都大学東京大学院は広い視野に立って、専門分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを目的とする。

2 課程

大学院に博士課程を置く。博士課程は、これを前期2年の課程（博士前期課程）及び後期3年の課程（博士後期課程）に区分し、博士前期課程は、修士課程として取扱うものとする。

3 社会科学研究科の教育研究上の目的

社会科学研究科博士前期課程は、広い視野に立って社会科学の精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

社会科学研究科博士後期課程は、社会科学の各分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

4 学年・修業年限・在学年限

学年は、前期に入学するものにあつては4月1日から翌年3月31日までとし、後期に入学するものにあつては10月1日から翌年9月30日までとする。

博士前期課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程の標準修業年限は3年とする。

博士前期課程の在学期間は4年を、博士後期課程の在学期間は6年を超えることができない。

5 修了要件

博士前期課程の学生は、2年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士前期課程専攻所定の授業科目について30単位以上を習得し、さらに学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

前項の場合において、指導教授が教育上有益と認めるときは、30単位のうち10単位以内に限り、当該研究科のほかの専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

博士後期課程の学生は、3年の在学期間を満たし、正規の授業を受け、博士後期課程専攻所定の授業科目について20単位以上を習得し、更に学位論文を提出し、かつ、最終試験を受けなければならない。

6 休学／復学／退学

休学

- ①疾病その他やむを得ない事由のため引き続き6か月以上就学することができない者は、その事由を具し、保証人連署の上学長に願い出てその許可を得て休学することができる。
- ②病気を事由とする休学願には医師の診断書を添付しなければならない。

- ③休学は、原則として1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合には引き続き許可を願い出ることができる。
- ④休学期間は課程ごとに通算して3年を超えることができない。
- ⑤休学期間は修業年限により在学すべき年数に算入しない。ただし3ヶ月以内に復学した場合は、教授会の判断によりこの規定を適用しないことがある。

復学

- ①休学期間が満了する時は、学長に復学を願い出なければならない。
- ②休学期間中であっても休学事由がなくなったときは学長の許可を得て復学することができる。
- ③休学期間が満了してもなお復学を願い出ない者は、これを除籍する。

退学

- ①疾病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、その事由を詳記し、保証人連署の上、学長に願い出てその許可を得なければならない。

7 履修方法

学生は、入学当初に、指導を受けようとする教授（指導教授）の指定を受ける。

学生は、毎年度当初に、その学年に履修しようとする授業科目につき、予め指定された方式に従い受講を申請し、その承認を得なければならない。

履修申請関係

社会科学研究科教授会の承認が必要な事項

①専攻に準ずる事項

博士前期課程（修士課程）修了に必要な30単位のうち10単位以内限り、社会科学研究科の他の専攻・分野の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目を履修し、これを充当することができる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得を目的として、学部科目の授業を履修する場合

「学部授業履修手続（大学院学生用）」により、申請すること。必要書類の配布は4月上旬、受付は4月中旬（掲示板に注意すること）。

その他

①関連科目

指導教授が必要と認め、社会科学研究科の他の専攻の授業科目若しくは他の研究科の専攻の授業科目又は学部の授業科目の履修を指定した場合の単位は、課程修了の単位外の扱いとなる。

②教育職員免許又は学芸員資格取得以外で、学部科目の授業を履修する場合は、一般の科目等履修生として出願すること（有料）。

2019年度の履修申請・確認

後日、掲示等によりお知らせします。博士前期課程（研究者養成プログラム）の学生は履修承認表による申請、博士後期の学生はWeb（CAMPUS SQUARE for WEB）による申請となります。

博士前期課程
Ⅲ 授業概要

- **経営学研究科** **経営学専攻**
- **社会科学研究科** **経営学専攻**

2018年度以降入学生	経営学	P0003	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特論	P003	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		前期Ⅰ	土曜日		3時限、4時限
①授業方針・テーマ	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、ビジネススクール入学前に、特に経営学のトレーニングを受けていない学生を主要な対象として、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営学は現代産業社会の基礎的構成要素である企業を対象とし、企業およびそのベースとなっている産業社会の構造や行動のメカニズムを解明する学問です。この授業では、企業の外部環境への適応と、内部統合・経営管理の主要なトピックスについて、具体的な事例をひきつつ、経営学の基礎知識と経営学的な思考様式を学ぶことを目的としています。					
③授業計画・内容 授業方法	I 経営学の基本的フレームワーク 第1回 なぜ経営学を学ぶのか 第2回 企業と経営 第3回 組織の概念と経営者の役割 第4回 意思決定の概念とプロセス II 経営行動の分析—デザインパースペクティブ 第5・6回 経営戦略のデザイン 第7・8回 競争優位の獲得 第9・10回 経営組織構造のデザイン 第11・12回 組織の中の人間と管理 III 企業成長と経営政策 第13回 企業の成長と発展 第14・15回 現代企業の諸課題					
④授業外学習	授業に必要な資料や課題の配布は、kibakoを通じて行うので、授業前に必ず熟読しておくこと。授業は参考文献を読んでいることを前提に進める。					
⑤テキスト・参考書等	テキスト：特に指定しないが、随時紹介する。桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論』有斐閣は事前に読んでおくことが望ましい。 参考文献： 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社 A. D. チャンドラー『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社 C. I. バーナード『経営者の役割』ダイヤモンド社					
⑥成績評価方法	随時おこなうレポート（50%）および授業への貢献（50%）による					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問、相談、アポイントメントは、メール<kkuwada@tmu.ac.jp>等を活用して行う。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	これまで経営学を学んだことのない学生に、特に推奨する経営戦略、経営組織論、ヒューマンリソースマネジメント、経営行動論、マーケティングなどを専攻する学生にとっては、特に重要な導入科目である。					

2018年度以降入学生	経営組織	P0015	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営組織特論	P015	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	個人に還元できない組織の創発特性をよりよく理解するために、組織を巨視（マクロ）的な視座から捉えるマクロ組織論を中心に、組織についての理論を紹介することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていきます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において組織に何らかのかたちで関わっていない人はいませんが、自らの経験にのみ依拠した持論だけで組織を捉えている人が少なくありません。そこで、本講義では、理論に基づいて組織の創発的側面について理解を深めるとともに、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識の獲得を目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：組織観の把握</p> <p>第3回：合理的システムとしての官僚制</p> <p>第4回：官僚制の逆機能と自生的システム</p> <p>第5回：組織の構造とその設計</p> <p>第6回：組織文化のマネジメント</p> <p>第7回：組織アイデンティティ</p> <p>第8回：組織的意思決定と（非）合理性</p> <p>第9回：組織学習とそのジレンマ①</p> <p>第10回：組織学習とそのジレンマ②</p> <p>第11回：ナレッジマネジメント</p> <p>第12回：組織間関係と学習</p> <p>第13回：組織変動へのマクロ的視点①</p> <p>第14回：組織変動へのマクロ的視点②</p> <p>第15回：総括ディスカッション</p> <p>【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせる授業を行います。</p>					
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。					
⑤テキスト・参考書等	<p>各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。</p> <p>参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います）</p> <p>[1] 桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論 補訂版』（有斐閣、定価2,100円）</p> <p>[2] 金井壽宏（1999）『経営組織』（日本経済新聞社、定価860円）</p>					
⑥成績評価方法	成績評価方法発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント	P0044	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特論	P044	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		前期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本の人事に欠けていることが多い戦略人材マネジメントの考え方を身につけることを重視します。戦略人材マネジメントとは、企業の競争力を高め、企業業績に連結する経営活動の一環として人材マネジメントを捉える視点です。 また、この授業では、理論的にも、実務的にも戦略人材マネジメントの視座に基づいて人事管理システムを考察できるように、理論的な学習のほかにもケース分析、グループ討議・発表、個人のフィールドリサーチなど、多様な方法を用いて分析手法を磨いていくことも重視します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人材マネジメント論の基礎的な概念・枠組み・理論を学習し、それらの概念や枠組みを実際の企業や組織に応用することで、最終的には、人事管理システムの分析・評価・デザインができるようになることを目的とします。 また、他社の「ベストプラクティス」を探ることで満足してしまうのではなく、自らの会社で何が起きているのかを推論する力を養うことを目的とします。					
③授業計画・内容 授業方法	<p><前後の入れ替えや内容変更の可能性がります></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の説明と参加者の確認：人材マネジメントとは何か？ 2 SHRM論1：レクチャーとディスカッション 3 SRHM論2：柔軟性、人事システムの基本思想 4 人事システムの基本思想（続き）・人材の評価 5 公正性：ミニケース 6 ケース分析① 7 能力開発・経営者人材（BU長）の育成 8 マネジャーの役割・職場マネジメント 9 人事部の役割・人事部の地位 10 ケース分析② 11 人材ポートフォリオ 12 多様な人材の管理 13 ダイバーシティと組織開発 14 働き方改革、人材の移動・健康経営 15 ゲストスピーカー※どこに回に入れるかは未定 					
④授業外学習	毎回、該当するテーマに関連する論文、ブックチャプター、雑誌記事などが配布されるので、それを事前に読んでおくこと。また、ケース分析については、事前に論文を読み、レポートを作成したうえで持参することが求められる（ケース分析の授業が終了した後での提出は不可）。					
⑤テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1) kibaco上に配布するリーディングパッケージ（詳しくは初回に説明：kibacoに掲載） 2) ケース（個人で購入をして下さい） <p><参考書> 守島基博（2004）『人材マネジメント入門』日本経済新聞社。</p>					
⑥成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) フィールドワークに基づく個人レポート（40%） 2) ケース分析に基づいた個人レポート、2つ（全部で30%：内訳①15%、②15%） 3) クラス討論への参加（30%） 					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないので、必要があれば、電子メールでアポイントメントを取ってください。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で扱うケースは、著作権が保護された上で販売されているため、各自でBookparkから購入をしてください。 http://www.bookpark.ne.jp/about/partner.asp 2. 欠席の連絡は、授業開始前までをお願いします。授業終了後の連絡は認められません。同様に、2つあるケースレポートも、授業開始前までに提出をしてください。授業終了後の提出は認められませんので注意して下さい。 					

2018年度以降入学生	意思決定	P0033	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	意思決定特論	P033	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		前期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは物事を決めることである。学生が食堂で注文の料理を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。また企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。 授業は一方の講義ではなく受講生と対話をしながら進行するので、受講者は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、積極的に考え発言することが期待される。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の意思決定のありかたは、一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり、それぞれに「○○ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することを通じて、人間の意思決定について深く理解することがこの講義の目標である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>以下が授業で取り上げる主な項目である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「成功要因」の神話と現実 3. 意思決定の合理モデルとその限界 4. データの収集と分析 5. 確率認知のバイアス 6. 未来予測と投資の意思決定 7. 市場への参入とM&Aの意思決定 8. 市場からの撤退と事業売却 9. 利己心と意思決定 10. 返報性 11. コミットメントと一貫性 12. 社会的証明 13. 権威 14. 希少性 15. まとめと期末試験 <p>【授業方法】 授業は主として講義形式であるが、一方の講義ではなく受講生と対話をしながら進行する。受講生は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、自分の頭で考え積極的に発言することが期待される。</p>					
④授業外学習	原則として毎回の授業に復習課題がある。教科書や配付資料、授業でとったノート等を参照しながらそれを解くことが要請される。					
⑤テキスト・参考書等	項目9までの教科書は『意思決定のマネジメント』（長瀬勝彦 [著]、東洋経済新報社、2008年）である。ただし、授業での気づき体験を重視するので、教科書は復習で使用することを推奨する。項目11以降の教科書は『影響力の武器 [第三版]：なぜ、人は動かされるのか』（ロバート・B・チャルディーニ [著]、社会行動研究会 [訳]、誠信書房、2014年）である（※授業開始の前に新版が出版された場合はそちらを使用する可能性がある）。参考文献は『あなたがお金で損をする本当の理由』（長瀬勝彦 [著]、日本経済新聞出版社）。その他、随時指示する。					
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などが50%、期末試験が50%の比率で評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	メールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	特定の前提知識は前提としない。ただし人間の心理についての学術的な興味と、日常の知識に束縛されない論理的な思考力が求められる。					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス	P0056	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ベンチャービジネス特論	P056	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		前期	土曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	ベンチャービジネスに関する研究は、この10年の間に、単に新奇性の高い事例を記述する研究から、明確な理論的フレームワークと調査方法論を備えた研究領域として、急速に発展しています。そこには、制度派組織論をはじめとした組織論の最先端の議論や、社会構成主義、言説分析、アクターネットワークセオリーといった方法論的展開のエッセンスが含まれています。 そこで本講義では、近年のベンチャービジネスに関する最先端の研究成果を踏まえた上で、起業やイノベーションに関する研究論文を作成する上で必要な、学説史と方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいくことにします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この講義では、ベンチャービジネスをテーマに論文を作成する上で必要な、理論と調査方法論を身につけることを目標とする					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業計画・内容・方法</p> <p>この講義では、企業家研究の各議論について、下記のテーマに基づいた文献の精読を行い、講義形式でレクチャーを行う。</p> <p>① 企業家とは何か？ シュムペーターの企業家モデル ② 企業家とネットワーク ③ 企業家と正当化 ④ 企業家と法規制 ⑤ 企業家研究の進化論的アプローチ ⑥ 企業家と地域集積 ⑦ 企業家と組織① 社内ベンチャー ⑧ 企業家と組織② ベンチャー企業の管理 ⑨ 企業家のと業界標準 ⑩ 制度派組織論における企業家概念 ⑪ 2000年代の企業家研究① ソーシャルイノベーション ⑫ 2000年代の企業家研究② まちづくり論 ⑬ 2000年代の企業家研究③ 農業ベンチャー ⑭ 2000年代の企業家研究④ 企業家の管理 ⑮ まとめ：企業家研究のフロンティア</p>					
④授業外学習	<p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを熟読の上、当日の講義に臨むこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』有斐閣 高橋勅徳・木村隆之・石黒督朗『ソーシャル・イノベーションを理論化する：切り拓かれる社会企業家の新たな実践』文眞堂 講義に際して必要なテキスト・参考書については、その都度指定する。</p>					
⑥成績評価方法	出席（10%）、授業への参加（30%）および期末課題（60%）にもとづいて評価を行う。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、メール（misanori@tmu.ac.jp）でスケジュールを調整の上、実施する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。					

2018年度以降入学生	経営戦略	P0037	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特論	P037	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		前期Ⅰ	水曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略の主要理論を、グループワーク、文献討議、事例研究を通じて実践と結びつけて学びます。ある企業がどのような範囲で事業を営み、どのような付加価値を生み出すのか。利潤獲得のために他社とどのように競い、協力するのか。自社にしかないものは何であり、これから何ができるようになりたいのか。今はまだ存在しない新しい付加価値を生み出すにはどうしたらよいのか、について議論します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題にあてはめて分析できるようになること、さらには、社会実践において自らフレームワークを構築する力をつけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】各回は5・6限連続です。</p> <p>第1回 われわれはどのような存在であるのか 垂直統合、多角化、事業ドメイン</p> <p>第2回 利潤獲得の位置どり：ポジショニング・アプローチ 業界構造、基本戦略、価格戦略、製品差別化</p> <p>第3回 企業間のインタラクション：ゲーム・アプローチ ゼロサムゲームと協力ゲーム</p> <p>第4回 ビジネス・エコシステム 企業間の対立と協調、プラットフォーム戦略</p> <p>第5回 われわれにしかないものは何か：資源アプローチ リソース・ベースド・ビュー</p> <p>第6回 変革する力：動的能力アプローチ 動的能力、組織革新、組織学習、技術革新</p> <p>第7回 創造の戦略 創発と創造</p> <p>第8回 期末課題発表会 事例研究の発表、期末レポートの相談</p> <p>【授業方法】 各回に講義のほか、グループワーク、文献討議があります。</p>					
④授業外学習	毎回、事前課題やグループワーク、文献討議の予習が必要です。期末課題は、各自で計画的に準備をすすめて下さい。					
⑤テキスト・参考書等	討議用の教材は、事前に配布します。参考文献は随時紹介します。					
⑥成績評価方法	事前課題30%、授業参加(討議貢献、グループ発表など)30%、期末課題(レポート)40%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	経営戦略演習	P0009	経営学A	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別演習	P009	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	鈴木 政士*		後期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	企業経営について、コーポレートファイナンス、経営戦略のPDCA、ガバナンスのあり方の論点を中心にケーススタディや参加者間での討議を通じ理解を深めていく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	コーポレートファイナンス、経営戦略、コーポレートガバナンスの知識を企業の実務、経営において活用できるようになることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>①自己紹介・ガイダンス</p> <p>②企業経営とCFOの役割</p> <p>③企業経営とステークホルダー</p> <p>④企業経営とコーポレートファイナンス</p> <p>⑤同上</p> <p>⑥経営戦略のPDCA</p> <p>⑦同上</p> <p>⑧M&Aの実際</p> <p>⑨同上</p> <p>⑩同上</p> <p>⑪グループ経営の実際</p> <p>⑫同上</p> <p>⑬コーポレートガバナンスのあり方</p> <p>⑭同上</p> <p>⑮全体総括</p> <p>【授業方法】 講義とケーススタディによるグループワークにより実施し、意見発表を行う。</p>					
④授業外学習	事前に必要資料を読み、課題の準備を行った上で授業に参加のこと					
⑤テキスト・参考書等	<p>松田千恵子 「コーポレートファイナンス実務の教科書」2016</p> <p>松田千恵子 「グループ経営入門 第三版」税務経理協会 2016</p> <p>松田千恵子 「コーポレートガバナンスの教科書」日経BP 2015</p> <p>その他のテキストは適宜指示する。</p>					
⑥成績評価方法	演習中のレポートやプレゼンテーションの作成、演習への貢献度により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	連絡先は初回講義時に伝える。					
⑧特記事項(他の授業 科目との関連性)	特になし					

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント	P0017	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	テクノロジー・マネジメント 特論	P017	高度専門 職業人養成 I	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		前期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	技術は企業マネジメント、企業戦略の双方にとって、重要な資源であるとともに、企業行動に制約をもたらす。本講義では、そうした技術とマネジメント、戦略との関係を取り上げる。毎回の講義では、1、2本の論文を取り上げ、それについての発展的な議論を行う。そのため、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらう。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テクノロジー・マネジメントに関する基本的内容と今日的トピックを理解し、現実の企業行動の分析に適用することを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ① テクノロジーとマネジメント ② テクノロジーと戦略 ③ 技術のライフサイクル ④ 製品アーキテクチャ ⑤ イノベーターのジレンマ ⑥ ユーザー・イノベーション ⑦ 技術統合 ⑧ ゲートキーパー ⑨ 標準化と技術 ⑩ オープン・イノベーション ⑪ イノベーションと組織 ⑫～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う 					
④授業外学習	事前に配布する文献を読み、レポートを作成する					
⑤テキスト・参考書等	特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、延岡健太郎『MOT [技術経営] 入門』日本経済新聞社などを事前に読んでおく和良好的。					
⑥成績評価方法	毎回のレポートの内容と講義中の発言による					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	講義の前後、あるいはメールでアポイントを取ってください					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	テクノロジーマネジメントでは、テクノロジーについて企業と外部環境の関係に関わる理論を扱い、生産戦略では企業内部の技術に関するマネジメントに関わる理論を扱う。					

2018年度以降入学生	マーケティング・マネジメント	P0006	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・マネジメント特論	P006	高度専門職業人養成Ⅰ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		前期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>マーケティング・マネジメントは、顧客との関係の創造と維持を目的とする、市場志向の活動である。本講義では、マーケティング・マネジメントとしてマーケティングの基本的な枠組みを理解するとともに、研究上の論点を探ることを目標とする。</p> <p>本講義では、事前グループワーク、講義内での報告・ディスカッション、および各自レポート作成・提出を一つのサイクルとする。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、マーケティングの基本的な枠組みの理解、および、マーケティング研究上の主要な論点を学ぶことができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、およびグループ設定 2. 市場を作り出す企業活動 3. 価値形成のマネジメント 4. 価値実現のマネジメント 5. マーケティング組織のデザイン 6. マーケティング資源配分 7. 事業の定義 8. 消費者行動の理解 9. 競争構造の理解 10. 取引関係の理解 11. プロセスとしての競争 12. 産業のライフサイクル 13. チャネルシステムのマネジメント 14. 顧客関係のマネジメント 15. ブランドのマネジメント <p>※講義内容は初回オリエンテーションの状況をもとに、変更の可能性はある。</p>					
④授業外学習	<p>予習、復習、報告準備、レポート作成など</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎（2013）『ゼミナール マーケティング入門 第2版』日本経済新聞社。</p> <p>池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩（2010）『マーケティング』有斐閣。</p> <p>Kotler, Philip & Kevin Lane Keller, Marketing Management 13e, Pearson Education, Inc., 2009.</p> <p>Solomon, Michael R., Consumer Behavior: Buying, Having, and Being, 11e, Pearson Education, Inc., 2014.</p> <p>その他授業内に適宜指示。</p>					
⑥成績評価方法	<p>授業報告、およびレポート</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること。</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス	P0004	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特論	P004	高度専門職業人養成Ⅰ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中山 厚穂		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場反応分析とは1（散布図と相関係数） 第3回 市場反応分析とは2（単回帰分析） 第4回 市場反応分析とは3（回帰分析） 第5回 市場反応分析とは2（非集計データの分析） 第6回 市場セグメンテーション 第7回 市場の発見のためのポジショニング分析 第8回 市場反応分析（回帰モデル）の実習 第9回 市場の発見と知覚マップ（因子分析）の実習 第10回 市場セグメンテーション（クラスター分析）の実習 第11回 新製品の普及（バスモデル）の実習 第12回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポネンス分析）の実習 第13回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）の実習 第14回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）の実習 第15回 定性調査データの分析（潜在変数の構造分析）の実習 第8回以降の実習では、担当者を決め代表的なモデルの特徴などについての発表とフリーの統計ソフトウェアRを用いた演習と、分析結果についてのディスカッションを行う予定です					
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。					
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ—市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィック、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。					
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	毎週水曜日20:00~21:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuh@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。					

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンス I	P0018	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス 特論 I	P018	高度専門 職業人養成 I	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		前期	土曜日(隔週)	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な意思決定が存在する。これらの意思決定では、科学的方法に基づく合理的な意思決定を導く経営科学(マネジメント・サイエンス)が重要な役割を果たしている。本講義では、経営科学の手法のうち、最適化技術を中心に紹介する。物流、在庫管理、SCM、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適化(最小コスト、最大利益、不公平感最小化の計算など)を取り上げ、最適化技術による優位な意思決定の事例と、最適化アルゴリズムによる具体的な計算方法について説明する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学における最適化技術とその周辺分野について、モデリング・定式化から、ソフトウェアによる求解について学習する。学習者はこの講義を通じて以下の知識や能力を習得することを目標とする。 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例(物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など) 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画(最短路問題、最大流問題など) 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身につけることができる。 数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義ガイダンス、経営科学における最適化技術の位置づけ 2. 最適化問題、最適化アルゴリズムの分類と計算複雑性理論 3. 最適化問題による数理モデル化(1) 線形計画問題 4. 最適化問題による数理モデル化(2) 整数計画問題 5. 最適化問題を解くアルゴリズム 6. 最適化ソルバー(ソフトウェア) 7. グラフ理論の基礎 8. ネットワーク最適化(1) 最短路問題と最短路問題を解くダイクストラ法 9. ネットワーク最適化(2) 最大流問題と最大流問題を解くフロー増加法 10. ネットワーク最適化(3) 最大流問題の応用例、プロジェクト管理におけるクリティカルパス法 11. ネットワーク最適化(4) 最小費用流問題と最小費用流問題を解く負閉路消去法 12. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習(1)(グループワークを予定するが、受講者数により個人演習となることもある) 13. 実問題のモデリングと求解プロセスの演習(2) 14. 実問題のモデリングと求解プロセスのディスカッション 15. まとめ <p>【授業方法】</p> <p>プロジェクタを用いた講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。グループワークによるモデル化と最適化の演習も導入する。</p>					
④授業外学習	用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する(予習)。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する(復習)。 個人課題、グループワーク課題を課す。ディスカッション、プレゼンテーションの為に事前準備をしっかりと行ってくこと。					
⑤テキスト・参考書等	<p>毎回配付するレジュメをテキストとして用いる。</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> [1] 松井泰子、根本俊男、宇野毅明『入門オペレーションズ・リサーチ』東海大学出版、2008 [2] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム(インターネット時代の数学シリーズ)』共立出版、2000 [3] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall, 1993 					
⑥成績評価方法	個人レポート、(グループワーク実施時) グループ成果物、プレゼンテーションおよび試験により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	丸の内: 質問は随時受け付ける。質問がある場合は、必ずメールで予約した上で講義時間の前後等にアポイントメントをとること。メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。 南大沢: 原則として、木曜12:10-13:00(メールでアポイントメントをとること)。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>【前提知識】</p> <p>高校程度の数学(数学I、数学II)を用いる。 この講義では、文科系出身の学生も履修できるように、初歩的な数学しか前提とせず、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行い、学生がこれらの手法の本質と最適化問題によるモデリングの有用性を理解できるよう心がける。</p>					

2018年度以降入学生	統計学基礎	P0031	経営学A	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営データ分析特論	P031	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		前期	土曜日		2時限
①授業方針・テーマ	取り上げる内容は授業計画に書いた標準的なトピックである。ただし、受講者の多くが文科系学部出身であり、統計学の勉強を優先できないという事情を考慮して、分析する能力を身に付けることを、この授業の目的とはしない。与えられた問題に対して分析が適切かどうかを判断し、その結果を正しく理解するための能力を身に付けることを目的とする。ここが標準的な統計学の授業と異なる点である。簡単な演習も行うため、母平均の検定などの初等的な分析は自力でできるようになるはずだが、例えば「複雑な確率モデルをベイズ推定する」ことはまず無理である。ここは注意してほしい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	統計学を用いた分析結果を理解し、活用するための能力。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1次元のデータ：度数分布表とヒストグラム、代表値と散らばりの尺度 2次元のデータ：分割表と散布図、相関関係と相関係数 記述統計学としての回帰分析 推定の考え方 確率変数 母集団分布と推定 仮説検定の考え方 仮説検定の理論 推測統計学としての回帰分析 <p>授業方法</p> <p>記述統計学（1次元のデータから記述統計学としての回帰分析まで）については反転授業とする。推測統計学の内容は講義を行う。</p>					
④授業外学習	この授業は独立したいくつかの話題を解説するのではなく、最初から最後まですべてが繋がっています。授業で学習した内容を習得するには、毎回の復習が不可欠です。					
⑤テキスト・参考書等	授業で用いる資料（スライドや練習問題など）はkibacoを用いて配布する。					
⑥成績評価方法	授業への参加状況と数回のレポートに基づいて成績を評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は授業終了後に受け付けます。土曜日3時限をオフィスアワーとする。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	高校レベルの数学（文系数学）を理解していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	経営分析	P0012	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営分析特論	P012	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		前期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<p>スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月）、伊藤レポート（経済産業省、2014年8月）、伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月）、コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月、改訂版2018年6月）が公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、機関投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROE、ROA、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業価値の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について、自ら仮説を立て、検証できるようになること。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（日本経済の再生と企業価値向上） 2. 財務諸表の概要と企業価値評価 3. 会計指標（KPI）と企業価値評価 4. 機関投資家のガバナンス改革と企業価値（スチュワードシップ・コード） 5. 企業のガバナンス改革と企業価値（コーポレートガバナンス・コード） 6. 企業開示制度改革と企業価値（伊藤レポート、伊藤レポート2.0） 7. 三大ガバナンス改革と企業価値（まとめ） 8. 現金保有と企業価値 9. 資本構成と企業価値 10. 株主還元策と企業価値 11. インセンティブと企業価値 12. エンゲージメント（企業と投資家の対話）と企業価値 13. ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 14. M&Aと企業価値 15. まとめ <p>【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせる授業を行います。</p>					
④授業外学習	<p>リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>伊藤レポート（経済産業省、2014年） 伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年） スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年、改訂版2017年） コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年、改訂版2018年） スティーブン・ボーゲル『日本経済のマーケットデザイン』（日本経済新聞社、2018年） 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） 伊藤邦雄『新・企業価値評価』（日本経済新聞、2014年） 手島直樹『ROEが奪う競争力』（日本経済新聞社、2015年） 柳良平『ROE革命の財務戦略』（中央経済社、2015年） 菊地正俊『日本株を動かす外国人投資家の設け方と発想法』（日本実業出版社、2017年） 水口剛『ESG投資』（日本経済新聞社、2017年） 日本証券アナリスト協会『価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年） 池尾和人・幸田博人『日本経済再生25年の計』（日本経済出版社、2017年） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文</p>					
⑥成績評価方法	<p>発言などによる授業に対する積極的貢献（30%）、発表（20%）、レスポンスペーパー（20%）、期末レポート（30%）によって評価する。</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>ファイナンスプログラムの学生は受講できない。</p>					

2018年度以降入学生	管理会計	P0045	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特論	P045	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日		4時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計は企業内部の経営者に対して経営管理に必要な経済的情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。</p> <p>本講義では、こうした意思決定や業績評価に有効な管理会計技法のうち代表的なものをとり上げ、数値例を用いて解説・検討します。具体的には、管理会計の基礎を概説したのち、CVP分析、予算管理、分権組織の業績評価、業務的意思決定、戦略的意思決定、財務情報分析などを取り上げ、その基礎と応用について解説・検討する予定です。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義を履修することによって、受講者は企業活動を客観的な会計数値で分析・評価する基本的な能力を身に付け、企業活動の改善点や目標を明確することが期待されます。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>イントロダクション：講義内容の概略</p> <p>①管理会計の基礎 ②CVP分析（1）：利益計画とCVP分析 ③CVP分析（2）：原価分解 ④CVP分析（3）：固定費に関わる論点 ⑤CVP分析（4）：損益シミュレーションほか ⑥予算管理（1）：予算管理の基礎、固定予算と変動予算 ⑦予算管理（2）：予算差異分析、予算管理の行動科学的課題ほか ⑧資金管理：資金管理の基礎、運転資金の管理、現金資金の管理、キャッシュフローの管理 ⑨分権組織の業績評価（1）：業績評価の基礎、事業部の業績評価指標（BSC等を含む）、内部振替価格 ⑩分権組織の業績評価（2）：EP(EVA)と業績評価、MVAについて ⑪業務的意思決定（1）：業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス、ABC分析 ⑫業務的意思決定（2）：在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT、スループット会計 ⑬戦略的意思決定（1）：戦略的意思決定の基礎、投資プロジェクトの評価方法 ⑭戦略的意思決定（2）：不確実性下の投資意思決定 ⑮財務情報分析：企業価値評価法の基礎 ※講義の内容・順序を一部変更することがあります。</p>					
④授業外学習	<p>・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>・テキストは、特に指定しません（レジュメ配布）。</p> <p>・以下、参考文献を示します（特に、購入する必要はありません）。</p> <p>青木雅明『管理会計』同文館出版、2005。 石塚博司共著『意思決定の財務情報分析』国元書房、1985。 大塚宗春『意思決定会計講義ノート』税務経理協会、2008。 加藤勝康・豊島義一『Q&A管理会計入門』同文館出版、2003。 小林健吾『体系予算管理』東京経済情報出版、2003。 小林・伊藤・清水・長谷川『スタンダード管理会計第2版』東洋経済新報社、2017。 佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版管理会計』放送大学教育振興会、2006。 知野雅彦・日高崇介『予算管理の進め方』日本経済新聞出版社、2007。 平岡・大野・井出・細海『原価計算・工業簿記演習第3版』創成社、2003。 門田安弘編著『管理会計レクチャー〔基礎編〕、〔上級編〕』税務経理協会、2008。 山根節『新版ビジネス・アカウンティングMBAの会計管理―』中央経済社、2008。 Higgins, Robert C., Analysis for Financial Management, McGraw-Hill, Inc, 2003. Horngren, C.T., G.Foster, S.M.Datar, Cost Accounting -A Managerial Emphasis, Prentice-Hall, 2006. Horngren, C.T, G.L.Sundem, W.O.Stratton, Introduction to Management Accounting, Prentice-Hall, 2002. Shim,Jae K.,and Joel G.Siegel,Modern Cost Management & Analysis,Barron's Business Library, 2000. Shim, Jae K., and Joel G.Siegel, Budgeting Basics and Beyond Second Edition, John Wiley & Sons, Inc, 2005.</p>					
⑥成績評価方法	<p>・講義参加度と演習課題に基づいて評価します。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>・本講義では受講者の理解を深めるため、毎回、講義内容についてひと通り解説したのち、PCを用いた演習を行う予定です。</p> <p>・基本的な企業会計の知識と基本的なPCの能力を前提に行います。</p> <p>・PC演習用データを配布します。</p>					

2018年度以降入学生	財務会計	P0049	経営学A	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特論	P049	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	優良企業（組織）の選別にあたっては、企業業績に関する情報を提供する公表財務諸表を中心にして分析が行われる。開示された情報を正確に把握するためには、財務諸表の機能と構造を十分に理解することが必要になる。この講義では、現代社会において財務諸表が果たす役割について考察し、その機能と構造を理解することを目標とする。国際財務報告基準（International Financial Reporting Standards；IFRS）などとの比較を行い、わが国の会計（基準）をとりまく現状についても理解を深めたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業業績に関する情報を提供する財務諸表の機能と構造を理解することができる。 2. 1. をベースにして財務諸表を作成・分析する能力を修得できる。 3. 1. および2. をベースにして日本の会計基準を取り巻く現状を理解することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 財政状態計算書 ③ 損益計算書および包括利益計算書 ④ キャッシュフロー計算書 ⑤ 連結財務諸表 ⑥ 金融商品会計 ⑦ 棚卸資産会計 ⑧ 中間試験 ⑨ 固定資産会計 ⑩ 退職給付会計 ⑪ 税効果会計 ⑫ 収益認識 ⑬ 企業結合会計 ⑭ 外貨換算会計 ⑮ 定期試験・解説 <p>【授業方法】 講義を中心とした授業を実施するが、適宜ディスカッション（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。講義は、概念等について説明を行った後に、演習問題を解くかたちでその計算方法の修得に努める。期央に中間試験を実施する。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 事前配布するハンドアウトおよび演習問題その他資料の予習・復習が必要となる。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。</p> <p>【参考書等】 桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社） 伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）</p>					
⑥成績評価方法	<p>基本的に定期試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するディスカッションもクオリティに応じて評価する。</p> <p>評価のウェイトは定期試験のスコアを70%、ディスカッションの内容を30%とする予定である。</p> <p>定期試験は、到達目標に照らして、財務諸表の機能と構造に関する知識を通じて、財務諸表を作成・分析する能力を修得できているか否かを確認するために実施する。具体的には、財務諸表の作成・分析に必要な概念について説明を求める記述問題と、財務諸表の作成に必要な情報を収集・分析・加工することを求める総合計算問題が中心となる。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 初回の講義において事前（プレ）テストを実施する予定である。その結果に基づいて講義内容を多少とも変更することを予定しているので、さしあたっては特別な前提知識を必要としない。</p>					

2018年度以降入学生	組織行動	P0019	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織行動特論	P019	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		後期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	組織行動論の考察対象は、組織における人間行動及び集団行動です。組織行動論はミクロ組織論と呼ばれることもあるように、微視（ミクロ）的な視座から組織を捉えます。本講義では、組織行動論の代表的な概念について理論的に解説するとともに、それらの応用の可能性について検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義で修得できる理論枠組みは、組織における人間行動・集団行動の説明・予測・方向付けに役立てることができます。また、組織のメンバーとしてどのように組織とかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる枠組みの獲得を目指します。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回：イントロダクション 第2回：ワーク・モチベーション 第3回：職務設計とジョブクラフティング 第4回：組織における公正 第5回：組織市民行動 第6回：リーダーシップとフォロワーシップ 第7回：リーダーシップ開発 第8回：経験学習 第9回：組織社会化 第10回：コミュニケーション 第11回：集団行動とチーム 第12回：組織と個人の関係 第13回：組織とキャリア 第14回：ポジティブ組織行動 第15回：総合ディスカッション</p> <p>【授業方法】 文献の発表、ディスカッション、グループワークを組み合わせる授業を行います。</p>					
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメントを事前に読んで授業に臨んでください。また、毎回事前課題の提出を求めます。					
⑤テキスト・参考書等	各回のリーディング・アサイメントを事前に配布します。 参考書（授業の履修にあたって購入する必要はありませんが、適宜参照すると理解が深まると思います） ・二村敏子編（2004）『現代ミクロ組織論』有斐閣					
⑥成績評価方法	発表・発言などによる授業に対する積極的貢献（85%）および学期末レポート（15%）によって評価します（詳細は第1回に説明します）。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	マネジメント・サイエンスⅡ	P0034	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マネジメント・サイエンス特論Ⅱ	P034	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、不確実性を伴う確率モデルに対し、確率論を用いた理論解析や、乱数を用いて数値実験を行うモンテカルロ・シミュレーションについて紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率モデルに対する理論的解析とモンテカルロ・シミュレーションの方法について本質的に理解する。経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、システムの分析を行う能力を身に着ける。 論理的思考力、総合的問題思考力、コミュニケーション能力を育成する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】【授業方法】</p> <p>第1回～第11回 講義中心の授業 授業時間内では、教員が確率モデルの理論解析やシミュレーションの方法について説明し、講義内容に関する課題について、グループで検討し、解答を導く。授業時間外では、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、確率モデル 2. 確率変数と離散的な確率分布 3. 連続的な確率分布と中心極限定理 4. 乱数の性質と生成 5. 在庫管理問題と経済的発注量 6. 定期発注方式と発注点方式 7. 需要が変動する在庫管理問題のシミュレーション 8. 待ち行列モデルのシミュレーション 9. 待ち行列モデルとリトルの公式 10. 電車の待ち時間 11. M/M/1待ち行列の解析 <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業 参考書にある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <p>第15回 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、結果を発表する。</p>					
④授業外学習	毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。参考書にある実際のシステムの解析例について発表する準備を行う。 身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、発表する準備を行う。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは使用しない。</p> <p>参考書：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014） 尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004） 高橋勝彦他『シミュレーション工学』朝倉書店 2007。 森戸晋、逆瀬川浩孝『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。 荒木勉『Excelで学ぶシミュレーション』実教出版 2000。 尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。 L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。 豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。</p>					
⑥成績評価方法	数回おこなう演習問題、解析例の発表、平常の理解度によって専門的知識と論理的思考力を評価し、各自モデルのシミュレーションの発表により総合的問題思考力、コミュニケーション能力を評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。メールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	この講義は、高校、大学初等程度の数学を用いることもあるが、簡単な例を用いて出来るだけ平易な解説を行う。					

2018年度以降入学生	経営数理	P0023	経営学B	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	経営数理特論	P023	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		後期	月曜日		6時限
①授業方針・テーマ	機械学習の数理的な側面に重点をおいて概説する。講義では基本的にテキストに沿って説明するが、テキストに含まれていない重要な話題であるサポートベクターマシンとニューラルネット（深層学習）についても講義する。機械学習では、統計学や最適化の数学が多用されるので、それらについて、適宜、基礎的なことを整理して提示する。また、最適化ソフトウェアの利用法についての基礎事項を説明する。数式のもつ本質的な意味をできるだけ図や言葉で伝えるようにし、今後の研究活動や実務において、機械学習の考え方が活かせるような形を目指す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	科学的方法論として近年進展の著しい機械学習について、その枠組みと考え方を理解し、さらに機械学習の基礎を成す数理的基礎を理解する。その過程で、数式の読み解き方などの基本的な技術も学習する。また、最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、研究活動や実務における数理的解析力と問題解決力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、機械学習へのイントロダクション 2. 最小2乗法（線形回帰、正規方程式） 3. 機械学習の基礎概念（汎化能力、過学習、交差確認） 4. 最尤推定法（確率分布、期待値、正規分布、推定量） 5. 最適化の基礎1（線形計画、勾配法、凸関数） 6. パーセプトロン（分類、オンライン学習、確率勾配法） 7. ロジスティック回帰 8. 最適化の基礎2（双対問題、双対性） 9. サポートベクターマシン（概要、定式化、カーネル法） 10. 最適化ソフトウェア 11. ニューラルネット：深層学習 12. ROC曲線 13. k平均法（クラスタリング、教師なし学習） 14. EMアルゴリズム（混合分布） 15. ベイズ推定（ベイズの定理、事前分布、事後分布） <p>演習について討論と講評</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストの要点をまとめたスライドによる講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。テキストに含まれない内容については、講義資料を用意する。また、発展的な話題を扱った資料をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。</p>					
④授業外学習	講義の前にテキストに目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に、テキストと資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自の興味に応じて、自主的に、WEB上に用意された資料を利用して、発展的な内容を理解する。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する。					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中井悦司：ITエンジニアのための 機械学習理論入門、技術評論社、2015。 <p>【機械学習の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中川裕志：機械学習、丸善出版、2015。 ・C. M. ビショップ著、元田浩他訳：パターン認識と機械学習（上、下）、丸善出版、2012。 ・竹内一郎、烏山昌幸：サポートベクトルマシン、講談社、2015。 ・岡谷貴之：深層学習、講談社、2015。 ・松尾豊：人工知能は人間を超えるか、KADOKAWA、2015。 <p>【統計学の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・杉山将：機械学習のための確率と統計、講談社、2015。 <p>【最適化の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 ・S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004. 					
⑥成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】</p> <p>原則として木曜5時限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】</p> <p>統計学と最適化理論の基礎事項を一通り習得していることが望ましい。</p>					

2018年度以降入学生	ビジネスイノベーション演習	P0039	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ビジネスイノベーション特別演習	P039	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		後期	土曜日(隔週)	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	<p>これまでビジネスイノベーションは、まったく新しいテクノロジーやアイデアの下でイノベーションを主導する、特殊なパーソナリティの持ち主たる企業家と共に語られてきました。確かに、巷間に溢れる雑誌・新聞・TVからの情報を見聞きする限り、ビジネスイノベーションとはそのような現象として理解できるかもしれません。</p> <p>しかしながら、そのように現象を捉えてしまうと、ベンチャービジネスとは通常のビジネス実践から乖離した、特殊な存在となります。しかし、イノベーションを実現するためには、単なるテクノロジー／アイデアや企業家の有無という問題ではなく、顧客、同業他社、関係会社、銀行など様々な主体と関係を取り結び、自社にとって有利な方向へと導いていく社会関係のマネジメントが求められます。そこでこの講義では、ケーススタディと当事者の講演を通じて、イノベーションのマネジメントを学んでいきます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この講義では、ベンチャー企業の創出、新技術／サービスの普及、既存企業（行政組織を含む）のイノベーションのプラクティカルな知識を、具体的なケーススタディに基づくディスカッションを通じて通じて学びます。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業計画・内容・方法</p> <p>この講義は隔週2コマ連続で開講します。1コマ目に検討するベンチャー企業についてのケースディスカッションを行い、2コマ目にケースに取り上げた企業経営者による講演とディスカッションを実施します。本年度の出講予定者については10月中旬にアナウンスします。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回 ケースディスカッション① 第三回 ケースディスカッション② 第四回 ケースディスカッション③ 第五回 ケースディスカッション④ 第六回 ケースディスカッション⑤ 第七回 期末グループワーク① 第八回 期末グループワーク+報告会</p>					
④授業外学習	<p>授業外学習</p> <p>講義に先立って配布するケーススタディを熟読の上、出講企業の事前調査を行い質問項目をまとめておくこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト・参考書については、必要に応じてその都度指定する。</p>					
⑥成績評価方法	<p>ディスカッションへの参加(20%)および議論への貢献度(20%)、期末グループワーク(40%)による。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>オフィスアワーについては、メール(misanori@tmu.ac.jp)でスケジュール調整の上、適宜実施する。</p>					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>原則隔週で2コマ連続の、変則開催とします。</p>					

2018年度以降入学生	企業経済学	P0026	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業経済学基礎特論	P026	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	芝田 隆志		後期	水曜日		6時限
①授業方針・テーマ	本講義では、ミクロ経済学の観点から、企業の経営活動について考える。本講義を通じて、ミクロ経済学における企業の利潤最大化問題において、仮定された強い前提条件を緩和し、その結果として生じる経済メカニズムについて概説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●習得できる知識は、ビジネススクールで必要とされる経済学の知識である ●企業間の戦略的相互依存関係を考慮に入れた企業の戦略や意思決定方法などの考え方を習得する 					
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ①イントロダクション（経済学とは、ミクロ経済学とマクロ経済学） ②消費者行動理論（効用最大化問題） ③消費者行動理論（需要関数） ④消費者行動理論（異時点間の最適消費問題） ⑤生産者行動理論（利潤最大化） ⑥生産者行動理論（供給関数） ⑦市場分析（市場需要関数、市場供給関数） ⑧市場分析（部分均衡、一般均衡、余剰） ⑨厚生経済学の基本定理（厚生経済学の第1命題、第2命題、税、政府介入） ⑩市場の失敗（外部性、公共財） ⑪市場の失敗（自然独占） ⑫不完全競争市場（売手独占、買手独占、双方独占） ⑬不完全競争市場（寡占、コミットメント、フォーク定理） ⑭情報の非対称性（エージェンシー理論、逆選択、モラルハザード） ⑮期末試験と解説 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ●各講義に対する演習問題を自宅学習すること ●練習問題や宿題において需要関数や供給関数などをEXCELにて描写する演習を取り入れる。EXCELの基本操作については各自で自宅学習しておくこと。 					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：指定しない 講義資料を各自ダウンロードすること。</p> <p>参考書： 神取道宏、2014、ミクロ経済学の力、日本評論社 他の参考文献については講義中に指示する</p>					
⑥成績評価方法	試験と宿題（平常点含む）による総合評価。期末試験70%、宿題および平常点30%					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	水曜 17：50 - 18：20（メールにて事前予約すること）					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス概論	P0005	経営学B	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	コーポレート・ファイナンス特論	P005	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中岡 英隆*		前期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	企業のグローバル化が進み、日本企業においても国内外でのM&A戦略が経営上の最重要課題となっている。こうした企業の戦略的な投資や企業価値創造に関わる意思決定には、オプション理論を取り入れた最新の企業価値評価の手法が不可欠である。本講義では、伝統的なコーポレート・ファイナンスの基礎を概観した上で、会社法や契約、ビジネスモデルに織り込まれたオプションの仕組みを解き明かして、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶ。さらに、その実践的な応用を目指して、Excelを用いた演習として、事例に基づくオプション戦略の評価を行い、さらに、ケース・ワークにより企業の財務分析を行った上で、企業価値、負債コスト、デフォルト確率などを測定する演習を行う。また、最前線の企業活動のケースを読み解きながら、ファイナンスや経営資源、コーポレートガバナンスの視点から、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的・実証的に分析し、M&Aの戦略・経済性について洞察を深める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伝統的なコーポレート・ファイナンスとコーポレート・ガバナンスやResource-Based Viewの経営戦略論などの視点を融合して、オプション理論を活用した投資戦略や株主価値、負債価値、資産価値、信用リスクの評価の手法を学ぶことにより、不確実性下における企業価値の評価やM&A戦略、マネジメントの価値創造力についての洞察力・実践力を高め、論理的思考力、総合的問題解決力を高める。さらに、ケース・ワークによる演習を通じて情報活用能力を高めるため、実際の企業買収や買収防衛策など最前線の企業活動にフォーカスして、自身でWebデータの収集や有価証券報告書の分析を行い、それらのデータとオプション評価モデルを使って投資戦略や企業価値、信用リスクの評価ができるようになることを目指す。また、マネジメントによる企業価値創造力やM&Aに対する市場の評価を理論的に分析し、実際のケースを通じてM&Aの戦略・経済性についての洞察を深めて、総合的問題解決力を高める。					
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ① M&Aの経済性と事業価値 ② 資本構成と配当政策 ③ 企業金融とガバナンス論 ④ M&Aと買収防衛策の事例研究 ⑤ M&A戦略と経営資源 ⑥ オプションと企業価値 ⑦ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑧ 離散時間モデルのExcel演習 ⑨ Mertonモデルと負債・資産の市場価値・信用リスク評価 ⑩ 演習「TBSの買収防衛策と株主価値・負債価値・信用リスク」 ⑪ 演習「買収対象企業の財務分析」(ホットなM&A事例を取り上げます) ⑫ 演習「市場データに基づく負債・資産価値・信用リスクの測定」 ⑬ 事例研究「日本の優秀企業の株主価値・負債価値・qレシオ」 ⑭ 事例研究「マネジメントの経営価値創造力とイベントスタディ」 ⑮ ファイナンス理論の現状と課題 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ① 演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ② 本講義では、演習問題やレポート課題において、基本的なファイナンス理論の手法やオプション・モデルなどのExcel演習を取り入れる。Excelの基本操作については、各自で自宅学習しておくこと。 ③ 授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。 					
⑤テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。</p> <p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> [1] 中岡英隆 [2009]、「企業における資源開発事業の統合リスク評価」『ジャフィー・ジャーナル：ベイズ統計学とファイナンス』日本金融・証券計量・工学学会、179-205、朝倉書店。 [2] 中岡英隆 [2011]、「マネジメントの価値創造力とM&Aの評価」『ジャフィー・ジャーナル：バリュエーション』日本金融・証券計量・工学学会、114-133、朝倉書店。 [3] リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、藤井真理子他訳 [2002]、『コーポレート・ファイナンス 上・下』日経BP社。 [4] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。 [5] ミシェル・クルーイ、ダン・ガライ、ロバート・マーク、三浦良造他訳 [2004]、『リスクマネジメント』共立出版。 					
⑥成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<ul style="list-style-type: none"> ①授業終了後 ②授業開始前 (メールにて事前予約をすること) 					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	概ね文系レベルの数学とEXCELの知見を前提とする。					

2018年度以降入学生	証券投資	P0025	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	証券投資特論	P025	高度専門 職業人養成Ⅰ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂巻 敏史*		後期	月曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、証券投資・資産運用に関する基本概念・理論の習得に加え、証券投資に関するリスク管理、ミクロ・マクロ経済分析などのより実践的な課題についても学習の対象とする。特に、ポートフォリオ投資のあり方、リスクリターン分析の枠組み、投資戦略、リスク指標などの項目を重点的に扱う。また、最近の動きにも触れ、より深い理解を促す。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券投資に関する基礎的な概念やツールの理解、実践的な活用能力の向上を目指す。特に、具体的な証券投資の場面において、リスクリターンのバランスをどのようにアプローチし決定するかに、役立つ知識や考え方の習得を重視する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>本講義で取り上げる範囲は、先ず、証券投資理論の基礎、標準的な投資戦略の知識や分析の枠組みに触れる。加えて、発展的な話題として、金融リスク管理や最近注目されている投資戦略などの話題も扱う。</p> <p>講義の効果を高めるために、ディスカッションへの参加を期待する。また、具体的な数値例に基づく計算課題などの複数回のレポート提出を予定している。</p> <p>各講義の主な内容は以下の通りである：</p> <p>①－② 証券投資のリターンとリスク、効用理論、ポートフォリオと分散投資</p> <p>③－④ 平均分散モデル、ポートフォリオの最適化、効率的市場仮説、分離定理、リスクプレミアム、ベータ</p> <p>⑤－⑥ 資本資産評価モデル (CAPM)、投資戦略 (アルファ、アクティブ運用、インデックス運用)、裁定価格理論 (APT)、マルチファクターモデル</p> <p>⑦－⑧ アセットアロケーション、ポートフォリオのリスク特性、計算</p> <p>⑨－⑩ 株式価値評価モデル、計算</p> <p>⑪－⑫ 債券分析</p> <p>⑬－⑭ デリバティブズ</p> <p>⑮ 行動ファイナンス</p> <p>※可能であれば、リスクベースポートフォリオ、スマートベータ、ETF、ファクター投資なども扱う</p>					
④授業外学習	必要に応じて指示します。					
⑤テキスト・参考書等	<p>(参考書)</p> <p>小林・芹田「新・証券投資論Ⅰ」(日本経済新聞出版社) 2009年第1版</p> <p>伊藤・荻島・諏訪部「新・証券投資論Ⅱ」(日本経済新聞出版社) 2009年第1版</p> <p>ツヴィ・ボディー「インベストメント 上・下」(日本経済新聞出版社) 2010年第8版</p> <p>井出・高橋「ビジネスゼミナール 証券分析入門 (ビジネス・ゼミナール)」(日本経済新聞出版社) 2005年</p> <p>その他、必要に応じて、資料を配布します。</p>					
⑥成績評価方法	講義中の議論への貢献・参加姿勢、課題・レポートの提出に基づく評価					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、授業前後のタイミングでアポイントメントを取って下さい。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	証券金融分析の基礎の理解、初歩的な統計学・数学の理解があることが望ましい。統計ソフトを用いた課題を行うことがある (具体的なツールについてはその都度指示する)。					

2018年度以降入学生	事業リスクマネジメント	P0739	経営学B	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	事業リスクマネジメント	P739	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	吉松 加雄		後期Ⅰ	土曜日	3時限、4時限	
①授業方針・テーマ	近年、企業を取り巻く環境の変化のスピードは加速傾向にあり、その結果、各企業が直面するリスクが急速に増加かつ多様化している。一方で、これらのリスクを適切に管理できる仕組みや仕掛けなどの整備は追いついておらず、企業内での対応は急務となっている。本講義では、リスクの識別・評価・対応、あるいはコントロールおよびリスクファイナンスといった狭義のリスクマネジメントはもちろんだが、それに留まらず広く、リスクを取ってリターンを求める企業の投資行動や経営管理のあり方、さらには利害関係者への説明責任といった内容も含め、経営者として考えるべきリスクテイクとそのマネジメントについて取り扱う。講義及び実際の企業を題材にしたケースメソッドを取り入れて進める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営者、経営幹部及び経営管理スタッフに求められる企業経営上のリスクマネジメントに関するフレームワークの理解及び重要な知識の習得をスタートに多岐に亘る多数のリスク事例について学ぶ。その結果、リスクマネジメントに関する感性を高め、適確な経営判断により実践的かつ実践的にリスクを回避し、リスクに対処する能力を身につけ向上させる。更に、予防法的なアプローチとしてリスクマネジメントの具体的な仕組みとプロセス構築の提言を行う実践力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>企業経営に関わるリスクマネジメントに関し下記のテーマを取り扱う。</p> <p>① リスクマネジメントのフレームワーク ②③ 戦略転換と企業変革 ④⑤ ガバナンスとコンプライアンス ⑥⑦ 経営者とリーダーシップ ⑧⑨ 財務報告と資本市場との対話（エンゲージメント） ⑩⑪ SCM(サプライチェーンマネジメント) ⑫⑬ グローバリゼーション ⑭⑮ M&AとPMI(買収後の統合)</p> <p>※②～⑮において、初回講義、2回目ケーススタディに関するクラス討議やグループ発表、を標準構成とする。</p> <p>【授業方法】 実戦（実践）力要請を目的として、企業の経営会議に相当するクラス環境の中で、授業テーマについて積極的なチャレンジ精神を持って発言し授業（擬似「経営会議」）に貢献することが期待されます。</p>					
④授業外学習	企業経営上のリスクに係わる感性を高め、実戦（実践）的なリスクマネジメント力及び対応力を習得するため自主研究によるレポート作成とグループワークによるケーススタディ。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト パワーポイント資料を各回配布予定 参考書 [1] 亀井 利明 [原著] 上田 和勇 [編著] 「リスクマネジメントの本質」 同文館出版、2017年 [2] ジョン・P・コッター（著）、梅津 祐良（訳）「企業変革力」 日経BP社、2002年 [3] 伊藤 邦雄（著）「危機を超える経営」 日本経済新聞出版社、2011年 [4] 浅川 和宏（著）「グローバル経営入門」 日本経済出版社、2003年 [5] 亀井 克之（著）「決断力によるリスクマネジメント」 ミネルヴァ書房、2017年 他、講義中に適宜紹介する。</p>					
⑥成績評価方法	①レポート（最終講義から1ヶ月以内を提出期限予定）、②グループワーク、③クラスディスカッションへの貢献度を①：②：③＝4：3：3のウエイトで評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	①メールによる質問、および②メールによる事前連絡による授業後の質問を受け付ける。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス	P0721	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (コーポレートファイナンス)	P721	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	芝田 隆志		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	ファイナンス理論は、投資家の観点から考察する「証券投資論」と企業家の立場から考察する「コーポレートファイナンス」に大別される。本講義は、後者の観点からファイナンス理論について概説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、コーポレートファイナンスの中心課題である投資行動と資金調達との間の相互作用について、オプション理論を用いて考察する。また、本講義では、オプション理論を用いたコーポレートファイナンスの基礎的なモデルから最新のモデルまでを解説する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>①イントロダクション 講義内容について概説する。また、コーポレートファイナンスの中心課題について紹介する。</p> <p>②～⑤最適投資戦略 企業の資金調達を所与とした上で、投資プロジェクト、株式、負債価値の評価や企業の最適投資問題について紹介する。</p> <p>⑥～⑦資金調達問題 企業の投資行動を所与と上で、構造型モデルに基づく企業の資金調達方法について紹介する。また、企業の最適レバレッジ水準、負債のクレジットスプレッド、企業の倒産確率などの財務指標の計測方法について紹介する。</p> <p>⑧～⑨完全競争下での投資と資金調達との間の相互作用 市場の摩擦がない完全競争市場において、企業の投資行動と資金調達との間の相互作用について紹介する。特に、投資行動と資金調達の双方を考慮した上で、企業の株式価値、負債価値、最適レバレッジ、負債のクレジットスプレッド、倒産確率などの財務指標の計測方法について紹介する。</p> <p>⑩～⑫不完全競争下での投資と資金調達との間の相互作用 市場の摩擦（非対称情報、資金調達の取引費用、資金制約）が存在する不完全競争市場において、企業の投資行動と資金調達との間の相互作用について紹介する。特に、市場の摩擦が企業の財務指標にどのような影響を与えるかについて考察する。</p> <p>⑬～⑮最新研究の輪読（受講生による論文紹介） 投資行動と資金調達との間の相互作用についての最新の研究について紹介する。</p>					
④授業外学習	講義資料を予め読んでおくこと。 受講生による論文紹介の場合には、論文の内容をレジメに纏め、レジメに沿って論文を紹介すること。					
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。適宜、参考文献を紹介する。					
⑥成績評価方法	平常点（出席や発表など）による評価					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	水曜 17：50 - 18：20（メールにて事前予約すること）					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	コーポレートガバナンス	P0738	経営学B	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	コーポレートガバナンス	P738	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	北川 哲雄		後期	木曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	2014年に発表された日本版スチュワードシップ・コードと2015年に発表されコーポレートガバナンス・コード（いわゆるダブルコード）によって日本企業のコーポレートガバナンスは大きく変容を遂げた。企業行動に与えた影響も計り知れないものがある。功罪半ばといった評価が妥当ではないか。本講義においてはダブルコード制定の源流となった英国のコーポレートガバナンスの変遷を辿るとともに独特の変化を遂げつつある日本のガバナンスシステムの歪みを描出してみたいと思う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	コーポレートガバナンスシステムの内外の状況を把握するとともに、システム設計の目標が如何にあるべきかを探ることにより、今後のコーポレートガバナンス・コードの特性について受講生各人が鋭い問題意識を持てるようにすることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業計画・内容 授業方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コーポレートガバナンス問題を考えるうえでの基本的視点のレクチャーとケース検討方法の提示 2 資本市場ネットワークの概要、企業は誰のものか：株主主権論・経営者主権論・企業主権論 3 コーポレートガバナンス理論：プリンシパル・エージェント理論 4 ケース研究（1） 5 我が国のガバナンスシステム：3つのシステムの混在 6 英国コーポレートガバナンス：FRCのアクティブな活動 7 ケース研究（2） 8 機関投資家のスチュワードシップ活動 9 議決権行使助言会社の役割 10 ケース研究（3） 11 取締役会評価 12 コーポレートガバナンス報告書 13 責任投資原則と機関投資家 14 最終課題発表（1） 15 最終課題発表（2） <p>[授業方法]</p> <p>講義の他に、3回のケース研究（予習課題を前もって提示しレポートを前もって提出してもらう）と最終課題発表を各人にしてもらう。</p>					
④授業外学習	3回のケース研究については前もって予習課題を提示しかつレポートを提出してもらう。最終課題については1か月程度前にアナウンスする。					
⑤テキスト・参考書等	参考書）北川哲雄編著（2017）『ガバナンス革命の新たなロードマップー2つのコードの高度化による企業価値向上の実現』東洋経済新報社。Christine A. Mallin(2015) Corporate Governance, Fifth Edition, Oxford University Press. その他必要な文献は適宜指示する。					
⑥成績評価方法	3回のケース研究に関する予習課題に関するレポートと最終課題発表内容。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として水曜日・木曜日の午後であるが、これ以外の時間帯でも随時受け付ける。但し事前にメールにてご連絡ください（t_kitagawa@pop02.odn.ne.jp）。場所は丸の内サテライトキャンパス。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初回の時に受講生の皆様の関心事項をお聞きします。					

2018年度以降入学生	経営戦略とリアルオプション	P0002	経営学B	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (経営戦略とリアルオプション)	P002	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中岡 英隆*		後期	月曜日		5時限
①授業方針・テーマ	<p>企業の経営は、不確実性下における戦略的な投資や企業価値創造に関わる様々なオプションに対する戦略的意思決定である。シナリオプランニングは、こうした観点から、近未来に起こり得る社会の構造的変化が自社にもたらすチャンス・危機を事前に描き出し、そのシナリオをstory tellingという形で組織内に共有して、構造変化に対して戦略的かつ俊敏に対応できる組織能力を育む為の経営手法である。本講義では、この米国経営者に最もポピュラーな経営手法の一つと言われているシナリオプランニングをグループ・ワークによる演習を通じて実践的に体得することを目指す。また、金融のオプション理論を実物資産の評価に拡張したリアルオプションは、不確実性下における戦略のフレキシビリティを評価できる最新の経営科学として、経営戦略や投資戦略、M&A戦略などに対するマネジメントの意思決定の最適化に不可欠な経営手法と言っても過言ではない。本講義では、最前線の企業活動のケースを通じて、優れたグローバル企業の経営戦略のデザインを洞察し、その中に織り込まれているオプションの仕組みについて実践的かつ直観的な理解を深めながら、オプション理論の基礎を直観的に理解し、リアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法を習得する。そして、不確実性下におけるマネジメントの意思決定をサポートするための二つの重要な方法論であるシナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では、シナリオプランニングとリアルオプションという二つの経営手法の新たな融合を目指して、まずシナリオプランニングの方法を学んだ上で、グループワークによる演習を通じてシナリオ分析の実践的な体得を図る。演習では、対象企業および産業に関する広範なデータ・スキャンニングと情報活用能力が求められ、グループ・ワークを通じてコミュニケーション能力、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。次に、リアルオプションについては、まず優れたグローバル企業のケースを通じて、リアルオプションがどのように企業の経営戦略のデザインに織り込まれているのかを概観し、リアルオプションの基本的な仕組みの直観的な理解と、それを応用したビジネス戦略の本質的な仕組みについての洞察力を高める。これらにより、オプション理論の基礎的な考え方の直観的な理解が促され、それを踏まえてリアルオプションの分析のフレームワークと実際の解法が順を追って習得される。また、代表的な企業戦略の応用問題についてのケース・スタディを行いながら、リアルオプションの基本理論のさらなる直観的な理解を深め、不確実性下の企業戦略オプションに対するマネジメントの意思決定の最適化を考察することを通じて、論理的思考力、総合的問題解決能力が高められる。最後に、シナリオプランニングとリアルオプションの融合という文脈において、新しいマネジメントの手法を洞察する。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 不確実性下の経営戦略と投資の意思決定 ② 創発的戦略とシナリオプランニング ③ 戦略のデザインとリアルオプション ④ NPV法とリアルオプション ⑤ 離散時間モデルとリスク中立化法 ⑥ シナリオプランニング・グループ演習 ⑦ 確率積分と伊藤の公式 ⑧ シナリオプランニング・グループ演習 ⑨ リアルオプションの基本モデル（新規参入戦略） ⑩ シナリオプランニング演習結果グループ発表 ⑪ 基本モデルにおける意思決定の最適化 ⑫ 撤退戦略の最適化（プラズマテレビ事業の最適撤退戦略） ⑬ 操業停止・再開の最適化戦略 ⑭ 多品種少量生産戦略の最適化（スイッチング・オプション） ⑮ 医薬品研究開発プロジェクトの評価 					
④授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> ① 演習問題やレポート課題を自宅学習すること。 ② シナリオ・プランニングのグループ・ワークでは、対象企業に関してのデータ・スキャンニングやグループ・メンバーとの情報交換、シナリオ作成、プレゼン資料作成を自宅で行うこと。また、必要に応じて、グループ・メンバーが集まり、ドライビングフォースの洞察やシナリオ・マトリクスの構築をグループ・ワークにより行うこと。 ③ 授業の際の不明な点や高校数学・統計の基礎知識について、授業中に示された参考文献などで自宅学習すること。 					
⑤テキスト・参考書等	<p>[テキスト] 毎回配布のレジュメによる。 [参考書] 木島正明、中岡英隆、芝田隆志 [2008]、『リアルオプションと投資戦略』朝倉書店。(毎回易しいレジュメにして配布予定) [参考文献] [1] キース・ヴァン・デル・ハイデン [1998]、グロービス監訳、『シナリオ・プランニング』ダイヤモンド社。 [2] マーサ・アムラム、ナリン・クラティラカ、石原雅行他訳 [2001]、『リアル・オプション』東洋経済新報社。 [3] トム・コーブランド、ウラジミール・アンティカロフ、栃本克之監訳 [2002]、『決定版リアル・オプション』東洋経済新報社。 [4] Dixit, A.K. and R.S. Pindyck (1994), Investment under Uncertainty, Princeton University Press.</p>					
⑥成績評価方法	出席状況および授業への参加姿勢と課題発表・レポートにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>オフィスアワー： ①授業終了後 ②授業開始前（メールにて事前予約をすること）</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	概ね文系レベルの数学を前提とする。					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅰ）	P0054	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（戦略経営Ⅰ）	P054	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂本 雅明*		前期	木曜日（隔週）	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	<p>経営戦略が戦略の内容を対象にするのに対し、戦略経営では戦略のプロセス（策定—実行—評価）を対象にします。戦略経営という言葉は馴染みが薄いかもしれませんが、米国ではStrategic Managementという題名で、多数のテキストが出版されています。</p> <p>戦略経営Ⅰでは、戦略の策定プロセスを扱います。戦略に関する理論や分析ツールについて、個別には理解している人は多いと思いますが、それでは戦略を策定することはできません。それらが策定プロセスの中で統合されなければなりません。何をどの順番で使うか、またどんな情報をインプットしてどう分析し、次工程のために何をどのような形でアウトプットにするかを理解する必要があります。もちろん、戦略策定プロセスは企業によって異なりますし、業種・業態によっても変わります。ここではどの企業でも必要になる最も汎用的なプロセスを紹介します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>企業の経営企画担当者やコンサルタントにとって必要な戦略策定メソッドを学びます。レクチャーを聞いて単に理解するだけでなく、ケース演習等を通じて再現可能なレベルで習得することを目指します。戦略論のレクチャーはいたしますが、それを理解・深耕することは本コースの目的ではありません。実務で応用できるようになることを目的としています。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>戦略策定プロセスを便宜的にいくつかのフェーズに分け、各フェーズでは講義の後に、ケーススタディーによってアウトプットしていただきます。ケースは事前課題として取り組んでいただきます。ただし1時間程度で完了する分量です。</p> <p>授業当日は、初めに講義をした後にスモールグループ・ディスカッション（3－4人）を行い、その後全体討議をいたします。そして最後に再び講義を行います。講義とケースディスカッションの割合はおおよそ2：1です。</p> <p>●使用ケース プラス、村田製作所、ローム、パイオニア、協働型ロボット、その他架空企業のケース等を予定。市販のケースではなく、講義で学んだ分析ができるように必要情報を盛り込んだ作成したオリジナルケースです。すべてこちらで用意しますので、購入・準備いただく必要はありません。</p> <p>●授業内容 01－02（4/11）環境分析：外部・内部分析 03－04（4/25）事業機会の検討：3C分析、事業コンセプト、重要成功要因 05－06（5/16）市場戦略の策定：顧客・競合分析、差別化戦略 07－08（5/30）競争戦略の策定：業界構造分析、競争戦略、協調戦略 09－10（6/13）企業戦略の策定：ドメイン、PPM、多角化、シナジー 11－12（6/27）内部システム：利益モデル、ビジネスシステム 13－14（7/11）戦略検討会議：戦略検討会議設計とファシリテーション 15－16（7/25）前期の振り返りと最終試験 ※木曜日隔週・2コマ連続</p>					
④授業外学習	<p>毎回、事前にケーススタディーに取り組んでいただきます。 授業終了後には、『事業戦略策定ガイドブック』の該当ページで復習いただきます。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。また、下記書籍で補足します。 坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文館出版。 配布講義開始以前には読まないようお願いいたします。毎回の授業で、予習もしくは復習する章を指示します。</p>					
⑥成績評価方法	<p>2回（4コマ）を超える欠席をしないことが最低条件です。 その上で、宿題、授業中の発言を考慮して成績を付けます。</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	sakamoto.tum@gmail.com					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>戦略策定に関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。前提知識は不要です。基本的知識はすべて説明します。また難しい理論は使いません。理論を深く学びたい方は、経営戦略論で補完してください。 何よりも出席を心がけてください。また遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて3時間のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりしている方は、履修は難しいと思います。働きながら通われる方に対して酷かもしれませんが、授業の品質を保つためです。どうかご理解ください。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅱ）	P0055	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義（戦略経営Ⅱ）	P055	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	坂本 雅明*		夏季集中	他		
①授業方針・テーマ	<p>戦略経営Ⅰの継続内容です。戦略経営Ⅱでは2種類のことを扱います。</p> <p>1つ目は、戦略の実行です。戦略の実行には、2つの側面が必要です。1つは、戦略の策定と同様に論理性です。組織化やKPIの設定、目標展開では論理性が必要です。一方で、理屈だけでは人は動かず、相手の気持ちに訴えなければなりません。そこで必要となる2つ目の側面が対人関係力です。この両側面から、戦略を効果的に実行する方法を考えます。</p> <p>2つ目は、グループワークでの戦略策定です。戦略策定Ⅰで学んだプロセスにもとづいて、グループ内のどなたかの企業を題材にして架空の新事業を策定し、発表・意見交換を行います。限られた時間での検討なので、収支計画などの詳細計画までは求めません。外部環境や内部資源に適した新事業テーマを選定し、重要成功要因を踏まえた効果的な戦略を検討することまでに取り組んでいただきます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>事業部長やミドルマネジャーとして、策定された戦略を推し進めていくための施策展開や進捗管理、あるいは周囲を動かす方法を学びます。</p> <p>戦略の策定段階は論理性が求められますが、戦略の実行段階ではそれ性だけでは足りません。戦略を実行するのは第一線社員であり、彼ら彼女らは理屈だけでは動いてくれません。また、利害が必ずしも一致するわけではない関連組織の説得も必要になります。そうした対人関係マネジメントの習得も目指します。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>●戦略実行（講義＋ケースディスカッション） 戦略実行のいくつかの領域について、戦略経営Ⅰと同じ要領で、講義とケースディスカッションをいたします。ショートケースを使ったディスカッションをした後に、講義をします。一部のケースは、事前課題（1時間程度）として取り組んでいただきます。</p> <p>●戦略策定（グループワーク） 3～4人のグループを編成し、グループで検討テーマを決めて取り組んでいただきます。 授業時間中も検討時間を用意しますが、それだけでは十分ではありません。授業以外の時間を使って検討いただくこととなります。最後に、すべてのグループから15分程度で発表いただき、他のグループから異なる観点からの意見をもらいます。</p> <p>●授業内容 01-02 オリエンテーション：グループワークテーマ検討 03-04 戦略のマネジメント：バランス・スコアカード、KPI 05-06 新規事業のマネジメント：研究開発成果の事業化 07-08 ♪：オープンイノベーション 09-10 戦略実行：戦略コミュニケーション 11-12 ♪：部下のマネジメント 13-14 発表：戦略策定 15-16 ♪：戦略策定</p> <p>●授業日程 土曜日に4コマ連続で実施します。 以下を予定していますが、変更の可能性があります。開講までに確定します。 08/17(土)、08/24(土)、09/14(土)、09/21(土)</p>					
④授業外学習	<p>事前にケーススタディーに取り組んでいただきます。 戦略策定のグループワークは、授業以外の時間も使って取り組んでいただきます。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>毎回レジュメを配布します。 参考文献として下記を勧めますが、授業では使いません。 坂本雅明（2016）『戦略の実行とミドルのマネジメント』同文館出版。 S.P.ロビンズ（2009）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社。</p>					
⑥成績評価方法	<p>4コマ分を超える欠席をしないことが最低条件です。 その上で、宿題、授業中の発言、最終発表内容を考慮して成績を付けます。</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	sakamoto.tum@gmail.com					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>戦略経営Ⅰが履修済みであることが望まれます。戦略経営Ⅱのみを履修する場合は、坂本雅明（2016）『事業戦略策定ガイドブック』同文館出版を熟読することが条件です。 マネジメントに関する幅広い知識を体系的に学ぶことができますので、M1での受講をお勧めします。 前提知識は不要です。基本的知識はすべて説明します。また難しい理論は使いません。理論を深く学びたい方は、経営組織論やHRM論、管理会計論で補完してください。 何よりも出席を心がけてください。また遅刻も控えてください。毎回の授業は教育効果を考えて4コマ分のスケジュールを設計しています。会社業務の関係で授業開始時間に間に合わないことがはっきりされている方は、履修は難しいと思います。働きながら通われる方に対して酷かもしれませんが、授業の品質を保つためです。どうかご理解ください。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別講義（企業倫理）	P0032	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（企業倫理）	P032	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岡本 享二 *		前期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>米国MBAプログラムの傾向として、「環境／社会（CSR）問題に関連するBusiness Ethicsは欠かせない」と言われている。当講座ではBusiness Ethics に関する世界動向を的確にとらえながら、企業と社会の間に生じる倫理問題を幅広く検証していく。</p> <p>先進国と発展途上国との、いわゆる南北問題の主因である「行き過ぎた金融資本主義」、地球温暖化問題に代表される「グローバルな環境問題」、我が国では見過されがちな児童労働、難民、貧困などの「国際的な社会問題」、後を絶たない国内の「企業事故/不祥事」、食料の確保と生産量拡大を狙った「遺伝子組み換え問題」など、興味深い具体例を示しながら、現在の企業倫理を説いて行く。</p> <p>Sharing Economyが現実となった21世紀の社会変革期においては、従来の規則に従って企業倫理を守るという（Reactiveな対応）よりも、企業自らが自主的に環境／社会（CSR）問題に配慮してゆく企業倫理の姿勢（Proactiveな対応）が重要となってきた。</p> <p>GAFAに代表される巨大なPlatformerの倫理問題、Roboticsにおける人間vs機械の倫理問題など、激変する社会構造に対して「企業倫理」はどうあるべきかを超えて、どう働きかけるか、Proactiveな倫理論を展開する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業倫理は従来の道徳や社会規範の範疇を越えて、CSR(企業の社会的責任)で扱われているグローバルな環境問題と社会問題を抜きには語るができない。当講座では最新のCSR情報を踏まえながら、俯瞰的かつ企業の現実に則した倫理論を展開していく。 ・AIやIoTに代表される最新科学技術の発展により、あらゆるモノがガラス張りになる傾向にある。「時代の変化」に気付かず、Business Ethicsに遅れをとると、「社会の要請」を見過ごし、マーケットからの退場を強いられることになる。 ・企業の事故/不祥事の事例を取り上げて、背景にある倫理観の欠如、だれも責任を取ろうとしない社会風潮、生半可な対応策で何度も繰り返される不祥事の事例を検証する。その上で、倫理問題を単なる道徳や哲学で片付けるのではなく、ビジネスとして明確に事象をとらえ、具体的な解決策を提示していく。 ・「SCM(サプライチェーン・マネジメント)」や「遺伝子組み換え」に関する最新情報も企業倫理の観点から提供しているのもこの講座の特徴である。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容（スケジュールの概要）】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション（講座の全体像の紹介とガイダンス） (2) 「最新のTechnology」と企業倫理の関係性、および今後の動向 (3) 国際社会と企業倫理（CSR Matrixと企業倫理の関係） (4) 欧米や日本の江戸時代に学ぶ企業倫理 (5) 地球温暖化/生物多様性に関する倫理問題 (6) 企業不祥事の検証と対応策①（不祥事の事例研究） (7) 企業不祥事の検証と対応策②（不祥事の背景と原因） (8) 企業不祥事の検証と対応策③（Holistic Management System） (9) 第4次産業革命（Industry4.0）と企業倫理 (10) 企業と社会問題（どう倫理観を持って対応するか） (11) 先進国の消費問題とエシカル購入 (12) 自然資本主義、ブルーエコノミー、Biomimicryの動向 (13) 金融資本主義の限界と企業倫理のあり方 (14) 遺伝子組み換え作物開発の現状と倫理問題 (15) 企業経営に活かす「企業倫理の変遷と今後の動向」 <p>【授業方法】</p> <p>講義は双方向コミュニケーションになるように、講師からの講義と、皆さんからの研究成果を発表していただきながらディスカッションを行う。授業内容に沿って課題が提供される（3～4回）ので調査/研究して、次回の講義で発表していただく。</p> <p>講義録は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibacoに掲載する。受講生には、出身母体（企業や組織）を念頭に入れて、ご自身の考えをまとめていただくことを願っている。</p>					
④授業外学習	<p>予習として関連書物のReading Assignmentをお願いし、内容をレポートにまとめていただくことがある。</p> <p>また、講座の中で各人に2～3回提出を求める課題が予復習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。課題は主にインターネットや専門書によって調査/研究してパワーポイント、またはレポートにまとめていただく。多くの課題に関して、過去の受講生の成果を参考資料として提供できるので、時間節約の一助になると思う。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。</p> <p>「進化するCSR」 岡本享二 著 JIPMソリューション 「CSR入門」 岡本享二 著 日経文庫 「次世代CSRとESD」 岡本享二（共著）ぎょうせい 「農業生物資源の利用と将来」 農業生物資源研究所 丸善プラネット 「エシカル購入」 山本良一・中原秀樹 編著 環境新聞社</p>					
⑥成績評価方法	<p>出席日数、授業中の発表/討論、課題レポートの内容による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配点の目安は出席（40%）、発表/討論（30%）、課題レポート（30%）。 ・期末試験はしないで総合的に評価する。 					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>早めに教室に入っているので講義前にも質問を受け付けている。</p> <p>もちろん、講義中や終了後にも自由に質問をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡先：kyojibm@icloud.com 					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の『企業倫理論』と合わせて学ぶと効果が大きい。 ・提供する資料は講座を終えると一冊の本ができる（ボリュームがある）。 					

2018年度以降入学生	経営学特別講義 (CSR)	P0035	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2 単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (CSR)	P035	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2 単位
担当教員	岡本 享二 *		後期	月曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	<p>21世紀の企業は経済的な成長と共に、環境／社会 (CSR) 問題への対応が幅広く求められている。CSR(企業の社会的責任)は1990年代初頭に欧州から始まり、今や先進国のみならず、途上国においても環境悪化や労働／人権問題の高まりから強い関心を示している。CSRの推進は従来のReactiveな対応から、最新科学技術 (AI、IoTなど) の発展と共に、Proactiveな対応が望まれるようになった。すなわち、経営の根幹にCSRを据えることで企業の競争優位を確立する動きである。</p> <p>Sharing Economyに代表される21世紀の社会変革期の企業にとっては、従来の規則に従って行動を取る (Reactiveな対応) よりも、企業自らが自主的に環境や社会問題に配慮してゆく姿勢 (Proactiveな対応) が重要となってきた。環境／社会 (CSR) 問題に配慮した製品を作り、施策をとることが、企業の価値を高め、競争優位を築く源泉であることに気がつき始めた。</p> <p>従来通りReactiveかつ誠実にCSRの国際基準を履行すれば、社会的な非難は浴びないだろう。しかし、企業の競争優位を得るためには弱いと言える。</p> <p>GAFに代表される勝ち組企業の多くが21世紀の企業経営で重要な事は「環境や社会 (CSR) 問題を自発的に自らルールを作って解決してゆく」ことであるとしている。このような企業の最新情報をCSRの講座名の下で提供している。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSRを学ぶことによって、「時代の変化」と「社会の要請」がどのように変わってきたかがわかる。特に近年の最新科学技術 (AIやIoT) の発展によって、どのような「時代の変化」が起こり、企業に対してどのような「社会の要請」を期待しているかが理解できる。 ・ 環境問題と企業との関わり、複雑な社会問題と企業の対応、またそれらの根源とも言える「行き過ぎた金融資本主義」についても学ぶ。 ・ CSRにはISO26000、AA1000、GRI、IIRCなどの国際基準やガイドラインがある。それらの内容、起源、効果などを学ぶ。 ・ 「時代の変化」によりCSRの精神を企業の根幹に据えた、Ankle BiterやDigital Giantと呼ばれる新興企業軍が出現している。従来から存続する巨大企業はどのように立ち向かえば良いのか。これらの現状と対応策を学ぶ。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容 (スケジュールの概要)】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (講座の全体像の紹介とガイダンス) (2) 最新のTechnologyとCSR (AI / IoTの普及と変化するCSR) (3) 従来のReactiveな対応からProactiveな対応へ (4) CSRを巡る各種ルール (国際基準、ガイドライン、関連Key Word) (5) GAFを代表とするPlatformerが先導する環境/社会問題の低減 (6) CSRの根本要因としての資本主義を問う (7) 行き過ぎた資本主義の弊害 (K.ボランニー、中谷巖、R・ライシュらに学ぶ) (8) 企業の事故・不祥事に学ぶCSR(企業の事例発表 ①) (9) 企業の事故・不祥事に学ぶCSR(企業の事例発表 ②) (10) ホリスティック・マネジメント・システムの紹介とCSRへの適用 (11) CSRの展望 (自然資本主義、Biomimicry、生態系や生物多様性に学ぶ経営) (12) 最新科学技術の進展がSharing Economyを可能にする (13) Sharing Economyと環境／社会 (CSR) 問題の解決 (14) 環境・CSR報告書に学ぶ (現代企業のCSR実践と課題 ①) (15) 環境・CSR報告書に学ぶ (現代企業のCSR実践と課題 ②) <p>【授業方法】</p> <p>テーマごとに講師が講義を行った上で、各テーマに関して課題を提供する。 その回答を基に、受講生には当講座の中で各人3～4回の発表機会を設ける。 課題はCSRに関する普遍的なテーマもあれば、各人の所属企業 (組織) の状況を踏まえて発表していただく場合がある。科学技術も社会構造も急速に変化している環境下にあっては、多くの企業の状況を知ること、環境／社会 (CSR) 課題の解決の糸口が見えてくる。 講義資料は原則としてコピーを配布する。発表レポートはkibacoに掲載する。</p>					
④授業外学習	<p>目新しい内容やテーマが多いので、復習をお願いしている。講座中、各人に3～4回提出を求める課題が予復習になるので、真摯に取り組んでいただきたい。課題は主にインターネットや専門書によって調査／研究してパワーポイント、またはレポートにまとめていただく。多くの課題に関して、過去の受講生の成果を参考資料として提供できるので、時間節約の一助になると思う。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>基本的には最新の資料を毎回の講義時に配布する。 「進化するCSR」 岡本享二著 JIPMソリューション 「CSR入門」 岡本享二著 日経文庫 「次世代CSRとESD」 岡本享二 (共著) ぎょうせい</p>					
⑥成績評価方法	<p>出席日数、授業中の発表／討論、課題レポートの内容による。 ・ 配点の目安は出席 (40%)、発表／討論 (30%)、課題レポート (30%)。 ・ 期末試験はしないで総合的に評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>早めに教室に入っているので講義前にも質問を受け付けている。 もちろん、講義中や終了後にも自由に質問をしていただきたい。 ・ 連絡先: kyojibm@icloud.com</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期の『企業倫理論』と合わせて学ぶと効果が大きい。 ・ 講座を終えると一冊の本ができる (ボリュームがある)。 					

2018年度以降入学生	経営学特別講義 (知的財産法)	P0036	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (知的財産法)	P036	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	溝田 宗司*		後期	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>日本の競争力が損なわれて久しい。日本が競争力を取り戻すにはどうすればよいか。担当教員は、新卒時は日立製作所知財部に始まり、現在は特許権侵害訴訟を主な業務内容とする弁護士であり、社会人生活のほとんどを特許を使った紛争の間で生きてきた。紛争には、勝ち負けがつきまとい、それ故、その勝ち負けの理由を考えることも多い。</p> <p>負ける企業は何が悪いのだろうか。日本が競争力を取り戻すヒントもそこに隠されているように思う。負ける企業は、ひとことでいえば「特許」を理解していないように思う。もちろん、「特許」という用語を新聞の紙面等で見ない日はないし、「そのくらい分かっているよ」という人も多いだろう。しかし、そうではなく、本質的に「理解」していない。例えば、少し前に越後製菓と佐藤食品工業が切り餅の侵害訴訟で世間を賑わせた。結果は佐藤の負けだ。会社の規模でいえば、両者ともそれほど変わらないし、負けた佐藤もそれなりの数の特許を保有していた。少なくとも「そのくらい分かっているよ」というレベル以上に特許をわかっていたことは明らかだ。</p> <p>ではなぜ佐藤は負けたのか。</p> <p>もちろん、判決文を読めば負けたことの直接的な理由はわかる。しかし、重要なのはそうではなく、佐藤の何が悪かったのだろうか。</p> <p>また、最近では、ベンチャー企業の躍進が著しい。おそらく東京五輪頃までは、このブームが続くと思われるが、ベンチャー企業にとって、特許とはどのようなものなのだろうか。</p> <p>日本の競争力の源泉は「技術」である、いや「技術」であったことは確かである。技術を保護するのが特許であるが、この技術に基づく競争力が損なわれたことには、このような特許に対する「理解」不足がその一因となっているのだと考えている。</p> <p>本講義では、特許法の基礎・特許業界の構造を概説し、その後、担当教員が実務で経験した事例をベースとした特許戦略の基礎を概説する。</p> <p>講義をしっかりと理解できれば上記の問題には自ずと答えられよう。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産法 (主に特許法) の基礎 法律のみならず実務的な視点で解説する ・特許戦略の基礎 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回、第2回：知財法の概説 第3回から第10回：知財法及び知財実務の基礎 第11回以降：特許戦略</p> <p>講義の進行に応じて、柔軟に変更する。</p>					
④授業外学習						
⑤テキスト・参考書等	<p>特になし。教員がテキストの代わりとなるスライドを用意する。</p> <p>もっとも、特許に関する記事などには目を通したり、ネットで得られるレベルの知識は身につけて置くことが必須。また、池井戸潤の「下町ロケット」を見ておくとイメージをつかみやすいので、講義前に読んでおくことをおすすめする。</p> <p>担当教員が知財の実務家であることから、講義のレベルは相当に高いと思ってよい。したがって、履修するのであれば、この程度の事前インプットはしておくこと。</p>					
⑥成績評価方法	<p>出席2割、講義への貢献3割、レポート5割 ただし、三回以上の欠席は不可とする。15分以上の遅刻は欠席扱い。 レポートのテーマは、「知的財産と経営」</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)						
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	財務戦略論	P0008	経営学B	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（財務戦略）	P008	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	島 義夫 *		夏季集中	他		
①授業方針・テーマ	企業価値評価を中心としたコーポレート・ファイナンスの主要内容を学び、学んだことを具体的なケースで実践する。授業前半においてはフリーキャッシュフローの推定と資本コストの推定による投資プロジェクト評価と企業価値評価の基本について学ぶ。そして後半ではそれをベースして企業の財務戦略の主要な論点と近年増えつつあるM&Aに関する主要な論点につき実践的なケースを通じて学ぶ。特にM&Aには企業戦略、企業価値評価、財務戦略、コーポレートガバナンスなど企業にとって重要なあらゆる問題が関係してくる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	具体的な事例で資本コストの推定や企業価値の推定ができるようになる。実際の企業の経営行動を企業価値の観点から理解・説明することができるようになる。企業のM&Aにおいて何が論点となるのか、そして、それらの問題にどのようにアプローチすればよいのかを理解することができるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法	1、イントロダクション 2、資産評価手法DCFとその応用 3、債券と金利、金利の期間構造 4、企業のフリーキャッシュフローの定義とその予想 5、企業の投資プロジェクト評価 NPVとIRR 6、企業価値評価の実践 7、中間試験 8、企業の資本コスト CAPM式 9、企業の資本コスト デットコストその他 10、企業の財務政策 MM命題 11、企業の財務政策 修正MM命題 12、デリバティブの基本 13、企業のM&Aの主要な論点 14、M&Aのケーススタディ 15、まとめと期末試験					
④授業外学習	日本のみならず世界の経済、金融市場、主要企業の動きに関心を持ち、内外メディアを通じてフォローしておいてほしい。					
⑤テキスト・参考書等	教科書：『入門コーポレート・ファイナンス』島義夫著、日本評論社					
⑥成績評価方法	中間試験40%、期末試験またはレポート提出50%、授業への参加10%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問などある場合はメールで受け付け、授業前後の時間を利用して対応する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	簿記会計の基本（財務諸表が読めること）は必須。財務会計（主要な財務比率に関する知識）も必要になる。ミクロ・マクロ経済学も履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	経営学演習 (ロジカル・ライティングⅠ)	P0024	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅠ	P024	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	照屋 華子*		前期	木曜日(隔週)	5時限、6時限 (8回目は5限のみ)	
①授業方針・テーマ	この授業では、ロジカル・ライティング論理的に分かりやすく書くことの基本手法を学び、トレーニングしていきます。 ビジネスの実務では、メッセージを論理的に分かりやすく、しかも速く伝わるように発信するスキルが必須です。また、リーダーには、こうしたスキルを組織に浸透させて、情報伝達や意思決定を効率的、効果的に行うという視点も必要です。 ロジカル・ライティングは、トレーニングで体得できる「技術」です。授業では、実践的な演習でトレーニングに取り組みます。 ビジネス・ライティング力を磨きたい方はもちろん、組織の伝えるスキル向上に関心のある方、研究活動のためのライティング力向上を図りたい方の参加も歓迎します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ロジカル・ライティングの基本手法を体系的に習得します。 <ul style="list-style-type: none"> ビジネス文書の基本の型を理解する。 文書の目的を正しく設定して、読み手に納得感があるように示すことができる。 目的に合ったメッセージを、ロジカル・シンキングを活用して、論理的に分かりやすく構成できる。 構成したメッセージを正確に、速く伝わるように表現できる。 自分のライティングの訓練ポイントを具体的につかみ、それを意識して日々の文書作成に取り組むことを目指します。 					
③授業計画・内容 授業方法	<テーマ> 第1回：オリエンテーションと伝える前の準備 ・講義のねらいとロジカル・ライティングの全体像 ・文書の「基本の型」と目的志向で書くために必要な習慣 第2回：メッセージの組み立て(1)「本論—思考の整理」 ・材料のグループ化—MECEの活用と切り口の設定 ・So What?の抽出—So What?/Why So?の整理のポイント 第3回：メッセージの組み立て(2)「本論—論理構成」 ・論理の基本構造と論理パターン「並列型・解説型」 ・構造ボックスの作り方と要旨・結論のチェック・ポイント 第4回：メッセージの表現(1)「組み立ての視覚化」 ・スピード志向に応えるSo What?先出しの流れ ・組み立てを「見せる」ためのテクニック 第5回：メッセージの組み立て(3)「導入部と結び」 ・文書の冒頭、導入部の役割と要素 ・文書の最終部、結びの役割と要素 第6回：メッセージの表現(2)「組み立てを支える日本語表現」 ・正確に伝えるための基本動作 ・具体的、簡潔、論理的なことばの使い方 第7回・8回 ・総合的な演習とまとめ ※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。 <授業方法> 各回、講義で解説した内容を演習で実践・確認します。 ・演習は基本的に個人ワークですが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 ・演習のアウトプットはクラスで共有します。					
④授業外学習	・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回への宿題にすることもあり得ます。					
⑤テキスト・参考書等	<テキスト>照屋華子著『ロジカル・ライティング』(東洋経済新報社)と配布資料 <参考書>照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』(東洋経済新報社)、照屋華子著『ロジカル・シンキング練習帳』(東洋経済新報社)、野矢茂樹著『大人のための国語ゼミ』(山川出版社) その他、必要に応じて指定します。					
⑥成績評価方法	課題・期末課題の成績を70%、授業への貢献を30%で評価します。 ・期末課題とは別に、理解確認のための課題を2回ないし3回出します。 ・課題・期末課題は、文書作成もしくはメッセージの構成を予定しています。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。 ・授業への貢献は、討議や演習結果の共有に積極的であったかどうかを評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	・オフィスアワーは、授業後の時間帯とします。 ・質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは初回授業でお伝えします。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	どなたでも履修できます。					

2018年度以降入学生	経営学演習 (ロジカル・ライティングⅡ)	P0027	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ロジカル・ライティングⅡ	P027	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	照屋 華子*		後期	木曜日(隔週)	5時限、6時限 (8回目は5限のみ)	
①授業方針・テーマ	この授業は、ロジカル・ライティング—論理的に、分かりやすく書くこと—の実践コースです。ワード形式かパワーポイント形式か、文書がメールか、ビジネスに直接使うものか否かなど、ビジネス・パーソンが作成する文書は多様です。授業では、ビジネス・ライティングで扱う主な文書タイプを取り上げ、特に重要な組み立て・表現のポイントについて理解を深めます。初回に前期で学ぶロジカル・ライティングの基本手法を概説します。2回目以降は、文書タイプごとに小演習と文書作成演習に取り組みます。ロジカル・ライティングの実践力を磨きたい方の参加を期待します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パワーポイント形式の資料、報告書、提案書、ビジネスメール、記事・論文を取り上げ、それぞれについて2点を学びます。 <ul style="list-style-type: none"> ・構成・表現上、ロジカル・ライティングの基本手法の特に何が重要か ・基本手法に加えて必要な視点は何か 2. ドラフトを構成・表現の両面で推敲するセルフ・エディティングの手順とポイントを学びます。 3. 部下・後輩のライティングにアドバイスを提供する際の着眼点を理解します。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p><テーマ></p> <p>第1回：オリエンテーションと基本手法の概説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義のねらいと全体像 ・ロジカル・ライティングの基本手法(前期の復習) <p>第2回：パワーポイント資料の要旨の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・So What?の明示—充足したい4ポイント ・要旨シートの作成と勘所 <p>第3回：報告書の作成(ワード形式)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「組み立ての視覚化」記述スタイルの活用 ・具体性と簡潔さの両立と、記述の順序 <p>第4回：提案書の作成(ワード形式・パワーポイント形式)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の流れに沿った論理構成—「空・雨・傘」のストーリー構成 ・提案の要旨の作成と勘所 ・導入部の留意点 <p>第5回：記事・論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「段落」記述スタイルの活用—組み立てを明示する段落の作り方 ・主な接続表現とその使い方 <p>第6回：ビジネスメールの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ化とSo What?の明示—「見て分かる」メールの要件 ・好感度の高い日本語表現—トーン・語感の調整、当事者意識と敬意の明示 <p>第7・8回：セルフ・エディティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構成のエディティングの要点 ・表現のエディティングの要点 <p>※ 授業の進捗状況によって、予定変更もあり得ます。</p> <p><授業方法></p> <p>各回、講義で解説した内容を演習で実践・確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習は基本的に個人ワークですが、グループ・クラス討議も組み合わせます。 ・演習のアウトプットはクラスで共有します。 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回、テキストの該当箇所を事前リーディングして参加していただきます。 ・授業の進行によって、演習の一部を次回への宿題にすることもあり得ます。 					
⑤テキスト・参考書等	<p><テキスト> 照屋華子著『ロジカル・ライティング』(東洋経済新報社)と配布資料</p> <p><参考書> 照屋華子・岡田恵子著『ロジカル・シンキング』(東洋経済新報社)、照屋華子著『ロジカル・シンキング練習帳』(東洋経済新報社)、野矢茂樹著『新版 論理トレーニング』(産業図書)、中村明著『日本語 語感の辞典』岩波書店、菊池康人著『敬語』講談社学術文庫 その他、必要に応じて指定します。</p>					
⑥成績評価方法	<p>課題・期末課題の成績を70%、授業への貢献を30%で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末課題とは別に、理解確認のための課題を2回ないし3回出します。 ・課題・期末課題は、文書作成もしくはメッセージの構成を予定しています。授業で取り上げた構成・表現のポイントが反映されているかどうかを評価します。 ・授業への貢献は、討議や演習結果の共有に積極的であったかどうかを評価します。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーは、授業後の時間帯とします。 ・質問はメールでも受け付けます。メールアドレスは初回授業でお伝えします。 					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	どなたでも履修できます。ただし、「ロジカル・ライティングⅠ」を未修の方は、テキスト『ロジカル・ライティング』を通読してご参加下さい。					

2018年度以降入学生	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	P0050	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (公共経営アクションリサーチ)	P050	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子、中山 厚穂		冬季集中	他		
①授業方針・テーマ	公共組織が共通に抱える問題を、实际的に「経営課題」として発見し、その解決策を、経営戦略論、経営組織論、マーケティング論など経営学の視点から探索し、具体的なフィールドワークをもとに報告書を作成することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術的知見に基づいた調査計画の作成、フィールドワークの実施、および報告書の作成を到達目標とする。調査の計画・実施及び報告書の作成を通じて、修士論文・課題研究論文の執筆に必要な研究を進めていくために必要なスキルを獲得できる。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>本学の「公共経営の人材育成プログラム」は、平成19年度に文部科学省「大学教育改革支援プログラム」として採択され、3年間の支援を受けたものである。文科省の支援事業終了後も、本学の教育改革推進事業に採択され、「東京都と連携した高度専門人材の養成」のための取り組みとして継続し、今日に至っている。</p> <p>これまでに取り上げたテーマは、「デザイン思考で再構築するパブリック・リレーション」「超少子高齢化社会に求められる組織間コラボレーション」、「コンテンツ利用の地域振興」、「島しょ地域の抱えた問題と地域経済の活性化」、「インバウンド観光の課題と地域振興」、「オリンピック・パラリンピック開催とスポーツマネジメント」など多岐に渡る。</p> <p>本年度はテーマは未定だが、デザイン思考のワークショップで問題意識を醸成したあと、実証研究や文献研究をおこなう予定である。まず、デザイン思考のワークショップを合宿形式でおこない、そもそも問題は何かを発想した後に、各グループで調査研究を実施する。</p> <p>【授業方法】：デザイン思考のワークショップ、グループ研究が中心となる。 ※ワークショップは8月10日（土）-11日（日）の1泊2日を予定している（変更の可能性はある）。</p>					
④授業外学習	調査計画の作成、調査の実施、報告書の作成は、授業外に行う。					
⑤テキスト・参考書等	必要に応じてその都度指定する。					
⑥成績評価方法	ワークショップおよびグループ研究への参画度と研究成果の内容によって評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	メールでアポイントメントをとって個別に対応する。初回授業でメールアドレスを伝える。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>本講義は変則日程の集中講義となる。日程については、他の授業との重なりはないように調整する（一部のみ重複する可能性はある）ので、他の後期授業は通常通り履修可能である。</p> <p>ワークショップ参加に必要な往復交通費、宿泊代は一定限度内で大学が負担する。それ以外は個人負担とする。</p> <p>本講義は、その性格上、無制限の人数募集を行うことができないため、希望者多数の場合には一部受講制限を行う可能性がある。</p> <p>調査研究をすすめていく上での個別の質問、相談は、メールでアポイントメントをとった上で個別に対応する。メールアドレスは、初回授業で伝える。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P0061	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習（グループ研究Ⅰ）	P061	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		前期Ⅱ	土曜日	3時限、4時限	
①授業方針・テーマ	経営学の多様なアプローチを一望し、研究法の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野について、研究法の基礎を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	初回に研究とは何かについて一般的な講義をし、そのあとに「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」の各分野の研究手法について担当教員が交代で講義する。後半は、いくつかの課題が与えられ、受講生は課題ごとにグループに編成される。グループごとに課題について研究をおこない、最終回では報告会で報告して教員がコメントする。					
④授業外学習	講義においては事前課題や事後課題が出されることがある。グループ研究においては授業時間外の打ち合わせや作業が必須となる。					
⑤テキスト・参考書等	随時案内する。					
⑥成績評価方法	授業への貢献、研究報告等による。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	各回の授業の内容については各担当教員が質問を受け付ける。履修に関する質問等は長瀬が受け付ける。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	1年次生を対象とした科目である。「経営組織・HRM・意思決定」、「経営戦略」、「マーケティング」のプロジェクトに所属する1年次生は履修することが望ましい。 学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。					

2018年度以降入学生	経営学演習（生産戦略）	P0053	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	生産戦略特論	P053	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>生産（ここでは、製造に限定せずサービスを含む）と戦略との関係について議論していく。特に組織能力を重視した戦略論を中心に扱う予定である。したがって、必ずしも生産に特化した内容ではなく、オペレーショナルな企業活動がどのように競争優位に結びつくのか、その限界はどこにあるのかを考えることが主たる目的である。</p> <p>毎回の講義では、事前にその回のテーマに即したレポートを提出してもらおう。講義は、そのレポートに基づいたディスカッションを中心に行う。</p> <p>製造業における生産機能に限定せず、オペレーション機能や組織能力による競争優位獲得に興味を持つ方に役に立つ内容となることを目指す。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>組織能力という考え方に立脚して、日常的なオペレーション活動と競争優位の関係を理解し、実際の業務運営や戦略立案に結び付けられるようになることを目指す。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>① 組織能力と競争優位 ② 製品開発プロセス ③ デザイン戦略 ④ サプライチェーン ⑤ 製品開発の国際化 ⑥ 生産プロセスと組織能力 ⑦ 生産能力を源泉とした競争優位の現在性 ⑧ サービスプロセスと組織能力 ⑨ アーキテクチャ ⑩～⑮ 発展的な内容を講義の進展に応じて扱う</p>					
④授業外学習	<p>課題文献を読み、レポートを作成すること</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>特に教科書は指定せず、毎回、文献を配布する。多くは研究論文を取り上げる予定なので、基礎知識に不安がある場合は、藤本隆宏『ものづくりの経営学』光文社新書などを事前に読んでおくが良い。</p>					
⑥成績評価方法	<p>毎回のレポートの内容と講義中の発言による</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>講義の前後、またはメールでアポイントメントを取ってください</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>テクノロジーマネジメントでは、技術について企業と外部環境の関係についての理論を扱い、生産戦略では企業内の技術マネジメントについて扱います。</p>					

2018年度以降入学生	経営学演習 (イノベーション戦略)	P0066	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学演習 (イノベーション戦略)	P066	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		前期Ⅱ	水曜日		5時限
①授業方針・テーマ	この演習では、急激な技術進化に直面した企業の経営戦略、組織とエコシステムの革新、新しい付加価値創造についてとりあげます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	急激な技術進化に直面してもぶれないで自ら経営戦略を構築出来るようになること、さらに、単に分析するだけでなく、今までにない価値を生み出すスキルを体得することを目指します。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 誰がイノベーションを起こすのか 2. サプライチェーンの再構築 3. 破壊的技術 4. モジュール化と産業構造 5. デジタル化の本質とビジネスモデル 6. 市場情報とユーザー共創 7. ビジネスとエコシステムの設計 8. 期末発表 					
④授業外学習	毎週、リーディングや事前課題、グループワークを授業外におこなう必要があります。					
⑤テキスト・参考書等	授業中に配布、紹介します。					
⑥成績評価方法	グループワーク 40% 個人授業貢献 30% 期末発表 30%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	経営戦略を受講していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学概論	P0206	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学概論	P683	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		前期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義は、学部でミクロ経済学を履修していない者を想定し、ミクロ経済学の概略を伝えることを目的としています。経済学プログラムのコア科目である「ミクロ経済学」だけでも、大学院レベルのミクロ経済学を十分に学ぶことが可能と考えていますが、数式による理論展開と解を求めるため技術的な部分が強調されがちなミクロ経済学の講義だけでは、初学者にとっては理論の全体像が見えにくく、不足点も多いと考えられます。</p> <p>本講義は、細かさや厳密さを排して。概略を伝えることに徹することで、ミクロ経済学のイメージを掴んでもらうことをテーマとします。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>ミクロ経済学の基本的な考え方を理解することです。消費者や生産者の経済活動について理解すると共に、完全競争市場の概念とその働きについて理解します。また市場に任せておくだけでは必ずしも効率的な資源配分を達成できない市場の失敗と呼ばれる現象や、政府の役割について理解を深めることが到達目標です。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>1回 イントロダクション 2回 人々の意思決定、市場経済と政府の役割、一国全体の経済活動（生産性、インフレ、貨幣供給、雇用、景気循環） 3回 財・サービスと貨幣の流れ、財・サービス市場、労働・資本などの生産要素市場、生産可能性フロンティア 4回 交換の利益 5回 市場における需要と供給の作用：需要（消費者のモノに対する需要） 6回 市場における需要と供給の作用：供給（生産者のモノの供給） 7回 市場における需要と供給の作用：均衡（市場における価格と取引量） 8回 需要、供給、および政府の政策：弾力性 9回 需要、供給、および政府の政策：価格規制 10回 需要、供給、および政府の政策：税金 11回 消費者、生産者、市場の効率性：消費者余剰、生産者余剰 12回 消費者、生産者、市場の効率性：市場の効率性、税と効率・公平 13回 市場の失敗：外部性と市場の非効率性 14回 市場の失敗：外部性に対する公共政策・当事者間による解決法 15回 まとめ</p> <p>講義はテキストに沿って、スライドで行います。 テキストをしっかりと読んで下さい。講義前（予習）、講義後（復習）、宿題を解くときに不明だった点を解明する、と3回読むことをお勧めします。 大学院の講義ということで、講義中のディスカッションを重視します。講義の内容は難しくありませんが、経済学的思考は通常の方法とは異なる部分があります。講義中のディスカッションを通じ、違和感をなくしていきましょう。</p>					
④授業外学習	<p>本講義では、授業時間外の予習と復習を積極的に進めるために<cloud campus>という外部（東洋経済新報社）のe-learningシステムを使います。このシステムでは、教科書に関連する問題がwebテスト形式で出されています。 皆さんは宿題として、期日までにこのテストを解き、予習と復習を行います。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：N・グレゴリー・マンキュー [著]、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆 [訳]、『マンキュー入門経済学（第2版）』東洋経済新報社、2014年 参 考 書：N・グレゴリー・マンキュー [著]、足立英之、石川城太、小川英治、地主敏樹、中馬宏之、柳川隆 [訳]、『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2013年</p>					
⑥成績評価方法	<p>宿題として課される<cloud campus>のテストの完了率（合格率）を中心に成績評価を行います。</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受けつけます。 メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。 講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	マクロ経済学概論	P0207	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学概論	P684	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	大学でマクロ経済学を履修していない学生、理解度に不安のある学生のためにマクロ経済学の概論を講義する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済情勢をマクロ的観点から考察できる ・より進んだマクロ経済分析を学ぶための基礎知識や、基本的なモデルの直観的意味を得る 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>【第1回】マクロ経済循環・名目と実質</p> <p>【第2回】GDPの定義と国際比較</p> <p>【第3回】経済成長の定型化された事実</p> <p>【第4回】ソローモデル：資本の蓄積と経済成長</p> <p>【第5回】ソローモデル：人口の増減と経済成長</p> <p>【第6回】ソローモデル：技術進歩と経済成長</p> <p>【第7回】消費行動：消費性向に関する実証研究</p> <p>【第8回】消費行動：消費理論</p> <p>【第9回】世代重複モデル：モデルの設定</p> <p>【第10回】世代重複モデル：高齢化と年金</p> <p>【第11回】景気変動の定型化された事実</p> <p>【第12回】ケインジアン交差モデル：在庫と景気変動</p> <p>【第13回】IS-LMモデル：利子率と景気変動</p> <p>【第14回】IS-LMモデル：景気安定化政策</p> <p>【第15回】まとめ</p> <p>(以上の計画はあくまで予定です。受講者の水準・理解度・要望等により変更される可能性があります。)</p> <p>《授業方法》</p> <p>講義形式で行う。</p> <p>使用言語は日本語だが、必要に応じて英語の文献も紹介する。</p>					
④授業外学習	<p>予習：指定された文献を読んで疑問点を明確にしておくこと。</p> <p>復習：数回出される課題を解くこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは指定しない。講義資料を配付し、それに基づいて授業を進める。</p> <p>【参考書】</p> <p>N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学I 基本篇』第4版、2017年。</p> <p>N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学II 応用篇』第4版、2018年。</p> <p>二神孝一『動学マクロ経済学：成長理論の発展』、日本評論社、2012年。</p> <p>その他、授業中に参考文献を提示する。</p>					
⑥成績評価方法	課題40%、期末レポート60%の割合で評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間は設定しないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の課程までの数学の知識 (四則演算・1次関数・2次関数) は前提とする。 ・高校の課程で履修する程度の微分の知識 (定義や意味、簡単な計算) はあった方が望ましいが前提とはしない。 					

2018年度以降入学生	経済史概論	P0208	経営学B	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史概論	P685	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和、竹内 祐介		前期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、日本や日本を取り巻く世界の経済社会の歴史的歩みと、いかに人びとが経済社会を思考してきたかということについて講義する。そして、過去・現在・未来の経済社会を相互に関連づけながら、経済社会の歴史や思想の意義について考える。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済社会の歴史に関する基本的な知識や思考方法と、経済社会を基礎に形成された思想を理解する基本的な方法を習得する。 ・過去の経済社会と現在の経済社会を相互に比較しながら考える複眼的視点を養う。 ・市場、資本主義、グローバル化について、日本や世界の歴史や思想という視点から理解する力を養う。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>前半部（第2～10回）は、経済史的なものの見方と、世界および日本の経済社会の歴史について講義する。後半部（第11～14回）は、代表的な経済学者の経済思想とその社会的背景について講義する。</p> <p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 大いなる分岐 3 西洋の勃興 4 産業革命 5 工業化の標準モデル 6 偉大なる帝国 7 南北アメリカ 8 アフリカ 9 後発工業国と標準モデル 10 ビッグプッシュ型工業化 11 アダム・スミスと市場経済の発展 12 カール・マルクスと共産主義思想 13 ジョン・メイナード・ケインズと大恐慌 14 ミルトン・フリードマンと金融政策 15 講義のまとめ <p>【授業方法】 配布資料にもとづき、黒板（ホワイトボード）やスライドを使って解説する。また原則として、授業時間の最後の20分程度は質疑応答や議論の時間とする。</p>					
④授業外学習	指定のテキストおよび参考書を用いた予習と復習。					
⑤テキスト・参考書等	第2～10回のテキスト：ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版。 第11～14回の参考書：ロバート・ハイルブローナー『入門経済思想史 世俗の思想家たち』ちくま学芸文庫					
⑥成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【竹内】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p> <p>【高見】 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	ゲーム理論	P0211	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論	P688	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		後期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	大学院の経済学で必要となるゲーム理論の知識を身につけ、習得する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下についての基本的な知識を習得することを目標とする：戦略形ゲームと展開形ゲーム、戦略の支配とナッシュ均衡、クールノー競争とベルトラン競争、情報集合と展開形ゲームの戦略形ゲームへの変換、混合戦略、繰り返しゲームの基礎、交渉、不完備情報ゲームの戦略形と展開形、協力ゲーム。 経済学の理論においてゲーム理論を応用する場合は、産業組織論や国際経済学などで用いられるクールノー競争とベルトラン競争への応用が多いと考えられる。本講義では、これらのトピックへの応用を早期に多く講義することが特徴である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス、ゲーム理論の歴史、ゲームの分類</p> <p>第2回 講義のための数学準備</p> <p>第3回 戦略形ゲームの定義と支配戦略</p> <p>第4回 戦略の支配、支配された戦略の繰り返し削除</p> <p>第5回 ナッシュ均衡、代表的なゲームを知る（囚人のジレンマ、瀬戸際戦略、コーディネーションと両性の戦い、タカハトゲーム、マッチングペニー）</p> <p>第6回 戦略形ゲームへの応用（1）：複占と寡占への応用、同質財のクールノー競争とベルトラン競争</p> <p>第7回 戦略形ゲームへの応用（2）：異質財（製品差別化）のクールノー競争とベルトラン競争</p> <p>第8回 混合戦略</p> <p>第9回 展開形ゲーム（1）：完全情報の展開形ゲームとバックワードインダクション、一般の展開形ゲーム</p> <p>第10回 展開形ゲーム（2）：戦略形ゲームへの変換、展開形ゲームを解く、部分ゲーム完全均衡</p> <p>第11回 不完備情報ゲーム（1）：不完備情報ゲームの戦略形と展開形</p> <p>第12回 不完備情報ゲーム（2）：シグナリングゲーム、完全ベイズ均衡</p> <p>第13回 非協力ゲームのまとめと進化ゲーム</p> <p>第14回 協力ゲーム：コア、仁、シャープレイ値</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】</p> <p>板書を中心に、ときにはスライドを用いて講義を行う。 自作のテキストを用いて講義を行う。このテキストを要約したプリントも配布し、それに沿って講義を行う。（第3回、第4回はスライドを用いる）</p>					
④授業外学習	宿題として演習問題が出るので、受講者はそれを解き提出する（kibacoによってテストにより提出することもある）。受講者は参考書を用いて、予習や復習を行う必要がある。					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>自作のテキストを用いる。また、以下の参考書を用いて学習を深める必要がある。</p> <p>【参考書】</p> <p>（1）渡辺隆裕、ゼミナールゲーム理論入門、日本経済新聞社、2008。</p> <p>（2）S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press, 2012. を読むことができれば、</p> <p>（3）岡田章、ゲーム理論 新版、有斐閣、2012。</p> <p>ゲーム理論を学んだことがない者は、少なくとも（1）の講義に該当部分を読んでおく必要がある。可能であれば講義と並行して、（2）によって学習を進めると良い。更に詳しくゲーム理論を学びたいものは（3）を読むと良い。</p>					
⑥成績評価方法	宿題、授業中の態度と演習によって評価をする。 授業態度、理解度、参加者の人数によっては、期末試験を行うことがある。 宿題は、レポートとkibacoを用いた演習を予定。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設けませんが、質問は積極的に受けつけます。 メール、kibacoでアポイントメントを取って下さい。 講義前後の時間を使い、質問に答える予定です。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	日本経済論	P0213	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済論	P690	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		後期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	経済学の理論を実体経済に応用するためには、理論、データ、制度を踏まえた論考が必要となります。本講義では、基礎的な経済学の概念や分析手法を用いて、現代日本経済の動向とその背景を理解するとともに、実施された政策や問題点についても学ぶことにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養い、併せて自らの研究課題について鳥瞰的な視野からも思考する能力の育成を目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の現状と課題及びそれらに関する基本データを理解した上で批判的に検討・分析するための能力を育成し、併せて論文執筆のための研究課題の選定・論考能力を向上させる。					
③授業計画・内容 授業方法	(以下は現時点で想定しているもの。日本経済の現況や受講生の状況等を踏まえ変更の可能性があります。第1回で説明します。) 1. 概論 2. 日本の経済成長と景気循環 3. 変化する労働市場 4. 家計の消費と貯蓄行動 5. 企業行動と設備投資 6. 物価とデフレーション 7. 金融システムと金融政策 8. 財政システムと財政政策 9. 格差問題 10. 総括					
④授業外学習	【自宅学習】配布されたレジュメや講義内容、参考書をもとに、自身の学習・研究目的を踏まえ予習・復習を行う。受講生の人数にもよるが、事前に次回講義に関する課題を与えるので、報告者は冒頭で報告することにより、講義内容の理解を深めるようにしたい。					
⑤テキスト・参考書等	レジュメを配布するほか、参考文献は講義で紹介する。					
⑥成績評価方法	小テスト（1－2回）および期末試験による（小テスト3割、期末試験7割を予定）。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）						
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）						

2018年度以降入学生	日本経済史	P0215	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史	P692	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		後期	火曜日		6時限
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 					
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。					
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。					
⑥成績評価方法	議論への参加 [30%]、期末レポート [70%] <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も広く認める。					

2018年度以降入学生	経済思想史	P0219	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済思想史	P696	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。					
④授業外学習	受講者数に応じて変更する可能性はありますが、あらかじめ資料を読んで質問を用意してもらいます。					
⑤テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）					
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	アジア経済史	P0217	経営学B	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史	P694	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		後期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。(1) ヨーロッパ経済とアジア経済の比較、(2) ヨーロッパ経済とアジア経済の関係、および(3) アジア内の経済関係という視角から、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス、グローバル経済史入門 2 アジアとヨーロッパ：経済発展の国際比較 3 銀と大航海時代 4 近世グローバル経済と日本 5 アジア経済とイギリス産業革命 6 世界商品の登場 7 開発と人口 8 グローバル経済の緊密化 9 開発の進行と人の移動 10 国際金融と金本位制度 11 グローバル経済の深化とライフスタイル 12 エネルギー 13 経済発展の多径路性 14 20世紀後半の展開 15 リオリエントへの展望 <p>* 指定テキスト各章を扱う（1-15とタイトルはそれぞれテキストの章番号・章題に対応している）</p> <p>【授業方法】 テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。</p>					
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。					
⑤テキスト・参考書等	水島司・島田竜登 [2018] 『グローバル経済史』放送大学教育振興会					
⑥成績評価方法	平常点により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室(3-316)まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	経営学特別研究	P0500	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P558	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		前期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>					
④授業外学習	輪読のために指定した文献以外に、関係する文献を読み、様々な角度から議論できるよう準備しておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。					
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、 kkuwada@tmu.ac.jp にメールして下さい。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0503	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P559	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎		後期	金曜日(隔週)		5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>					
④授業外学習	輪読のために指定した文献以外に、関係する文献を読み、様々な角度から議論できるよう準備しておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。					
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、 kkuwada@tmu.ac.jp にメールして下さい。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	組織理論特別研究	P0501	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P531	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		前期	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997]など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。</p> <p>【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。</p>					
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。					
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。					
⑥成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p> <p>【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	組織理論特別演習	P0502	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P532	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。					
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。					
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。					
⑥成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでアポイントメントを取ること。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別研究	P0504	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P529	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		前期	水曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。</p> <p>具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management、Organization Science、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>					
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、Systematic review、diversity、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。					
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。					

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特別演習	P0505	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P530	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	西村 孝史		後期	水曜日		2時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。</p> <p>具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。</p> <p>具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management、Organization Science、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌</p>					
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、Systematic review、diversity、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。					
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。					

2018年度以降入学生	意思決定特別研究	P0506	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P509	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。					
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。					
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。					
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。					

2018年度以降入学生	意思決定特別演習	P0507	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P510	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	長瀬 勝彦		後期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。					
④授業外学習	次の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。					
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。					
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	学部レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別研究	P0508	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P562	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		前期	金曜日(隔週)	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業内容 桑田・松嶋・高橋(編)『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。</p> <p>授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 『制度的企業家』第1章の輪読 第3回 『制度的企業家』第2章の輪読 第4回 『制度的企業家』第3章の輪読 第5回 『制度的企業家』第4章の輪読 第6回 『制度的企業家』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『制度的企業家』第6章の輪読 第9回 『制度的企業家』第7章の輪読 第10回 『制度的企業家』第8章の輪読 第11回 『制度的企業家』第9章の輪読 第12回 『制度的企業家』第10章の輪読 第13回 『制度的企業家』第11章の輪読 第14回 『制度的企業家』第12章の輪読 第15回 研究進捗状況報告</p>					
④授業外学習	各講義で、指定されたテキストの章を熟読し、A4用紙2ページ程度のレジюмеを作成して講義に臨むこと。					
⑤テキスト・参考書等	桑田・松嶋・高橋(編)『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。					
⑥成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	特になし					

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特別演習	P0509	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別講義	P563	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高橋 勅徳		後期	金曜日（隔週）	5時限、6曜日	
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業内容</p> <p>バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第1章の輪読</p> <p>第3回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第2章の輪読</p> <p>第4回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第3章の輪読</p> <p>第5回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第4章の輪読</p> <p>第6回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第5章の輪読</p> <p>第7回 研究進捗状況報告</p> <p>第8回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第6章の輪読</p> <p>第9回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第7章の輪読</p> <p>第10回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第8章の輪読</p> <p>第11回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第9章の輪読</p> <p>第12回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第10章の輪読</p> <p>第13回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』第11章の輪読</p> <p>第14回 研究進捗状況報告</p> <p>第15回 研究進捗状況報告</p>					
④授業外学習	<p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。</p> <p>輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>					
⑤テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。					
⑥成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし					

2018年度以降入学生	経営戦略特別研究	P0510	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P675	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		前期	木曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・授業方法】</p> <p>研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。</p> <p>題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど</p> <p>研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。</p>					
⑤テキスト・参考書等	上記参照					
⑥成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート 50%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは個別にメールでアポイントメントをとってください。 メールアドレスは初回授業で伝えます。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	経営戦略特別演習	P0511	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P676	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	経営戦略論を中心として、最新または代表的な研究論文と研究方法論のテキストを読みながら、ジャーナル掲載論文の分析をおこない、理論の構築と研究方法論について学び、研究計画書を作成する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学術研究のための理論構築とリサーチデザインの方法論を身につける					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・授業方法】</p> <p>前期にひきつづき、研究方法論のテキストと主要ジャーナルに掲載された最新論文または各分野の代表的な論文を交互に読み、ジャーナル掲載論文の分析（論文の構成と全体の論理の流れ、理論構築、リサーチデザイン、各種の研究手法の詳細、理論・実務へのインプリケーション）をおこなう。</p> <p>題材とする研究論文の掲載誌としては、 Academy of Management Journal Strategic Management Journal Organization Scienceなど</p> <p>研究方法論のテキストとしては Saunders et al. “Research Methods for Business Students” Pearson Buchanan and Bryman eds. “The SAGE Handbook of Organizational Research” Sage など</p> <p>学期の終わりには受講者自身の研究課題で文献レビューを含む研究計画書を作成する。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>大学院研究レベルになると教員は大まかな方向性を示すだけで、受講生の授業外学習が主になると言って過言ではない。受講生が主体的に考え活動し、授業に貢献する姿勢が求められる。</p>					
⑤テキスト・参考書等	上記参照					
⑥成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（研究計画書）50%					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問等がある場合は事前にアポイントメントをとってください。メールアドレスは初回授業で告知します。					
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）						

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント 特別研究	P0514	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P632	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		前期	土曜日		2時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。					
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる)					
④授業外学習	文献を読み、論点をまとめてくること					
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。					
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	特になし					

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント 特別演習	P0515	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営戦略特別講義	P633	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松尾 隆		後期	土曜日		2時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。					
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる) 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う					
④授業外学習	文献を読み、論点をまとめてくること					
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。					
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	特になし					

2018年度以降入学生	マーケティング特別研究	P0516	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P535	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得					
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察					
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など					
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示					
⑥成績評価方法	授業態度および試験					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	マーケティング特別演習	P0517	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	組織理論特別講義	P536	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	水越 康介		後期	水曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得					
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察					
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など					
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示					
⑥成績評価方法	授業態度および試験					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特別研究	P0518	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特別講義	P517	高度専門職業人養成Ⅱ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中山 厚穂		前期	木曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題を通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（入門） 第3回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（応用） 第4回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（実習） 第5回 市場反応分析とは2：単回帰分析（入門） 第6回 市場反応分析とは2：単回帰分析（応用） 第7回 市場反応分析とは2：単回帰分析（実習） 第8回 市場反応分析とは3：回帰分析（入門） 第9回 市場反応分析とは3：回帰分析（応用） 第10回 市場反応分析とは3：回帰分析（実習） 第11回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（入門） 第12回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（応用） 第13回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（実習） 第14回 市場反応分析：総括 第15回 まとめ					
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。					
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィック、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。					
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	毎週、火曜日12:00~13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuh@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。					

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特別演習	P0519	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マーケティング・サイエンス特別講義	P518	高度専門職業人養成Ⅱ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中山 厚穂		後期	木曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。					
③授業計画・内容 授業方法	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場セグメンテーション：入門 第3回 市場セグメンテーション：応用 第4回 市場セグメンテーション：実習 第5回 市場の発見のためのポジショニング分析：入門 第6回 市場の発見のためのポジショニング分析：応用 第7回 市場の発見のためのポジショニング分析：実習 第8回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポネンス分析）：入門 第9回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポネンス分析）：応用 第10回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポネンス分析）：実習 第11回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）：入門 第12回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）：実習 第13回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）：入門 第14回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）：実習 第15回 まとめ					
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。					
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」, 講談社サイエンティフィック、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。					
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	毎週、火曜日12:00~13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuh@tmu.ac.jp					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。					

2018年度以降入学生	統計学特別研究	P0520	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P505	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		前期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。					
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。					
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。					
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。					
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。					

2018年度以降入学生	統計学特別演習	P0521	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P506	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森 治憲		後期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。					
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学の文献を輪読する。					
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。					
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。					
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日5時限をオフィスアワーとする。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0524	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P657	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。</p>					
④授業外学習	<p>授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・室田一雄：離散凸解析の考えかた、共立出版、2007。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・穴井宏和、齊藤努：今日から使える！組合せ最適化離散問題ガイドブック、講談社、2015。 					
⑥成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0525	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P658	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		後期	金曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。 テキストの話題に関連する最適化問題を各自で設定して、問題の定式化、最適化ソフトウェアによる求解、レポートの執筆などの演習を行う。</p>					
④授業外学習	<p>授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・室田一雄：離散凸解析の考えかた、共立出版、2007。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・穴井宏和、斉藤努：今日から使える！組合せ最適化離散問題ガイドブック、講談社、2015。 					
⑥成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p>					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0522	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P525	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第11回 反転授業</p> <p>授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、待ち行列モデル 2. リトルの公式 3. 再生過程 4. 確率過程 5. 出生死滅過程 6. M/M/1 待ち行列モデル 7. 離散マルコフ連鎖 8. 相型分布を用いた待ち行列モデル 9. 準出生死滅過程 10. 待ち行列ネットワーク 11. 非マルコフモデル <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業</p> <p>テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ハンバーガーショップの待ち行列モデル 13. かんぱん方式による在庫管理 14. コールセンターのリソース設定 15. 無線LANの性能評価 					
④授業外学習	反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014）</p> <p>参考書：尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996）</p> <p>森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989）</p> <p>森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004）</p> <p>尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。</p> <p>L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。</p> <p>豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。</p> <p>牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。</p> <p>宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。</p>					
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】hideak@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0523	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P526	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明		後期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第14回</p> <p>上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。</p> <p>(1) 総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 (2) 線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 (3) 最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR (4) 大規模施設の混雑現象 (5) 生産システムにおけるさまざまな待ち (6) キャッシュのモデル化とその応用 (7) 待ち行列理論の応用：コールセンター (8) ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 (9) DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置</p> <p>第15回 学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、その内容を発表し、討論する。</p>					
④授業外学習	割り当てられた解説記事の発表を準備するとともに、他の受講生が発表する記事についてはあらかじめ熟読し、不明な部分を明らかにしておくことが求められる。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。</p> <p>(2)～(3)、(7)～(10)：オペレーションズ・リサーチ、vol.54、no.12、2009。 (4)～(6)：オペレーションズ・リサーチ、vol.49、no.7、2004。 (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55、no.2、2010。</p> <p>参考書：高井英造、真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。</p>					
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。</p> <p>【連絡先】hideak@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	経営科学特別研究	P0526	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P552	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など） 【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。					
④授業外学習	輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。					
⑤テキスト・参考書等	[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993 [3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011					
⑥成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、木曜12：10 - 13：00（メールでアポイントメントをとること）。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。					

2018年度以降入学生	経営科学特別演習	P0527	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営科学特別講義	P553	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森口 聡子		後期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短経路問題、最大流問題など） 【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。					
④授業外学習	輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。					
⑤テキスト・参考書等	[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993 [3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011					
⑥成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、木曜12：10 - 13：00（メールでアポイントメントをとること）。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。					

2018年度以降入学生	会計学特別研究	P0530	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P651	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	<p>公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3. 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。11. 以降はパブリック・セクターに関する現在進行中の研究テーマに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Defining the Concepts 3. The History of Performance Management 4. Performance Measurement 5. Incorporation of Performance Information 6. The Use of Performance Information 7. Users 8. Non-use 9. The Effects of Using Performance Information 10. The Future of Performance Management 11. NSW's Integrated Planning & Reporting 12. NHS's Cost Improvement Programme 13. DBH's performance 14. Tokyo LGs' public efficiency 15. Conclusion <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J. (2010) Performance Management in the Public Sector (Routledge Masters in Public Management), Routledge.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>					
⑥成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p>					

2018年度以降入学生	会計学特別演習	P0531	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	会計学特別講義	P652	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	野口 昌良		後期	水曜日		3時限
①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 1. をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> Introduction: Using Public Sector Performance Information Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth-Century Performance Movements Advocacy and Learning: An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use Performance Information and Performance Steering: Integrated System or Loose Coupling? Performance Measurement Beyond Instrumental Use Comparing Performance across Public Sectors Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining Performance Management Systems: Providing Accountability and Challenging Collaboration Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements: A Challenge Too Far? Performance Information and Educational Policy Making Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors: The Case of Dutch Urban Policy Reporting Public Performance Information: The Promise and Challenges of Citizen Involvement Publishing Performance Information: An Illusion of Control? Epilogue: The Many Faces of Use <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V. and de Walle, S. V.(eds.) (2008) Performance Information in the Public Sector: how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>					
⑥成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p>					

2018年度以降入学生	財務会計特別研究	P0532	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P544	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		前期	木曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】</p> <p>書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p>					
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。					
⑤テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー―市場と経営を革新する―』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 					
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】takasano@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。					

2018年度以降入学生	財務会計特別演習	P0533	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	財務会計特別講義	P545	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		後期	木曜日		2時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】 書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p>					
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。					
⑤テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー―市場と経営を革新する―』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） など 					
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。					

2018年度以降入学生	管理会計特別研究	P0534	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P634	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		前期	土曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文を講読しながら、実証的研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本 (intellectual capital) の研究に関連する英語論文の講読を中心とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文を中心に引き上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究方法を理解し、実際に、修士号の取得に向けた論文作成に役立てることを目標としています。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>具体的には、次のような Accounting Journalsの中から知的資本等に関連する英語論文を選択し購読する予定です。Journal of Intellectual Capitalのような知的資本研究に関連する他の研究分野のJournalから選択することもあります。</p> <p>[List of Journals] Journal of Accounting Research Journal of Management Accounting Research ABACUS: A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Applied Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management Journal of Intellectual Capital R&D Management</p>					
④授業外学習	・授業後、取り上げた論文や課題についてよく復習しておいてください。					
⑤テキスト・参考書等	<p>[参考文献]</p> <p>[1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press. [2] John Buglear (2014) Practical Statistics, Kogan page.</p>					
⑥成績評価方法	・英語論文やテキストにより管理会計の研究方法について検討しますが、その発表内容等により評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>・オフィスアワー：原則として木曜日 6 時限目としますので、質問等があれば研究室 (3-233) に来てください (事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです)。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	・管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文等により、具体的な実証的研究方法を演習形式で検討することがあります。					

2018年度以降入学生	管理会計特別演習	P0535	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	管理会計特別講義	P635	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	細海 昌一郎		後期	土曜日		3時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。</p> <p>すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止め、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しているといえます。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。</p> <p>そこで、本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p> <p>なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>[主な内容]</p> <p>(1) データの整理 (2) 記述統計 (3) 仮説検定 (4) 回帰分析など代表的分析手法 (5) その他多変量解析</p> <p>本演習では実証的研究手法の基礎について検討しますが、統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容も検討します。</p>					
④授業外学習	<p>・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは特に指定しません（レジュメ配布）。</p> <p>[参考文献]</p> <p>[1] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）（下）』ダイヤモンド社、2007。 [2] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方―修士・博士論文を書くまえに―』同文館出版、2002。 [3] 牧厚志他著『経済・経営のための統計学』有斐閣、2005。 [4] 門田安弘『経営・会計の実証分析入門』中央経済社、2003。 [5] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012. [6] John Buglear (2014) Practical Statistics, Kogan page.</p>					
⑥成績評価方法	<p>・演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>・オフィスアワー：原則として木曜日6時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>・管理会計に関する基本的な知識やPCの基本的な能力を前提に行います。</p>					

2018年度以降入学生	企業金融論特別研究	P0528	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特別講義	P537	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	芝田 隆志		前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 ① イントロダクション ②～⑮ 輪読					
④授業外学習	紹介する文献を予め読んでおくこと					
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する					
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜 12:00 - 13:00 (メールにて事前に予約をすること)					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	企業金融論特別演習	P0529	経営学B	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	企業金融特別講義	P538	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	芝田 隆志		後期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 ① イントロダクション ②～⑮ 輪読					
④授業外学習	紹介する文献を予め読んでおくこと					
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する					
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜 12:00 - 13:00 (メールにて事前に予約をすること)					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	経営学特別演習（会計学）	P0014	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P014	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志、細海 昌一郎、 野口 昌良		後期	土曜日		2時限
①授業方針・テーマ	会計学研究に必要と思われる基礎知識の修得を目標とする。会計学研究の手引書からセレクトしたいいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・手法の修得に努めた後に、学術雑誌に掲載された論文を検討することによってその実践方法を理解してもらいたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. 会計学研究に必要と思われる基礎知識を修得することができる。 2. 1. をベースにした会計学研究の分析手法を修得することができる。					
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 指定したテキストの構成に基づく授業計画は次のとおり。 1. ガイダンス 2.－3. 研究アイデアの展開 4.－5. 理論・文献・仮説 6. データ収集 7. データ分析 8.－9. 実験的研究 10.－11. サーベイ研究 12.－13. フィールドワーク 14.－15. アーカイバル研究 【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。					
④授業外学習	【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。					
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 マルコム・スミス著／平松一夫監修『会計学の研究方法』（中央経済社、2015年） 【参考書等】 適宜指示する予定である。					
⑥成績評価方法	プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、会計学研究に関する基礎的知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マネジメントサイエンス)	P0021	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P021	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	山下 英明、芝田 隆志、 森口 聡子、室田 一雄		後期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	実社会における経営科学をテーマとし、経営科学、オペレーションズ・リサーチの事例研究や最近の研究動向をサーベイする。 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得することを目的とする。 1. 経営科学が実社会においてどのように役立っているか 2. オペレーションズ・リサーチ、数理計画による経営上の問題の解決法、意思決定能力 3. 数理モデル化の技術					
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1. 実社会におけるオペレーションズ・リサーチ 2. 数理モデルとシミュレーション 3. 待ち行列理論（1）混雑現象 4. 待ち行列理論（2）キャッシュのモデル化 5. 待ち行列理論（3）コールセンター 6. 数理計画を用いた意思決定 7. 計算機（コンピュータ）による求解と計算複雑度 8. 線形計画問題（1）解法 9. 線形計画問題（2）生産計画への応用 10. グラフ理論とネットワーク計画（1）ロジスティクス 11. グラフ理論とネットワーク計画（2）都市計画とネットワークデザイン 12. 組合せ最適化（1）施設配置計画 13. 組合せ最適化（2）シフトスケジューリング 14. 組合せ最適化（3）発見的解法、メタヒューリスティクス 15. 在庫管理とSCM 【授業方法】 解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中に受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。演習に対する発表も求める。					
④授業外学習	テキスト・論文の担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしてくること。					
⑤テキスト・参考書等	上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。教材は配付する。					
⑥成績評価方法	授業中の発表、平常の理解度、レポートに基づいて評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。各教員のメールアドレス等、詳しくは初回の授業において説明する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 マネジメント・サイエンスⅠ、Ⅱを履修済みであることが望ましい。					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (ミクロ組織論)	P0022	経営学必修 (必修)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P022	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高尾 義明、長瀬 勝彦、 西村 孝史		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	組織行動論、ヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）、および行動意思決定論についての知識を深めるとともに、これらの分野を研究するための研究方法について解説します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織行動論、ヒューマン・リソース・マネジメント（人材マネジメント／人的資源管理論）、および行動意思決定論に関する文献講読を通じて、これらの領域における理論枠組みについての理解を深めること ・受講生が当該領域についての学術的かつ独自の問題意識を見出し、修士論文・課題研究論文の土台を作ること ・文献講読でのディスカッションを通じて、研究を進展させるために不可欠なアカデミック・コミュニケーションを円滑に行う能力を身につけることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>前半の授業では、1コマで1～2本の論文を読み、原則として文献ごとに決めた発表担当者が文献内容を発表したうえで、それに基づくディスカッションを行います。後半の授業では、各自が探したレビュー論文を紹介してもらうことや研究計画書を発表してもらうことを予定しています。第1回で受講生の関心を把握し、それを踏まえて論文を決定しますので、どのような論文を取り上げるかについては第2回で説明します。</p> <p>【授業方法】 上記のように、文献講読とそれに基づくディスカッションが中心です。</p>					
④授業外学習	【授業外学習】 毎回の文献を事前に講読してくることで、発表を担当する際には文献のレジュメ（要約）を作成することが求められます。					
⑤テキスト・参考書等	<p>毎回講読する文献については第2回で説明し事前に配付します。</p> <p>以下のテキストは購入の必要はありませんが、手元にあると参考になる本です。</p> <p>[1] 守島基博 (2004)『人材マネジメント入門』（日本経済新聞社、本体 830円）</p> <p>[2] 今野浩一郎 (2009)『人事管理入門 第2版』（日本経済新聞社、本体 3,000円）</p> <p>[3] 佐藤博樹・藤村博之・八代充史 (2015)『新しい人事労務管理 第5版』（有斐閣、本体 2,000円）</p> <p>[4] Robbins, S.P.(2005).Essentials of Organizational Behavior, 8th Edition Prentice-Hall(高木晴夫訳 (2009)『組織行動のマネジメント』（ダイヤモンド社、本体 2,800円）</p> <p>[5] 二村敏子 (2004)『現代ミクロ組織論』（有斐閣、本体 2,400円）</p> <p>[6] Bazerman, Max H. and Don A. Moore(2008)Judgment in Managerial Decision Making, 7th Edition, Wiley.(長瀬勝彦訳 (2011)『行動意思決定論：バイアスの罠』白桃書房、本体 3,800円）</p>					
⑥成績評価方法	授業への参加、発表の担当をはじめとした積極的貢献（80%）及びレポート（20%）により評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。</p> <p>【連絡先】 高尾 (ytakao@tmu.ac.jp)、西村 (nishimura@tmu.ac.jp)、または長瀬 (nagase@tmu.ac.jp)</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 「ヒューマン・リソース・マネジメント」、「経営組織」、「組織行動」、「意思決定」から1科目以上を履修済み（または履修中）であることが望ましい。</p> <p>【その他】 資料は、原則としてkibaco(web上)にアップします。</p>					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マクロ組織論)	P0040	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P040	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	桑田 耕太郎、高橋 勅徳		後期	土曜日(隔週)	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	組織理論(マクロ組織論、制度派組織論、組織変革等)で修士論文等を執筆する予定の学生を対象に、基礎的な文献を学習しつつ、論文のテーマを絞り込んでいくことを目的とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組織理論(マクロ組織論、制度論、組織変革論)の基礎的文献に関する知識を習得すると共に、修士論文等を作成の研究計画の策定していくことを到達目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>本講義では、マクロ組織論、制度派組織論、組織変革論の古典の輪読を行うと共に、修士論文作成を前提とした研究計画の報告会を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 研究計画報告 第3回 研究計画報告 第4回 輪読 第5回 輪読 第6回 研究計画報告 第7回 研究計画報告 第8回 輪読 第9回 輪読 第10回 研究計画報告 第11回 研究計画報告 第12回 輪読 第13回 輪読 第14回 研究計画報告 第15回 研究計画報告</p> <p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読および研究計画報告の担当者は、報告レジュメを用意すること。</p>					
④授業外学習	研究計画に沿って、各自参考文献をよく読んでおくこと。					
⑤テキスト・参考書等	随時指定する。 各自の問題意識に応じて必要文献を紹介するので、随時相談に来ること。					
⑥成績評価方法	修士論文等の問題意識や方向性が明確になっているかどうかを評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	原則として、ビジネスイノベーション特別演習の授業と変則交代で開講するため、開講日程に十分注意すること。2コマ連続授業であるため、欠席しないで授業に積極的に参加すること。					

2018年度以降入学生	経営学特別演習 (マーケティング)	P0046	経営学必修 (選択)	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P046	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	中山 厚穂、水越 康介、森 治憲		後期	土曜日		4時限
①授業方針・テーマ	演習では、主にマーケティング論に関する問題認識の醸成を目的として、先行研究を読み解くとともに、研究方針の検討を行います。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者行動論、マーケティング論、マーケティング・サイエンスなどの研究のための基礎的知識の獲得を目的とします					
③授業計画・内容 授業方法	<p>①先行研究の輪読と分析 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『消費者理解のための 定性的マーケティング・リサーチ』(R.Belk他) ・『1からのマーケティング分析』(恩藏直人、富田健司) <p>②研究方針の検討</p> <p>※具体的な内容については、参加者との打ち合わせを経て変更の可能性がある。</p>					
④授業外学習	輪読のための準備や実習課題などを、適宜、自宅学習の課題として設定する					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト</p> <p>『消費者理解のための 定性的マーケティング・リサーチ』(R.Belk他)</p> <p>『1からのマーケティング分析』(恩藏直人、富田健司)</p> <p>参考書</p> <p>『新しい消費者行動』(清水聡)</p> <p>『マーケティング思考の可能性』(石井淳蔵)</p> <p>『マーケティング入門』(小川孔輔)</p> <p>『マーケティング・サイエンスの基礎』(朝野熙彦)</p>					
⑥成績評価方法	出席状況と、報告・発表内容によって総合的に評価する					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業中に提示するメールアドレスにて予約を取り調整する					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	マーケティング・マネジメント特論、マーケティング・サイエンス特論、マーケティング・サイエンス特別演習を受講していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	経営学特別演習（経営戦略）	P0047	経営学必修 （選択）	経済学C	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経営学特別演習	P047	高度専門 職業人養成Ⅱ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹田 陽子、松尾 隆		後期	土曜日		4時限
①授業方針・テーマ	経営学特別演習は、演習参加者の問題意識の醸成、研究課題の深掘、研究方法論の習得、研究計画書の精緻化を目的として開講する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	文献レビューと概念構築、量的研究の方法論、質的研究の方法論についての実習を行い、自身の研究の指針とする。					
③授業計画・内容 授業方法	① オリエンテーション（研究に向かうマインドセット）（松尾） ② 研究領域の決定と既存研究のサーベイ（松尾） ③ 研究領域のマップ作成（松尾） ④ キー論文の精読（松尾） ⑤ キー論文の精読（松尾） ⑥ キー論文の精読（松尾） ⑦ 研究テーマ、仮説の決定（松尾） ⑧ リサーチデザイン（竹田） ⑨ 量的研究（竹田） ⑩ 量的研究実習（竹田） ⑪ 量的研究実習発表（竹田） ⑫ 質的研究（竹田） ⑬ 質的研究実習（竹田） ⑭ 質的研究実習発表（竹田） ⑮ 研究計画の発表とディスカッション（竹田・松尾）					
④授業外学習	授業で出される個別課題の準備のほか、自分自身の研究計画を精緻化する作業を継続しておこなう必要がある					
⑤テキスト・参考書等	・適宜パワーポイント等の資料を使用することがある ・その他、参考書としては以下の通り。 [1] 楠木建『ストーリーとしての競争戦略論』東洋経済新報社 [2] 藤本隆宏他『ビジネスアーキテクチャ』有斐閣 [3] 吉原英樹他『日本企業の多角化戦略』日本経済新聞社 [4] ロバート・C・ヒギンズ『新版 ファイナンシャル・マネジメント—企業財務の理論と実践』ダイヤモンド社 [5] ティム・コラー他『企業価値評価 第5版【上】【下】』ダイヤモンド社 [6] 松田千恵子『グループ経営入門』税務経理協会 [7] 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社 [8] 森田果『実証分析入門』日本評論社 [9] G.キング他『社会科学のリサーチ・デザイン—定性的研究における科学的推論』勁草書房 [10] 久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣 [11] R.イン『ケース・スタディの方法』千倉書房 [12] 藤本隆宏他『経営学研究法』有斐閣 [13] 山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社 [14] 久保拓弥『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店 ほか					
⑥成績評価方法	課題の発表内容とディスカッション参加度により評価する					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設けていませんが、質問等はメールでアポイントメントをとってください。教員のメールアドレスは授業中に伝えます。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期に、経営戦略論、経営戦略演習、経営学演習（上記担当教員による）のいずれかの講義を受講していること					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学	P0200	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学	P678	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		前期Ⅰ	月曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	消費者および生産者の最適化行動の理論、交換経済および生産経済の一般均衡分析について講義を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者および生産者行動、交換経済と生産経済の一般均衡分析の標準的な理論を習得し、かつ、ミクロ経済学の分析手法に慣れることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】以下の内容を講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術 2. 利潤最大化 3. 利潤関数 4. 費用最小化 5. 費用関数 6. 選好 7. 効用最大化 8. 支出最小化 9. 間接効用関数と支出関数 10. 需要関数と補償需要関数 11. 交換（1） 12. 交換（2） 13. 生産（1） 14. 生産（2） 15. 試験と解説 <p>【授業方法】講義を中心に授業を行う。</p>					
④授業外学習	講義内容の復習を行い、教科書の練習問題に取り組むこと。					
⑤テキスト・参考書等	教科書：Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton					
⑥成績評価方法	試験により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	メール等でアポイントメントをとって下さい。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	ミクロ経済学演習(P0204)を併せて履修してください。					

2018年度以降入学生	マクロ経済学	P0201	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学	P671	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松岡 多利思		前期Ⅱ	月曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	マクロ経済学の基本モデルである新古典派成長モデル、世代重複モデル、確率的成長モデルについて講義する。合わせて、これらのモデルを解く際に必要な動的計画法と最適制御理論の基本について紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学および隣接分野に関する学術論文を読み自力でマクロ経済分析を行うために必要ないくつかの基本モデルについて理解する。 ・各モデルの仮定の重要性和、そこから生じる結果の相違やモデルの限界についても理解する。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>【第1回】ソローモデル：設定と均衡動学 【第2回】ソローモデル：人口成長と技術進歩 【第3回】集計問題：代表的個人・代表的企業 【第4回】動学的最適化：離散時間・連続時間 【第5回】新古典派成長モデル：設定と均衡動学 【第6回】新古典派成長モデル：競争均衡の最適性 【第7回】新古典派成長モデル：政策 【第8回】世代重複モデル：設定と均衡動学 【第9回】世代重複モデル：競争配分の最適性 【第10回】世代重複モデル：年金と資本蓄積 【第11回】世代重複モデル：バブル 【第12回】不確実性下での動学的最適化 【第13回】確率的成長モデル：景気循環 【第14回】確率的成長モデル：不完備市場 【第15回】期末試験とまとめ</p> <p>《授業方法》 講義形式で行う。 使用言語は日本語。ただし、配布資料や板書は原則として英語を用いる。</p>					
④授業外学習	毎週課題を出す。					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Acemoglu, D. (2009) Introduction to Modern Economic Growth, Princeton University Press.</p> <p>【参考書】 二神孝一 (2012) 『動学マクロ経済学 成長理論の発展』、日本評論社。 Blanchard, O. J. and S. Fischer (1989) Lectures on Macroeconomics, MIT Press. (ブランチャード・フィッシャー (1999) 『マクロ経済学講義』、多賀出版。) Barro, R. and X. Sala-i-Martin (2003) Economic Growth, 2nd ed., MIT Press. (バロー・サライマーティン (2006) 『内生的経済成長論I、II』、九州大学出版会。) Ljungqvist, L. and T. J. Sargent (2012) Recursive Macroeconomic Theory, 3rd ed., MIT Press.</p>					
⑥成績評価方法	課題40%、期末試験60%で評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間は設定しないが、質問がある場合は授業後、もしくはメールにてアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「経済数学」「ミクロ経済学」の内容を前提として講義を行う。 ・「マクロ経済学演習」をあわせて受講すること。 					

2018年度以降入学生	計量経済学	P0202	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学	P679	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		前期Ⅱ	火曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	計量経済学は、経済学で学ぶ理論・数理モデルの妥当性を、統計学で学ぶ手法（主に回帰分析）によって検証する学問です。本講義ではそのような計量経済学の基礎を解説します。また理論的な理解だけでなく、R(統計ソフトウェア)によるコンピューター実習も行う予定です。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルによる方法を理解できる。 ・時系列データやパネルデータの解析などの発展的内容を理解できる。 ・Rを使い、計量経済学の手法によるデータ分析ができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>シラバス執筆時点において、以下のトピックを扱う予定です（進捗状況等により多少の変更はあるかもしれません）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Simple regression model ・ Multiple regression model ・ Heteroscedasticity ・ Time series data method ・ Panel data method <p>授業はスライドを用いて行う予定です。</p>					
④授業外学習	与えられた資料を授業前に読み、大まかな内容を理解してから授業に臨んでください。					
⑤テキスト・参考書等	<p>Wooldridge, J. M. (2016) Introductory Econometrics: A Modern Approach, Cengage Learning, 6th ed. Heiss, F. (2016) Using R for Introductory Econometrics, Createspace Independent Pub. <http://www.URfIE.net></p>					
⑥成績評価方法	レポートにより評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しないので、質問などがある場合はメールでアポイントメントを取ってください。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューター実習として「R」を利用する予定です。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目です。 					

2018年度以降入学生	経済数学	P0203	経営学C	経済学A	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	経済数学	P680	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		前期Ⅰ	火曜日	5時限、6時限	
①授業方針・テーマ	大学院の経済学のコースワークの学習に必要な数学の概念と手法について微分を中心に講義する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学で用いる制約付き最適化問題の解法を習得することを目的とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>テキストおよび資料に沿って講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関数、極限、連続性、逆関数 2. 1変数関数の微分、積の微分、合成関数の微分 3. 1変数関数の最大値・最小値問題、1階条件・2階条件 4. 連立方程式、行列の演算、逆行列 5. 行列の基本変形、行列式 6. 一次独立、階数 7. 多変数関数の微分、全微分、方向微分 8. 陰関数定理、逆関数の微分 9. 微分・行列の演習 10. 最適化問題、1階条件・2階条件 11. 制約付き最適化問題、Lagrange法 12. 包絡線定理、Lagrange乗数 13. Kuhn-Tucker Theorem 14. 最適化問題の演習 15. 試験、解説 					
④授業外学習	課題を数回課す。					
⑤テキスト・参考書等	テキスト：Simon, Blume 'Mathematics for Economists' 随時資料を配付する。					
⑥成績評価方法	期末試験により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業前後 もしくは アポイントメント					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	高校数学で扱う微分の知識を前提とする。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学演習	P0204	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学演習	P681	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		前期Ⅰ	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	練習問題を解くことを通じて、ミクロ経済学への理解度を高める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学をしっかりと学ぶには、練習問題を解くことが効果的と言われています。本演習では、ミクロ経済学（授業番号P0200）で学んだ知識を確かなものにするために、同授業の教科書にある練習問題に取り組み、このことを実践します。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>ミクロ経済学（P0200）の授業計画に沿って行います。各回の内容は、そちらのシラバスをご覧ください。</p> <p>【授業方法】</p> <p>演習時間内では要点の要約と例題や宿題の解法を示します。</p>					
④授業外学習	教科書の練習問題や宿題に取り組むこと。					
⑤テキスト・参考書等	教科書：Hal R. Varian, Microeconomic analysis, 3rd ed., W.W.Norton					
⑥成績評価方法	宿題提出状況によって評価します。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	メール等でアポイントメントをとって下さい。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学（P0200）を併せて受講して下さい。					

2018年度以降入学生	マクロ経済学演習	P0205	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学演習	P682	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松岡 多利思		前期Ⅱ	金曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	「マクロ経済学」の講義に連動して、問題演習を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題演習を通して、マクロ経済モデルの理解を深める。					
③授業計画・内容 授業方法	<p><<授業計画・内容>></p> <p>【第1回】ガイダンス 【第2回】ソローモデル 【第3回】動学的最適化 【第4回】新古典派成長モデル 【第5回】世代重複モデル 【第6回】不確実性下の動学的最適化 【第7回】実物的景気循環モデル 【第8回】不完備市場モデル</p> <p><<授業方法>></p> <p>授業は日本語。ただし、課される問題は英語（解答は日本語でも英語でも良い）。</p>					
④授業外学習	事前に問題を配布するので、授業までに解いておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	<p>【教科書】</p> <p>問題を配布するので、教科書は指定しない。</p> <p>【参考書】</p> <p>大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」に準ずる。</p>					
⑥成績評価方法	演習問題に対する解答の質などの出来栄や授業への貢献度に応じて評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問がある場合は授業後またはメールにてアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム科目「マクロ経済学」を合わせて受講すること。					

2018年度以降入学生	経済史演習	P0209	経営学C	経済学A	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済史演習	P686	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岩間 俊彦、小林 延人		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、テキストを読解・参照しながら、参加者同士での議論を通じて、経済史を学ぶ意義やその視角・方法論の変遷、また歴史研究の分析に不可欠な資料（史料）についての理解を深めることを狙いとする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史についての多様な思考方法を習得する。 ・資料（史料）の意味や利用方法および調査方法を習得する。 ・以上を通じて、経済史、経済学史・思想史についてのレポート・論文を書く基礎的な能力を習得する。 					
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1 ガイダンス 2 経済史認識の展開 3 日本経済史の視角 4－5 史料を読む（文献資料） 6－8 史料を読む（統計資料） 9－10 外国経済史の歴史的展開 11－12 関連文献の読解 13－14 外国経済史の資料を読む 15 講義のまとめ					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・指定のテキストを事前に読み、疑問点・論点を考えてくること。 ・授業で紹介された種々の学説について文献に目を通したり、資料（史料）を実際に検索・調査・収集したりすることを通じて、期末レポートの作成準備をすること。 					
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは初回授業時に指示します。 ・参考書 石井寛治・原朗・武田晴人編 [2010]『日本経済史6 日本経済史研究入門』東京大学出版会。その他、授業の際に適宜参考文献を指定します。 					
⑥成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 【小林】 授業の前後の時間に設置します。 【岩間】 初回授業で説明します。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	国際金融論	P0224	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生			高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	国際金融論・国際マクロ経済学についての最新文献を読み、新たな研究課題の探索に取り組む。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際金融論・国際マクロ経済学に関する一つのトピックについて、研究の流れを掴み、最新の文献を読みこなすことができるようになる。 ・国際金融論・国際マクロ経済学に関する一つのトピックについて、新たな研究課題を発見することができるようになる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>受講生と協議の上、以下の中からトピックスをいくつか選んで講義もしくは輪読を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購買力平価と為替レートパススルーに関する理論と実証 ・名目為替レート決定に関する理論と実証 ・国際間のリスク・シェアリング、資本の国際配分、経常収支の動学に関する理論と実証 ・債務危機と金融危機に関する理論と実証 ・New Open Economy Macroeconomic Modelとその発展 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた文献を読み、理解する。 ・該当する研究トピックの文脈をサーヴェイし、与えられた文献がそのトピック上どのような位置づけとなっているか理解する。 ・与えられた文献で解決されていない問題を探す。 ・以上の3点を授業で報告するための準備をする。 					
⑤テキスト・参考書等	<p>以下の参考書を中心に、授業内で文献を適宜紹介する。</p> <p>【参考書】</p> <p>Uribe, M. and S. Schmitt-Grohé (2017) Open Economy Macroeconomics, Princeton University Press.</p> <p>Obstfeld, M. and K. Rogoff (1996) Foundations of International Macroeconomics, MIT Press.</p> <p>Mark, N. C. (2001) International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods, John Wiley & Sons.</p> <p>James, J., I. W. Marsh and L. Sarno (ed.) (2012) Handbook of Exchange Rates, John Wiley & Sons.</p> <p>Gopinath, G., E. Helpman and K. Rogoff (ed.) (2014) Handbook of International Economics, Vol. 4, North-Holland, Elsevier.</p> <p>Friedman, B. M. and M. Woodford (ed.) (2010) Handbook of Monetary Economics, Vol. 3, North-Holland, Elsevier.</p>					
⑥成績評価方法	数回割り当てられる報告の内容（70%）と、授業中の議論への貢献（30%）。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業の前後もしくはメールにて受け付ける。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「計量経済学」「経済数学」を履修済み、あるいはそれと同等の能力を前提とする。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特論	P0225	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生			高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		後期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>テーマ：寡占理論。この授業では、ミクロ経済理論の主要な構成部分の一つである、ゲーム理論を用いた寡占価格理論の基礎に関する講義を行う。特に、ナッシュ均衡として捉えられる種々の寡占市場モデルにおける均衡の存在、一意性、安定性、比較静学を中心に講義を行う。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>均衡の存在、一意性、安定性、比較静学に関する幅広い知識を学び、その応用力をつけることが授業の目的であり、到達目標である。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>以下の内容を各2～4回の予定で講義を行う。</p> <p>1－2 寡占モデルの種類と概要 3－6 数量競争の寡占モデルに関する議論 7－10 価格競争の寡占モデルに関する議論 11－14 多段階ゲームで記述される寡占モデルに関する議論 15 まとめ</p>					
④授業外学習	<p>授業内容の復習を行うこと。課題に取り組むこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト: 指定しない。授業中に文献を指示する。 参考書: Vives, X., Oligopoly Pricing: Old Ideas and New Tools, The MIT Press, 2001 Mas-Collel et al. Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995 Varian, H., Microeconomic Analysis, 3rd edition, W. W. Norton, 1992.</p>					
⑥成績評価方法	<p>レポートにより評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 メールでアポイントメントを取ってください。</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>特に前提科目は設けませんが、ミクロ経済学とゲーム理論の知識があることが望ましい。</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特論	P0210	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特論	P687	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		後期	水曜日		5時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説しながら、日本経済への適応を模索する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義ではいくつかの著書に沿って、現在のマクロ経済学と日本経済の関連を展望する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>以下は動学的なトピックスに力点を置いた場合であり、受講生の興味に合わせて適宜変更する。</p> <p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④授業外学習	テキストをよく読むこと					
⑤テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（2018）『日本経済15講』 新生社。 脇田成（1998）『マクロ経済学のパスベクティブ』 日本経済新聞社。</p>					
⑥成績評価方法	授業での発表により評価					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること 授業外学習 テキストをよく読むこと					

2018年度以降入学生	ミクロ計量経済学	P0226	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生			高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>本講義では、計量経済学で学んだ行列表現および回帰モデルの推定法（一般化最小2乗法（GLS）、一般化積率法（GMM）、最尤法（MLE）、操作変数法）を土台として、ミクロ（個票）データを対象としたより発展的な計量経済学的な推定法を学習する。</p> <p>具体的には、まず線形回帰モデルであるパネルデータ分析を取り扱う。ここで、固定効果と変量効果、さらにこの検定法であるハウスマン検定を学習する。つぎに、最尤推定法を利用した非線形モデルを取り扱う。ここでは、従属変数が2項であるロジットモデル、プロビットモデル（その応用モデルであるトービットモデル）、さらに生存時間分析、カウントデータ分析を学習する。最後に、因果推論（政策評価推定法）としてよく利用される傾向スコア法、マッチング法、回帰不連続デザイン、差分の差分を取り上げる。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学で学んだ行列表現および回帰モデルの推定法（一般化最小2乗法（GLS）、一般化積率法（GMM）、最尤法（MLE）、操作変数法）の復習 ・パネルデータ分析。固定効果と変量効果、その検定法であるハウスマン検定 ・非線形回帰モデル。2項モデル（ロジットモデル、プロビットモデル）、その応用モデルであるトービットモデル、生存時間分析、カウントデータ分析 ・因果推論（政策評価推定法）。傾向スコア法、マッチング法、回帰不連続デザイン、差分の差分。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>1回 計量経済学の復習1：（一般化最小2乗法（GLS）、一般化積率法（GMM））</p> <p>2回 計量経済学の復習2：（最尤法（MLE）、操作変数法）</p> <p>3回 パネルデータ分析1：固定効果</p> <p>4回 パネルデータ分析2：変量効果</p> <p>5回 パネルデータ分析3：ハウスマン検定</p> <p>6回 非線形回帰モデル1：2項モデル（ロジットモデル）</p> <p>7回 非線形回帰モデル2：2項モデル、プロビットモデル</p> <p>8回 非線形回帰モデル3：トービットモデル</p> <p>9回 非線形回帰モデル4：生存時間分析、カウントデータ分析</p> <p>10回 非線形回帰モデル5：カウントデータ分析</p> <p>11回 因果推論（政策評価推定法）1：傾向スコア法</p> <p>12回 因果推論（政策評価推定法）2：マッチング法</p> <p>13回 因果推論（政策評価推定法）3：回帰不連続デザイン、</p> <p>14回 因果推論（政策評価推定法）4：差分の差分。</p> <p>15回 試験と解説</p>					
④授業外学習	<p>テキストと参考章に基づく予習と復習。さらに、講義中に出题される課題（ミクロデータを対象した統計ソフトのプログラミングとデータ分析）の取り組み。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>[1] Hayashi, (2000) Econometrics, Princeton Univ. Press</p> <p>[2] Adams, Clarke, Quinn (2015) Microeconometrics and MATLAB: An Introduction, Oxford Univ. Press</p> <p>[3] Cameron, Trivedi (2005) Microeconometrics, Cambridge Univ. Press</p> <p>[4] Wooldridge (2010) Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT press</p> <p>なお、適宜、各講義で参考とすべき論文についてはリーディングリストを配布する。</p>					
⑥成績評価方法	<p>期末試験（60%） および レポート（40%）</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>初回講義時に説明する。</p>					
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）	<p>計量ソフトウェアとして「Matlab」および「R」、「Python」を利用する。</p>					

2018年度以降入学生	西洋経済史	P0216	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	西洋経済史	P693	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岩間 俊彦		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	現在、私たちの経済や社会は、西洋の経済社会に深く関連する制度や思考に大きく依拠しています。この講義では、古代から近代にわたる西洋の経済社会に関する事象について学びながら、あるいは現在の西洋や私たちを取り巻く経済社会にも通じる問題とその背景について考えます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋の経済、社会、政治、文化の特徴を学ぶことにより、現在の経済社会を再考する視点を習得します。 ・経済史研究にとって、モデルや分析手法として、参照されることの多い西洋経済社会の歴史的事象に関する理解を深めます。 					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の案内 2 西洋経済史の対象・方法・モデル 3 古代の帝国 ワインが結ぶ古代ギリシアとローマ、古代都市国家から帝国への過程を理解する 4 ローマ帝国は何故滅んだか 「偉大な」帝国の崩壊を理解し中世経済社会への過程を展望する 5 中世の所領、農村 ヨーロッパ中世の経済社会の基礎を考える 6 中世の市場と農村 ヨーロッパ中世の経済社会にあらわれた「市場」の意味を考える 7 中世から近世へ 中世から近世へと移行する経済社会の過程について理解する 8 近世における人口増加の衝撃 9 プロト工業化とは何か 10 消費社会の形成 消費の影響を考える 11 経済発展・工業化・国家という相互関係 財政軍事国家論からみた社会経済 12 産業革命はあったのか、産業革命はどこで起きたのか 13 産業革命はヒトを幸せにしたのか 14 ヨーロッパの奇跡 工業化と経済成長を実現したヨーロッパの「奇跡」を考える 15 授業のまとめ、フィードバック 					
④授業外学習	授業の記録や資料を参照しながら、講義の要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。					
⑤テキスト・参考書等	テキストは設定しません。参考書の一覧は初回授業以降に公開予定です。kibacoで公開する資料にも参考文献等を掲載します。					
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーは、初回に説明します。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	社会経済史	P0218	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史	P695	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岩間 俊彦		後期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	社会理論、文化理論、グローバリゼーション論に依拠した歴史的分析方法について学びます。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	社会理論（社会構造、社会的行為、社会関係等）、文化理論、グローバリゼーション論と歴史分析方法に基づいて、歴史研究を実証的にすすめる方法を習得します。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>テキストにもとづいて、以下の計画にて行う予定です。履修者にはテキストの講読等を課すことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の案内 2 理論家と歴史家 1 3 理論家と歴史家 2 4 モデルと方法 1 5 モデルと方法 2 6 中心的な諸概念 1 7 中心的な諸概念 2 8 中心的な諸概念 3 9 新たな潮流 文化史 1 10 新たな潮流 文化史 2 11 新たな潮流 文化史 3 12 新たな潮流 長期と短期 1 13 新たな潮流 長期と短期 2 14 新たな潮流 長期と短期 3 15 授業のまとめ 					
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト バーク『歴史学と社会理論 第2版』慶應義塾大学出版会、バーク『文化史とは何か 増補改訂版』法政大学出版局、グルディ／アーミティジ『これが歴史だ！』刀水書房、S. Gunn(ed.), <i>Research Methods for History</i>, 2nd ed.(2016)、S. Gunn, <i>History and Cultural Theory</i>(2006). 参考書の一覧等は初回の授業以降公開します。</p>					
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーは、初回に説明します。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別研究	P0536	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P540	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		前期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。					
④授業外学習	【授業外学習】 次回の授業範囲を予習しておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton					
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 毎週金曜4限の時間帯					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。					

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特別演習	P0537	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ミクロ経済学特別講義	P541	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也		後期	火曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。					
④授業外学習	【授業外学習】 次回の授業範囲を予習しておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton					
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 毎週金曜 4限の時間帯					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別研究	P0538	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P546	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		前期	木曜日		1時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本の労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本の経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。 授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④授業外学習	授業外学習 テキストをよく読むこと					
⑤テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成 (1998)『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編 (1994)『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>					
⑥成績評価方法	期末試験70% 宿題30%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>オフィスアワーは木曜 4 限</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること</p> <p>オフィスアワーは木曜 4 限</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>					

2018年度以降入学生	マクロ経済学特別演習	P0539	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	マクロ経済学特別講義	P547	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	脇田 成		後期	木曜日		1時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>					
④授業外学習	テキストをよく読むこと					
⑤テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパーспекティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>					
⑥成績評価方法	期末試験70% 宿題30%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは木曜4限（メールでアポイントを取ること）					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること					

2018年度以降入学生	計量経済学特別研究	P0540	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P550	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		前期	金曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法(GMM)や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM(一般化モーメント法)と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性を理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>各回の講義予定は教科書であるHayashi(2000)Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル(OLS)とその行列表現(OLSの小標本の特性#1) 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM(OLSの小標本の特性#2) 3回 大標本理論(大数の法則と中心極限定理) 4回 大標本理論(OLS推定値での漸近分布) 5回 大標本理論(仮説検定) 6回 大標本理論(不均一分散) 7回 GMM(一般化モーメント法)と操作変数法 8回 GMM(一般化モーメント法)の大標本理論 9回 GMM(一般化モーメント法)尤度比検定 10回 GMM(一般化モーメント法)の不均一分散 11回 GMM(一般化モーメント法)と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 					
④授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>					
⑤テキスト・参考書等	Hayashi(2000)Econometrics, Princeton Univ. Press					
⑥成績評価方法	講義中に出题するレポート2題(50%)および期末試験(50%)により評価を行う。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習(計量経済学)」の前提科目である。 					

2018年度以降入学生	計量経済学特別演習	P0541	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	計量経済学特別講義	P551	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦		後期	金曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、前期で扱った計量経済学の古典的回帰モデルの講義内容をベースとして、その応用として時系列モデルの理論的解説と経済時系列データを使った推定法について扱う。また、統計ソフトウェアによる実習も並行して進めていく予定である。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	計量経済学の基礎および時系列分析の理論的な理解およびその推定手法の習得					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 下記内容について講義する予定です。講義内容は履修者の関心と理解レベルに応じて適宜、修正しようと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量経済学の方法（回帰分析と最尤法） 2. 時系列データの特性と定常性 3. 自己回帰（AR）モデルと ARMAモデル、ARIMAモデル 4. 単位根（ランダム・ウォーク）モデル 5. 金融時系列モデル（ARCH、GARCH、EGARCH、TGARCH、GARCH-M） 6. 多変量のARモデル（VAR）と共和分 7. マーケットストラクチャとRealized Volatility 8. 長期記憶の時系列モデル <p>なお、詳細な講義日程と講義内容については私のホームページ http://www.comp.tmu.ac.jp/iiboshi/ をご覧ください。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>[1] 山本拓著（1988）『経済の時系列分析』創文社 [2] 刈屋武昭著（2003）“金融時系列分析入門”『経済時系列の統計』、第1部、p3-101、岩波書店 [3] 渡部敏明著（2000）『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店 [4] 田中勝人（2006）『現代時系列分析』岩波書店</p>					
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。					

2018年度以降入学生	金融経済学特別研究	P0544	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P533	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		前期	水曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析					
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 テキスト・論文の輪読 関心のある論文を選び、その内容を報告する。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。					
④授業外学習	論文発表の準備					
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE					
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	アポイントメント					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	金融経済学特別演習	P0545	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学特別講義	P534	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	田中 敬一		後期	水曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特別研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析					
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としては デリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理 等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。					
④授業外学習	論文発表の準備					
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE					
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	アポイントメント					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	日本経済論特別研究	P0546	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（日本経済論）	P503	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		前期	木曜日		1時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。					
④授業外学習						
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。					
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）						
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）	特になし。					

2018年度以降入学生	日本経済論特別演習	P0547	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（日本経済論）	P504	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子		後期	木曜日		2時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本的雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。					
④授業外学習						
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。					
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）						
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）	特になし。					

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別研究	P0548	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P513	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		前期	火曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、高度で専門的なゲーム理論の知識を身につけることを目的とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】 数学の基礎：集合・二項関係・順序関係、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p>					
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。					
⑤テキスト・参考書等	S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.					
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜5限(16:30-17:50)をオフィスアワーとします。 メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受け付けることが可能です。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室(3号館4F411号室)へ来て下さい。					

2018年度以降入学生	ゲーム理論特別演習	P0549	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	ゲーム理論特別講義	P514	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	渡辺 隆裕		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特別講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回-第3回 一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回-第5回 不完備情報の戦略形ゲーム 第6回-第7回 不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回-第9回 繰り返しゲーム 第10回 交渉ゲーム 第11回 進化ゲーム 第12回-第13回 協力ゲーム 第14回-第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p>					
④授業外学習	<p>輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press.</p>					
⑥成績評価方法	<p>普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>火曜5限(16:30-17:50)をオフィスアワーとします。 メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受けつけることが可能です。</p>					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室(3号館4F411号室)へ来て下さい。</p>					

2018年度以降入学生	数理統計学特別研究	P0550	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P501	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		前期	木曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	経済時系列データの特色、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。					
③授業計画・内容 授業方法	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば [テキスト・参考書等] の欄に挙げられたものなどが考えられる。					
④授業外学習	輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。					
⑤テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay.(2010). Analysis of Financial time series. 3rd ed. Wiley.					
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	統計学Ⅰ・Ⅱで扱われるような基本的な統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。					

2018年度以降入学生	数理統計学特別演習	P0551	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	統計学特別講義	P502	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小方 浩明		後期	木曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	時系列データの特徴、ならびに時系列データの基本的な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。					
③授業計画・内容 授業方法	自らが取得したデータを、統計ソフトウェアRを用いて解析し、進捗状況を授業中に報告する形で進める。					
④授業外学習	データの解析。					
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。					
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学特別研究を受講済みのこと。					

2018年度以降入学生	公共経済学特別研究	P0552	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P665	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		前期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の専門書の輪読や講義を主に行う。					
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。					
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。					
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】水曜3限					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。					

2018年度以降入学生	公共経済学特別演習	P0553	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	公共経済特別講義	P666	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	森本 脩平		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的知識と分析手法の習得を目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の専門書の輪読や問題演習を主に行う。					
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。					
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。					
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】水曜3限					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。					

2018年度以降入学生	国際金融論特別研究	P0554	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P527	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		前期	月曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》</p> <p>輪読形式で行う。</p>					
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。					
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。					
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 					

2018年度以降入学生	国際金融論特別演習	P0555	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	国際金融特別講義	P528	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	荒戸 寛樹		後期	月曜日		1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》</p> <p>輪読形式で行う。</p>					
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。					
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。					
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項 (他の授業 科目との関連性)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 					

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別研究	P0556	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (環境経済学特論)	P539	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	朝日 ちさと		前期	水曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	<p>持続可能性へのパラダイムシフトや人口減少・技術革新といったマクロ経済環境の構造変化にともない、政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。</p> <p>本講義では、都市・地域・環境経済学の理論および分析手法を用いて、政策介入の経済的分析、事業評価、規制インパクト分析の理論と手法について学びます。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下を習得します。</p> <p>① 都市・地域経済学の理論と分析手法 ② 環境経済学の理論と分析手法 ③ 政策の分析・評価のための手法（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2～7回 都市・地域経済学の理論と手法 第8回 事例研究：費用便益分析・地域経済分析 第9～13回 環境経済学の理論と手法 第14回 事例研究：環境・リスクの経済的評価 第15回 まとめ、レポート提出 (※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。)</p> <p>【授業方法】 テキストを輪読・報告し、後半に報告内容に基づくディスカッションを行います。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 テキストの次回の範囲を予習する。 自らの研究テーマに関連させたディスカッションの準備をする。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 開講時に指示します（受講者の知識・研究テーマ・関心に基づいて対応します）。</p> <p>【参考文献】 朝日ちさと・堀江典子編「生活者のための地域マネジメント入門」昭和堂（2018年） 金本良嗣・藤原徹「都市経済学（第2版）」東洋経済新報社（2016年） 金本良嗣ほか「政策評価ミクロモデル」東洋経済新報社（2015年） 柘植 隆宏ほか「環境評価の最新テクニック：表明選好法・顕示選好法・実験経済学」勁草書房（2011年） 石倉智樹・横松宗太「公共事業評価のための経済学」コロナ社（2013年） グリーンインフラ研究会編「決定版 グリーンインフラ」日経BP社（2017年） 宇都正哲ほか「人口減少下のインフラ整備」東京大学出版会（2013年）</p>					
⑥成績評価方法	<p>評価対象とウェイトは次の通りです。 授業への関与【40%】 期末レポート【60%】</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail：asahi@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>ミクロ経済学の既修が望ましい。</p>					

2018年度以降入学生	都市環境経済学特別演習	P0557	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（環境経済学特論）	P631	高度専門職業人養成Ⅲ	高度金融専門人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	朝日 ちさと		後期	水曜日		1時限
①授業方針・テーマ	<p>持続可能性へのパラダイムシフトや人口減少・技術革新といったマクロ経済環境の構造変化にともない、政策の形成や実施において、資源配分への影響をエビデンス（根拠）に基づいて分析し評価することの重要性が増しています。</p> <p>本講義では、都市環境経済学講義で習得した都市・地域・環境経済学の理論および分析手法を用いて、受講者自らが設定したテーマについて経済学的な実証分析を行います。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下を習得します。</p> <p>① 都市・地域経済学の理論と分析手法の応用 ② 環境経済学の理論と分析手法の応用 ③ 政策の効果に関する実証分析の方法（費用便益分析／環境・リスクの経済的評価／地域経済分析等）</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 イン트로ダクション 第2～7回 研究テーマの設定、理論モデルの構築、データ収集と予備的分析 第8回 中間報告会 第9～14回 データ分析、仮説検証、レポート執筆 第15回 まとめ、レポート提出 （※受講者の状況に応じて構成を変更することがあります。）</p> <p>【授業方法】</p> <p>受講者が自らの研究テーマに基づく作業を進め、適宜進捗の報告およびディスカッションを行います。</p>					
④授業外学習	<p>分析に必要な理論・手法・データの下調べ。 自らの報告およびディスカッションの準備をする。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>使用しません。</p> <p>【参考文献】</p> <p>朝日ちさと・堀江典子編「生活者のための地域マネジメント入門」昭和堂（2018年） 金本良嗣・藤原徹「都市経済学（第2版）」東洋経済新報社（2016年） 金本良嗣ほか「政策評価ミクロモデル」東洋経済新報社（2015年） 柘植 隆宏ほか「環境評価の最新テクニック: 表明選好法・顕示選好法・実験経済学」勁草書房（2011年） 石倉智樹・横松宗太「公共事業評価のための経済学」コロナ社（2013年） グリーンインフラ研究会編「決定版 グリーンインフラ」日経BP社（2017年） 宇都正哲ほか「人口減少下のインフラ整備」東京大学出版会（2013年）</p>					
⑥成績評価方法	<p>評価対象とウェイトは次の通りです。 授業への関与【30%】 期末レポート【70%】</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>授業に関する質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>原則として、都市環境経済学講義を履修済みであること。</p>					

2018年度以降入学生	財政学特別研究	P0558	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (財政学—公共政策分析)	P507	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	金子 憲		後期	火曜日		1時限
①授業方針・テーマ	この講義では、財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。					
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。					
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	財政学特別演習	P0559	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (財政学—公共政策分析)	P508	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	金子 憲		後期	火曜日		2時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。					
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。					
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	日本経済史特別研究	P0560	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P542	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、修士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 					
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。					
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。					
⑥成績評価方法	議論への参加 [30%]、期末レポート [70%] <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。					

2018年度以降入学生	日本経済史特別演習	P0561	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	日本経済史特別講義	P543	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	小林 延人		後期	金曜日		3時限
①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、修士論文の執筆に向けた準備をする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回 商人と商業組織 第3回 近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回 開国にともなう貿易・社会インフラ・流通機構の変容 第5回 近代的商業経営の成立 第6回 近代商業の発展と貿易の拡大 第7回 近代日用品市場の成立と展開 第8回 新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回 生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回 戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回 戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回 戦争と商業経営者の存亡 第13回 個人研究報告（1）※ 第14回 個人研究報告（2）※ 第15回 個人研究報告（3）※</p> <p>※ 履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせ実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を採る。</p>					
④授業外学習	①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：廣田誠・山田雄久・木山実・長廣利崇・藤岡里圭『日本商業史—商業・流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税</p> <p>演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。</p>					
⑥成績評価方法	<p>議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	日本経済史に関わる修士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。					

2018年度以降入学生	経済思想史特別研究	P0562	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学説史特別講義	P661	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		前期	月曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。					
④授業外学習	輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。					
⑤テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）					
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。					

2018年度以降入学生	経済思想史特別演習	P0563	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学説史特別講義	P662	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	高見 典和		後期	月曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。主に20世紀前半から半ばにかけての主流派経済学の歴史にかんする著作や論文をとりあげます。翻訳のあるものは少ないので、主として英文の文献を取り上げることになります。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。					
③授業計画・内容 授業方法	初回授業で、リーディングリストを配布します。計量経済学、ミクロ消費者理論、マクロ政策論争などにかんする著作や論文をあつかう予定です。					
④授業外学習	輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。					
⑤テキスト・参考書等	適宜指定					
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。					

2018年度以降入学生	西洋経済史特別研究	P0564	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史特別講義	P554	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岩間 俊彦		前期	月曜日	2時限	
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の欧米における社会や経済に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。 					
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成に関するテキストや社会科学における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1 授業の案内 2-14 講読と演習 15 授業のまとめ 					
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト 吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版</p> <p>参考書 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会。必要に応じて、授業時に指示します。</p>					
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	西洋経済史特別演習	P0565	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	社会経済史特別講義	P555	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	岩間 俊彦		後期	月曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。 					
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成に関するテキストや社会科学研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・前期の授業成果をふまえて、資料と調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 1 授業の案内 2-14 講読と演習 15 授業のまとめ 					
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト 吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版、佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会。</p> <p>参考書は授業、kibacoで指示します。</p>					
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	アジア経済史特別研究	P0566	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P645	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		前期	金曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。(1)ヨーロッパ経済とアジア経済の比較、(2)ヨーロッパ経済とアジア経済の関係、および(3)アジア内の経済関係という視点から、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス、グローバル経済史入門 2 アジアとヨーロッパ：経済発展の国際比較 3 銀と大航海時代 4 近世グローバル経済と日本 5 アジア経済とイギリス産業革命 6 世界商品の登場 7 開発と人口 8 グローバル経済の緊密化 9 開発の進行と人の移動 10 国際金融と金本位制度 11 グローバル経済の深化とライフスタイル 12 エネルギー 13 経済発展の多径路性 14 20世紀後半の展開 15 リオリエントへの展望 <p>*指定テキスト各章を扱う(1-15とタイトルはそれぞれテキストの章番号・章題に対応している)</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め(教員も発表者として参加)、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。</p>					
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。					
⑤テキスト・参考書等	水島司・島田竜登 [2018]『グローバル経済史』放送大学教育振興会					
⑥成績評価方法	平常点により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室(3-316)まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。					

2018年度以降入学生	アジア経済史特別演習	P0567	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	アジア経済史特別講義	P646	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	竹内 祐介		後期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に18～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を検討し、マクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ 3 グローバルヒストリー：比較と関係性（1） 4 グローバルヒストリー：比較と関係性（2） 5 「長期の18世紀」におけるアジア（1） 6 「長期の18世紀」におけるアジア（2） 7 「長期の18世紀」におけるアジア（3） 8 「長期の18世紀」におけるアジア（4） 9 前半部のまとめ 10 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（1） 11 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（2） 12 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（3） 13 グローバルヒストリー研究の現在（1） 14 グローバルヒストリー研究の現在（2） 15 後半部のまとめ <p>*第2～12回は指定テキスト各章を扱う。第13～14回は別の論文を扱う。具体的指示は講義中に行う。</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。</p>					
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。					
⑤テキスト・参考書等	秋田茂編 [2013] 『アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』 ミネルヴァ書房					
⑥成績評価方法	平常点により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。					

2018年度以降入学生	金融論特別研究	P0542	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融特別講義	P636	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松岡 多利思		前期	水曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読を進める。					
④授業外学習	授業内容の予習と復習。					
⑤テキスト・参考書等	■ Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■ Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.					
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは木曜日3限。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。					

2018年度以降入学生	金融論特別演習	P0543	経営学C	経済学B	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	金融特別講義	P637	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	松岡 多利思		後期	水曜日	4時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読を進める。					
④授業外学習	授業内容の予習と復習。					
⑤テキスト・参考書等	■ Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press ■ Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.					
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは木曜日3限。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。					

2018年度以降入学生	経済学特別演習 (マクロ経済学)	P0220	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (マクロ経済学)	P697	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	村田 啓子、脇田 成、 荒戸 寛樹、松岡 多利思		後期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	マクロ経済学および隣接分野において修士論文を作成することを希望する学生が、それに必要な能力を習得する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学および隣接分野に関する文献を読みこなす能力を養う。 ・論文の結果を再現する解析的手法・数値解法に習熟する。 ・仮定の変更に対する結果の頑健性を調べることができるようになる。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>第1回の授業で、扱う文献を決定し、参加学生に報告を割り当てる。 第2回以降は参加学生による報告とディスカッションを行う。</p> <p>【第1回】 ガイダンス 【第2回～第5回】 論文1 【第6回～第9回】 論文2 【第10回】 中間発表会（予定） 【第11回～第14回】 論文3 【第15回】 最終報告会</p> <p>※参加する学生の人数によって計画は変更される可能性があるので、第1回の授業に必ず参加すること。</p> <p>《授業方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学特別演習はゼミナール形式で行う。学生による報告が主体となるので、予習は必須である。 ・3人の教員がリレー形式で行うが、ガイダンス・中間報告会・最終報告会は3人の教員が参加する。また、その他の回でも複数の教員が参加する場合がある。 					
④授業外学習	与えられた論文を熟読・理解した上で報告を準備すること。 その際、先行研究についてもレビューするのが望ましい。					
⑤テキスト・参考書等	第1回の授業にて参加者に文献を指定する。					
⑥成績評価方法	報告の水準およびディスカッションへの参加度を総合的に判断して評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特に設定しないが、質問がある場合は各教員が受け付ける。メール等でアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	大学院経済学プログラム提供科目の「マクロ経済学」・「ミクロ経済学」・「計量経済学」・「経済数学」の単位を取得済みであることを履修の前提とする。					

2018年度以降入学生	経済学特別演習 (ミクロ経済学)	P0221	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習 (ミクロ経済学)	P698	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯村 卓也、渡辺 隆裕、 森本 脩平		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	ミクロ経済学の応用：サーベイと試論、三人の教員によるオムニバス演習					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	本演習の目的は、ミクロ経済学の応用例に幅広く触れ、自らモデルを構築し、解析する能力を涵養することである。受講生は、紹介される種々のExamplesを理解し、発展の方向を考え、最終的にはモデルを使った応用ミクロ経済分析の試論を試みる。この経験によって、受講生は修士論文執筆のための基礎を獲得することが期待される。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】 以下の計画で行う。なお、2019年度のテキストは「産業組織」を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2－4. テキスト講読Part A. 5－7. テキスト講読Part B. 8－9. テキスト講読Part C. 10. 中間報告 11－13. 試論作成 14－15. 最終報告 <p>【授業方法】 ガイダンスのあとの8回は、ミクロ経済学分野の三人の教員がA、B、Cの各パートを一人一つずつ担当して、テキスト講読を主体とした演習を行う。受講生はこの間に、自分が取り組む試論のテーマを決定する。なお受講生には各パートの最後に、簡単なレポートを提出してもらう。第10回の中間報告では、各自のテーマを報告してもらう。続く3回は試論作成に向けて、受講生の報告を主体とした演習を行う。最後に、受講生による試論の発表会を行う。これらの演習を通じて、受講生は修士論文に向けた準備を行うことになる。</p>					
④授業外学習	レポート作成、テーマの策定、中間報告の準備、最終報告の準備は、いずれも授業外の時間で行う。					
⑤テキスト・参考書等	テキスト：Oz Shy(1996), Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press; Jean Tirole(1988), The Theory of Industrial Organization, MIT Press. などのなかから選んで開講時に指示をする。その他参考にすべき必要な文献は随時指示をする。					
⑥成績評価方法	各パートのレポートの評価(20%×3)と中間・最終報告の評価40%で行う。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問をしたい教員に、メール等でアポイントメントをとって下さい。					
⑧特記事項(他の授業 科目との関連性)						

2018年度以降入学生	経済学特別演習(計量経済学)	P0222	経営学C	経済学必修 (選択)	ファイナンスC	2単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習(計量経済学)	P699	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	飯星 博邦、田中 敬一、 小方 浩明		後期	火曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	事前に渡すリーディングリストに掲載されている既存研究論文1本を参加学生各自が選び、その応用(理論の発展、異なる実証方法の検討、異なるデータの分析等)や再検証を考え、研究の成果をレポート(論文の形式に沿った構成と内容)として纏める。その成果が修士論文執筆の基礎となる。最終的にはレポートを完成させることが目的であるが、レポートの執筆は各自が授業外の時間で行う。授業中にはそのために必要な事項や分析方法等について教員がアドバイスする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	修士論文執筆のために必要な、論文の読み方・書き方、分析方法やその注意点、データの入手・処理方法などを会得することが目標である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>リーディングリストの論文を読むために必要な知識やトピックス等について教員が講義した後、各学生は応用研究に着手する。学生が進捗状況等を報告し、教員は背景となる理論や分析方法等についてアドバイスする。</p> <p>1-3 3人の教員(飯星・田中・小方)が専門分野のトピックスについて1回づつ講義(1回目)</p> <p>4 参加学生(全員)が関心を持つ既存研究論文・トピックス等を紹介</p> <p>5-7 参加学生が考察する既存研究論文の内容とその応用・再検証のアイデアを報告する</p> <p>8-10 各教員が専門分野のトピックスについて1回づつ講義(2回目)</p> <p>11-12 参加学生が既存研究論文の応用の進捗状況を報告(1回目)</p> <p>13-14 参加学生が既存研究論文の応用の進捗状況を報告(2回目)</p> <p>15 参加学生が既存研究論文の応用結果を報告、レポート提出</p> <p>既存研究論文はリーディングリストから選ぶことを原則とするが、他の論文でも内容によっては認めることもあるので、その場合には教員と相談されたい。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>リーディングリストから選んだ論文および関連する論文・書籍等を丹念に読み理解することが必要である。実際にレポートを執筆するのは授業外の時間である。</p>					
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを1回目の授業時に渡す。 その他参考文献を授業中に指示する。					
⑥成績評価方法	15回目授業の提出レポートの内容、4回の報告(4、5-7、11-12、13-14)、授業への貢献等から総合的に判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	計量経済学・経済数学を履修済みであることを前提とする。 計量ソフトウェアは『R』を使うことを推奨する。 開講前に計量ソフトウェアや研究内容について相談に応じるので、履修を希望する学生は7月下旬～8月上旬に担当教員に相談されたい。					

2018年度以降入学生	経済学特別演習（経済史）	P0223	経営学C	経済学必修 （選択）	ファイナンスC	2 単位
2017年度以前入学生	経済学特別演習（経済史）	P700	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2 単位
担当教員	岩間 俊彦、小林 延人、 高見 典和、竹内 祐介		後期	水曜日	5 時限	
①授業方針・テーマ	この授業では、経済史、経済学史・思想史の論文を書くための技法を習得するとともに、実際に短い論文（レポート）を教員と一緒に作成することで、2年次に執筆する修士論文の作成過程の参考にしてもらうことを狙いとする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史、経済学史・思想史研究の技法を習得する。 ・上記技法に従って、自ら設定したテーマに関する先行研究の到達点や問題点を理解し、それを乗り越えるための研究レポートを作成する。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2-4 経済史の技法 5 レポート構想の発表（1）：期末レポート課題の発表 6-9 テーマに関する先行研究の輪読 10 レポート構想の発表（2）：先行研究の整理と批判 11-14 資料の収集と分析 15 レポート構想の発表（3）：分析結果の発表と先行研究との対比 <p>【授業方法】</p> <p>（1）「経済史の技法」（第2～4回）では、指定のテキストに依拠しながら、経済史の論文の書き方を習得する。</p> <p>（2）「テーマに関する先行研究の輪読」（第6～9回）では、設定したレポート課題に関する先行研究（論文）を調査し、その論文を教員とともに精読することで、先行研究の問題点を発見していく。</p> <p>（3）「資料の収集と分析」（第11～14回）では、（2）でみつけた先行研究の問題点を解決するために必要な資料と分析方法を教員とともに考え、実際に分析を試みる。</p> <p>また、第5回、第10回、第15回では、それまでの進捗状況をまとめ、発表する機会を設ける。</p>					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・指定されたテキストや論文を事前に読み、疑問点や論点を考えてくること。 ・第5回、第10回、第15回における研究進捗状況の発表を準備すること。 					
⑤テキスト・参考書等	<テキスト>武田晴人 [2010]「経済史の技法」(石井寛治・原朗・武田晴人編『日本経済史6 日本経済史研究入門』東京大学出版会)。その他、輪読する論文については、参加者の設定した論文テーマに応じて相談しながら決定する。					
⑥成績評価方法	平常点 50% 期末レポート 50%					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【岩間】 初回授業で説明します。</p> <p>【竹内】 原則として、毎週水曜3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢C研究室（3号館316室）まで。もしくは授業中の議論の時間や、授業前後の時間にも質問などを受け付ける。</p> <p>【高見】 原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までには必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。</p> <p>【小林】 原則として授業前後の時間に設定する。メールで事前に連絡すること。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期の「経済史演習」の内容を前提として進める。					

2018年度以降入学生	資産運用論	P0701	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	資産運用論	P701	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	加藤 康之		前期	水曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	資産運用に関する基礎的な理論とその実務への応用を習得する。特に実務への応用に重点を置く。具体的な実務テーマを設定した上で、その背景にある理論を学習し具体的な実証研究を行う。対象の分野は資産配分、ファクターモデル、スマートベータ、債券ポートフォリオ、ESG投資、パフォーマンス評価、リスク管理、イベントスタディなどを予定している。講義に加え、実際のデータを使った分析演習を毎回行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	資産運用に関する基礎理論、データ選択、分析手法が習得できる。実務的な資産運用テーマに対し、自分でデータや分析手法を選択し実際に分析して結果を出すことができる能力を身に着けることを目標にする。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入部：機関投資家の運用プロセス 2. 資産配分の効果とリスク管理 3. ポートフォリオの最適化とリスクの低減 4. マルチファクターモデルとポートフォリオ構築 5. スタイル分析とアクティブリスクの管理 6. プライスドファクターとスマートベータの構築 7. ESGファクターとポートフォリオ構築 8. 不確実下のキャッシュフロー評価と投資意思決定 9. イールドカーブの推定 10. LDI(負債指向投資)と債券ポートフォリオの構築 11. 資産運用のリスク管理—VaRとリスクバジェット 12. 為替リスク管理とオーバーレー 13. イベントスタディ 14. 個人の資産運用と機能的アプローチ 15. まとめ <p>[授業方法]授業は、講義、論文購読、演習課題(宿題)のセットで進める。特に講義毎の演習課題(発表を含む)を重視し、具体的な分析手法の習得を狙う。</p>					
④授業外学習	毎回の授業終了時に示す課題について、レポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	各テーマに沿った書籍や論文をその都度紹介する。					
⑥成績評価方法	提出された講義毎の演習課題およびその発表。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	随時受け付けますが、メールにて事前アポを取ってからお願いします。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	ポートフォリオ理論	P0702	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	ポートフォリオ理論	P702	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		前期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	本講義では資産運用理論を体系的に学習する。前半では、投資家の選好（効用、目的関数）、ポートフォリオの最適化を扱う。後半では、ポートフォリオ（取引戦略）の構築に重要なリスクとリターンとの関係を扱う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ポートフォリオの最適化や均衡、ファクターなどの資産運用理論の習得を目指す。資産価格理論（アセットプライシング）の知識を得ることができる。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション ファイナンス数学の基礎、資産価格理論の基礎 2. (テキスト2章) Preference 期待効用、規範vs実証、各種の効用関数 3-4. (テキスト3章) Mean-variance investing 分散効果、平均分散最適化、Black-Littermanモデル、平均分散最適化の欠点、代替的なウェイト法 5-6. (テキスト4章) Investing for the long run 動的最適ポートフォリオ、動的計画法、マルチンゲール法、リバランスプレミアム、取引コスト、負債の考慮 7. (テキスト5章) Investing over the life cycle 人的資本の考慮、ライフサイクル、投資ホライズンの効果 8-9. (テキスト6章) Factor theory ファクター理論、CAPM、均衡、プライシングカーネル、マルチファクターモデル、多期間における数理モデル、リスクプレミアムの数理モデル、効率的市場仮説 10. (テキスト7章) Factor マクロファクター、ボラティリティ、Fama-Frenchファクターモデル、バリュー、サイズ、モメンタム 11. (テキスト8章) Equities エクイティプレミアム、disasterリスクモデル、ロンگرانリスクモデル、予測可能性 12-13. (テキスト9章) Bonds アフィンモデル、金融政策、マクロファクター、インフレリスク、クレジット 14. (テキスト10章) Alpha (and the low-risk anomaly) アルファ、低リスクアノマリー 15. (テキスト14章) Factor investing ファクター投資 <p>[授業方法] 各回の講義のほか、事例や新聞記事などをもとにしたディスカッションがある。</p>					
④授業外学習	予習および復習、課題（数回程度）					
⑤テキスト・参考書等	<p>Andrew Ang (2014) Asset Management: A Systematic Approach to Factor Investing, Oxford Univ Pr. (邦訳：『資産運用の本質—ファクター投資への体系的アプローチ』、金融財政事情研究会、2016年) 上記のテキストを利用するので、授業に持参のこと。講義ノートも配布する。 以下のテキストも参考になる。</p> <p>John Campbell (2017) Financial Decisions and Markets: A Course in Asset Pricing, Princeton Univ Pr. John Cochrane (2005) Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell and Luis Viceira (2002) Strategic Asset Allocation: Portfolio Choice for Long-Term Investors, Oxford Univ Pr. (邦訳：『戦略的アセットアロケーション—長期投資のための最適資産配分の考え方』、東洋経済、2004年) Antti Ilmanen (2011) Expected Returns: An Investor's Guide to Harvesting Market Rewards, John Wiley & Sons.</p>					
⑥成績評価方法	課題レポート、最終レポート					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンス数学の基本的な知識が必要なため、講義内でも解説するが、苦手なものは数学関連の講義も受講し、数学面の理解に取り組むこと。					

2018年度以降入学生	実証ファイナンス	P0703	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	実証ファイナンス	P703	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		後期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	理論と実証は両輪であり、近年は実証分析の発展が目覚ましい。本講義では、ファイナンス理論をもとに、金融市場における'ファクト'(実証)を学び、金融市場への理解を深める。株式や金利、通貨、デリバティブといった各アセットクラスのリターンや、ファンドのパフォーマンスに関する重要な論文を学習する。教員による講義のほかに、参加者は指定された論文を簡潔にまとめて発表することも行う(1人1回あたり20分程度を予定、数回)。また、実証分析の統計的手法の解説とMatlabやMathematicaなどを使った実習も行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	資産運用理論の実践に役立つ、理論をもとにした実証研究に関する知識の獲得を目指す。資産価格理論(アセットプライシング)の知識を得ることができる。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 講義の概要、資産価格理論、リスクプレミアム、ファクターモデル、リターンの予測可能性 2-5. 分析手法の統計学 回帰分析(時系列、クロスセクション、パネル)、分位別ポートフォリオ、イベントスタディ、自己相関、不均一分散、クラスター、GRS検定 Matlabによる実習 6-7. 株式：バリュー Fama and French(1998) Value versus Growth: The International Evidence, JF. など 8. 株式：モメンタム Jegadeesh and Titman(1993) Returns to buying winners and selling losers: Implications for stock market efficiency, JF. など 9. 株式：収益性、投資 Novy-Marx(2013) The other side of value: The gross profitability premium, JF. など 10-11. ファンドパフォーマンス Elton and Gruber(2013) Mutual Funds, Handbook of the Economics of Finance. など 12. 金利 期待仮説、予測可能性 Cochrane and Piazzesi(2005) Bond Risk Premia, AER. など 13. オプション、ボラティリティ Mathematicaによる演習、VIX Carr and Wu(2009) Variance risk premiums, RFS. など 14. 通貨 Burnside, Eichenbaum and Rebelo(2011) Carry Trade and Momentum in Currency Markets, ARFE. など 15. クロスアセット Asness, Moskowitz and Pedersen(2013) Value and momentum everywhere, JF. など <p>[授業方法] 講義、計算演習、文献発表。</p>					
④授業外学習	予習および復習、課題(数回程度)。					
⑤テキスト・参考書等	<p>講義ノートを毎回配布する。 初回講義で発表論文を指定する。 以下のテキストも参考になる。</p> <p>John Cochrane(2005) Asset Pricing, Revised Ed., Princeton Univ Pr. John Campbell, Andrew Lo, and A. Craig MacKinlay(1997) The Econometrics of Financial Markets, Princeton Univ Pr.(邦訳:『ファイナンスのための計量分析』、共立出版、2003年) William H. Greene(2011) Econometric Analysis, International 7th Ed, Pearson Education. Turan G. Bali, Robert F. Engle, and Scott Murray(2016) Empirical Asset Pricing: The Cross Section of Stock Returns, Wiley.</p>					
⑥成績評価方法	論文発表、議論への参加、課題レポート					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	「ポートフォリオ理論」を履修していることが望ましい。もし履修していない場合には教員の許可が必要。また、ファイナンス数学の基本的な知識が必要なため、講義内でも解説するが、苦手なものは数学関連の講義も受講し、数学面の理解に取り組むこと。					

2018年度以降入学生	債券投資とALM	P0704	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	債券投資とALM	P704	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	市川 達夫*		後期	木曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	機関投資家にとっての債券投資のあり方を学ぶ。まずは、金利の概念（リスク・リターン）を学習し、様々な分析手法や投資戦略を理解する。次にALM(Asset-Liability-Management)の枠組みにおける債券投資の位置づけを習得し、最終的には規制や会計などの定性要因などを考慮した上での債券投資の実際を概観する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	債券投資の基礎の理解を理論的な観点だけでなく、実務の世界での課題や制約、ALMの枠組みや定性的なリスク要因などを把握することを目的とし、定性要因も加えた総合的な視点から投資判断を行えることを目標とする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1～4回：債券投資の基礎 時間価値、デュレーション、コンベクシティ、金利の期間構造など債券投資の基本について講義する。</p> <p>第5～8回：債券投資の実践 デリバティブや外債投資の実際やリスク・リターン分析、投資手法について講義する。</p> <p>第9～11回：定性的なリスク要因 金利変動要因となる金融政策や財政政策、投資家動向、規制・会計動向について解説する。</p> <p>第12～13回：ポートフォリオ戦略とALM 銀行、保険会社、年金基金にとってのマルチアセットのポートフォリオやALM戦略の枠組みにおける債券の位置づけについて講義する。</p> <p>第13～15回：ケーススタディ 債券市場における過去の変動幅が大きく特異な動きがあった局面について解説、ディスカッションを行う。ケーススタディを通じながら投資戦略の立案プロセスを習得する。</p> <p>【授業方法】 各回ではできるだけ実務での応用例や最新のトピックスや課題にも触れながら講義を進めていく。また、2～3回に1度は演習またはディスカッションを含めた双方向の講義形式の時間を作る予定している。ディスカッションのテーマとしては、受講者が幅広い債券投資とALMの様々なテーマの中から興味あるものを自由に選び問題提起や投資戦略の立案をしてもらうアクティブ・ラーニング。</p>					
④授業外学習	ブルームバーグ等の情報端末からマーケット・データを取得し、講義で習得した市場動向を復習し、分析手法を応用して投資戦略について考察する。					
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書の指定は特になし。 ノートを毎回配布する。					
⑥成績評価方法	出席状況、ディスカッション・演習の参加状況およびレポートによる総合評価					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは、原則として毎週木曜日6時限前後のみとしますが、メールでの問い合わせは随時受け付けます。メールアドレスは講義時に伝えます。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	オプション理論	P0705	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	オプション理論	P705	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		前期Ⅱ	火曜日 土曜日	5時限 2時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学におけるもっとも重要なテーマの一つであるオプション理論における基礎的事項を、平易な設定やモデルの下で、その概念や重要性を理解できるように留意しつつ解説する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	オプションの価格付け理論におけるもっとも基本的な手法であるリスク中立化法について、自らプライシングの際に適切に利用できるレベルで理解することを目標とする。 また、オプション価格を実際に計算できるようになるために、BS公式の使い方を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 オプション概論 様々なオプションやその性質等について概説する。</p> <p>第2回 二項モデル① 二項モデルによる原資産価格過程の表現等について概説する。</p> <p>第3-4回 二項モデル② 二項モデルによるデリバティブの価格付け、及びリスク中立確率等について学ぶ。</p> <p>第5回 無裁定と状態価格 無裁定条件とリスク中立確率や状態価格等の関係について学ぶ。</p> <p>第6-7回 確率解析基礎 ブラック・ショールズモデルの理解に必要な確率解析の基礎を学ぶ。</p> <p>第8回 ブラック・ショールズモデル ブラック・ショールズモデルやその性質等について学ぶ。</p> <p>第9-11回 ブラック・ショールズの公式とグリークス ブラック・ショールズ公式の導出を複数の方法で行い、またグリークスについて学ぶ。</p> <p>第12回 ブラック・ショールズモデルの応用 ブラック・ショールズモデルについての様々な応用について概説する。</p> <p>第13-14回 測度変換と価格付け デリバティブ評価において非常に重要な測度変換法や、価格付けとの関係を学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ・発展的問題 講義全体のまとめや、その先の様々な課題について概説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p>					
④授業外学習	適宜課題等を講義内にて提示する。また、学習効果を高めるため講義前に前回範囲を復習することを強く推奨する。					
⑤テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models,' Springer 2004. 木島正明・田中敬一、'資産の価格付けと測度変換、' 朝倉書店、2007。					
⑥成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限(夜)をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	期間構造モデル	P0706	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	期間構造モデル	P706	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		夏季集中	他		
①授業方針・テーマ	金融資産の現在価値は将来キャッシュフローを金利で割り引くことで算出されるので、金利のモデル化は実務上非常に重要なテーマである。また、金利には観測可能な期間構造が存在するので、観測と整合的かつ一貫性のあるモデルの構築が求められる。本講義では、代表的な金利期間構造モデルとそれを用いた金利デリバティブの価格付けについて説明する。また、最近この分野にはさまざまな変化が生じているので、それらの動向も簡単に紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	代表的な金利期間構造モデルとそれを用いたデリバティブなどの価格付けに関する知識を習得し、金利デリバティブの価格評価を自分で行えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>1. さまざまな金利 [単利と複利、スポットレート、フォワードレート、LIBOR、スワップ、OIS、債券と金利など]</p> <p>2-3. 金利期間構造の推定 [代表的な推定方法、ブートストラップ法など]</p> <p>4-6. デリバティブの価格付け [複製、伊藤の公式、マルチンゲール、リスク中立化法、リスクの市場価格、原資産が非市場性資産の場合など]</p> <p>7-8. スポットレートモデル [Vasicek、CIR、Hull-White、債券価格など]</p> <p>9. ツリーモデルによる評価 [二項ツリーモデル、三項ツリーモデルなど]</p> <p>10. アフィンモデルと金利期間構造の実証分析 [割引債価格、期間プレミアム、状態変数モデル、リスクの市場価格など]</p> <p>11. 債券と金利デリバティブ [先渡価格、先物価格、フォワード中立化法、フォワードLIBOR、Blackの公式、スワップションなど]</p> <p>12-13. HJMモデル [フォワードレート、リスク中立確率、マルコフモデル、MCシミュレーションなど]</p> <p>14. マーケットモデル [BGMモデル、LIBORマーケットモデル、SWAPマーケットモデル、期間構造モデルの表現など]</p> <p>15. トピック [マルチカーブモデル、ネガティブ金利への対応など]</p> <p>ただし、理解の定着度をみて一部の項目をスキップすること、逆に、解説を増やすこともある。</p> <p>[授業方法] 講義中心であるが、簡単な演習も行う。</p>					
④授業外学習	毎回の授業後の復習は知識の定着に欠かせない。複数回のレポート提出を求める。					
⑤テキスト・参考書等	期間構造モデルと金利デリバティブ、木島正明、朝倉書店。 Interest Rate Modeling, Andersen and Piterbarg, Atlantic Financial Press. Interest Rate Models - Theory and Practice:with Smile, Inflation and Credit, Brigo and Mercurio, Springer.					
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢・宿題等 (40%)、レポートの内容 (60%) をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	集中講義のためオフィスアワーは設定しない。質問等は講義の前後に受け付ける。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	参加者は「オプション理論」を履修していること、または「オプション理論」で扱う知識を既に持っていること。					

2018年度以降入学生	クレジットデリバティブ	P0707	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	クレジットデリバティブ	P707	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		後期	木曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<p>金融市場において近年特に発達の著しい分野の一つがクレジット（信用）に関わる証券である。社債のプライシングに始まり、倒産に対する保険と言えるCDS(クレジット・デフォルト・スワップ)、そしてリーマン・ショックの引き金ともなったCDO(債務担保証券) といった多くの証券に於いて、クレジットリスクの評価は重要な課題である。</p> <p>本講義では、標準的なクレジットリスクのモデリング・計量手法から発展的な内容、さらには近年注目されているCVA(信用価格調整) も含め様々な手法を身につけることを目的としている。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では構造モデル・誘導モデルといった代表的なクレジットモデルやコピュラを用いた相互依存関係を考慮したクレジットリスクの計量や証券の価格付け等について学ぶ。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 クレジット・デリバティブ 社債、優先・劣後証券、CDS、CDO等様々なクレジット証券やヘッジについて概説する。</p> <p>第2回 クレジット・スプレッド クレジット・スプレッドの解説やインプライド倒産確率等について解説する。</p> <p>第3－5回 誘導型モデル① ハザード関数と社債価格やクレジット・スプレッドの関係等について解説する。</p> <p>第6－8回 誘導型モデル② 斉時・非斉時ボワソン過程やCox過程、その応用について解説する。</p> <p>第9－10回 構造型モデル① Mertonモデル、Black-Coxモデルなどの構造型モデルについて解説する。</p> <p>第11回 構造型モデル② より発展的な構造型モデルやその応用について解説する。</p> <p>第12－13回 デフォルトの相互依存関係 コピュラを用いたデフォルトの相互関係の創出やインプライド相関等について学ぶ。</p> <p>第14回 CDO CDO（債務担保証券）の価格付けに関する理論について解説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p>					
④授業外学習	<p>適宜課題等を講義内にて提示する。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>F. J. シェーンブッハー『クレジット・デリバティブ』東洋経済新聞社 2005年 D. ダフィー、K. J. シングルトン『クレジット・リスク』共立出版 2009年 Bielecki, Jeanblanc, Rutkowski, 'Credit Risk Modeling', Osaka University Press, 2009 富安弘毅『カウンターパーティーリスクマネジメント』金融財政事情研究会 2010年</p>					
⑥成績評価方法	<p>出席状況・レポート等により判断する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>原則として毎週木曜2限（夜）をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）						

2018年度以降入学生	上級オプション理論	P0708	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	上級オプション理論	P708	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	竹原 浩太		後期	火曜日		4時限
①授業方針・テーマ	2項ツリーモデルやBlack-Scholes-Mertonらのモデル・公式の発見によりめざましい発展を遂げたオプション市場は、その後徐々にこれらのモデルの仮定とは不整合をきたすようになっていった。また、オプション自体の構造もより複雑化し、そうした状況に対応するようにより実際のモデル・洗練された手法が開発され続けている。 本講義では、こうしたエキゾチック・オプションに対するプライシングや、様々なモデリング手法について学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義ではバリアオプションやアベレージオプション等のエキゾチック・オプションに対する価格付けや、局所ボラティリティモデル、確率的ボラティリティモデル、ジャンプモデル等について学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1－2回 基礎的事項の復習 Black-Scholesモデルやリスク中立評価法・オプション価格公式の復習、及びバリアオプションのプライシング等について解説をする。</p> <p>第3－4回 局所ボラティリティ・モデル① 局所ボラティリティ・モデルの枠組みやインプライド・ボラティリティとの関係等について解説する。</p> <p>第5－6回 局所ボラティリティ・モデル② CEVモデルやDisplaced Diffusion Model等やその応用について解説する。</p> <p>第7－8回 確率的ボラティリティ・モデル① HestonモデルやStochastic Skew Model等について解説する。</p> <p>第9回 確率的ボラティリティ・モデル② 近年多くの分野で導入されているSABRモデルと、その応用について解説する。</p> <p>第10－12回 ジャンプ・モデル① Mertonモデルを中心にジャンプを導入したモデルについて解説する。</p> <p>第13回 ジャンプ・モデル② より一般のジャンプモデルやLevy過程等について解説をする。</p> <p>第14－15回 近似手法 複雑なモデル下での金融派生証券の価格付けに対する近似手法について、『漸近展開法』を含め解説する。</p> <p>[授業方法] 基本的に講義による。</p>					
④授業外学習	適宜課題等を講義内にて提示する。					
⑤テキスト・参考書等	S.E.Shreve, 'Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models,' Springer 2004. J.Gatheral, 'The Volatility Surface,' John Wiley & Sons, Inc., 2006.					
⑥成績評価方法	出席状況・レポート等により判断する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限(夜)をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	金融リスク管理概論	P0709	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク管理概論	P709	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	吉羽 要直		前期	水曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融機関でのリスク管理実務全般を視野に入れ、金融リスクとは何か、どのような枠組みでリスク管理が行われているのか、その背景にある考え方などについて整理する。特にバーゼル銀行監督委員会による国際合意など、最近の国際的な金融監督規制の変化を踏まえ、従来の定量的なリスク管理手法に加え、金融機関のリスク管理実務に及ぼしている影響について議論する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	多様化する金融リスクを理解し、定量的なリスク管理を中心にリスク管理実務に応用可能な考え方を身につけることを目指す。変化する金融規制を踏まえ個別金融機関でのリスク管理に関する理解を深めるとともに、金融システム全体でのリスク管理の議論についての関心も深める。講義では、各種論点についての議論を通じて問題意識を深めることも目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>講義では、情報の整理に加えて双方向の議論を重視して行う。内容に応じて、最近の内外における事例紹介をもとにしたケーススタディなども行う（適宜各自に課題を出す予定）。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 金融リスクとは何か（リスクと収益性、リスクと不確実性など） 2. 金融リスクへの備え（引当と資本、自己資本規制、経済資本と規制資本） 3. 金融リスクのカテゴリーの整理（信用、市場、オペレーション、流動性、レピュテーション他）とリスク管理の実務的アプローチ 4. リスクの定量化とリスク量指標（Value-at-Riskと期待ショートフォール） 5. リスクカテゴリー別（信用、市場）の定量化モデル 6. リスク指標の性質と資本配賦 7. リスク量の統合と全社的リスク管理 8. リスクモデルの検証とモデルリスク 9. ストレステスト 10. リスク定量化の問題と対応策 11-12. 国際金融危機後における国際的な金融規制の変化 13. リスクガバナンス（リスクコミュニケーションとリスクアピタイト・フレームワーク） 14. 金融システムとシステムミックリスク 15. まとめ・補論 <p>授業方法：上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向なども含めて講義する。講義では、内外の監督当局や金融機関が公表した資料をもとにケーススタディ、ディスカッションを行う。</p>					
④授業外学習	講義で扱った関連事項について、自分自身の問題意識に基づいてレポート課題に取り組む。					
⑤テキスト・参考書等	以下の参考書の他に適宜講義中に参考文献を指定する。 (参考書) Risk Management and Financial Institutions, 5th Edition (Hull, 2018, Wiley) Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools, Revised Edition (McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton University Press)					
⑥成績評価方法	課題・レポートの提出（60%）、講義における議論への貢献（40%）					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しない。質問・相談等については、事前にメールで日程を調整のうえで、研究室で対応する。メールの宛先は最初の講義で指定する。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	リスク管理に関する導入的講義であるため、他のリスク管理関連の講義の受講を特に前提としない。金融実務に関する経験があることが望ましいが、必須でない。講義の内容は、部分的に入れ替え・変更になることがある。					

2018年度以降入学生	マーケットリスク管理	P0710	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	マーケットリスク管理	P710	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	吉羽 要直		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、価格が観察可能な金融資産が有する価格変動を市場リスクとして定量的に把握し、運用方針のもとで適切な管理を行うための基礎知識を整理する。リスク計測手法については、複数の確率的アプローチによるリスク計量化手法を比較することで各手法の利点・注意点を明らかにすることを旨とする。同時に、市場リスク管理を巡る様々な環境変化について、特にバーゼル銀行監督委員会による自己資本規制の変化の影響など、制度的要因についても理解を深める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	市場リスク管理に関する汎用的な基礎知識を得ることを主目的とし、金融リスクの多面的な理解とリスク管理の実践に応用可能な考え方を身につけることを旨とする。具体的には、実際の資産価格データからRなどの統計分析ソフトでリスク量の計測を行うことができ、かつ計算したリスク量の解釈、活用上の留意点を考察できるようにする。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>本講義では、リスク管理実務で用いられている手法を想定し、その数学的な根拠や性質について整理する。市場リスクの定量化に関しては、扱いが比較的容易な株式を想定して実際の計算を行うなどのケーススタディを行う。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入、市場リスクの定義 2. 市場リスクの把握・管理の枠組み 3. バーゼル自己資本規制における市場リスクの扱い 4. 市場リスクの定量化：概論 5. 分散共分散法と正規分布近似 6. ヒストリカル法 7. 感応度と金利リスク 8. シミュレーション法 9. バックテストとモデルの検証 10. ボラティリティ変動モデルと条件付モデル 11. 極値と安定分布 12. 接合関数の利用 13. マルコフスイッチモデル 14. 流動性リスクとの関係 15. まとめ・補論 <p>授業方法：上記の各内容に関して講義資料および関連資料に言及しつつ、最近の金融実務における動向に沿って講義するほか、各種ケーススタディやレポート課題に対する議論に焦点を当て、実際に市場リスク管理を行える素地を養う。</p>					
④授業外学習	講義で学んだ手法などを用いて、実際の市場データを用いて自分の興味のあるポートフォリオを作成し、統計分析ソフトRを用いてその市場リスクを把握する。					
⑤テキスト・参考書等	以下の参考書の他に適宜講義中に参考文献を指定する。 (参考書) Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools, Revised Edition (McNeil, Frey, and Embrechts, 2015, Princeton University Press)					
⑥成績評価方法	課題・レポートの提出 (60%)、講義における議論への貢献 (40%)					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しない。質問・相談等については、事前にメールで日程を調整のうえで、研究室で対応する。メールの宛先は最初の講義で指定する。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	リスク管理の入門である「金融リスク管理概論」のほか、市場データを用いたリスクの定量化を行えるようにするため、「ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)」、統計分析ソフトRでのデータ分析を扱う「金融データサイエンス」を事前に受講されたい。実践に焦点を当てることで、講義の内容が部分的に入れ替え・変更になることがある。					

2018年度以降入学生	信用リスク管理	P0711	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	信用リスク管理	P711	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		後期	月曜日		4時限
①授業方針・テーマ	金融商品の発行体や取引先が債務を履行できなくなる状態をデフォルトと呼び、デフォルトにより被る直接的あるいは間接的な損失の可能性を信用リスクという。本講義では、金融機関における信用リスクの計量化手法について金融工学の立場から説明する。また、最新のテーマも適宜取り上げる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業の信用リスク評価ツールとして使われるさまざまな手法を理解する。さらに、ポートフォリオの信用リスク量の評価手法を、近似法もあわせて習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>1－2. デフォルトと信用リスク、デフォルト確率とその期間構造 [講義の概観、デフォルトと信用リスク、生存時間解析、データの種類と推定手法など]</p> <p>3－5. 企業の信用リスク評価モデル [線形判別分析、一般化線形モデル、二項ロジット・プロビットモデル、逐次モデル、順序モデル、確率選択モデル、比例ハザードモデル、サポートベクターマシンなど]</p> <p>6－7. リスクの尺度 [VaR(バリュアットリスク)、期待ショートフォール、コヒーレントリスク尺度など]</p> <p>8. デフォルトのモデル化 [状態空間モデル、企業価値モデル、誘導型モデルなど]</p> <p>9－10. デフォルト関連のモデル化 [デフォルト相関、デフォルト時刻の同時分布、条件付独立モデル、伝播デフォルトモデル、コピュラモデルなど]</p> <p>11. CreditMetrics [単一資産の場合、ポートフォリオの場合、CM2Sモデルなど]</p> <p>12. ファクターコピュラモデル [1ファクター・ガウシアンコピュラモデル、コリレーション・スマイルなど]</p> <p>13. 極限損失分布とBIS規制 [大数の法則、極限損失分布、バーゼルIIのフォーミュラなど]</p> <p>14. クレジットデリバティブの価格付け [シングルネームCDS、レバレッジ型クレジットデリバティブなど]</p> <p>15. 関連する重要なトピック [将来価値ベースのリスク計測の考え方、観測確率とプライシングのための確率、金利リスクと信用リスクの統合評価など]</p> <p>上記の内容はやや盛り沢山なので、理解の定着度をみて取り扱う項目の取捨選択を行うこともある。</p> <p>[授業方法] 講義中心であるが、簡単な演習も行う。</p>					
④授業外学習	知識の定着には毎回の講義後の復習が必須である。複数回のレポート提出を求める。					
⑤テキスト・参考書等	室町幸雄 (2007)、信用リスク計測とCDOの価格付け、朝倉書店。 木島正明・小守林克哉 (1999)、信用リスク評価の数理モデル、朝倉書店。 A.McNeil, R.Frey, P.Embrechts, Quantitative Risk Management - concepts, techniques and tools -, Princeton University Press.					
⑥成績評価方法	課題やレポートの内容をもとに評価する。講義への参加姿勢・宿題等 (40%)、最終レポートの内容 (60%) をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	丸の内サテライトキャンパスにて水曜4限を予定 (変更があれば連絡する)。ただし、事前にメールで muromachiyukio@tmu.ac.jp 宛てに連絡し、アポイントメントをとること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	「金融リスク管理概論」「確率解析」「上級確率解析」を履修していること、または、これらの講義で扱う知識を既に持っていること。経済学部水準の数学および統計学の知識を有することが講義内容の理解のためには必要である。「オプション理論」も履修していることが望ましい。					

2018年度以降入学生	企業価値論	P0736	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	経営分析特論	P012	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志		前期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<p>スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月）、伊藤レポート（経済産業省、2014年8月）、伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月）、コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月、改訂版2018年6月）が公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、機関投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROE、ROA、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業価値の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。</p>					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について、自ら仮説を立て、検証できるようになること。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（日本経済の再生と企業価値向上） 2. 財務諸表の概要と企業価値評価 3. 会計指標（KPI）と企業価値評価 4. 機関投資家のガバナンス改革と企業価値（スチュワードシップ・コード） 5. 企業のガバナンス改革と企業価値（コーポレートガバナンス・コード） 6. 企業開示制度改革と企業価値（伊藤レポート、伊藤レポート2.0） 7. 三大ガバナンス改革と企業価値（まとめ） 8. 現金保有と企業価値 9. 資本構成と企業価値 10. 株主還元策と企業価値 11. インセンティブと企業価値 12. エンゲージメント（企業との対話）と企業価値 13. ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 14. M&Aと企業価値 15. まとめ <p>【授業方法】 講義、グループによる発表、ディスカッションを組み合わせる授業を行う。</p>					
④授業外学習	<p>リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>伊藤レポート（経済産業省、2014年） 伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年） スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年、改訂版2017年） コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年、改訂版2018年） スティーブン・ボーゲル『日本経済のマーケットデザイン』（日本経済新聞社、2018年） 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） 伊藤邦雄『新・企業価値評価』（日本経済新聞、2014年） 手島直樹『ROEが奪う競争力』（日本経済新聞社、2015年） 柳良平『ROE革命の財務戦略』（中央経済社、2015年） 菊地正俊『日本株を動かす外国人投資家の設け方と発想法』（日本実業出版社、2017年） 水口剛『ESG投資』（日本経済新聞社、2017年） 日本証券アナリスト協会『価値向上のための対話』（日本経済新聞出版社、2017年） 池尾和人・幸田博人『日本経済再生25年の計』（日本経済出版社、2017年） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文</p>					
⑥成績評価方法	<p>発言などによる授業に対する積極的貢献（30%）、発表（20%）、レスポンスペーパー（20%）、期末レポート（30%）によって評価する。</p>					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>経営学プログラム及び経済学プログラムの学生は受講できない。</p>					

2018年度以降入学生	プログラミング基礎	P0712	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	プログラミング基礎	P712	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	小池 祐太		前期Ⅰ	土曜日	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	まず、インタプリタ言語及び商用ソフトウェアの例としてMatlab、Mathematicaを採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。次にコンパイラ言語の代表例としてC言語を採用し、プログラミング基礎に関する講義および演習を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	Matlab、MathematicaとC言語の基礎を習得することを目的とする。それらを学ぶことで、他のプログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できるようになることが、授業の目標である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 プログラミングとは インタプリタ型言語とコンパイラ型言語について説明し、これらの言語がファイナンスにおいてどのように用いられているかを講義する。また、開発環境と商用ソフトウェアについてその概要を解説する。</p> <p>第2回 Matlabの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例として、他の講義でも使用するMatlabを用いて、その利用方法に関して演習を行う。</p> <p>第3～4回 Mathematicaの基本と演習 インタプリタ型言語や商用ソフトウェアの例として数式処理ソフト Mathematicaを用いて、代数計算、微積分、グラフィックス、リスト、関数、数値積分、シミュレーション、最適化計算の演習を行う。</p> <p>第5～6回 C言語によるプログラミングの基本と演習 コンパイラ型言語の代表としてC言語を採用し、開発環境を準備する。のちに簡単なプログラムの実装とコンパイルを行う。</p> <p>第7～8回 C言語におけるプログラムの流れの分岐と繰り返し</p> <p>第9～10回 C言語における配列と関数</p> <p>第11～12回 C言語におけるポインタと構造体</p> <p>第13～14回 C言語におけるファイル処理とライブラリの利用</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(授業方法) 各項目の講義を行った後、演習を実施する。</p>					
④授業外学習	毎回の授業終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	授業中に配布するレジュメに沿って講義を行う。 参考書：柴田望洋著「新・明解C言語 入門編」(SBクリエイティブ 2014年) 定価2,484円					
⑥成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、プログラミング言語や商用ソフトウェアを効率的に学習・導入できているかを判断し、評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	土曜日の3時限目とする。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	プログラミングに関する特別な予備知識は仮定しない。					

2018年度以降入学生	金融数値解法	P0713	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	金融数値解法	P713	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	小池 祐太		後期Ⅰ	土曜日	1時限、2時限	
①授業方針・テーマ	高度に発達した今日の金融市場において、また複雑化した金融派生証券をはじめとする諸問題について、例えばBlack-Scholes式のような解析解を得ることは大変困難である。こうした諸問題に対応するため、多くの数値計算手法が学界・実務の双方から提案・適用されている。本講義では、主に金融派生証券の価格評価を念頭に、さまざまな数値解法について理解するとともに、実際の問題への応用を通してその手法を身につけることを目標とする。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ツリーモデル・常微分方程式及び偏微分方程式の数値解法について学び、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことを通して身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	<p><<授業計画内容>></p> <p>第1回 2項ツリーモデル① ヨーロッパオプションに対して2項ツリーの構築及びオプション価格の計算法・原理及び諸注意を学ぶ。</p> <p>第2回 2項ツリーモデル② バリアオプションやアメリカンオプションに対する2項ツリーを用いた価格評価について学ぶ。</p> <p>第3回 2項ツリーモデル③ 2項ツリーモデルを用いたリスク感応度 (Greeks) の評価について学ぶ。</p> <p>第4回 演習① 第3回までに学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第5回 偏微分方程式の数値解法① 有限差分法 (陽解法) による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第6回 偏微分方程式の数値解法② 有限差分法 (陰解法) による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第7回 偏微分方程式の数値解法③ 有限差分法 (Crank-Nicolson法) による偏微分方程式の数値解法やその特性について学習する。</p> <p>第8回 演習② 第5-7回までに学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第9回 偏微分方程式の数値解法④ 自由境界値問題に対する解法を学習する。</p> <p>第10回 演習③ 第9回で学んだ手法について、実際にプログラムを作成し数値計算を行うことで、さまざまな性質や注意について実際に学ぶ。</p> <p>第11回 数値積分 さまざまな数値積分法について学び、実際にプログラムを作成する。</p> <p>第12回 常微分方程式の数値解法 Euler法やRunge-Kutta法等の常微分方程式に対する数値解法を学ぶ。</p> <p>第13回 Fourier変換法① Fourier変換を用いたオプション価格評価法について学習する。</p> <p>第14回 Fourier変換法② 高速フーリエ変換 (FFT) 等の手法について学習する。</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】 各項目の講義を行った後、演習を実施する。</p> <p>【授業外学習】 演習終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。</p>					
④授業外学習	演習終了時に出す課題について、レポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	授業中に配布するレジュメに沿って講義を行う。 参考書：森平爽一郎・小暮厚之著「コンピューテーショナル・ファイナンス」(朝倉書店 1997年) 定価4,536円 他にも講義中に適宜指示する。					
⑥成績評価方法	数回のレポート課題で総合的に評価する。 ・レポート課題については、到達目標に基づき、ツリーモデル・常微分方程式及び偏微分方程式の数値解法について、その原理を理解するとともに応用上の諸問題についても、実際に自ら数値実験を行うことができているかを判断し、評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	土曜日の3時限目とする。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	「プログラミング基礎」を履修済みであること。					

2018年度以降入学生	シミュレーション	P0714	経営学C	経済学C	ファイナンスA	2単位
2017年度以前入学生	シミュレーション	P714	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅰ	研究者養成	2単位
担当教員	藤原 哉*		後期	火曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	金融工学の研究／実務への応用を行うときには多次元の問題に直面することが多く、解析解で解決できる問題は限られており多くの場合には数値計算が必要となる。多次元での数値計算ではモンテカルロ法によるシミュレーションが有効である。本講義ではモンテカルロ法を自らプログラミングできるようになることを目標として計算手法の解説と数値実験演習を行う。プログラミング言語はMATLABを用いる。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	モンテカルロ法について、原理の理解、応用方法および注意点を理解し、自らの問題を解くためのプログラムが作成できる基礎力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 MATLABでのプログラミング 関数の定義方法など演習に必要となるMATLABの基本を習得する。</p> <p>第2回 モンテカルロ法の原理 大数の法則と中心極限定理を復習し、モンテカルロ法の原理を理解する。</p> <p>第3回 乱数の生成方法 一様乱数から目的の分布に従う乱数を生成する方法を習得する。</p> <p>第4回 確定的な問題への応用 モンテカルロ法により確定的な問題（面積計算など）を数値的に評価し、モンテカルロ法の基本を習得する。</p> <p>第5回 分散減少法 モンテカルロ法において誤差を小さくする方法である分散減少法の種類と原理を理解する。</p> <p>第6回 デリバティブの評価① 解析解をもつ確率微分方程式を用いてオプション価格の計算、誤差の評価、分散減少法の効果を確認する。</p> <p>第7回 デリバティブの評価② ヘッジシミュレーションの評価、感応度計算など実践的な問題に取り組む。</p> <p>第8回 確率微分方程式の離散近似① 連続的な確率微分方程式の代表的な離散近似手法（Euler-Maruyama, Milstein）を学習する。</p> <p>第9回 確率微分方程式の離散近似② 効率的な離散近似手法であるマルチレベル法を学習する。</p> <p>第10回 確率微分方程式の離散近似③ ジャンプを含む確率微分方程式の離散近似手法を学習する。</p> <p>第11回 デリバティブの評価③ バリアオプションなどエキゾチックオプションの評価方法を学習する。</p> <p>第12回 デリバティブの評価④ CDOなど多資産を原資産とするデリバティブの評価方法を学習する。</p> <p>第13、14回 ダイナミックプログラミングの評価① ファイナンスにおいてよく用いられるダイナミックプログラミングを数値的に評価するための離散近似を学習し、モンテカルロ法で評価する。</p> <p>第15回 最適停止問題の評価 ダイナミックプログラミングの一種である最適停止問題を解く手法であるLeast Square Monte-Carlo法を学習し、アメリカンオプションの評価に適用する。</p>					
④授業外学習	プログラム作成課題を適宜出すのでプログラム及びレポートを作成して提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	<p>テキストは講師作成の講義ノートを用いる。</p> <p>参考書：湯前祥二・鈴木輝好著「モンテカルロ法の金融工学への応用」（朝倉書店 2000年）定価3,888円</p>					
⑥成績評価方法	<p>数回のレポート課題で総合的に評価する。</p> <p>・レポート課題については、モンテカルロ法の原理の理解、応用方法および注意点の理解、自らプログラムを作成する力が出来ているか判断し、評価する。</p>					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>質問等はメールで受け付けます。</p> <p>連絡先は初回の講義時にお知らせします。</p>					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】「プログラミング基礎」を履修済みであることが望ましい。					

2018年度以降入学生	確率解析	P0715	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	確率解析	P715	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德		前期Ⅰ	土曜日	3時限、4時限	
①授業方針・テーマ	金融工学、数理ファイナンスの理解に必要な基礎的な数学（特に初等確率論）を学び、確率解析に必要な基礎的計算力を固める。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	確率統計についての盤石な知識をもとに科学的に推定・検定を行えるようになる。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概観、高校数学の復習Ⅰ（順列と組み合わせ、集合と写像） 2. 高校数学の復習Ⅱ（等差数列、等比数列、2項定理） 3. 確率論の基礎概念（確率空間、確率変数、期待値、分散） 4. 離散確率分布Ⅰ（ベルヌーイ分布、2項分布、幾何分布） 5. 離散確率分布Ⅱ（離散一様分布、ポアソン分布） 6. 離散確率分布Ⅲ（超幾何分布） 7. 連続確率分布Ⅰ（確率密度関数、確率分布関数） 8. 連続確率分布Ⅱ（ガンマ関数、ベータ関数） 9. 連続確率分布Ⅲ（一様分布、指数分布、正規分布、ガンマ分布、ベータ分布） 10. 連続確率分布Ⅳ（X二乗分布、t分布、F分布、対数正規分布） 11. 連続確率分布Ⅴ（確率母関数、モーメント母関数） 12. 連続確率分布Ⅵ（大数の法則、中心極限定理、多次元連続確率分布） 13. 連続確率分布Ⅶ（確率分布の和・差・積・商） 14. 統計Ⅰ（統計量、区間推定） 15. 統計Ⅱ（検定、最尤推定、回帰分析） 16. 期末試験 <p>[授業方法] 板書を用いた講述</p>					
④授業外学習	演習問題に取り組む。					
⑤テキスト・参考書等	<p>(テキスト) 藤田岳彦「弱点克服・大学生の確率・統計」、東京図書 2010。</p> <p>(参考書) K.L. Chung, "A Course in Probability Theory", 3rd ed., Academic Press 2001. M. Capinski and E. Kopp, "Measure, Integral and Probability", 2nd ed., Springer 2004. D. Williams, "Probability and Martingales", Cambridge University Press 1991. 原啓介「測度・確率・ルベーグ積分」、講談社 2017。 G. Casella and R.L. Berger, "Statistical Inference", 2nd ed., Duxbury 2002.</p>					
⑥成績評価方法	課題レポート＋期末試験＋若干の平常点					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	水曜日 17:30 - 19:00 とする。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	テキスト1章－6章の基本＋標準問題（47単元）を解く。 授業中に解けなかった問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。					

2018年度以降入学生	上級確率解析	P0716	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	上級確率解析	P716	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德		前期Ⅱ	土曜日	3時限、4時限	
①授業方針・テーマ	伊藤解析の基礎を学ぶ。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	伊藤の公式を使いこなし、ギルサノフ・丸山の定理やキャメロン・マルティンの定理を使ってデリバティブの価格を計算できる力を身につける。					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概観、デリバティブ、現在価値、無裁定 2. 2項1期間モデル、2項2期間モデル 3. リスク中立確率、ブラック・ショールズ偏差分方程式 4. ランダムウォーク、条件付き期待値 5. マルチンゲール、マルチンゲール表現定理 6. 離散伊藤公式、2項T期間モデルでのデリバティブ価格理論 7. 離散から連続へ 8. ブラウン運動、マルチンゲール 9. 伊藤の公式 10. 確率微分方程式 11. コルモゴロフ偏微分方程式 12. ギルサノフ・丸山の定理 13. キャメロン・マルティンの定理 14. ブラック・ショールズ・モデル 15. エキゾティック・オプション 16. 期末試験 <p>【授業方法】 板書を用いた講述</p> <p>【授業外講習】 演習問題に取り組む</p>					
④授業外学習	授業中に理解が不十分だった例題や問題は必ず復習して解き、課題も必ず提出すること。					
⑤テキスト・参考書等	<p>(テキスト)</p> <p>藤田岳彦「新版 ファイナンスの確率解析入門」、講談社 2017。</p> <p>(参考書)</p> <p>S.E. Shreve, "Stochastic Calculus for Finance I, The Binomial Asset Pricing Model", Springer 2005. S.E. Shreve, "Stochastic Calculus for Finance II, Continuous-Time Models", Springer 2004. J.M. Steele, "Stochastic Calculus and Financial Applications", Springer 2001.</p>					
⑥成績評価方法	課題レポート＋期末試験＋若干の平常点					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	[オフィスアワー] 水曜日 17:30 - 19:00					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	「確率解析」を履修していること。					

2018年度以降入学生	金融における最適化	P0717	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融における最適化	P717	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	室田 一雄		前期	月曜日	6時限	
①授業方針・テーマ	<p>ファイナンスのための最適化手法の概論である。 G. Cornuejols, R. Tutuncu: Optimization Methods in Finance, Cambridge University Press, 2006 の内容に準拠して、最適化理論の枠組みとアルゴリズムの概要を解説する。</p>					
②習得できる知識・ 能力や授業の目的・ 到達目標	<p>最適化の考え方とモデル化の枠組みとともに、最適化のもつ数学的な構造が問題解決に有効に利用できることを理解する。また、最適化ソフトウェアを使うための基礎的な技術を習得する。それによって、ファイナンスにおける数理解析力と問題解決力を習得する。</p>					
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス、最適化手法へのイントロダクション 2. 線形計画法：定式化 3. 線形計画法：双対性 4. 線形計画法：アルゴリズム 5. 線形計画法：ファイナンスへの応用 6. 非線形計画法：無制約 7. 非線形計画法：等式制約 8. 非線形計画法：不等式制約 9. 2次計画法：定式化と双対性 10. 2次計画法：アルゴリズム（内点法） 11. 錐計画法：定式化（2次錐計画、半正定値計画） 12. 錐計画法：応用（ロバスト最適化） 13. 整数計画法：定式化 14. 整数計画法：アルゴリズム（分枝限定法） 15. 最適化ソフトウェア <p>【授業方法】 板書による講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義内容の詳細を補う解説、より発展的な話題を扱う記事などをWEB上に資料の形で用意し、自主的な学習の手助けとする。</p>					
④授業外学習	<p>【授業外学習】 講義の前に、授業計画を見てテーマを把握する（予習）。講義の後に、自身のノートと講義資料を用いて講義内容を確実に理解する（復習）。WEB上に提示される発展的な話題については、各自の興味に応じて自主的に取り組む。授業の内容に関連して出題される演習課題に取り組み、レポートを提出する（2回程度）。</p>					
⑤テキスト・参考書等	<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G. Cornuejols, R. Tutuncu: Optimization Methods in Finance, Cambridge University Press, 2006. ・ 福島雅夫：非線形最適化の基礎、朝倉書店、2001。 ・ 田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・ 寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・ 藤澤 克樹、後藤 順哉、安井 雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 ・ 室田一雄、杉原正顯：線形代数I、II、丸善出版、2015、2013。 ・ 齋藤正彦：線型代数学、東京図書、2014。 ・ 杉浦光夫：解析入門I、II、東京大学出版会、1980、1985。 ・ S. Boyd and L. Vandenberghe: Convex Optimization, Cambridge University Press, 2004. 					
⑥成績評価方法	出席状況とレポート課題により評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>					
⑧特記事項（他の授業 科目との関連性）	<p>【前提知識】 線形代数の基礎（行列の記法と演算など）、 解析学の基礎（多変数関数の微分など）、 確率論の基礎（確率分布、期待値など）。</p>					

2018年度以降入学生	金融データサイエンス	P0718	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融データサイエンス	P718	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	林 高樹		前期	木曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・多変量解析を中心に、金融データの分析に有用な統計的データ分析について学習する。 ・今日学術研究や産業界への応用が進んでいる「データサイエンス」についても理解を広げ、金融分野への応用可能性について考える。 ・講義に加えて、授業内で適宜演習の時間を設ける。統計ソフトウェアとしてRを使用する。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多変量解析を中心とした統計的データ分析や機械学習の主な手法について理解し、目的に応じた分析手法を選べるようになる。 ・分析に使用するデータを自らの手で加工し、適切な手順で分析ができるようになる。 ・分析内容に関する口頭や文書によるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。 					
③授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 分散分析 3-6. 回帰分析 線形回帰、ロジット回帰、ポワソン回帰、一般化線形モデル、Lasso回帰 7-8. 判別分析 線形判別分析、2次判別分析、k-近傍法、単純ベイズ法 9-10. 次元縮約 主成分分析、多次元尺度構成法、対応分析 11. 潜在変数分析 因子分析、構造方程式モデリング 12. クラスタリング 階層型クラスター分析、k-平均法、モデルベース法 13-14. 機械学習による予測 決定木分析、アンサンブル学習、レコメンデーション分析、サポート・ベクター・マシーン 15. (期末試験) 課題プレゼンテーション、まとめ <p>※ 受講生の理解度や興味等に応じて、授業内容は適宜更新される。 ※ 補習授業と連携を取りながら、授業運営を図る予定である。</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を適宜出題する。 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 ・授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に話し合い、解消・解決に努めること。 					
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料は、授業内で適宜配布する。 ・参考書（必ずしも購入は必要ない） (1) 金明哲「Rによるデータサイエンス」森北出版 (2) James, et al.「An Introduction to Statistical Learning with Applications in R」Springer ・その他の参考文献は、授業内で適宜指示する。 					
⑥成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業貢献（出席、発言等）10%、宿題30%、期末プレゼンテーション・レポート60% ・期末プレゼンテーション・レポートのテーマについては、データ分析課題を出題する。具体的課題は授業内で出題する。 ・期末プレゼンテーション・レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現やプレゼンテーションの巧拙等を総合的に判断して評価する。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<ul style="list-style-type: none"> ・特には設定しない、質問・相談がある場合には個別に対応する。(事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい) 					
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>(他の授業科目との関連性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期「金融時系列解析」履修希望者は、あらかじめ当科目を履修することが望ましい。 					

2018年度以降入学生	金融時系列解析	P0719	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融時系列解析	P719	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	林 高樹		後期	金曜日		6時限
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> 金融時系列モデリング・解析の主要な統計的方法論を学ぶ。 理論を理解するだけでなく、実際のデータを分析する実践力を身につけることを目指す。 統計ソフトウェアとしてRを使用する。 					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 金融時系列解析の諸手法について理解を広げ、目的に応じたモデルや解析法を選べるようになる。 自ら手を動かして、適切な手順で時系列解析を実践できるようになる。 分析内容に関する口頭や文書プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が向上する。 					
③授業計画・内容 授業方法	<p>1. 導入 時系列解析の基礎、金融時系列データの実証的特徴等。Rの時系列オブジェクト等。</p> <p>2-5. 線形時系列モデル 定常性、自己相関関数、白色ノイズ、ARMAモデル、単位根非定常性、ARIMAモデル、季節性モデル、時系列誤差を持つ回帰モデル、長期記憶モデル等。モデルの同定・推定・診断・予測。</p> <p>6-7. 非線形時系列モデル TARモデル、マルコフ転換モデル等。</p> <p>8-9. ボラティリティ・モデル 分散不均一性、ARCH/GARCHモデル、GARCHモデルの拡張、確率ボラティリティ・モデル等。</p> <p>10-12. 多変量時系列モデル クロス相関行列、VARモデル、Granger因果性、インパルス応答、見せかけの相関、共和分、誤差修正モデル。多変量GARCHモデル等。</p> <p>13-14. 動的線形モデル 状態空間表現、カルマン・フィルター等。</p> <p>15. (期末試験) 課題プレゼンテーション、まとめ</p> <p>※ 授業の進捗や受講生のバックグラウンドにより、授業内容の変更や順序の入替等の発生する可能性がある。また、受講生の興味や必要性に応じて、上記以外の内容も扱う。</p> <p>授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義とRによる実習を並行して授業を進める。授業内容の理解度を測定し、かつ理解を深めるために授業内容を踏まえた宿題を適宜出題する。 					
④授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了後、授業内容を講義資料や参考書等で復習するとともに、授業内で出題された宿題に取り組み、指定された期日までに提出すること。 授業の内容理解を深め、コミュニケーション能力を高めるために、クラスメートとの間で授業内容に関する不明点や疑問点は積極的に話し合い、解消・解決に努めること。 					
⑤テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 講義資料は、授業内で適宜配布する。 参考書 <p>(1) Ruey S. Tsay, 'An Introduction to Analysis of Financial Data with R' (Wiley Series in Probability and Statistics). 2013.</p> <ul style="list-style-type: none"> その他、必要に応じて授業内で指示する。 					
⑥成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業貢献（出席、発言等）10%、宿題30%、期末プレゼンテーション・レポート60% 期末プレゼンテーション・レポートのテーマについては、データ分析課題を出題する。具体的課題は授業内で出題する。 期末プレゼンテーション・レポートは、目的と結果の整合性、内容の新規性、分析手法の選択の妥当性、分析手順の正確性、分析結果の解釈の的確性・客観性、結論の有用性・説得性、文章表現やプレゼンテーションの巧拙等を総合的に判断して評価する。 					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<ul style="list-style-type: none"> 特に設定しない。質問・相談がある場合には、個別に対応する。(事前にメールでアポイントメントを取ることが望ましい) 					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	<p>(他の授業科目との関連性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前期「金融データサイエンス」を履修済であることが望ましい。 					

2018年度以降入学生	アルゴリズム取引	P0737	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	アルゴリズム取引	P737	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德		前期	水曜日	3時限	
①授業方針・テーマ	本講義のテーマは、近年金融市場でのプレゼンスを増しているアルゴリズム取引である。投資や取引の微細構造を実務に沿って詳述しながら、数学モデルを積み重ね、実際の自動取引に必要な要素技術をひとつひとつ観ていく。数学的な完全さと実際の取引とのトレードオフという間（はざま）でどのように取引システムを設計・運用していくかについて解説する。金融取引の現場で、どのように数理的な技術が使われているかを学んでもらいたい。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下の内容を板書を中心に通常の講義形式で行う。また、適宜レポート課題を出す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概観・アルゴリズム取引入門 2－4. アルゴリズム取引と市場微細構造 5－7. アルファの数理 8－9. 機械学習とアルファ 10－12. 戦略の数理 13－14. 自動取引システム 15. アルゴリズム取引の将来 					
③授業計画・内容 授業方法	以下の内容を板書を中心に通常の講義形式で行う。また、適宜レポート課題を出す。 ・市場微細構造・アルファの数理・戦略の数理・自動取引システム					
④授業外学習	与えられた課題（プログラミングを含む可能性あり）を着実にこなす。					
⑤テキスト・参考書等	足立高德「アルゴリズム取引」（朝倉書店、2018）					
⑥成績評価方法	平常点と提出課題によって評価する。					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	水曜日 4時限（17：30－19：00）					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「確率解析」および「上級確率解析」を事前に履修していること。					

2018年度以降入学生	金融経済学	P0720	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融経済学	P720	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	原 千秋		前期	金曜日		5時限
①授業方針・テーマ	本講義では、ファイナンスと経済学の接点に位置する、金融経済学を概観する。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、証券価格とリスク配分を予測するための分析の枠組と、意思決定主体の効用関数（リスクに対する態度や時間割引率を含む）の特性とその含意を探る。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	簡単な証券市場の均衡モデルの証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、意思決定主体の効用関数の変化が、証券価格やリスク配分に与える影響を把握することも目指す。実務への応用のため、均衡モデルを正しく解釈することも重要である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに応じて決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 効用最大化と均衡 [効用最大化の定式化と解の一階の条件、完備市場、など] ② 線形関数による証券の価格付け [一物一価の法則、状態価格の定義、など] ③ 裁定取引と正值線形関数による証券の価格付け [裁定取引の定義、状態価格の正值性と裁定取引の非存在の同値性、など] ④ 証券価格の評価 [ファイナンスの基本定理、不完備市場における証券の評価額の幅、など] ⑤～⑥ 状態価格とリスク中立的確率 [ファイナンスの基本定理の証明、割引債とリスク中立的確率、など] ⑦ 期待効用 [独立性公理、曖昧さ回避的効用関数、など] ⑧～⑨ リスク回避的態度 [リスク回避度と効用関数の凹性、線形リスク許容度を持つ効用関数、など] ⑩ リスク尺度 [確率論的独立性、確率的支配、など] ⑪～⑫ 最適ポートフォリオ [平均分散効率的ポートフォリオ、リスクプレミアムなど] ⑬～⑭ 最適ポートフォリオの比較静学 [富水準に関する比較静学、期待収益率に関する比較静学、など] ⑮ リスクを伴う証券が複数存在する場合の最適ポートフォリオ [リスクプレミアムの含意、線形リスク許容度の最適ポートフォリオ、など] <p>[授業方法] 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、別途設けられた演習に出席し、その解法を演習担当者とともに確認することが求められる。</p>					
④授業外学習	指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。					
⑤テキスト・参考書等	Principles of Financial Economics' second edition, Stephen LeRoy and Werner, Cambridge University Pressを、教科書として用いる。 'Dynamic Asset Pricing Theory' third edition, Darrell Duffie, Princeton University Pressは、ファイナンス（特に価格付け）の標準的参考書である。 'Microeconomic Theory', Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press. は、ミクロ経済学（特に需要理論、期待効用、一般均衡理論）の標準的参考書である。 Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。					
⑥成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	面談希望者は、授業終了後に直接その旨を告げること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	学部レベルのミクロ経済学の知識を有していることが望ましいが、それがなくても、内容を十分に理解できるように、講義を進める予定である。					

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P0722	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (証券市場の均衡分析)	P722	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	原 千秋		後期	金曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本講義は、同じ担当者による前期開講科目「金融経済学」に引き続き、金融経済学の諸問題のうち、多期間モデル等、若干高度な内容を概観することを目的とする。ミクロ経済学と一般均衡理論の初等的な概念に触れつつ、不完備市場、平均分散分析、同値マルチンゲール測度等を解説する。均衡モデルの解釈や応用も随時紹介する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	証券市場の均衡モデルのうち、標準的だが若干複雑なモデルで証券価格とリスク配分を解く技法を習得することを目標とする。また、均衡分析から政策的含意を導く際の考え方を体得する。実務への応用のため、どのモデルがいかなる状況でもっとも良く当てはまるかを正しく理解することも重要である。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>講義内容を以下の通りに計画しているが、実際の進度は受講生のバックグラウンドなどに依りて決める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 消費に基づく証券価格付け [シャープ比、マーケットポートフォリオなど] ② 完備市場とパレート最適なリスク配分 [完備市場におけるオプションの役割、線形リスク許容度のパレート最適配分など] ③ 不完備市場における最適性 [制約条件付き最適性、実質的完備市場、など] ④ 平均分散分析 [価格付けカーネル、確率的割引因子、など] ⑤ 平均分散フロンティア [平均分散フロンティアの導出、平均分散効率性、など] ⑥ 資産価格形成モデル (CAPM) [平均分散効用関数、正規分布に従う証券リターン、など] ⑦ ファクターによる価格付け [ファクター構造、価格付け誤差、など] ⑧ 多期間証券市場モデルにおける均衡 [フィルトレーション、効用最大化問題の定式化、など] ⑨ 多期間モデルにおける裁定取引と正值線形関数による証券の価格付け [一物一価の法則、線形価格付け、など] ⑩ 動的に完備な市場 [二項モデルにおける動的に完備な市場、パレート最適な均衡配分、など] ⑪ 多期間モデルにおける証券価格の評価 [多期間モデルにおける評価関数、ファイナンスの基本定理、など] ⑫ 多期間モデルにおけるリスク中立的確率と価格付けカーネル [リスク中立的確率の下での期待リターン、証券の評価額の幅、など] ⑬ ポートフォリオ収益のマルチンゲール性 [収益過程の定義、自己充足的ポートフォリオの収益、など] ⑭ 多期間モデルにおける消費に基づく証券価格付け [条件付き分散、時間に関して加法分離的な効用関数による価格付け、など] ⑮ 多期間の資産価格形成モデル [二次効用関数による価格付け、マーケットポートフォリオなど] <p>[授業方法] 授業内容に関連する数学的問題より成る宿題を毎週課す。受講生は問題を独力で解くことを試み、別途設けられた演習に出席し、その解法を演習担当者とともに確認することが求められる。</p>					
④授業外学習	指定した教科書を授業前に読んでおくこと、また、授業では網羅しなかった証明の細部を授業後に確認すること。					
⑤テキスト・参考書等	<p>Principles of Financial Economics' second edition, Stephen LeRoy and Jan Werner, Cambridge University Press を、教科書として用いる。</p> <p>'Dynamic Asset Pricing Theory' third edition, Darrell Duffie, Princeton University Press は、ファイナンス (特に価格付け) の標準的参考書である。</p> <p>'Microeconomic Theory', Andreu Mas-Colell, Michael Whinston, Jerry Green, Oxford University Press. は、ミクロ経済学 (特に需要理論、期待効用、一般均衡理論) の標準的参考書である</p> <p>Jean-Pierre Danthine, John B. Donaldson 著、日本証券アナリスト協会編集、祝迫・可児・佐野・中田訳、ときわ総合サービス刊「現代フェナンス分析 投資価格理論」も、本講義の内容を網羅する有用な参考書である。</p>					
⑥成績評価方法	数理的な問題より成る、期末テストの点数に基づいて評価する予定である。受講生の適性や希望に応じて、期末テストは持ち帰り形式とする。場合によっては、宿題の点数を加味することもある。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	面談希望者は、授業終了後に直接その旨を告げること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	前期開講の「金融経済学」を受講したことを前提として、講義は進められる。					

2018年度以降入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P0725	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス特別講義 (Bloombergを活用した定量分析)	P725	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規、竹原 浩太、 室町 幸雄		夏季集中	他		
①授業方針・テーマ	金融の実務において頻繁に使用されるBloombergの端末で、実際にデータにアクセスしながらさまざまな基本的テーマに関する演習を行う。金融実務では適切なデータへのアクセスと定量分析手法の選択が重要であり、広範な種類のデータを保有し、かつ広範な分析ツールを備えたBloombergがよく使われるが、その使い方は決して簡単ではない。そこで、エキスパートの指導のもと、自分で端末を操作しながらさまざまなテーマの演習を行うことで、データへのアクセス方法と定量分析手法の取り扱いに習熟する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	Bloombergの端末によるデータへのアクセスとデータ分析の具体的な手法を習得する。Bloomberg端末は実務における必須ツールの一つと位置付けられるもので、これをどの程度有効に活用できるかは実務家にとって重要な技能の一つである。端末の機能を十分に活用できるようになることは決して容易ではないが、基本的な機能を自分で使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>毎回、1テーマごとに2コマ連続で講義を行う。前半に教員が理論的な説明を行い、後半にBloombergを用いた実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 債券 金利スワップ、アセットスワップ、Zスプレッド、OAS 物価連動債とインフレスワップ 物価連動債、インフレスワップ クレジットデリバティブ クレジット・デフォルト・スワップ (CDS)、クレジットリンク債 オプションとインプライド・ボラティリティ 上場オプション、Blackモデル、Normalモデル、インプライド・ボラティリティ (IV) スワップション Cap, Floor, スワップション、キャリブレーション 金利モデル Hull-Whiteモデル、Libor Market Model (LMM) 株式ポートフォリオ ポートフォリオの最適化、ファクターモデル、リスク管理、リターンの寄与度分解 VIX、バリエーションスワップ モデルフリー・インプライド・ボラティリティ (MFIV)、ボラティリティ・デリバティブ <p>授業外学習：資料をもとに復習をすること。特に、演習課題に関する復習は必須である。</p>					
④授業外学習	毎回のテーマの基礎知識の予習と授業内容の復習は必須である。					
⑤テキスト・参考書等	講義前あるいは講義時に配布。					
⑥成績評価方法	毎回の演習課題の内容で評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	集中講義のため、オフィスアワーは特に設定しない。必要があれば講義の前後の時間を使うこと。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)						

2018年度以降入学生	金融工学特別研究	P0568	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P548	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		前期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告					
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備					
⑤テキスト・参考書等	特になし					
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。					

2018年度以降入学生	金融工学特別演習	P0569	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融工学特別講義	P549	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅲ	研究者養成	2単位
担当教員	内山 朋規		後期	月曜日	5時限	
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。					
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告					
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備					
⑤テキスト・参考書等	特になし					
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別研究	P0570	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P511	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		前期	金曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。					
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワー：木曜4限（ただし第3木曜を除く）。 ただし、メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で予約すること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別演習	P0571	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生	金融リスク特別講義	P512	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	室町 幸雄		後期	金曜日	1時限	
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。 内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。					
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表者は入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワー：木曜4限（ただし第3木曜を除く）。 ただし、メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で必ず予約すること。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別研究	P0573	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生						
担当教員	足立 高德		前期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	金融リスク等を計測するための数理モデルと実装に関する基礎知識と技術の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク等を計測するための数理モデルの設計に必要な基礎知識と実装のためのプログラミング技術を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスク等を計測やモデルの実装方法に関する英語テキストの輪読を行う。</p> <p>毎回、担当者がテキストの内容を発表する。</p> <p>担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。</p> <p>数式に関しては逐一追跡する。</p> <p>必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。</p> <p>発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。</p> <p>内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。</p>					
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	不定、事前にメール (tadachi@tmu.ac.jp) で必ず予約すること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	金融リスク特別演習	P0574	経営学C	経済学C	ファイナンスB	2単位
2017年度以前入学生						
担当教員	足立 高德		後期	金曜日		2時限
①授業方針・テーマ	金融リスク等を計測するための数理モデルと実装に関する基礎知識と技術の習得					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク等を計測するための数理モデルの設計に必要な基礎知識と実装のためのプログラミング技術を習得し、実際に使えるようになることを目指す。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスク等を計測やモデルの実装方法に関する英語テキストの輪読を行う。</p> <p>毎回、担当者がテキストの内容を発表する。</p> <p>担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。</p> <p>数式に関しては逐一追跡する。</p> <p>必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。</p> <p>発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。</p> <p>内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。</p>					
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。					
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	不定、事前にメール (tadachi@tmu.ac.jp) で必ず予約すること。					
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必要である。					

2018年度以降入学生	ファイナンス演習	P0729	経営学C	経済学C	ファイナンス必修	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス演習	P729	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	浅野 敬志、足立 高德、 内山 朋規、北川 哲雄、 芝田 隆志、竹原 浩太、 室町 幸雄、吉羽 要直		後期	火曜日		5時限
①授業方針・テーマ	学生自らが興味関心のある問題の中から課題を設定し、検討内容を報告し、参加者と議論することを通して問題の解決を図る。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	問題の発見と解決の手順を経験的に学ぶ。この演習を経験することで、修士論文の研究の土台となる知識・能力を習得する。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>[授業方法]</p> <p>授業内容は参加者の発表とそれに関する議論であり、常に自発的な行動が求められる。まず、関心のある話題の中から特に惹かれるものを選び、その件に関する調査（テキストや論文などを読む）を行い、現状（何がどこまでわかっているか、何がわかっていないか）を把握する。次に、現状をもとに、さらに何がわかれば有益か、何を知りたいかを考えて、問題を設定する。そしてそれぞれの問題に適した手法を選択し、解決を図る。</p> <p>また、他のメンバーの発表を聞き、議論に参加することにより、知見を広め、自身の問題の解決に役立てる。</p> <p>具体的には以下を予定しているが、参加者の関心テーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。</p> <p>なお、関心のある分野・手法に応じて適宜グループ分けを行うこともある。</p> <p>第1回 オリエンテーション：本演習の説明、テーマ設定・サーベイ方法の説明 第2回 テーマの設定：学生が関心のあるテーマについて発表 第3回 テーマの設定（2回目）：テーマの改訂・決定 第4回 研究論文のサーベイ（1回目）：テーマに沿った研究サーベイ 第5回 研究論文のサーベイ（2回目）：サーベイの第2回目 第6回 論文の読み方の指導：論文精読のデモ 第7回 論文発表（1回目）：選んだ論文を精読し説明（1回目） 第8回 論文発表（2回目）：同上 第9回 論文発表（3回目）：選んだ論文を精読し説明（2回目） 第10回 論文発表（4回目）：同上 第11回 モデル構築・実証分析の指導：モデル構築・実証分析のデモ 第12回 研究の進捗状況の説明（1回目）：研究の進捗状況の説明、または関連論文を精読し説明。 第13回 研究の進捗状況の説明（2回目）：同上 第14回 研究の進捗状況の説明（3回目）：同上 第15回 まとめ：研究発表会：演習で行った研究成果の発表。</p>					
④授業外学習	上記の準備。毎回、入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	全体としては特に設定しない。テーマに応じて都度指示する。					
⑥成績評価方法	発表内容や取り組み姿勢などをみて総合的に評価する。					
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に設定しないが、質問・相談等は各教員の研究室で対応する。ただし、事前にメール等で予約しておくこと。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ファイナンスプログラムの必修科目である。 学生が興味関心のある問題に応じて、担当教員は変動する可能性がある。					

2018年度以降入学生	ファイナンス考究	P0731	経営学C	経済学C	ファイナンス必修	2単位
2017年度以前入学生	ファイナンス考究	P731	高度専門 職業人養成Ⅲ	高度金融専門 人材養成Ⅱ	研究者養成	2単位
担当教員	足立 高德、内山 朋規、 竹原 浩太、室町 幸雄、 吉羽 要直		前期	月曜日		3時限
①授業方針・テーマ	本講義では、高度な金融専門人材としての金融理論の応用能力の向上、金融実務に応用可能な各種スキルの向上を図る目的で、複数の具体的かつ実務的な課題を設定し、その問題に対して様々な角度から考察を加え、適切な答えを探すケーススタディを行う。 講義では、オプション理論、リスク管理、投資運用などの分野において課題を設定し、考察を加える。研究成果の発表・討議を経て、最終発表、討議を行う。					
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	上記の3つの分野におけるこれまでの習得知識を再確認し、具体的な課題を解くことを通じて問題発見・解決能力の向上を促し、実務に応用可能なレベルでの知識活用のあり方を学ぶ。					
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業方法：</p> <p>講義では、特定分野（例：証券投資、オプション理論、リスク管理など）における研究課題を予め設定し、複数のグループに分かれて各課題についてのグループ内でのディスカッションや各自の考察を通じて研究を深め、その成果をグループごとにまとめて発表し、質疑応答する。 具体的には以下を予定しているが、参加者の関心テーマや進捗状況、水準によって適宜、柔軟に変更する。</p> <p>各講義の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ケースAの説明、チーム編成 2-4. 中間発表（1）～（3） 5. 最終発表 6. ケースBの説明、チーム編成 7-9. 中間発表（1）～（3） 10. 最終発表 11. ケースCの説明、チーム編成 12-14. 中間発表（1）～（3） 15. 最終発表 <p>授業外学習：</p> <p>各講義で適宜事前の考察、ディスカッションを行っておくこと。</p>					
④授業外学習	上記の準備。入念な準備が必要である。					
⑤テキスト・参考書等	講義において適宜参考資料を指定・配布する。					
⑥成績評価方法	課題の発表内容・レポートの提出等（60%）、講義における議論への貢献（40%）					
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問・相談等は各教員の研究室で対応する。事前にメール等で予約しておくこと。					
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本科目は原則として二次数より履修可能となる、ファイナンスプログラムの必修科目である。					

Ⅲ 授業概要

(博士後期課程)

2018年度以降入学生	経営学特殊研究	P0401	2単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義	P623	2単位
2012年度以前入学生	経営学特殊研究（前半）	P468	計4単位
担当教員	桑田 耕太郎	前期	金曜日（隔週） 5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>		
④授業外学習	指定された文献を熟読するとともに、問題点や議論を必要とする論点をもって授業に参加すること。		
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。		
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、 kkuwada@tmu.ac.jp にメールして下さい。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。		

2018年度以降入学生	経営学特殊演習	P0402	2単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義	P624	2単位
2012年度以前入学生	経営学特殊研究（後半）	P468	計4単位
担当教員	桑田 耕太郎	後期	金曜日（隔週） 5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業の戦略行動と組織のダイナミックな関係について研究する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	企業行動のダイナミクスを理解するための、組織の学習やイノベーションのメカニズムに関する基礎知識を習得し、理論的な論文を作成する能力の養成を目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略、組織学習、イノベーション、サイエンス・イノベーションに関する基礎的文献、最近の先端研究に関する論文を輪読する。 2. 参加者の研究テーマにそって、論文の執筆をおこなう。 <p>【授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の輪読、ディスカッションを通じて、理解を深める。 2. 参加者の論文執筆を促し、授業内で進捗状況を報告してもらい、それに対して指導を行う。 <p>【授業外学習】</p> <p>授業で取り上げる文献はもちろん、各自の研究テーマにそった文献の精読、論文執筆に必要なデータの収集・整理、論文の執筆をおこなうことが求められる。</p>		
④授業外学習	指定された文献を熟読するとともに、問題点や議論を必要とする論点をもって授業に参加すること。		
⑤テキスト・参考書等	Academy of Management, Human Relations, Organization Scienceなど最先端の文献 組織学習、サイエンス・イノベーションに関する文献をそれぞれ取り上げる。		
⑥成績評価方法	報告・ディスカッションを通じた授業への貢献と、論文の執筆状況によって評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、 kkuwada@tmu.ac.jp にメールして下さい。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営戦略、経営組織に関する基礎科目を履修していることが望ましい。		

2018年度以降入学生	組織理論特殊研究		P0403	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P596	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究（前半）		P451	計4単位
担当教員	高尾 義明	前期	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本講義の目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法	経営組織論の古典的文献（たとえば、Simon[1997]など）を取り上げた後に、ジャーナル論文の講読に移る。講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われる。			
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。			
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。			
⑥成績評価方法	文献講読における発表（75%）及びディスカッションへの貢献（25%）をもとに総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでポイントメントを取る。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	組織理論特殊演習		P0404	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P597	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究（後半）		P451	計4単位
担当教員	高尾 義明	後期	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	組織理論・組織行動論を中心に、経営組織論の文献を講読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の古典的文献を踏まえつつ、最新のジャーナルを講読することを通じて、古典と最新のリサーチ・クエスチョンの連続性／非連続性を理解するとともに、研究方法論の変化を把握することを本演習の目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法	講読する論文は受講生の研究テーマを踏まえて決定するが、Academy of Management Review/JournalやOrganization Science、Journal of Organizational Behaviorなどの英文ジャーナル掲載論文を主に取り上げる。 【授業方法】 文献の発表及びそれに基づくディスカッションによって授業が行われるが、ディスカッションを重視した授業となる。			
④授業外学習	毎回、リーディング・アサイメント（講読文献）を精読して授業に臨むことが求められる。			
⑤テキスト・参考書等	講読する文献及び参考書は都度指定する。			
⑥成績評価方法	文献講読における発表（50%）及びディスカッションへの貢献（50%）をもとに総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメールでポイントメントを取る。 【連絡先】ytakao@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊研究	P0405	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P594	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究（前半）	P450	計4単位
担当教員	西村 孝史	前期	水曜日 2時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法	基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。 具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management、Organization Science、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌		
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。		
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、Systematic review、diversity、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。		
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。		

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント特殊演習	P0406	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P595	2 単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究（後半）	P450	計 4 単位
担当教員	西村 孝史	後期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	将来的に研究者を志向する者を対象に人的資源管理論および組織行動論に関する文献を輪読する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人的資源管理論が引き起こす様々な現象を説明するためには、現象間の因果を推論するための理論の蓄積が欠かせない。人的資源管理論は、そうした理論的な枠組みの多くを組織行動論に依拠している。そこでこの授業では、人的資源管理論の分野で定番とされている論文と比較的新しい論文を読むことで人的資源管理論の現時点における到達点を知り、それらがどのような理論枠組みから説明されているのかを知ることを目的とする。		
③授業計画・内容 授業方法	基本的には毎回1本（1章）のペースで論文・テキストの輪読をすすめる。 具体的には、経営学の主要な学術雑誌に掲載された論文およびジャーナルに掲載された論文を輪読していくことで論文を読む力を養う。そのため、受講者は事前に次回予定されている論文について内容を理解した上で授業に臨むこと。 具体的に以下のようなジャーナルに掲載されている論文、もしくはブックチャプターを指す。 Academy of Management Journal、Journal of Management、Research in Personnel and Human Resource Management、Research in Organizational Behavior、Human Relations、Human Resource Management、International Journal of Human Resource Management、Organization Science、Journal of Applied Psychology、組織科学、日本経営学会誌、日本労働研究雑誌		
④授業外学習	輪読予定の論文について予め読み、必要に応じてメモやレジュメを作成し、授業で議論ができるようにしておくこと。		
⑤テキスト・参考書等	現時点では、Strategic Human Resource Managementの中でも、Systematic review、diversity、flexibilityに関する論文とその周辺領域、およびsocial capitalに関連する論文を読む予定であるが、受講者と相談しながら決める。		
⑥成績評価方法	発表及びディスカッションへの貢献度をもとに総合的に評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは、水曜日12:00-14:30で研究室（3号館305号室）だが、訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期・後期の授業では最低1回ずつそれぞれ自分が取り組んでいる研究テーマについて発表してもらう予定である。		

2018年度以降入学生	意思決定特殊研究	P0407	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P574	2 単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究	P438	2 単位
担当教員	長瀬 勝彦	前期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。		
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。		
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。		
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。		

2018年度以降入学生	意思決定特殊演習	P0408	2 単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究	P575	2 単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究	P439	2 単位
担当教員	長瀬 勝彦	後期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	行動意思決定論に関する研究		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	行動意思決定論の主な概念と、そのそれぞれが導出された諸研究について深く理解し、また批判できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法	文献講読を中心に進行する。		
④授業外学習	次回の授業で扱う英語論文の要約とその論文への批判的なコメントを作成する。		
⑤テキスト・参考書等	原則として行動意思決定論に関する英文の研究論文を使用する。		
⑥成績評価方法	提出されたレポートや授業のディスカッションへの参加などで評価する。試験はおこなわない。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として火曜1限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	修士レベルの行動意思決定論の知識があることを受講の条件とする。		

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊研究		P0409	2単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義		P627	2単位
2012年度以前入学生	経営学特殊研究（前半）		P471	計4単位
担当教員	高橋 勅徳	前期	金曜日（隔週）	5時限、6時限
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業内容 桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』の輪読および、論文執筆に向けた研究進捗の報告を中心に指導を行う。</p> <p>授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 『制度的企業家』第1章の輪読 第3回 『制度的企業家』第2章の輪読 第4回 『制度的企業家』第3章の輪読 第5回 『制度的企業家』第4章の輪読 第6回 『制度的企業家』第5章の輪読 第7回 研究進捗状況報告 第8回 『制度的企業家』第6章の輪読 第9回 『制度的企業家』第7章の輪読 第10回 『制度的企業家』第8章の輪読 第11回 『制度的企業家』第9章の輪読 第12回 『制度的企業家』第10章の輪読 第13回 『制度的企業家』第11章の輪読 第14回 『制度的企業家』第12章の輪読 第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習 各回の課題テキストを当日までに熟読すること。 輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>			
④授業外学習	受講生は各講義で指定されたテキストの熟読とA4用紙2頁のレジュメを作成して講義に臨むこと。			
⑤テキスト・参考書等	テキスト・参考書については桑田・松嶋・高橋（編）『制度的企業家』、および必要に応じてその都度指定する。			
⑥成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし			

2018年度以降入学生	ベンチャービジネス特殊演習	P0410	2 単位
2013～2017年度入学生	経営学特殊講義	P628	2 単位
2012年度以前入学生	経営学特殊研究（後半）	P471	計 4 単位
担当教員	高橋 勅徳	後期	金曜日（隔週） 5 時限、6 時限
①授業方針・テーマ	企業家研究に基づいた研究論文を作成する上で必要な、理論的系譜と調査方法論について、必読文献の精読を通じて学んでいく。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論、企業家研究に関する必読文献および先端的研究に関する知識と、これらの知見に基づいてフィールドワークを実践するための方法論について、学ぶことを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>授業内容</p> <p>バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』の輪読および、論文作成に向けた研究進捗報告を行う。</p> <p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第1章の輪読</p> <p>第3回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第2章の輪読</p> <p>第4回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第3章の輪読</p> <p>第5回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第4章の輪読</p> <p>第6回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第5章の輪読</p> <p>第7回 研究進捗状況報告</p> <p>第8回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第6章の輪読</p> <p>第9回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第7章の輪読</p> <p>第10回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第8章の輪読</p> <p>第11回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第9章の輪読</p> <p>第12回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第10章の輪読</p> <p>第13回 『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』 第11章の輪読</p> <p>第14回 研究進捗状況報告</p> <p>第15回 研究進捗状況報告</p> <p>授業外学習</p> <p>各回の課題テキストを当日までに熟読すること。</p> <p>輪読の担当者は、1時間程度の報告レジュメを用意すること。</p>		
④授業外学習	テキストで指定された章を熟読し、A4用紙2ページ程度のレジュメを作成して講義に臨むこと。		
⑤テキスト・参考書等	バーニー・G. グレイザー・アンセルム・L. ストラウス（著）『データ対話型理論の発見—調査からいかに理論をうみだすか』および、必要に応じてその都度指定する。		
⑥成績評価方法	授業への出席 30%、報告プレゼンの完成度 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、misanori@tmu.ac.jpに連絡の上、スケジュールを調整し随時受け付ける。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊研究	P0411	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P673	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P432	2単位
担当教員	竹田 陽子	前期	木曜日 1時限
①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザイン、論文作成の方法を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築からリサーチデザインまで身につけ、本格的な学術研究のための研究計画書作成ができるようになる。		
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、レビュー論文（小レポート）の作成、リサーチデザイン、研究計画書作成までのプロセスを実習する。		
④授業外学習	文献レビュー、実証研究の実施（プリテストなど）、レポート執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。受講者の学位論文作成プロセスとできる限りシナジーを効かせてよい。		
⑤テキスト・参考書等	授業中に紹介する		
⑥成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（研究計画書） 50%		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、個別にメールでアポイントメントをとれば対応する。 メールアドレスは初回授業で伝える。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とする。		

2018年度以降入学生	経営戦略特殊演習	P0412	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P674	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究	P433	2単位
担当教員	竹田 陽子	後期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	経営学の理論構築とリサーチデザインについて学び、実証研究を実施しながら論文作成の方法を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	研究方法論を理論構築から実証研究実施まで身につけ、本格的な学術論文作成ができるようになる。		
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・授業方法】 受講者と相談の上設定した研究課題について、文献精査、リサーチデザイン、実証研究実施、論文作成までのプロセスを実習する。		
④授業外学習	文献レビュー、実証研究の実施、レポート執筆に毎週精力的にとりくむ必要がある。受講者の学位論文作成プロセスとできる限りシナジーを効かせてよい。		
⑤テキスト・参考書等	授業中に紹介する		
⑥成績評価方法	授業貢献 50%、期末レポート（小論文） 50%		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、個別にメールでアポイントメントをとれば対応する。 メールアドレスは初回授業で伝える。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学の修士号を保持していない受講者は、修士レベルの経営戦略と経営組織に関する授業、学部レベルのミクロ経済学、統計学に関する授業を履修していることを前提とする。		

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊研究	P0415	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P639	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究（前半）	P477	計4単位
担当教員	松尾 隆	前期	土曜日 2時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。		
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる)		
④授業外学習	課題論文を読み、論点をまとめてくること		
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。		
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	講義の前後、またはメールでアポイントをとること		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし		

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント特殊演習	P0416	2単位
2013～2017年度入学生	経営戦略特殊研究	P640	2単位
2012年度以前入学生	経営戦略特殊研究（後半）	P477	計4単位
担当教員	松尾 隆	後期	土曜日 2時限
①授業方針・テーマ	技術戦略に関する最新の理論文献を輪読する		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術戦略の新しい展開に関する理解を深め、自らの研究の指針とする。		
③授業計画・内容 授業方法	毎回、文献を指定して、それを輪読し、参加者で検討する。 主にStrategic Management Journal等の論文雑誌から課題文献を選択する。 (事前に文献を精読することが必要となる) 参加者の興味に応じたテーマで文献サーベイを行う		
④授業外学習	論文を読み、論点をまとめてくること		
⑤テキスト・参考書等	別途指示する。		
⑥成績評価方法	講義への参加、課題への取組、講義中の発言などにより評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	講義の前後、またはメールでアポイントメントをとること		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特に無し		

2018年度以降入学生	マーケティング特殊研究		P0417	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P600	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究		P453	2単位
担当教員	水越 康介	前期	水曜日	3時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得			
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察			
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など			
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示			
⑥成績評価方法	授業態度および試験			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	マーケティング特殊演習		P0418	2単位
2013～2017年度入学生	組織理論特殊研究		P601	2単位
2012年度以前入学生	組織理論特殊研究		P454	2単位
担当教員	水越 康介	後期	水曜日	2時限
①授業方針・テーマ	マーケティング論、マーケティング方法論			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティング論の理論体系の習得			
③授業計画・内容 授業方法	マーケティング論に関する専門書、研究論文の精読、および批判的考察			
④授業外学習	予習、復習、レポート作成など			
⑤テキスト・参考書等	授業内に適宜指示			
⑥成績評価方法	授業態度および試験			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業中に提示するメールアドレスに連絡をし、予約をとること			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特殊研究	P0419	2単位
2013～2017年度入学生	マーケティング特殊研究	P582	2単位
2012年度以前入学生	マーケティング特殊研究（前半）		計4単位
担当教員	中山 厚穂	前期	木曜日 3時限
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題を通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。		
③授業計画・内容 授業方法	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（入門） 第3回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（応用） 第4回 市場反応分析とは1：散布図と相関係数（実習） 第5回 市場反応分析とは2：単回帰分析（入門） 第6回 市場反応分析とは2：単回帰分析（応用） 第7回 市場反応分析とは2：単回帰分析（実習） 第8回 市場反応分析とは3：回帰分析（入門） 第9回 市場反応分析とは3：回帰分析（応用） 第10回 市場反応分析とは3：回帰分析（実習） 第11回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（入門） 第12回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（応用） 第13回 市場反応分析とは4：非集計データの分析（実習） 第14回 市場反応分析：総括 第15回 まとめ		
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。		
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィック、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。		
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	毎週、火曜日12:00～13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuh@tmu.ac.jp		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。		

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス特殊演習	P0420	2単位
2013～2017年度入学生	マーケティング特殊研究	P583	2単位
2012年度以前入学生	マーケティング特殊研究（後半）		計4単位
担当教員	中山 厚穂	後期	木曜日 3時限
①授業方針・テーマ	現在の情報社会において、求められている能力の一つは、データの背後に存在している関係や傾向を読み解くための分析力です。特に、客観的なデータにもとづいた分析力がグローバルで情報があふれる社会において重要視されています。よって、本講義では、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につけることを目指します。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	事例と例題を通じて、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験することを目標とします。また、講義を通じて、市場におけるマーケティング現象をどのように読み解くことができるのかということについての理解を深めるとともに、データ分析を通じて客観性をもって論証するための数学的な論証能力を身につけることを目標とします。		
③授業計画・内容 授業方法	第1回 ガイダンス：マーケティング・サイエンスとは 第2回 市場セグメンテーション：入門 第3回 市場セグメンテーション：応用 第4回 市場セグメンテーション：実習 第5回 市場の発見のためのポジショニング分析：入門 第6回 市場の発見のためのポジショニング分析：応用 第7回 市場の発見のためのポジショニング分析：実習 第8回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポンデンス分析）：入門 第9回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポンデンス分析）：応用 第10回 ブランドと属性の同時マップ（コレスポンデンス分析）：実習 第11回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）：入門 第12回 マーケットバスケットとクロスセリング（アソシエーション分析）：実習 第13回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）：入門 第14回 顧客の管理（RFM分析、分散分析、ロジスティック回帰分析）：実習 第15回 まとめ		
④授業外学習	講義での実習のための準備、実習課題、レポート課題を適宜設定する予定である。		
⑤テキスト・参考書等	【テキスト】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ-市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。 【参考文献】 [1] 朝野熙彦「入門多変量解析の実際」、講談社サイエンティフィック、2000。 [2] 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ、2011。 [3] 池尾恭一・井上哲浩『戦略的データマイニング』、日経BP社、2008。 [4] 中村博他「マーケット・セグメンテーション 購買履歴データを用いた購買機会の発見」、白桃書房、2008。 [5] 豊田裕貴「ポジショニングの理論と実践」講談社、2013。		
⑥成績評価方法	講義への出席、発表の内容、討論への参加程度、研究レポートにより評価します。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	毎週、火曜日12:00～13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も随時受け付けます。 連絡先：atsuh@tmu.ac.jp		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修にあたっては、高校レベルの数学と学部教養レベルの統計学についての基礎知識が前提知識として必要になります。		

2018年度以降入学生	統計学特殊研究		P0421	2 単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P570	2 単位
2012年度以前入学生	統計学特殊研究（前半）		P436	2 単位
担当教員	森 治憲	前期	金曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。			
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学に関する専門書の輪読が中心となる。ただし、必要に応じて講義も行う。			
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。			
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。			
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日 5 時限をオフィスアワーとする。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。			

2018年度以降入学生	統計学特殊演習		P0422	2 単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P571	2 単位
2012年度以前入学生	統計学特殊研究（後半）		P436	計 4 単位
担当教員	森 治憲	後期	金曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	数理統計学の理論とその応用			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理統計学の理論と、そこで学習する様々な手法を現実の問題に応用する能力。			
③授業計画・内容 授業方法	数理統計学の文献を輪読する。			
④授業外学習	毎回の復習は必須である。発表者が予習をするのは当然だが、担当になっていない受講者も予習をすることが望ましい。			
⑤テキスト・参考書等	一回目の授業で受講者と相談して決める。			
⑥成績評価方法	出席状況と授業での発表内容を総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	質問は授業終了後に受け付けます。金曜日 5 時限をオフィスアワーとする。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本講座は統計学の入門ではない。学部レベルの統計学の知識を有していることが前提である。			

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0423	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P590	2単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（前半）		P448	計4単位
担当教員	山下 英明	前期	水曜日	3時限
①授業方針・テーマ	待ち行列は、あるサービスに対して客が待つ現象で、店舗・病院でのサービスだけでなく、工場の生産ライン、情報ネットワーク、道路交通等でも発生する。待ち行列理論は、待ち行列を確率論に基づいた数理モデルとして表し、待ち時間等の特性を解明する理論である。本講義では、テキストの理論展開、証明等をフォローすることにより、待ち行列理論やその計算手法を理解するとともに、実際の待ち行列現象のモデル化についても学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	待ち行列理論の学習を通して、論理的思考力を養うとともに、確率モデルを本質的に理解し、解析する能力を身につける。 実際の待ち行列現象のモデル化を通して、不確定な要因を含むシステムに対する問題解決能力を養う。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第11回 反転授業</p> <p>授業時間内では、前もって学習してきたテキストの内容についての質問に対し、教員が回答することによって理解を深める。講義内容に関する課題について解答を導く時間も設ける。授業時間後には、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、待ち行列モデル 2. リトルの公式 3. 再生過程 4. 確率過程 5. 出生死滅過程 6. M/M/1 待ち行列モデル 7. 離散マルコフ連鎖 8. 相型分布を用いた待ち行列モデル 9. 準出生死滅過程 10. 待ち行列ネットワーク 11. 非マルコフモデル <p>第12回～第15回 学生発表中心の授業</p> <p>テキストにある実際のシステムの解析例について発表し、討論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. ハンバーガーショップの待ち行列モデル 13. かんぱん方式による在庫管理 14. コールセンターのリソース設定 15. 無線LANの性能評価 			
④授業外学習	反転授業では、授業前にテキストを熟読し、理解できなかった点を明確にして授業に出席する。毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。学生発表中心の授業では、テキストの内容を理解し、分かり易く発表する準備を行う。			
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：塩田茂雄他『待ち行列理論の基礎と応用』共立出版（2014）</p> <p>参考書：尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996）</p> <p>森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989）</p> <p>森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004）</p> <p>尾崎俊治『確率モデル入門』朝倉書店 1996。</p> <p>L.クラインロック（手塚慶一他訳）『待ち行列システム理論（上下）』マグロウヒル好学社 1978。</p> <p>豊田秀樹『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店 2008。</p> <p>牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。</p> <p>宮沢政清、『確率と確率過程』近代科学社 1993。</p>			
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。			

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習	P0424	2 単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究	P591	2 単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（後半）	P448	計 4 単位
担当教員	山下 英明	後期	水曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	この講義では、経営科学、オペレーションズ・リサーチの簡単な事例や最近の事例研究をサーベイし、経営科学が実社会にどのように役立っているかを学習することを目的とする。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営科学の理論的解析について本質的に理解し、論理的思考力を身につける。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、総合的問題思考力を身につける。 テキストの内容をわかり易く発表し、質問に対して的確に回答することにより、コミュニケーション能力を身につける。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第14回</p> <p>上記の目的で選定した解説記事、研究論文などを受講生に割り当て、授業中は受講生各自がその内容について解説する輪読方式を採用する。</p> <p>(1) 総論、待ち行列窓口の最適サービス配分 (2) 線形計画問題：物資の輸送を例として 発見的解法：収集/配送経路問題への適用 (3) 最適配置の理論：都市施設の場所について グラフ・ネットワーク・OR (4) 大規模施設の混雑現象 (5) 生産システムにおけるさまざまな待ち (6) キャッシュのモデル化とその応用 (7) 待ち行列理論の応用：コールセンター (8) ゲーム理論を用いたねじれ国会分析 (9) DEAを用いたプロ野球投手の評価 (10) 大学業務におけるシフトスケジューリング (11) 機関車の基地内留置計画 (12) 鉄道の通勤利用モデルと混雑緩和策 (13) 列車ダイヤ乱れ時の再スケジューリングアルゴリズム (14) 施設容量を考慮した救急医療施設の最適配置</p> <p>第15回 学生発表の授業 各自が実際の問題を経営科学の手法を用いて分析することを想定しモデル化を行い、その内容を発表し、討論する。</p>		
④授業外学習	割り当てられた解説記事の発表を準備するとともに、他の受講生が発表する記事についてはあらかじめ熟読し、不明な部分を明らかにしておくことが求められる。		
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト：上記の解説記事、研究論文を教材として用いる。出典は以下の通り。</p> <p>(2)～(3)、(7)～(10)：オペレーションズ・リサーチ、vol.54, no.12, 2009。 (4)～(6)：オペレーションズ・リサーチ、vol.49, no.7, 2004。 (11)：オペレーションズ・リサーチ、vol.55, no.2, 2010。</p> <p>参考書：高井英造、真鍋龍太郎『問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ入門』日本評論社 2000。 高橋幸雄、森村英典『混雑と待ち』朝倉書店 2001。 福島雅夫『数理計画入門』朝倉書店 1996。 伏見正則『確率と確率過程』朝倉書店 2004。 牧本直樹『ビジネスへの確率モデルアプローチ』朝倉書店 2006。 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉出版 2004。 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ 意思決定モデル』朝倉書店 1989。 森雅夫、森戸晋他『オペレーションズ・リサーチⅠ 数理計画モデル』朝倉書店 1991。 森戸晋、逆瀬川浩『システムシミュレーション』朝倉書店 2000。</p>		
⑥成績評価方法	授業での質疑応答、授業中の発表、課題によって評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	授業内容の質問については、まず質問者がメールで教員に連絡し、必要があれば教員が面談の日時を質問者と相談の上設定する方式をとる。 【連絡先】hideak@tmu.ac.jp		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	初歩的な確率過程論を修得していることが必要である。		

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0425	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P659	2単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（前半）		P446	計4単位
担当教員	室田 一雄	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>			
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式）</p> <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。</p>			
④授業外学習	<p>授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>			
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・室田一雄：離散凸解析、共立出版、2001。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・K.Murota: Discrete Convex Analysis, SIAM, 2003。 			
⑥成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p>			

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習	P0426	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究	P660	2単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（後半）	P446	計4単位
担当教員	室田 一雄	後期	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>科学的方法論に基づく合理的な意思決定の手法の一つとして、最適化理論、とくに離散構造の上の最適化のモデルと解法を扱う。最適化理論の枠組みに沿って応用課題を数理的に定式化する手法、および、その結果得られる数理最適化問題を解く手法を中心に扱う。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>最適化手法には、理論（数理）、計算（アルゴリズム）、応用（モデリング）の三つの柱がある。本講義では、テキストを丁寧に輪読し、演習問題に取り組むことにより、最適化の数理的側面を理解し、その考え方を習得することを目的とする。これによって、将来、さまざまな文脈で最適化を使う必要が生じたときに、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、微分、勾配、最大化などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチなどにおいてどのように役立つかを理解することによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。</p>		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 学生の興味を考慮して、以下のテーマに関するテキストを選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 離散最適化の典型的な問題（最小木問題、最短路問題、マッチング問題、最大流問題、最小費用流問題、資源配分問題など） 2) 離散最適化の典型的な問題の基本的な解法（アルゴリズム） 3) 離散凸解析の考え方と数学的な枠組み（基本概念、諸定理、諸公式） <p>【授業方法】 テキストを輪読し、その質疑応答や討論を通じて新たな論点を発掘し、宿題とする。 テキストの話題に関連する最適化問題を各自で設定して、問題の定式化、最適化ソフトウェアによる求解、レポートの執筆などの演習を行う。</p>		
④授業外学習	<p>授業の前にテキストを読み、議論や質問のポイントを自分自身でよく整理する。発表の担当となった場合には、テキストの該当箇所を理解するだけでなく、必要があれば参考書などを調べて、前提となる事実や知識を補足して、レジュメを作成する。授業における質疑応答や討論によって得られた新たな論点について、調査・検討する。</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは適宜指定する。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・室田一雄：離散凸解析、共立出版、2001。 ・室田一雄、塩浦昭義：離散凸解析と最適化アルゴリズム、朝倉書店、2013。 ・K. Murota: Discrete Convex Analysis, SIAM, 2003. 		
⑥成績評価方法	<p>授業への出席・参加状況とレポート課題により評価する。</p>		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【前提知識】 基礎的な数学（微積分、線形代数）を用いる。</p>		

2018年度以降入学生	経営科学特殊研究		P0427	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P617	2単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（前半）		P465	計4単位
担当教員	森口 聡子	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） 【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。			
④授業外学習	輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。			
⑤テキスト・参考書等	[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993 [3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011			
⑥成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、木曜12：10～13：00（メールでアポイントメントをとること）。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。			

2018年度以降入学生	経営科学特殊演習		P0428	2単位
2013～2017年度入学生	経営科学特殊研究		P618	2単位
2012年度以前入学生	経営科学特殊研究（後半）		P465	計4単位
担当教員	森口 聡子	後期	金曜日	2時限
①授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、科学的方法に基づく合理的な意思決定のために必要な最適化理論を取り上げる。最適化理論に基づく定式化（モデル化）は、情報技術が支える経営活動において、各現場での短期的、オペレーショナルな問題に対する意思決定から、中長期的な戦略的レベルの課題への意思決定に及ぶまで、様々な場面で活用されている。現実社会における問題のモデル化から、求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	最適化問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。 本講義では、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶことを目的とする。			
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1) 最適化アルゴリズムによる優位な意思決定の事例（物流、スケジューリング、プロジェクト管理における意思決定での最適計算、最小コスト、最大利益など） 2) グラフ理論の基礎とグラフによる問題のモデル化 3) ネットワーク計画（最短路問題、最大流問題など） 【授業方法】 テキストを輪読し、演習問題を解くことにより、最適化理論を理解し、その数学的取り扱い方を学ぶ。			
④授業外学習	輪読における担当、演習の発表前に資料を理解し、テーマを把握する（予習）。講義の直後に、他の受講生の発表資料を読み直し、発表内容を確実に理解する（復習）。随時演習課題を課す。各自で自主的に、研究課題の調査に取り組む。			
⑤テキスト・参考書等	[1] 久保幹雄『組合せ最適化とアルゴリズム（インターネット時代の数学シリーズ）』共立出版、2000 [2] Ravindra K. Ahuja, Thomas L. Magnanti, James B. Orlin『Network Flows: Theory, Algorithms, and Applications』Prentice Hall、1993 [3] 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎『Excelで学ぶOR』オーム社、2011			
⑥成績評価方法	授業への取り組み意欲、発表内容とレポートにより評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、木曜12：10～13：00（メールでアポイントメントをとること）。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【前提知識】 大学初等程度の数学を用いることもある。			

2018年度以降入学生	会計学特殊研究	P0431	2単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P653	2単位
2012年度以前入学生	会計学特殊研究（前半）	P485	計4単位
担当教員	野口 昌良	前期	水曜日 3時限
①授業方針・テーマ	<p>公会計イノベーションの理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公会計研究に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1. をベースにした公会計研究・研究手法を修得することができる。 3. 1. および2. をベースにした論文作成方法を修得することができる。 		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。11. 以降はパブリック・セクターに関する現在進行中の研究テーマに該当する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Defining the Concepts 3. The History of Performance Management 4. Performance Measurement 5. Incorporation of Performance Information 6. The Use of Performance Information 7. Users 8. Non-use 9. The Effects of Using Performance Information 10. The Future of Performance Management 11. NSW's Integrated Planning & Reporting 12. NHS's Cost Improvement Programme 13. DBH's performance 14. Tokyo LGs' public efficiency 15. Conclusion <p>【授業方法】 指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p>		
④授業外学習	<p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 Dooren, W. V., Bouckaert, G. and Halligan, J. (2010) Performance Management in the Public Sector (Routledge Masters in Public Management), Routledge.</p> <p>【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>		
⑥成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、公会計イノベーションに関する必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p>		

2018年度以降入学生	会計学特殊演習	P0432	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P654	2 単位
2012年度以前入学生	会計学特殊研究（後半）	P485	計 4 単位
担当教員	野口 昌良	後期	水曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点の修得を目標とする。これから自身の研究手法を確立しようと考えている博士前期課程の学生には強固な礎を整備するための一助として、すでに一定の手法を身につけている博士後期課程の学生にはその幅を拡張するための一助として、本講義を活用してもらいたい。公会計研究の手引書からセレクトしたいくつかの論文をとりあげ、基礎的な知識・分析手法の修得に努めた後に、PA、PAR、JPAM、AOS、MAR、FAM等に掲載された諸論文を検討することによってその研究方法を理解してもらいたい。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. パブリック・セクターにおける業績評価の理解に必要と思われる知識・分析視点を修得することができる。 2. 1.をベースにした公会計研究・分析手法を修得することができる。 3. 1.および2.をベースにした論文作成方法を修得することができる。 		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>指定したテキストの構成は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction: Using Public Sector Performance Information 2. Nothing New Under the Sun? Change and Continuity in the Twentieth-Century Performance Movements 3. Advocacy and Learning: An Interactive-Dialogue Approach to Performance Information Use 4. Performance Information and Performance Steering: Integrated System or Loose Coupling? 5. Performance Measurement Beyond Instrumental Use 6. Comparing Performance across Public Sectors 7. Hitting the Target and Missing the Point? Developing an Understanding of Organizational Gaining 8. Performance Management Systems: Providing Accountability and Challenging Collaboration 9. Determinants of Performance Information Utilization in Political Decision Making 10. UK Parliamentary Scrutiny of Public Service Agreements: A Challenge Too Far? 11. Performance Information and Educational Policy Making 12. Rational, Political and Cultural Uses of Performance Monitors: The Case of Dutch Urban Policy 13. Reporting Public Performance Information: The Promise and Challenges of Citizen Involvement 14. Publishing Performance Information: An Illusion of Control? 15. Epilogue: The Many Faces of Use <p>【授業方法】</p> <p>指定したテキストおよび論文の内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、到達目標に必要な知識の修得に努める。</p>		
④授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>【テキスト】</p> <p>Dooren, W. V. and de Walle, S. V. (eds.) (2008) Performance Information in the Public Sector: how it is used, Basingstoke : Palgrave Macmillan.</p> <p>【参考書等】</p> <p>適宜指示する予定である。</p>		
⑥成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。</p> <p>到達目標に照らして、パブリック・セクターにおける業績評価を理解するのに必要な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>【オフィスアワー】</p> <p>水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】</p> <p>学部レベルの財務会計に関する知識を前提にディスカッションを実施するため、そうした知識の事前修得が望ましい。</p>		

2018年度以降入学生	財務会計特殊研究	P0433	2 単位
2013～2017年度入学生	財務会計特殊研究	P609	2 単位
2012年度以前入学生	財務会計特殊研究（前半）	P460	計 4 単位
担当教員	浅野 敬志	前期	木曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】</p> <p>書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p>		
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。		
⑤テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー-市場と経営を革新する-』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） <p>など</p>		
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容などを総合的に勘案して評価する。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】takasano@tmu.ac.jp		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。		

2018年度以降入学生	財務会計特殊演習	P0434	2単位
2013～2017年度入学生	財務会計特殊研究	P610	2単位
2012年度以前入学生	財務会計特殊研究（後半）	P460	計4単位
担当教員	浅野 敬志	後期	木曜日 2時限
①授業方針・テーマ	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態とその影響」について検討する。会計処理や情報開示における経営者の裁量余地は、IFRS等の影響によって増えている。わが国の会計制度や情報開示制度が変化し、裁量余地が拡大するなかで、経営者はどのような会計目的に基づき、どのような私的選択（会計処理選択、情報開示選択）を行うのか。また経営者の私的選択を考慮してもなお、会計情報の変容が会計目標を達成するような会計情報を供給しているのか。国内外の先行研究のレビューを通じて、これらの疑問に対する客観的かつ公平な議論を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「IFRS等の影響による会計情報の変容の実態やその影響」について、主に資本市場の視点から理解を深めるとともに、上記の疑問に対する仮説を自ら立て、検証できるようになること。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>会計情報の変容の実態とその影響に関する書籍・論文を取り上げ、それらを題材にディスカッションする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 会計情報の変容の実態 3. 会計情報の質的特性と利益の質 4. 私的選択（会計処理選択、情報開示選択）の目的 5. 取得のれんと利益の質 6. 公正価値変動情報の有用性 7. 減損処理をめぐる不正会計（東芝のケース） 8. マネジメント・アプローチの有効性（経営者の恣意性） 9. マネジメント・アプローチの有効性（比較可能性） 10. セグメント情報の開示選択と影響 11. 非財務情報（ESG、リスク情報）の開示選択と影響 12. 業績予想の開示柔軟化と影響 13. 業績予想の私的選択（利益調整、期待調整）と市場の評価 14. 業績予想の開示選択と影響 15. まとめ <p>【授業方法】</p> <p>書籍・論文の輪読やディスカッションを通じて授業を行う。</p>		
④授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み、授業に臨むこと。		
⑤テキスト・参考書等	<ol style="list-style-type: none"> 1. スコット著『財務会計の理論と実証』（中央経済社、2008年） 2. パレプ・ヒーラー・バーナード著『企業分析入門（第2版）』（東京大学出版会、2007年） 3. 柴健次・薄井彰・須田一幸編著『現代のディスクロージャー-市場と経営を革新する-』（中央経済社、2008年） 4. 伊藤邦雄・桜井久勝責任編集『会計情報の有用性』（中央経済社、2013年） 5. 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』（中央経済社、2018年） <p>など</p>		
⑥成績評価方法	出席状況、授業態度、発表内容など総合的に判断して評価する。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	授業後をオフィスアワーとする。また、メールによる質問も随時受け付ける。 【連絡先】takasano@tmu.ac.jp		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	講義形式ではなく、演習形式で授業を進めるが、必要に応じて講義形式の授業をすることもある。		

2018年度以降入学生	管理会計特殊研究	P0435	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P641	2 単位
2012年度以前入学生	会計学特殊研究（前半）	P473	計 4 単位
担当教員	細海 昌一郎	前期	土曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	本研究では、隣接諸科学とも関連する管理会計の新たな研究分野の英語論文を講読しながら、実証的研究研究方法の理解と実践を目指します。特に、知的資本（intellectual capital）の研究に関連する英語論文の講読を中心とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本研究では、管理会計の領域で近年注目されている知的資本研究等に関連する英語論文を中心に取上げて講読することによって、研究を実践する能力を養うことが期待されます。また、そうした研究で用いられている実証的研究研究方法を理解し、実際に、博士号の取得に向けた論文作成に役立てることを目標としています。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>具体的には、次のような Accounting Journalsの中から知的資本等に関連する英語論文を選択し購読する予定です。Journal of Intellectual Capitalのような知的資本研究に関連する他の研究分野のJournalから選択することもあります。</p> <p>[List of Journals] Journal of Accounting Research Journal of Management Accounting Research ABACUS: A Journal of Accounting and Business Studies Accounting and Business Research Journal of Business Finance and Accounting Journal of Accounting and Organizational Change Journal of Applied Accounting Research Qualitative Research in Accounting and Management Journal of Intellectual Capital R&D Management</p>		
④授業外学習	・授業後、取り上げた論文や研究課題についてよく復習しておいてください。		
⑤テキスト・参考書等	<p>[参考文献] [1] Alan Bryan and Emma Bell (2011) Business Research Methods 3rd Edition, Oxford University Press. [2] John Buglear(2014)Practical Statistics,Kogan page.</p>		
⑥成績評価方法	・英語論文やテキストにより管理会計の研究方法について検討しますが、その発表内容等により評価します。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>・オフィスアワー：原則として木曜日 6 時限目としますので、質問等があれば研究室（3 - 233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・管理会計を専攻とする学生以外の履修も歓迎します。また、取り上げる英語論文等により、具体的な実証的研究分析方法を演習形式で検討することがあります。		

2018年度以降入学生	管理会計特殊演習	P0436	2 単位
2013～2017年度入学生	会計学特殊研究	P642	2 単位
2012年度以前入学生	会計学特殊研究（後半）	P473	計 4 単位
担当教員	細海 昌一郎	後期	土曜日 3 時限
①授業方針・テーマ	<p>管理会計では、理論と実務の乖離の原因を究明したり、ある管理会計技法が企業業績に与える影響を検証したりといった研究が行われますが、近年、その研究方法において実証的研究方法の重要性が増しています。</p> <p>すなわち、財務会計を含む会計学の領域では、会計の原理や技術的特徴のあるべき姿を探求する規範的研究も必要ですが、現行の会計実務を一応肯定的に受け止め、その存在理由を説明するために統計手法を用いて行う実証的研究の重要性が増しているといえます。また、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われます。</p> <p>そこで、本演習では、こうした認識を前提に、博士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p> <p>なお、前述のように、こうした傾向は会計学研究に限ったことではないと思われますので、研究方法や実務の参考にしたいと考えている会計学専攻以外の学生の参加も歓迎します。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本演習では、こうした認識を前提に、修士論文作成に役立つ研究方法として、実証的研究方法（研究手法）の基礎について検討し、研究の実践に役立てることを目的としています（ただし、あくまでも基礎ですので、より高度な研究手法については各自検討されたい）。</p>		
③授業計画・内容 授業方法	<p>[主な内容]</p> <p>(1) データの整理 (2) 記述統計 (3) 仮説検定 (4) 回帰分析など代表的分析手法 (5) その他多変量解析</p> <p>本演習では実証的研究手法の基礎について検討しますが、統計ソフトの利用を前提とした実践的な内容も検討します。</p>		
④授業外学習	<p>・毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>[参考文献]</p> <p>[1] 鈴木功一監訳『ビジネス統計学（上）（下）』ダイヤモンド社、2007. [2] ダン・レメニイ他著『社会科学系大学院生のための研究の進め方―修士・博士論文を書くまえに―』同文館出版、2002. [3] 牧厚志他著『経済・経営のための統計学』有斐閣、2005. [4] 門田安弘『経営・会計の実証分析入門』中央経済社、2003. [5] Malcolm, Smith, Research Methods in Accounting 2nd Edition, SAGE, 2012. [6] John Buglear(2014)Practical Statistics,Kogan page.</p>		
⑥成績評価方法	<p>・演習参加度と演習課題等に基づいて評価します。</p>		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>・オフィスアワー：原則として木曜日 6 時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に、下記連絡先に連絡頂ければ幸いです）。</p> <p>・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>・管理会計に関する基本的な知識やPCの基本的な能力を前提に行います。</p>		

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊研究	P0437	2 単位
2013～2017年度入学生	ミクロ経済学特殊研究	P605	2 単位
2012年度以前入学生	ミクロ経済学特殊研究（前半）	P458	計 4 単位
担当教員	飯村 卓也	前期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。		
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。		
④授業外学習	【授業外学習】 次回の授業範囲を予習しておくこと。		
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton		
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 毎週金曜 4 限の時間帯		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。		

2018年度以降入学生	ミクロ経済学特殊演習	P0438	2 単位
2013～2017年度入学生	ミクロ経済学特殊研究	P606	2 単位
2012年度以前入学生	ミクロ経済学特殊研究（後半）	P458	4 単位
担当教員	飯村 卓也	後期	火曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	中級から上級のミクロ理論を学ぶ。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ理論の内容とともに、よく使われる分析技術の習得を目標にする。		
③授業計画・内容 授業方法	消費者・生産者の最適化行動から市場均衡に至るまで、標準的な理論を体系的に学んでゆく。 【授業方法】講義と演習により行う。		
④授業外学習	【授業外学習】 次回の授業範囲を予習しておくこと。		
⑤テキスト・参考書等	Varian, H. Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton		
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など、総合的に見て判断する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	【オフィスアワー】 毎週金曜 4 限の時間帯		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する人は初回授業の時間に必ず出席のこと。		

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊研究	P0439	2 単位
2013～2017年度入学生	マクロ経済学特殊研究	P611	2 単位
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究 (前半)	P461	計 4 単位
担当教員	脇田 成	前期	木曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初歩の線形代数・静的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書などで講義に先立って補充しておくこと。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>第 1 回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第 2 回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第 3 回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第 4 回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第 5 回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第 6 回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第 7 回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第 8 回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第 9 回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p>		
④授業外学習	<p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成 (1998)『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編 (1994)『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>		
⑥成績評価方法	期末試験70% 宿題30%		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>オフィスアワーは木曜 4 限</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第 1 回の授業前に前もってメールすること		

2018年度以降入学生	マクロ経済学特殊演習	P0440	2単位
2013～2017年度入学生	マクロ経済学特殊研究	P612	2単位
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究（後半）	P461	計4単位
担当教員	脇田 成	後期	木曜日 1時限
①授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説し、問題演習並びに関連論文の輪読を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派のマクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学的发展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不十分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル 1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル 2：世代重複モデルと高齢化・少子化 以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析 1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析 2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論 以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本的労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本的経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p>		
④授業外学習	<p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p> <p>授業外学習 テキストをよく読むこと</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989). Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。 岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>		
⑥成績評価方法	期末試験70% 宿題30%		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>オフィスアワーは木曜4限</p> <p>質問は随時受け付けるのでメールでアポイントを取ること</p>		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること		

2018年度以降入学生	計量経済学特殊研究	P0441	2単位
2013～2017年度入学生	計量経済学特殊研究	P615	2単位
2012年度以前入学生	計量経済学特殊研究（前半）	P464	計4単位
担当教員	飯星 博邦	前期	金曜日 4時限
①授業方針・テーマ	<p>本科目では、大学院の修士課程で履修すべき計量経済学の基本的項目について扱う。具体的には、線形回帰モデルの推定と検定の行列計算を中心に、非線形モデルの推定法である一般化モーメント法（GMM）や最尤推定法に敷衍する。また、理論的な理解だけでなく、実際にデータ分析ができるように、MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアの利用法についても講義していく予定である。</p>		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学の基本的項目である古典的線形回帰モデルの小標本と大標本の性質を理解できる。 ・非線形モデルに拡張できるGMM（一般化モーメント法）と最尤法の推定法や検定法、漸近的特性を理解できる。 ・MATLABやR、EViewsなどの計量ソフトウェアを使い、古典的線形回帰モデル、GMM、最尤法によるデータ分析ができる。 		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 各回の講義予定は教科書であるHayashi(2000)Econometricsに基づき、以下のとおりであるが、講義の進捗状況により、前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 古典的線形回帰モデル（OLS）とその行列表現（OLSの小標本の特性 #1） 2回 OLSにおける仮説検定、最尤法とGMM（OLSの小標本の特性 #2） 3回 大標本理論（大数の法則と中心極限定理） 4回 大標本理論（OLS推定値での漸近分布） 5回 大標本理論（仮説検定） 6回 大標本理論（不均一分散） 7回 GMM（一般化モーメント法）と操作変数法 8回 GMM（一般化モーメント法）の大標本理論 9回 GMM（一般化モーメント法）尤度比検定 10回 GMM（一般化モーメント法）の不均一分散 11回 GMM（一般化モーメント法）と同時方程式体系 12回 最尤推定法と一致性 13回 最尤推定法と漸近分布 14回 最尤推定法における仮説検定 15回 試験と解説 		
④授業外学習	<p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>		
⑤テキスト・参考書等	Hayashi(2000)Econometrics, Princeton Univ. Press		
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。 ・本科目は、後期に実施予定の「経済学特別演習（計量経済学）」の前提科目である。 		

2018年度以降入学生	計量経済学特殊演習	P0442	2 単位
2013～2017年度入学生	計量経済学特殊研究	P616	2 単位
2012年度以前入学生	計量経済学特殊研究（後半）	P464	計 4 単位
担当教員	飯星 博邦	後期	金曜日 4 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、前期で扱った計量経済学の古典的回帰モデルの講義内容をベースとして、その応用として時系列モデルの理論的解説と経済時系列データを使った推定法について扱う。また、統計ソフトウェアによる実習も並行して進めていく予定である。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	計量経済学の基礎および時系列分析の理論的な理解およびその推定手法の習得		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 下記内容について講義する予定です。講義内容は履修者の関心と理解レベルに応じて適宜、修正しようと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量経済学の方法（回帰分析と最尤法） 2. 時系列データの特性と定常性 3. 自己回帰（AR）モデルと ARMAモデル、ARIMAモデル 4. 単位根（ランダム・ウォーク）モデル 5. 金融時系列モデル（ARCH、GARCH、EGARCH、TGARCH、GARCH-M） 6. 多変量のARモデル（VAR）と共和分 7. マーケットストラクチャとRealized Volatility 8. 長期記憶の時系列モデル <p>なお、詳細な講義日程と講義内容については私のホームページ http://www.comp.tmu.ac.jp/iiboshi/ をご覧ください。</p>		
④授業外学習	<p>【授業外学習】 毎回の講義ノートはあらかじめEラーニングシステム「KIBACO」にアップロードするので、教科書と合わせて予習しておくこと。また、レポートとして、教科書にある演習問題と計量ソフトウェア「Matlab」もしくは「R」を利用したデータ分析の出題を行う。</p>		
⑤テキスト・参考書等	<p>[1] 山本拓著（1988）『経済の時系列分析』創文社 [2] 刈屋武昭著（2003）“金融時系列分析入門”『経済時系列の統計』, 第1部, p3 - 101, 岩波書店 [3] 渡部敏明著（2000）『ボラティリティ変動モデル』朝倉書店 [4] 田中勝人（2006）『現代時系列分析』岩波書店</p>		
⑥成績評価方法	講義中に出題するレポート2題（50%）および期末試験（50%）により評価を行う。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	オフィスアワーについては、初回の講義で案内する予定である。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・計量ソフトウェアとして「Matlab」もしくは「R」を利用する。		

2018年度以降入学生	金融経済学特殊研究	P0445	2 単位
2013～2017年度入学生	金融経済学特殊研究	P598	2 単位
2012年度以前入学生	金融経済学特殊研究（前半）	P452	計 4 単位
担当教員	田中 敬一	前期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得する。 英語テキストを用いて、確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析 ファイナンスの各分野における論文で用いられている数学的手法やファイナンスの概念等を広く理解できることを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 確率論・確率解析・ファイナンスについて講義する。 内容は、確率解析・ジャンプ過程・マルコフ過程・レジームスイッチング・金利モデル・信用リスクモデル・CAPM・無差別価格等である。		
④授業外学習	論文発表の準備		
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE		
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	アポイントメント		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)			

2018年度以降入学生	金融経済学特殊演習	P0446	2 単位
2013～2017年度入学生	金融経済学特殊研究	P599	2 単位
2012年度以前入学生	金融経済学特殊研究（後半）	P452	計 4 単位
担当教員	田中 敬一	後期	水曜日 2 時限
①授業方針・テーマ	ファイナンスに必要な確率解析を修得するとともに、関連トピックスで代表的な論文等を輪読する。 金融経済学特殊研究で得た知識を活用して、最新の研究論文の輪読およびその内容の検討を行う。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンスに必要な確率解析		
③授業計画・内容 授業方法	【授業内容】 理論展開の本質を理解し、その内容の拡張の可能性を探ることや、数値計算を再現し、その特徴を把握することなどを試みる。このような作業を経て、理論・数値計算・実証に関する論文執筆の準備を行うことが目標である。 分野としてはデリバティブ、金利期間構造モデル、クレジットリスク、リスク管理等である。 必要に応じてテキストに挙げた書籍の輪読もしくは講義を行う。		
④授業外学習	論文発表の準備		
⑤テキスト・参考書等	Nunno et al., Malliavin Calculus for Levy Processes with Applications to Finance Touzi, Optimal Stochastic Control, Stochastic Target Problems, and Backward SDE		
⑥成績評価方法	発表および授業への貢献度により評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	アポイントメント		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)			

2018年度以降入学生	日本経済論特殊研究		P0447	2 単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（日本経済論）		P568	2 単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（日本経済論）（前半）		P435	計 4 単位
担当教員	村田 啓子	前期	木曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは家計行動（消費・貯蓄）の実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。			
④授業外学習				
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。			
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。			

2018年度以降入学生	日本経済論特殊演習		P0448	2 単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（日本経済論）		P569	2 単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（日本経済論）（後半）		P435	計 4 単位
担当教員	村田 啓子	後期	木曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	日本経済の実証分析。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の実証分析についての先行研究を学び、実証研究を行う能力を身につける。			
③授業計画・内容 授業方法	受講者の意向も考慮するが、まずは労働市場（日本的雇用慣行とその変化、近年の課題）に関する実証研究（英文、サーベイ論文含む。必要があれば理論の文献で補強）についての文献を輪読する予定。			
④授業外学習				
⑤テキスト・参考書等	授業時に提示する。			
⑥成績評価方法	平常点及びレポート。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特になし。			

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊研究	P0449	2単位
2013～2017年度入学生	ゲーム理論特殊研究	P578	2単位
2012年度以前入学生	ゲーム理論特殊研究（前半）	P442	計4単位
担当教員	渡辺 隆裕	前期	火曜日 4時限
①授業方針・テーマ	まず、経済数学等のテキストの講義と輪読と演習を行い、ゲーム理論を学ぶために必要な数学を身につけます。 次に、ゲーム理論の講義と輪読によって、大学院レベルのゲーム理論を身につけることを目的とします。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	集合、制約条件付き最適化、動的計画などの数学力を身につける。合理的アプローチのゲーム理論の発展（戦略形ゲーム、展開形ゲーム、支配戦略、ナッシュ均衡）を学ぶ。数学による形式化を完全に行うこと、基本的な定理の証明などができる力を身につけることを目標とする。		
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 数学の基礎：集合、制約条件付き最適化、動的計画 ゲーム理論基礎：戦略形ゲーム、展開形ゲームの基礎 【授業方法】 テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。		
④授業外学習	輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。 また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。		
⑤テキスト・参考書等	【参考書】 S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press. R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge University Press, 1996.		
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜5限(16:30-17:50)をオフィスアワーとします。 メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受け付けることが可能です。		
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。 事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室(3号館4F411号室)へ来て下さい。		

2018年度以降入学生	ゲーム理論特殊演習		P0450	2単位
2013～2017年度入学生	ゲーム理論特殊研究		P579	2単位
2012年度以前入学生	ゲーム理論特殊研究（後半）		P442	計4単位
担当教員	渡辺 隆裕	後期	火曜日	4時限
①授業方針・テーマ	ゲーム理論の講義と輪読によって、前期のゲーム理論特殊講義よりも、さらに発展した内容のゲーム理論を身につけることを目的とします。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ゲーム理論の発展的内容（均衡の精緻化、不完備情報の戦略形ゲーム、不完備情報の展開形ゲーム、繰り返しゲーム、交渉ゲーム、進化ゲーム、協力ゲーム）を学ぶ。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回－第3回 一般の展開形ゲームと均衡の精緻化 第4回－第5回 不完備情報の戦略形ゲーム 第6回－第7回 不完備情報の展開形ゲーム・シグナリングゲーム 第8回－第9回 繰り返しゲーム 第10回 交渉ゲーム 第11回 進化ゲーム 第12回－第13回 協力ゲーム 第14回－第15回 まとめ</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストと教材を定めて、演習と輪読を繰り返してゆく形式で講義を行います。</p>			
④授業外学習	<p>輪読で当番となった部分は、内容をよく理解し、レジメを作って発表の準備をすることが求められます。</p> <p>また、宿題となった演習問題を自宅で解くことが求められます。</p>			
⑤テキスト・参考書等	<p>【参考書】</p> <p>S. Taldes, Game Theory: An Introduction, Princeton University Press.</p>			
⑥成績評価方法	普段の出席・参加状況と演習課題の解答により評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	<p>火曜5限(16:30-17:50)をオフィスアワーとします。</p> <p>メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受け付けることが可能です。</p>			
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>オフィスアワーは特に設定しませんが、質問は積極的に受け付けます。</p> <p>事前にメール、kibacoでアポイントメントをとり、私の研究室(3号館4F411号室)へ来て下さい。</p>			

2018年度以降入学生	数理統計学特殊研究		P0451	2 単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P566	2 単位
2012年度以前入学生	統計学特殊研究（前半）		P434	計 4 単位
担当教員	小方 浩明	前期	木曜日	3 時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。			
③授業計画・内容 授業方法	テキスト（洋書）を輪読する。テキストは相談のうえ決めるが、例えば[テキスト・参考書等]の欄に挙げられたものなどが考えられる。			
④授業外学習	輪読するテキストを事前に読み、内容を理解し、授業中に発表できる状態にしておくこと。			
⑤テキスト・参考書等	Ruey S. Tsay. (2010). Analysis of Financial time series. 3rd ed. Wiley.			
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学の知識を前提とする。また、数理的側面の強い統計学のテキストを読むことを前提としている。なお、初回の授業に必ず出席すること。			

2018年度以降入学生	数理統計学特殊演習		P0452	2 単位
2013～2017年度入学生	統計学特殊研究		P567	2 単位
2012年度以前入学生	統計学特殊研究（後半）		P434	計 4 単位
担当教員	小方 浩明	後期	木曜日	3 時限
①授業方針・テーマ	時系列データの特色、ならびに時系列データの高度な解析方法について学ぶ。 自ら興味のあるデータを取得し、実際に解析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済時系列データの特徴を理解する。 さまざまな時系列データ解析の方法を理解する。			
③授業計画・内容 授業方法	時系列データの特徴を理解する。 高度な時系列データ解析の方法を理解する。 統計ソフトウェアRにより時系列解析が行える。			
④授業外学習	時系列データを探し、解析を行う。			
⑤テキスト・参考書等	特に指定しない。			
⑥成績評価方法	出席、授業への参加状況を総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは特に指定しないのでメール等で事前にアポイントメントを取ってください 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	数理統計学特殊研究を受講済みのこと。			

2018年度以降入学生	公共経済学特殊研究		P0453	2単位
2013～2017年度入学生	公共経済特殊研究		P667	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（公共経済学特論）（前半）		P487	計4単位
担当教員	森本 脩平	前期	火曜日	5時限
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の論文の輪読や講義を主に行う。			
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。			
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。			
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。			

2018年度以降入学生	公共経済学特殊演習		P0454	2単位
2013～2017年度入学生	公共経済特殊研究		P668	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（公共経済学特論）（後半）		P487	計4単位
担当教員	森本 脩平	後期	火曜日	5時限
①授業方針・テーマ	大学院レベルの公共経済学について学ぶ。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共経済学の専門的な研究を行うために必要となる知識や分析手法の習得を目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法	公共経済学関連の論文の輪読や問題演習を主に行う。			
④授業外学習	授業中に指示する文献に目を通し授業内容の予習と復習を行うこと。			
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定する。			
⑥成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。			

2018年度以降入学生	国際金融論特殊研究		P0455	2単位
2013～2017年度入学生	国際金融特殊研究		P592	2単位
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究（前半）		P449	計4単位
担当教員	荒戸 寛樹	前期	月曜日	1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p>			
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。			
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。			
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 			

2018年度以降入学生	国際金融論特殊演習		P0456	2単位
2013～2017年度入学生	国際金融特殊研究		P593	2単位
2012年度以前入学生	マクロ経済学特殊研究（後半）		P449	計4単位
担当教員	荒戸 寛樹	後期	月曜日	1時限
①授業方針・テーマ	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献を読む。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学・国際マクロ経済学についての基本文献が読めるようになる。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》 Handbook of Macroeconomics, Handbook of Economic Growth, Handbook of Monetary Economics, Handbook of International Economics等の文献から各自の興味に合わせて論文を選定し、学生が内容を報告する。</p> <p>《授業方法》 輪読形式で行う。</p>			
④授業外学習	文献の内容を理解し、報告の準備を行うこと。 その際、先行研究のレビューも行うと望ましい。			
⑤テキスト・参考書等	上述のHandbookシリーズを用いる。			
⑥成績評価方法	報告の内容やディスカッションへの参加度を総合的に判断する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	特定の時間を設定することはないが、質問がある場合は遠慮なくメールでアポイントメントを取ること。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていることが履修の前提となる。 ・履修希望者は1回目の授業に必ず出席すること。 			

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊研究		P0457	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（環境経済学特論）		P604	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（環境経済学特論）（前半）		P475	計4単位
担当教員	朝日 ちさと	前期	木曜日	5時限
①授業方針・テーマ	都市経済学・地域経済学・環境経済学の分野のテキストおよび論文を購読し、受講生自らの研究テーマに関する基礎知識および方法論を習得します。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域・環境問題に関する経済学的分析の基礎知識および方法論を習得することを目的とします。			
③授業計画・内容 授業方法	受講者が自らの研究テーマを設定し、段階的に学会発表および論文執筆を行うことを念頭に置いた研究指導を行います。 テキストおよび論文の購読をレジュメにより報告し、方法論・結論等を習得するとともに、自らの研究テーマに即した応用について議論します。			
④授業外学習	授業外学習として、テキスト・論文の内容について、知識の確認、レジュメの作成、自らの研究テーマとの関係についての考察等を行います。			
⑤テキスト・参考書等	テキストおよび論文は、受講者のテーマ設定に応じて初回講義時に決定します。 参考書類については随時紹介します。			
⑥成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	都市環境経済学特殊演習		P0458	2単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（環境経済学特論）		P638	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（環境経済学特論）（後半）		P475	計4単位
担当教員	朝日 ちさと	後期	木曜日	5時限
①授業方針・テーマ	都市環境経済学特殊研究によって検討してきた自らの研究テーマについて、個別の調査および分析を進めます。その進捗状況を報告し、受講者間の討論によって調査分析の改善をはかります。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	自らの調査分析の報告を通じて分析内容の改善を図るとともに、受講者間の討論によって、関連分野の知見を蓄積し、調査分析に関する客観的批判的な視座を養います。			
③授業計画・内容 授業方法	受講者が自らの研究テーマを設定し、関連学会での発表および論文執筆に向けての研究指導を行います。また、博士論文執筆を進めていくための指導も行います。			
④授業外学習	授業外学習として、知識の確認、関連する既往研究のレビュー、研究テーマとの関連の考察等を行い、それらに関するレジュメを作成します。			
⑤テキスト・参考書等	受講者の研究テーマに応じた参考文献を随時紹介します。			
⑥成績評価方法	授業における報告、レポート等によって評価します。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問・連絡がある場合には、事前にメールでアポイントをとってください。 e-mail : asahi@tmu.ac.jp			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	財政学特殊研究		P0459	2 単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（財政学－公共政策分析）		P572	2 単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（財政学－公共政策分析）（前半）		P437	計 4 単位
担当教員	金子 憲	後期	火曜日	1 時限
①授業方針・テーマ	この講義では、財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行う。 本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。			
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。			
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	財政学特殊演習		P0460	2 単位
2013～2017年度入学生	経済学特殊演習（財政学－公共政策分析）		P573	2 単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（財政学－公共政策分析）（後半）		P437	計 4 単位
担当教員	金子 憲	後期 I	火曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	この講義では、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国や地方公共団体などの公共部門が行う政策を、財政構造と関連させながら政策的観点から分析を行うことによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
③授業計画・内容 授業方法	本年度は、日本の住宅政策を取り上げる予定である。			
④授業外学習	講義前：事前配布資料を一読し、論点をまとめておくこと。 講義後：講義内に提示する課題について、レポートを作成して提出すること。			
⑤テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
⑥成績評価方法	講義中に実施する課題・報告内容・期末レポート等、平常点を基に総合的に評価する。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	日本経済史特殊研究		P0461	2単位
2013～2017年度入学生	日本経済史特殊研究		P607	2単位
2012年度以前入学生	日本経済史特殊研究（前半）		P459	計4単位
担当教員	小林 延人	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	近世後期～現在に至るまで（19～21世紀）の日本経済史を扱う。本授業では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を正確に理解し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・文献や重要語句の意味を自身で検索し、また短い期間で論文の主旨や問題点を析出する訓練を積むことで、博士論文執筆の上で必要な基礎的技能を身につけることができる。 			
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 近世日本の制度的基盤 第2回 幕府財政 第3回 開港に伴う経済構造の変容 第4回 近世後期の貨幣制度 第5回 明治維新と維新政府の経済政策 第6回 松方財政 第7回 地方自治と農村経済 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 産業革命論 第10回 日清戦後経営 第11回 戦間期の日本経済 第12回 戦時統制経済 第13回 戦後復興 第14回 高度経済成長 第15回 現代日本経済</p> <p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として講義形式で授業を実施するが、あらかじめリーディングリストを配布し、課題論文を提示する。 ・講義を行った後、講義内容を踏まえた短時間のディスカッションを行う。 			
④授業外学習	参加者には毎回、課題論文に対するコメントを用意してもらう。事前に課題論文を講読していることを前提として授業を進める。			
⑤テキスト・参考書等	リーディングリストを配布し、課題論文を提示する。			
⑥成績評価方法	議論への参加 [30%]、期末レポート [70%] <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料的根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。			

2018年度以降入学生	日本経済史特殊演習	P0462	2単位
2013～2017年度入学生	日本経済史特殊研究	P608	2単位
2012年度以前入学生	日本経済史特殊研究（後半）	P459	計4単位
担当教員	小林 延人	後期	金曜日 3時限
①授業方針・テーマ	主として、近世中期～昭和戦前期（18世紀～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の応用的な方法論を学ぶとともに、博士論文の執筆に向けた準備をする。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、先行研究を批判的に検討する姿勢を学ぶ。 ・個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深めることができる。 		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 江戸期商人の活躍と取引、商慣行 第2回 商人と商業組織 第3回 近世後期における信用制度、交易、交通、インフラの成立と商業 第4回 開国にともなう貿易・社会インフラ・流通機構の変容 第5回 近代的商業経営の成立 第6回 近代商業の発展と貿易の拡大 第7回 近代日用品市場の成立と展開 第8回 新たな小売業態の発展と中小小売商 第9回 生産の量的・質的拡大に対する商業者の反応 第10回 戦時配給統制とヤミ市の相克 第11回 戦時配給組織化と商業機能の喪失 第12回 戦争と商業経営者の存亡 第13回 個人研究報告（1）※ 第14回 個人研究報告（2）※ 第15回 個人研究報告（3）※</p> <p>※ 履修者の人数に応じて、個人研究報告の時間を設定する。</p> <p>【授業方法】</p> <p>①テキストの輪読（第1回～第12回）、②個人研究報告（第13回～第15回）、を組み合わせ実施する。 ①を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 ②を通じて、修士論文の執筆につながるような、研究テーマを探る。研究テーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を採る。</p>		
④授業外学習	①の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。②では45分～60分程度の報告を行うために、報告者にはレジュメおよびパワーポイント資料を作成することが求められる。		
⑤テキスト・参考書等	テキスト：廣田誠・山田雄久・木山実・長廣利崇・藤岡里圭『日本商業史—商業・流通の発展プロセスをとらえる』（有斐閣、2017年）定価2,500円＋税 演習参加者には、テキストを事前に入手することを求める。		
⑥成績評価方法	議論への参加〔20%〕、個人研究報告〔40%〕、期末レポート〔40%〕 <ul style="list-style-type: none"> ・レポートについては、適切に課題が設定されているか、先行研究と関連付けて課題が説明されているか、史料の根拠に立脚して自身の見解を述べているか等を評価項目とし、構成と論理性を重視して評価する。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	日本経済史に関わる博士論文を執筆する学生対象の授業であるが、それ以外の学生の参加も認める。		

2018年度以降入学生	経済思想史特殊研究		P0463	2単位
2013～2017年度入学生	経済思想史特殊研究		P663	2単位
2012年度以前入学生	経済思想史特殊研究（前半）		P486	計4単位
担当教員	高見 典和	前期	月曜日	3時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。直接には、近年の研究を参照して執筆した担当講師の記事（日本語）に依拠します。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。			
③授業計画・内容 授業方法	担当講師が『経済セミナー』に連載した記事やその他の執筆原稿を用いて、計量経済学、ゲーム理論、行動経済学、IS-LMモデル、成長理論それぞれの誕生や発展の経緯にかんして議論をします。			
④授業外学習	輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。			
⑤テキスト・参考書等	高見典和「連載：経済学説史」『経済セミナー』（2017年6・7月号～2018年2・3月号）			
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。			

2018年度以降入学生	経済思想史特殊演習		P0464	2単位
2013～2017年度入学生	経済学説史特殊研究		P664	2単位
2012年度以前入学生	経済学説史特殊研究（後半）		P486	計4単位
担当教員	高見 典和	後期	月曜日	3時限
①授業方針・テーマ	近年の欧米での経済学史研究を解説します。主に20世紀前半から半ばにかけての主流派経済学の歴史にかんする著作や論文をとりあげます。翻訳のあるものは少ないので、主として英文の文献を取り上げることになります。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在の数理的計量的経済学の直接の起源は、20世紀半ばの一連の数理経済学者の研究にあります。かれらがどのような知的背景をもち、どのような経済学を目指したかを見ることで、経済学は完成された知識ではなく、つねに新しい視点を取り入れてきた学問であることが理解できます。			
③授業計画・内容 授業方法	初回授業で、リーディングリストを配布します。計量経済学、ミクロ消費者理論、マクロ政策論争などにかんする著作や論文をあつかう予定です。			
④授業外学習	輪読形式をとりますので、各週の担当になった受講者はレジュメを作成してもらいます。			
⑤テキスト・参考書等	適宜指定			
⑥成績評価方法	授業への貢献50%、レポート50%			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	当科目の履修には担当教員の許可が必要です。初回講義で履修を許可するかどうかを決定しますので、必ず出席してください。			

2018年度以降入学生	西洋経済史特殊研究		P0465	2単位
2013～2017年度入学生	西洋経済史特殊研究		P619	2単位
2012年度以前入学生	欧州経済史特殊研究（前半）		P466	計4単位
担当教員	岩間 俊彦	前期	月曜日	2時限
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の欧米における社会や経済に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。 			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学的研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。 			
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成に関するテキストや社会科学的研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・論文作成や基礎的調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 <ul style="list-style-type: none"> 1 授業の案内 2-14 講読と演習 15 授業のまとめ 			
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。			
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト 吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版 参考書 佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、 小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会。必要に応じて、授業時に指示します。</p>			
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。			
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）				

2018年度以降入学生	西洋経済史特殊演習	P0466	2 単位
2013～2017年度入学生	欧州経済史特殊研究	P620	2 単位
2012年度以前入学生	欧州経済史特殊研究（後半）	P466	計 4 単位
担当教員	岩間 俊彦	後期	月曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の欧米における社会や経済の歴史に関する歴史的分析方法について学びます。 ・学術論文・学術書・資料の収集方法・整理・文書化（論文執筆の作法）について演習します。 		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的分析方法に基づく研究を実証的かつ理論的にすすめる能力を高めます。 ・社会科学的研究に必要な一次資料や学術文献の収集・整理・考察・表記・論文作成に関するスキルを高めます。 		
③授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成に関するテキストや社会科学的研究における一次資料（archives）の特徴を解説したテキストを読解しながら、欧米の社会や経済の歴史に関する研究方法の理解を深めます。 ・研究方法に関する演習の成果を確認するために、参加者各自の研究課題に即して資料作成と報告を行います。 ・前期の授業成果をふまえて、資料と調査方法に関する演習を中心に行います。 ・予定 <p>1 授業の案内 2-14 講読と演習 15 授業のまとめ</p>		
④授業外学習	授業前に、テキストを予習したうえで、授業後、要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。		
⑤テキスト・参考書等	<p>テキスト 吉田健正『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 第2版』ナカニシヤ出版、佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社、石井寛治他編『日本経済史6』東京大学出版会、小川千代子他編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会。</p> <p>参考書は授業、kibacoで指示します。</p>		
⑥成績評価方法	授業への参加（授業態度、授業への貢献、演習内容、4割）と課題提出（6割）によります。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	質問等のためのオフィスアワーを設置します。初回に説明します。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）			

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊研究		P0467	2単位
2013～2017年度入学生	アジア経済史特殊研究		P647	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（アジア経済史）（前半）		P447	計4単位
担当教員	竹内 祐介	前期	金曜日	3時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。(1)ヨーロッパ経済とアジア経済の比較、(2)ヨーロッパ経済とアジア経済の関係、および(3)アジア内の経済関係という視点から、アジア各国史ではない、地域横断的なアジア経済史像を検討する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること 			
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス、グローバル経済史入門 2 アジアとヨーロッパ：経済発展の国際比較 3 銀と大航海時代 4 近世グローバル経済と日本 5 アジア経済とイギリス産業革命 6 世界商品の登場 7 開発と人口 8 グローバル経済の緊密化 9 開発の進行と人の移動 10 国際金融と金本位制度 11 グローバル経済の深化とライフスタイル 12 エネルギー 13 経済発展の多径路性 14 20世紀後半の展開 15 リオリエントへの展望 <p>*指定テキスト各章を扱う（1-15とタイトルはそれぞれテキストの章番号・章題に対応している）</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。</p>			
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。			
⑤テキスト・参考書等	水島司・島田竜登 [2018]『グローバル経済史』放送大学教育振興会			
⑥成績評価方法	平常点により評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として、毎週水曜日3時限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。			
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。			

2018年度以降入学生	アジア経済史特殊演習	P0468	2単位
2013～2017年度入学生	アジア経済史特殊研究	P648	2単位
2012年度以前入学生	経済学特殊講義（アジア経済史）（後半）	P447	計4単位
担当教員	竹内 祐介	後期	金曜日 5時限
①授業方針・テーマ	アジア経済史の最新の研究成果を批判的に検討することが目的。対象とするのは、主に18～20世紀で、アジア各国史ではない、地域横断的な研究成果を検討し、マクロ的視野でアジア経済の歴史および現状を考えられるようにする。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済史研究をおこなう上での基礎的素養の習得 ・帝国論、グローバルヒストリー等、近年のアジア経済史研究を巡る新しい方法論の習得 ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかわりについての理解を歴史的・経済的側面から深めること 		
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ 3 グローバルヒストリー：比較と関係性（1） 4 グローバルヒストリー：比較と関係性（2） 5 「長期の18世紀」におけるアジア（1） 6 「長期の18世紀」におけるアジア（2） 7 「長期の18世紀」におけるアジア（3） 8 「長期の18世紀」におけるアジア（4） 9 前半部のまとめ 10 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（1） 11 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（2） 12 「東アジアの経済的再興」の歴史的起源（3） 13 グローバルヒストリー研究の現在（1） 14 グローバルヒストリー研究の現在（2） 15 後半部のまとめ <p>*第2～12回は指定テキスト各章を扱う。第13～14回は別の論文を扱う。具体的指示は講義中に行う。</p> <p>【授業方法】</p> <p>テキストの輪読をおこなう。毎回発表者を決め（教員も発表者として参加）、テキストの各章を要約し、疑問点・論点を提示してもらう。それらにもとづいて、参加者同士で議論をし、理解を深める。</p>		
④授業外学習	テキストの該当範囲を事前に読んでくる。発表者は発表の準備をする。		
⑤テキスト・参考書等	秋田茂編 [2013] 『アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ』 ミネルヴァ書房		
⑥成績評価方法	平常点により評価する。		
⑦質問受付方法 （オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で南大沢Cの研究室（3-316）まで。もしくは授業前後に質問などを受け付ける。		
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加すること。		

2018年度以降入学生	金融工学特殊研究	P0469	2 単位
2013～2017年度入学生	金融工学特殊研究	P613	2 単位
2012年度以前入学生	金融工学特殊研究	P462	2 単位
担当教員	内山 朋規	前期	木曜日 5 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。		
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告		
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備		
⑤テキスト・参考書等	特になし		
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。		

2018年度以降入学生	金融工学特殊演習	P0470	2 単位
2013～2017年度入学生	金融工学特殊研究	P614	2 単位
2012年度以前入学生	金融工学特殊研究	P463	2 単位
担当教員	内山 朋規	後期	木曜日 5 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、金融工学やファイナンスに関する最新の論文を輪読したり、学生自身の研究を発表する。		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融工学やファイナンスに関する知識・能力を習得する。到達目標は、最新の論文を輪読し、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。		
③授業計画・内容 授業方法	毎回、出席者による報告		
④授業外学習	論文輪読や研究報告・発表の準備		
⑤テキスト・参考書等	特になし		
⑥成績評価方法	毎回の報告内容と参加態度による総合評価		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として月・火・水の午後。これ以外の時間帯でも在席時には随時受け付ける。場所は丸の内サテライトキャンパス。		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	ファイナンス・金融工学では、動学的かつ確率的な枠組みのもとで理論が展開されるため、確率過程や確率解析、統計などで相応のレベルの数学が必須である。例えば以下のテキストのレベルの数学を理解できることが求められる。 Darrell Duffie (2001) Dynamic Asset Pricing Theory, Third Ed., Princeton Univ Pr. ただし、講義では経済学的なインプリケーションを重視する。		

2018年度以降入学生	金融リスク特殊研究	P0471	2 単位
2013～2017年度入学生	金融リスク特殊研究	P576	2 単位
2012年度以前入学生	金融リスク特殊研究	P440	2 単位
担当教員	室町 幸雄	前期	金曜日 1 時限
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey, Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。</p>		
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。		
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。		
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	木曜 4 限 (ただし第 3 木曜を除く)。 質問等はメール (muromachi-yukio@tmu.ac.jp) でも受け付ける。		
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。		

2018年度以降入学生	金融リスク特殊演習	P0472	2単位
2013～2017年度入学生	金融リスク特殊研究	P577	2単位
2012年度以前入学生	金融リスク特殊研究	P441	2単位
担当教員	室町 幸雄	後期	金曜日 1時限
①授業方針・テーマ	金融リスクの定量的評価に関する文献の輪読による基礎知識の習得		
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスクの定量的評価に必要な基礎知識を習得し、実際に使えるようになることを目指す。		
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスクの定量的評価に関する英語テキストの輪読を行う。毎回、担当者がテキストの内容を発表する。担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。数式に関しては逐一追跡する。必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。ちなみに、以前使用していたテキストは、McNeil, Frey Embrechts, Quantitative Risk Management: Concepts, Techniques and Tools である。</p> <p>内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。</p>		
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。		
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。		
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。		
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	木曜4限(ただし第3木曜を除く)。 質問等はメール(muromachi-yukio@tmu.ac.jp)でも受け付ける。		
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンスの知識を習得していることが必要である。		

2018年度以降入学生	オプション理論特殊研究		P0473	2単位
2013～2017年度入学生				
2012年度以前入学生				
担当教員	竹原 浩太	前期	火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。			
③授業計画・内容 授業方法	オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のものの、 また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、 単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。			
④授業外学習	論文精読、発表準備			
⑤テキスト・参考書等	L. Bergomi, 'Stochastic Volatility Modeling', Chapman and Hall/CRC, 2016.			
⑥成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週木曜2限(夜)をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。			
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	オプション理論特殊演習		P0474	2単位
2013～2017年度入学生				
2012年度以前入学生				
担当教員	竹原 浩太	後期	火曜日	1時限
①授業方針・テーマ	高度なオプションの評価、リスク管理			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	高度なオプションの評価、リスク管理に必要な知識や理論、また最新の知見を学ぶ。			
③授業計画・内容 授業方法	オプション評価やリスク管理に関するテキストの輪読を行う。 対象となる文献については、書籍・論文を問わずできる限り最新のものの、 また英文のものを中心とする予定である。 担当者が発表を行う形とするが、主にレジュメやホワイトボードを使用し、 単に文献の主張や成果をそのまま述べるのではなく、批判的な視点から検討を行う。			
④授業外学習	論文精読、発表準備			
⑤テキスト・参考書等	L. Bergomi, 'Stochastic Volatility Modeling', Chapman and Hall/CRC, 2016.			
⑥成績評価方法	出席及び自身の発表を含む全体への貢献で評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	原則として毎週月・水曜4限をオフィスアワーとして設定する。 それ以外の時間帯に来訪する場合には、事前にメールでアポイントメントを取ること。			
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	金融論特殊研究		P0443	2 単位
2013～2017年度入学生	金融特殊研究		P643	2 単位
2012年度以前入学生				
担当教員	松岡 多利思	前期	水曜日	4 時限
①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読を進める			
④授業外学習	授業内容の予習と復習。			
⑤テキスト・参考書等	<p>■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press</p> <p>■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.</p>			
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは木曜日3限。			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。			

2018年度以降入学生	金融論特殊演習		P0444	2単位
2013～2017年度入学生	金融特殊研究		P644	2単位
2012年度以前入学生				
担当教員	松岡 多利思	後期	水曜日	4時限
①授業方針・テーマ	本講義では、貨幣経済学（マネタリー・エコノミックス）に関するテキストおよび論文を講義・輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識は動学的一般均衡の枠組みで貨幣の役割や金融政策の効果等を分析する手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独自性のある新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	貨幣理論についてのテキストおよび論文を輪読する。基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、包括的に扱う予定である。 初回：イントロダクション 初回以降は講義および参加者による輪読を進める。			
④授業外学習	授業内容の予習と復習。			
⑤テキスト・参考書等	<p>■Modeling Monetary Economics, 4th Edition, by B.Champ, S. Freeman, and J. Haslag, Cambridge University Press</p> <p>■Money, Payments, and Liquidity, 2nd Edition, by G. Rocheteau and E. Nosal, The MIT Press.</p>			
⑥成績評価方法	取り組み方、達成度など総合的に判断する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	オフィスアワーは木曜日3限。			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	経済学プログラム科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「経済数学」「計量経済学」を全て履修済みか、それと同等の知識を持っていること。			

2018年度以降入学生	企業金融論特殊研究		P0429	2単位
2013～2017年度入学生	企業金融論特殊研究		P455	2単位
2012年度以前入学生	企業金融特殊研究（前半）		P419	計4単位
担当教員	芝田 隆志	前期	火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 ① イントロダクション ②～⑮ 輪読			
④授業外学習	紹介する文献を予め読んでおくこと			
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する			
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜 12:00 - 13:00 (メールにて事前に予約をすること)			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	企業金融論特殊演習		P0430	2単位
2013～2017年度入学生	企業金融論特殊研究		P456	2単位
2012年度以前入学生	企業金融特殊研究（後半）		P419	計4単位
担当教員	芝田 隆志	後期	火曜日	2時限
①授業方針・テーマ	本講義では、企業金融に関するテキストおよび論文を輪読する。			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	習得できる知識はファイナンス理論および金融工学の手法である。到達目標は、最先端の論文を読み、独創性に富んだ新しい論文を執筆できる能力を養うことにある。			
③授業計画・内容 授業方法	ファイナンス理論について、基礎的な事項から最先端の研究に至るまで、テキストおよび論文を輪読する。 ① イントロダクション ②～⑮ 輪読			
④授業外学習	紹介する文献を予め読んでおくこと			
⑤テキスト・参考書等	受講者と相談の上で決定する			
⑥成績評価方法	毎回の輪読における平常点			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	火曜 12:00 - 13:00 (メールにて事前に予約をすること)			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)				

2018年度以降入学生	金融リスク特殊研究		P0478	2 単位
2013～2017年度入学生				
2012年度以前入学生				
担当教員	足立 高德	前期	金曜日	2 時限
①授業方針・テーマ	金融リスク等を計測するための数理モデルと実装に関する基礎知識と技術の習得			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク等を計測するための数理モデルの設計に必要な基礎知識と実装のためのプログラミング技術を習得し、実際に使えるようになることを目指す。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスク等を計測やモデルの実装方法に関する英語テキストの輪読を行う。</p> <p>毎回、担当者がテキストの内容を発表する。</p> <p>担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。</p> <p>数式に関しては逐一追跡する。</p> <p>必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。</p> <p>発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合って決定する。</p> <p>内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。</p>			
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。			
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。			
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	不定、事前にメール (tadachi@tmu.ac.jp) で必ず予約すること。			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必要である。			

2018年度以降入学生	金融リスク特殊演習		P0479	2単位
2013～2017年度入学生				
2012年度以前入学生				
担当教員	足立 高德	後期	金曜日	2時限
①授業方針・テーマ	金融リスク等を計測するための数理モデルと実装に関する基礎知識と技術の習得			
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融リスク等を計測するための数理モデルの設計に必要な基礎知識と実装のためのプログラミング技術を習得し、実際に使えるようになることを目指す。			
③授業計画・内容 授業方法	<p>金融リスク等を計測やモデルの実装方法に関する英語テキストの輪読を行う。</p> <p>毎回、担当者がテキストの内容を発表する。</p> <p>担当者は内容を吟味しながら読み進め、レジュメなどを使用しながら参加者に説明する。</p> <p>数式に関しては逐一追跡する。</p> <p>必要があれば、参考文献として他のテキストや論文も読み進める。</p> <p>発表者以外の参加者も、事前にテキストを一読し、疑問点を整理しておくこと。</p> <p>使用するテキストは初回に参加者と話し合っ決定する。</p> <p>内容の理解だけでなく、演習的な要素も適宜加える。</p>			
④授業外学習	予習と復習は必須である。特に、発表担当者は入念な準備が必要である。			
⑤テキスト・参考書等	初回に決定する。			
⑥成績評価方法	講義への参加姿勢と内容の習得度をもとに評価する。			
⑦質問受付方法 (オフィスアワー)	不定、事前にメール (tadachi@tmu.ac.jp) で必ず予約すること。			
⑧特記事項 (他の授業科目との関連性)	数理的な面が強い講義になるので、参加者は基礎的な数学、統計学、ファイナンス及びプログラミングの知識と技術を習得していることが必要である。			

Ⅳ 各キャンパス授業時間割について

丸の内サテライトキャンパス及び南大沢キャンパスの授業時間は以下のとおりです。平日と土曜日で授業時間が異なります。またキャンパスごとも授業時間が異なりますのでご注意ください。

1 丸の内サテライトキャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1 時限	9:30～11:00	ファイナンスプログラム (高度金融専門人材養成プログラム)
2 時限	11:15～12:45	
3 時限	14:00～15:30	
4 時限	15:45～17:15	
5 時限	18:20～19:50	経営学プログラム(高度専門職業人養成プログラム※) 及び経済学プログラム、ファイナンスプログラム (高度金融専門人材養成プログラム)
6 時限	20:00～21:30	

※2015年度までの高度専門職業人養成プログラムの1時限及び2時限は、2016年度から5時限及び6時限という表記に変更しました。授業時間に変更はありません。

【土曜日】

時限	授業時間	主な授業実施プログラム
1 時限	10:30～12:00	経営学プログラム(高度専門職業人養成プログラム) 及び経済学プログラム、ファイナンスプログラム (高度金融専門人材養成プログラム)
2 時限	13:00～14:30	
3 時限	14:40～16:10	
4 時限	16:20～17:50	

2 南大沢キャンパス

【月曜日～金曜日】

時限	授業時間
1 時限	8:50～10:20
2 時限	10:30～12:00
3 時限	13:00～14:30
4 時限	14:40～16:10
5 時限	16:20～17:50
6 時限	18:00～19:30

V 交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

○丸の内サテライトキャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取り扱いについて

丸の内サテライトキャンパスにおける授業の休講について、取り扱いは次のとおりとします。

1 休講等を検討する場合

- (1) JR線及び地下鉄各線が著しく「運休」し、通学に支障をきたす場合
- (2) 東京23区に気象警報（大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等）が発令されている場合
- (3) 首都圏を対象とした「大規模地震の警戒宣言」が発令された場合
→ (1)、(2) の場合は状況をもとに休講について検討する。(3) の場合は発令された時点で休講とする。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

2 休講を決定する時刻

平日 第1時限～第2時限（9:30～12:45）については午前7時までに決定する。
第3時限～第4時限（14:00～17:15）については午前11時までに決定する。
第5時限～第6時限（18:20～21:30）については午後4時までに決定する。

土曜日 第1時限（10:30～12:00）については午前8時までに決定する。
第2時限から第4時限（13:00～17:50）については午前10時30分までに決定する。

3 周知方法

上記各項に基づく休講措置については、原則としてメール配信にて提供する。

○丸の内サテライトキャンパス内における緊急時の対応について

授業中等に地震や火災の発生により防災センターから避難放送が流れる場合があります。その場合は避難放送の指示に従い行動します。避難指示があるまでは教室で待機してください。

なお、待機中は、永楽ビルディング内の他テナント所有部分等に立ち入ることのないよう、注意して下さい。

○南大沢キャンパスにおける交通機関運休の場合等の授業の取扱いについて

博士後期課程及び博士前期課程B2科目などの南大沢キャンパスで開講される授業について、交通機関が、積雪、風水害、事故、ストライキ等により運休した場合等の授業の取扱いは、次のとおりとし、(4)の方法により確認することができます。

(注)「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されてい

るものをいう。

- (1) 午前6時現在、京王相模原線・京王線、J R横浜線、小田急小田原線のいずれかが運休している場合は、第1時限～第2時限（8:50～12:00）を休講とする。
- (2) 前項に掲げる各路線及び小田急多摩線、J R南武線・中央線・山手線、多摩モノレールのいずれかの全部又は一部の運休など、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、若しくは生じることが予想される場合には、その都度休講等を決定する。

休講を決定する時刻

第1時限、第2時限については、午前6時までに決定する。

第3時限、第4時限（13:00～16:00）については、午前10時までに決定する。

第5時限、第6時限（16:20～19:30）については、午後1時までに決定する。

- (3) 定期試験等についても、授業と同様の扱いとする。別途事後措置を行うことがある。
- (4) 確認の方法
首都大学東京公式Twitter (https://twitter.com/TMU_PR) により、確認することができる。

VI 学生生活の手引き（南大沢キャンパス※）

- 1 社会科学研究科・経営学研究科の学籍に関する事務は、文系学務課大学院担当が行う。
ただし、学籍以外の施設に関すること等（院生室の使用、備品の使用等）は、指導教員が所属する関連学部等が行うので十分に注意すること。
- 2 学生への連絡は掲示により行うので、日常インフォメーションギャラリーの社会科学研究科掲示板、電子掲示板に充分注意すること。また、文系の事務室前にも簡易掲示板あり。
- 3 Webで成績等の確認をしたり、学内メールアドレスを使用する際にはパスワードが必要です。入学時に登録したパスワードを忘れないようにして下さい。
- 4 新学期用書類は、4月上旬（入学式以降の日）日時を決めて配布する。
なお、この時同時に
 - ①日本学生支援機構の申請書類を配布する。
 - ②日本学術振興会特別研究員の募集予約を受付ける。
- 5 授業料の納入期日は、前期分は4月中、後期分は10月中となっているので、この期間内に納入すること。
- 6 住所（本人または保証人）、本籍地、保証人等を変更した場合は速やかに文系学務課に届け出ること。
- 7 毎年4月下旬に行われる健康診断は必ず受診すること。
- 8 各種証明書の交付は、「証明書発行願」用紙により申請すること。発行は申し込みの翌日の午後以降、英文の証明書は1週間後となるので余裕を見て申請すること。
なお、証明書等の受領時には、学生証を提出すること。
- 9 授業料の減免・分納の申請については、4月上旬と10月上旬、学生サポートセンターで受付ける。掲示板に注意すること。
- 10 期の初日から休学を許可された場合は、授業料は免除される。ただし、復学した日の属するその期分の授業料は徴収する。
- 11 退学する場合は、その期分の授業料を納入していなければならない。

※ 丸の内キャンパスに関することは別途案内する。

Ⅶ 首都大学東京学位規則（抜粋）

（目的）

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、首都大学東京の学位に関する事項を定めることを目的とする。

（学位の種類）

第2条 授与する学位は、次のとおりとする。

- （1）学士
- （2）修士
- （3）博士
- （4）法務博士（専門職）

2 学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、別表第1に定めるところにより、専攻分野の名称を付記するものとする。

（平17規則202・平19規則79・別表改正、平20規則78・一部改正・別表改正、平21規則49・平23規則27・別表改正）

（修士の学位授与要件）

第4条 首都大学東京大学院学則（平成17年度法人規則第49号。以下「大学院学則」という。）第35条第1項の規定により、博士前期課程を修了した者に対し、修士の学位を授与する。

（博士の学位授与要件）

第5条 大学院学則第35条第1項の規定により、博士後期課程を修了した者に対し、博士の学位を授与する。

2 大学院学則第35条第2項の規定により学位論文の審査及び試験に合格し、前項の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を試問によって確認された者に対し博士の学位を授与する。

（学位申請の方法、時期等）

第7条 学位申請の方法及び時期は、別表第2のとおりとする。

（修士の学位申請資格）

第8条 第4条の規定により修士の学位を得るため学位論文（特定の課題の研究成果を含む。以下同じ。）の審査を申請し得る者は、博士前期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。

（博士の学位申請資格）

第9条 第5条第1項の規定により博士の学位を得るため学位論文審査を申請し得る者は、博士後期課程に在学し、既に所定の単位を修得した者又は学位論文審査終了までに所定の単位を修得し得ると認められたものに限る。ただし、第5条第2項の規定により学位の申請をする場合は、この限りでない。

(論文博士の申請等)

第10条 第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請をする者は、第7条で定める申請書類及び関連書類に学位論文審査手数料を添えて、第2条第2項に規定する専攻分野を指定し、当該研究科を経て、学長に申請する。

2 学位論文審査手数料の額、免除その他の事項は、別に定めるところによる。

(学位申請の受理)

第11条 第4条の規定により修士の学位を得るための申請及び第5条第1項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、関連研究科において行う。

2 第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請の受理は、研究科の教授会(以下「研究科教授会」という。)において審査可能な論文であるか否かを審査の上、受理又は不受理を決定する。

3 前項の規定により、受理を決定したときは、申請受理証を交付する。

4 学長は、前2項の規定により学位申請の受理を決定したときは、その学位の専攻分野に応じて当該研究科教授会に審査させる。

(学位論文)

第12条 学位論文は、主論文1編とする。ただし、参考論文を添付することができる。

2 論文の用語は、研究科教授会において定める。

3 一旦受理した学位論文は、いかなる事由があっても返付しない。

(審査会)

第13条 学位論文の審査は、研究科教授会に審査会を設置し、その審査報告に基づいて決定する。

2 前項に定める学位論文の審査会は次のとおりに構成する。

(1) 第8条及び第9条による学位論文については、指導教員を持って主査とし、当該研究科教授会を構成する教員の中から研究科教授会の推薦により学長の指名する2名以上の教員を加えたものとする。

(2) 第10条の規定による学位論文については、当該研究科教授会を構成する教員の中から主査1名、委員2名以上により構成するものとし、研究科教授会の推薦により学長が指名する。

3 研究科教授会は必要と認めるときは、前項の規定にかかわらず他の研究科の教員又は他の大学院若しくは研究所等の教員等を審査委員に推薦することができる。

(審査期間)

第14条 第8条及び第9条による学位論文については在学中に提出させ審査を修了するものとする。

2 第10条の規定による学位論文の審査は、学位の授与の申請を受理した後1年以内に終了しなければならない。

3 特別の理由があるときは、前2項の規定にかかわらず、研究科教授会の議を経てその期間を延長することができる。

(試験)

第15条 審査会は、学位論文審査と同時に学位論文を中心として、その関連科目について最終試験又は試験を行う。

2 前項の最終試験又は試験は、口頭又は筆頭により行うものとする。

(試問)

第16条 第5条第2項の規定による試問は、口頭及び筆頭により行うものとする。

2 本学博士課程に1年以上在学し、所定の単位を修得した者が、退学後第5条第2項の規定により博士の学位を得るための申請をする場合は、当該各研究科であらかじめ定めるところにより、前項の試問を免除することができる。

(公聴会)

第17条 研究科教授会は、あらかじめ定めるところにより、最終試験又は試験の一部として、公開の発表会（以下「公聴会」という。）を開催し、学位論文提出者に公聴会での発表等を課すことができる。公聴会の実施に関する事項は、審査会で定める。

(研究科教授会への報告)

第18条 審査会は、審査終了後ただちにその結果を研究科教授会に報告しなければならない。

2 研究科教授会は、学位論文審査に必要なときは学位論文の副本、邦訳、模型又は標本等を提出させ、場合によっては、学位論文提出者に対し、当該学位論文について説明を求めることができる。

(合否の決定)

第19条 研究科教授会は、審査会の報告に基づいて無記名投票により学位論文及び最終試験等の合否を決定する。

2 前項の研究科教授会を開くためには、当該研究科教授会の3分の2以上の出席を要し、合格の決定をするには、出席者の3分の2以上の賛成を要する。ただし、公務のための欠席者は、前記の定数に参入しない。

第20条 前条の研究科教授会において合格と決定したときは、研究科長は学位論文に関する審査の要旨及び最終試験又は試験の成績を添えて学長に報告する。

2 第5条第2項の規定により学位の申請をする者については、試問の成績も添えなければならない。

3 不合格と決定したときも、また前項に準ずる。ただし、審査要旨の添付を要しない。

(学位の授与)

第21条 学長は、学部又は研究科の教授会の報告に基づいて、別記様式により、学位を授与するものとする。

2 学士の学位授与の時期は、3月とする。ただし、本学に4年以上在学し、教授会が特に必要と認めた者については、学位授与の時期を9月とすることができる。

3 修士の学位授与の時期は、3月及び9月の年2回とする。

4 博士の学位授与の時期は、そのつど定める。

5 法務博士（専門職）の学位授与の時期は、3月及び9月の年2回とする。

（平17規則202・平19規則79・平20規則78・別記様式改正、平21規則49・一部改正・別記様式改正、平22規則15・別記様式改正）

(学位論文要旨の公表)

第22条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、その学位論文の内容の要旨及び学位論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとし、その方法については、別に定める。

(平25規則5・一部改正)

(学位論文の公表)

第23条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。

- 2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科教授会の承認を得て、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、当該研究科は、当該学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本学の協力を得て、インターネットの利用により行うものとし、その方法については、別に定める。
- 4 前3項の規定により学位授与以降に学位論文を公表する場合は、その学位論文に「首都大学東京審査学位論文(博士)」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第24条 この規則の定めるところにより学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、首都大学東京の名称を付記するものとする。

(学位の取消)

第25条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科教授会の議に基づいて学位を取り消すことができる。

- 2 研究科教授会が前項の議決を行う場合は、出席者の4分の3以上の賛成を得なければならない。出席者数その他に関する事項は、第19条の規定を準用する。

別表第1（第2条関係）

社会科学部及び経営学研究科の学位の種類等

専攻	修士の学位の名称	博士の学位の名称
経営学専攻	修士（経営学）	博士（経営学）
	修士（経済学）*	博士（経済学）*
	修士（ファイナンス）*2	

*は2009年度入学者から

*2は2016年度入学者から

別表第2（第7条関係）

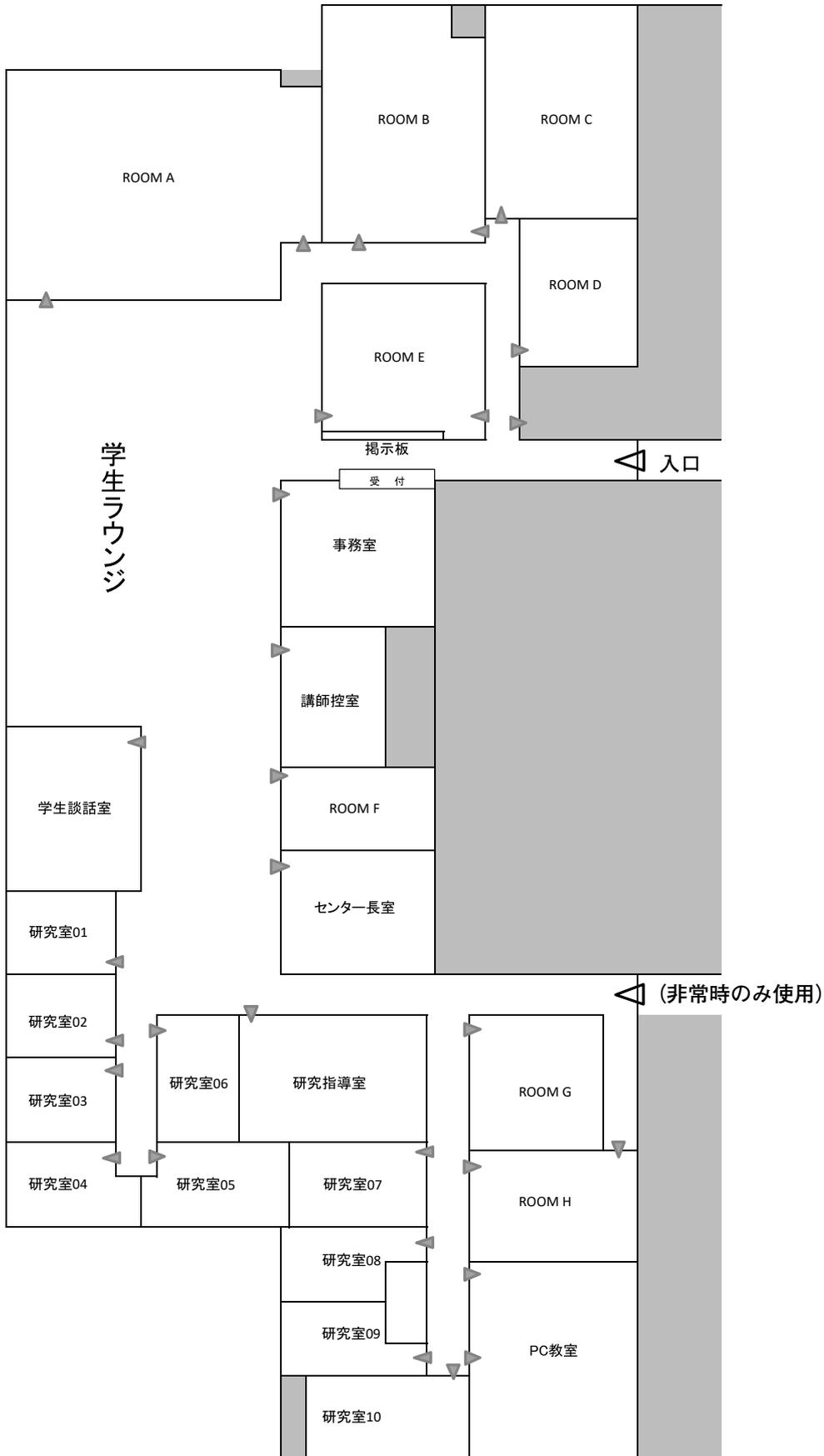
区分	申請日 (原則として)	学位授与日	申請書類等	部数
第4条の規定による学位 (修士) 博士前期課程に2年以上在学 (見込)中で30単位以上修得 (見込)の者	7月31日	9月30日	1 学位申請書	1
	1月10日	3月25日	2 学位論文 3 学位論文要旨	3 1
第5条第1項の規定による学位 (課程による博士) 博士後期課程に3年以上在学 (見込)中で20単位以上修得 (見込)の者	4月30日	9月30日	1 学位申請書	1
	10月31日	3月25日	2 学位論文 3 学位論文要旨 4 研究業績一覧 5 履歴書	3 3 2 2
第5条第2項の規定による学位 (論文による博士)	4月末日 及び 8月末日	9月下旬 及び 2月下旬 (予定)	1 学位申請書 2 学位論文 3 学位論文要旨 4 学位論文目録 5 研究業績一覧 6 履歴書 7 住民票記載事項 証明書	1 3 3 1 2 2 1

〔注記〕

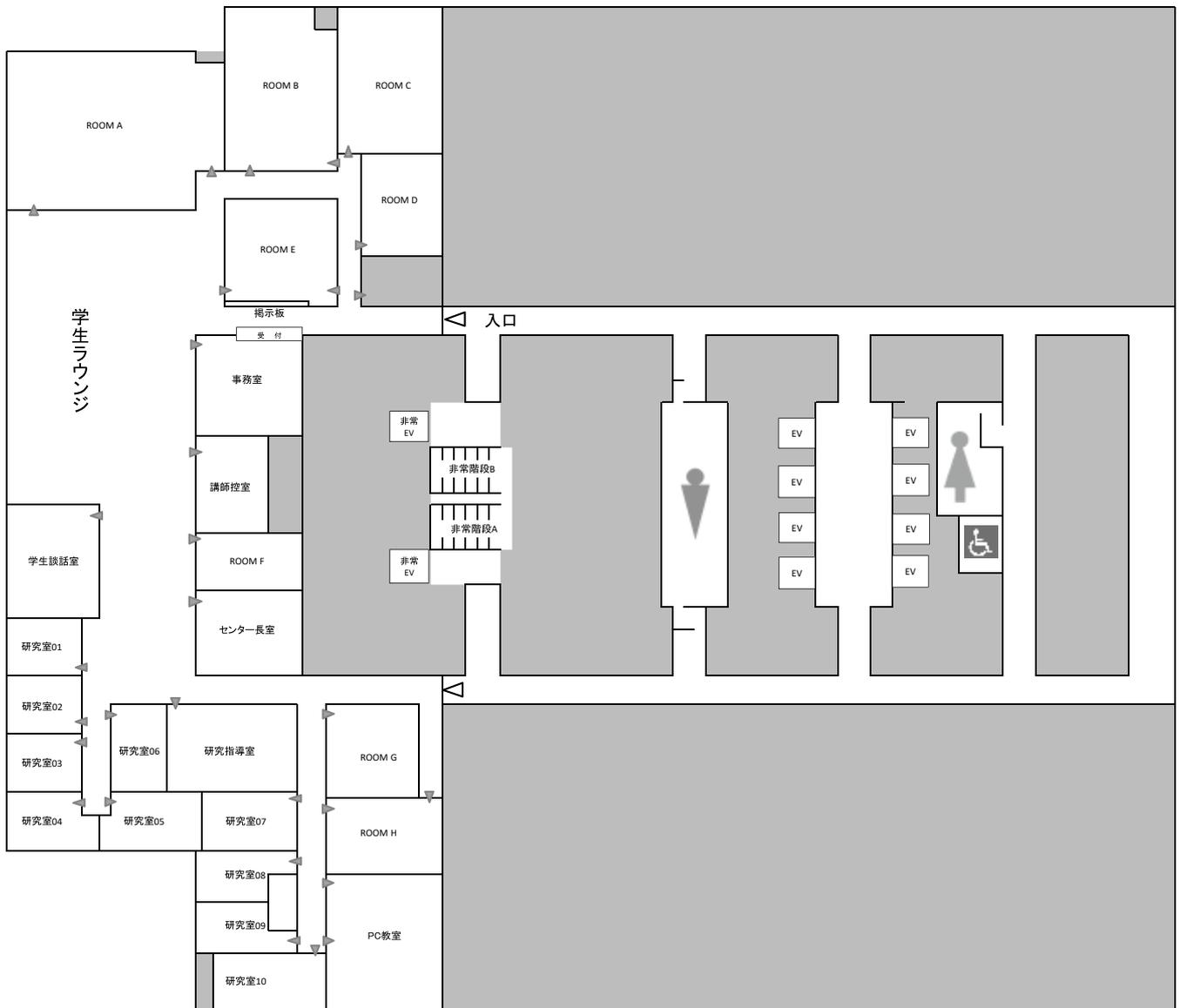
- ①学位申請者は、指導教員との連絡を十分に行うこと。
- ②経営学専攻博士後期課程の学生で平成21年度以降の入学者は、学位申請に先行して博士候補者(candidate)資格の申請が必要となる。
- ③その他詳細は、文系学務課(大学院担当)に照会のこと。

VIII 丸の内サテライトキャンパス平面図

(1) 首都大学東京エリア (拡大図)



(2) 丸の内永楽ビルディング18階 (全体図)



2019年度
経営学研究科
社会科学研究科経営学専攻
授業概要・履修案内

2019年4月1日発行

発行 首都大学東京大学院経営学研究科
東京都八王子市南大沢一丁目1番地
〒192-0397 電話 042 (677) 2303

印刷 株式会社 サンニチ印刷
東京都渋谷区代々木2-10-8
〒151-0053 電話 042 (567) 6233